履　修　要　覧

2026

修正反映版（2026/10/21）

津　田　塾　大　学
学　芸　学　部

Ⅰ 学校法人津田塾大学寄附行為（抜粋）
Ⅱ 津田塾大学学則
Ⅲ 履修について
Ⅳ 学籍について
Ⅴ 教育課程
1. 共通科目
2. 外国語科目
3. 健康余暇科学科目
4. 英語英文学科
5. 国際関係学科
6. 多文化・国際協力学科
7. 数学科
8. 情報科学科
9. 教職課程
10. 日本語教員養成課程
11. デジタルメディア副専攻
12. 交換学生（外国人学生）(International Exchange Students)
13. 随意科目
14. 実践学修科目
15. データサイエンス・リテラシープログラム

本冊子の内容に変更や修正が生じた場合は津田塾大学公式Webサイトに掲載します。

目　次

沿革…… 7
Calendar 2026～2027 …… 8
2026年度 学芸学部・総合政策学部 学年暦 …… 9
2026年度 年間スケジュール ……10
2026年度 曜日別授業実施予定表（学芸学部）……12
基本理念……13
学部の学位授与方針
（ディプロマ・ポリシー）……13
学部の教育課程編成方針
（カリキュラム・ポリシー）……15
学部の入学者受入方針
（アドミッション・ポリシー）……18
Ⅰ　学校法人 津田塾大学 寄附行為（抜粋）……21
Ⅱ　津田塾大学学則 ……21
Ⅲ　履修について ……71
1．授業について……72
2．単位制について……74
3．履修登録について……74
4．学習の評価について……84
(1)　評価基準……84
(2)　平常点……84
(3)　授業の欠席について……85
(4)　出席重視科目……86
(5)　ＧＰＡについて……86
(6)　進級基準……87
(7)　試　験……87
(8)　レポート……89
(9)　卒業論文等の提出……89
(10)　再履修……89
(11)　科目継続……90
(12)　単位認定……90
(13)　既修得単位の認定について……91
(14)　その他の単位認定……91
5．卒業の要件について……93
6．TsudaNetでの履修登録の方法について …93
7．履修に関するＱ＆Ａ……99
8．科目番号（ナンバリング）について… 103
Ⅳ　学籍について …… 105
1．修業年限と在学期間…… 106
2．休　学…… 106
3．復　学…… 106
4．退　学…… 106
5．除　籍…… 106
6．転部・転科…… 107
7．留　学…… 107
8．交換学生派遣（国内）…… 107
9．再入学…… 108
10．学籍異動手続きの流れ…… 109
11．学費等…… 110
12．経済的理由により修学が困難な私費外国人留学生の授業料減免措置に関する規程… 111
13．学籍番号形態について…… 112
Ⅴ　教育課程 …… 113
1．共通科目…… 114
(1)　履修方法…… 114
(2)　交換学生（外国人学生）のための科目… 114
(3)　授業科目名・単位…… 115
2．外国語科目…… 120
(1)　履修方法…… 120
(2)　英語Proficiency TestとPACE（Proficiency-Adjusted Classroom Environment）について …… 120
(3)　外国人学生のための日本語科目…… 121
(4)　授業科目名・単位…… 122
3．健康余暇科学科目…… 128
(1)　履修内容…… 128
(2)　履修方法…… 128
(3)　授業科目名・単位…… 130

４－１．英語英文学科（2018年度入学者用）… 134
⑴ 履修単位数…… 134
⑵ 履修方法…… 134
⑶ 特設プログラムについて…… 136
⑷ 日本語教員養成課程…… 137
⑸ 語学研修…… 137
⑹ 教職課程…… 137
⑺ 学士・修士５年プログラム…… 137
⑻ 2017年度入学者用
標準カリキュラム表…… 138
⑼ 授業科目名・単位…… 140
４－2. 英語英文学科
（2019年度以降入学者用）…… 144
⑴ 履修単位数…… 144
⑵ 履修方法…… 144
⑶ 専攻および３、４年次の
セミナー等の登録について…… 147
⑷ 特設プログラムについて…… 147
⑸ 日本語教員養成課程…… 148
⑹ 語学研修…… 148
⑺ 教職課程…… 149
⑻ 学士・修士５年プログラム…… 149
⑼ 2019年度以降入学者用
標準カリキュラム表…… 150
⑽ 授業科目名・単位…… 152
５．国際関係学科…… 160
⑴ 履修単位数…… 160
⑵ 履修方法…… 160
⑶ コースについて…… 162
⑷ セミナー登録について…… 163
⑸ 標準カリキュラム表…… 166
⑹ 授業科目名・単位…… 168
６－１．多文化・国際協力学科
（2023年度以前入学者用）…… 180
⑴ 履修単位数…… 180
⑵ 履修方法…… 180
⑶ コースについて…… 182
⑷ セミナー登録について…… 182
⑸ 標準カリキュラム表…… 184
⑹ 授業科目名・単位…… 186
６－２．多文化・国際協力学科
（2024年度以降入学者用）…… 192
⑴ 履修単位数…… 192
⑵ 履修方法…… 192
⑶ コースについて…… 194
⑷ セミナー登録について…… 194
⑸ 標準カリキュラム表…… 196
⑹ 授業科目名・単位…… 198
７－１．数学科（2018年度～2024年度入学者用）… 206
⑴ 履修単位数…… 206
⑵ 履修方法…… 206
⑶ その他…… 208
⑷ 2018年度～2024年度入学者用
標準カリキュラム表…… 210
⑸ 授業科目名・単位…… 212
７－２．数学科（2025年度以降入学者用）… 213
⑴ 履修単位数…… 213
⑵ 履修方法…… 213
⑶ その他…… 214
⑷ 2025年度以降入学者用
標準カリキュラム表…… 216
⑸ 授業科目名・単位…… 218

８－１．情報科学科
（2020年度～2022年度入学者用）… 222
⑴　履修単位数…… 222
⑵　履修方法…… 222
⑶　標準カリキュラム表…… 224
８－２．情報科学科
（2023年度入学者用）…… 226
⑴　履修単位数…… 226
⑵　履修方法…… 226
⑶　標準カリキュラム表…… 228
８－３．情報科学科
（2024年度入学者用）…… 230
⑴　履修単位数…… 230
⑵　履修方法…… 230
⑶　標準カリキュラム表…… 232
８－４．情報科学科
（2025年度以降入学者用）…… 234
⑴　履修単位数…… 234
⑵　履修方法…… 234
⑶　標準カリキュラム表…… 236
⑷　授業科目名・単位
（各入学年度共通）…… 238
９－１．教職課程
（2018年度以前入学者用）…… 242
⑴　履修方法…… 243
⑵　教職課程履修カルテについて…… 247
⑶　介護等体験について…… 247
⑷　教育実習…… 247
⑸　教員免許状の授与申請…… 250
⑹　授業科目名・単位…… 251
９－２．教職課程
（2019年度以降入学者用）…… 253
⑴　履修方法…… 255
⑵　教職課程履修カルテについて…… 271
⑶　介護等体験について…… 271
⑷　教育実習…… 271
⑸　教員免許状の授与申請…… 274
⑹　授業科目名・単位…… 275
10.　日本語教員養成課程カリキュラム…… 278
⑴　授業科目名・単位…… 281
11－１．デジタルメディア副専攻カリキュラム… 284
11－２．授業科目名・単位…… 286
12.　交換学生（外国人学生）に開講の科目
…… 288
13.　随意科目　…… 294
14.　実践学修科目　…… 296
15－１．データサイエンス・リテラシープログラム… 298
15－２．授業科目名・単位 …… 299

教室配置図…… 300

沿　　革

1900（明治33）年７月　私立「女子英学塾」の設立認可を受ける。
　　９月　東京麹町区一番町に「女子英学塾」開塾。塾長　津田梅子。
　　14日開校式、塾生10名。
1904（　　37）年３月　専門学校令（36年３月公布）による専門学校の認可を受ける。
1905（　　38）年９月　英語科教員無試験検定取扱の許可を受ける。
1919（大正８）年２月　津田塾長病気のため、辻マツ塾長代理となる。
1923（　　12）年９月　関東大震災により、校舎全焼。10月15日より女子学院の一部を借り授業開始。
1924（　　13）年１月　焼跡に仮校舎を建築。
1925（　　14）年３月　塾長代理辻マツ退任。星野あいその後を継ぐ。
1929（昭和４）年８月　16日津田塾長、鎌倉の別荘にて逝去。
　　９月　星野あい、塾長となる。
1931（　　６）年９月　東京府下北多摩郡小平村に新校舎成り、移転。
1933（　　８）年７月　校名「女子英学塾」を「津田英学塾」と改称。
1943（　　18）年１月　理科増設。数学科、物理化学科を置く。校名「津田英学塾」を「津田塾専門学校」と改称。
1948（　　23）年４月　学制の改革に伴い、「津田塾大学」を設立。英文学部を置く。
1949（　　24）年４月　数学科を増設。学芸学部に英文学科、数学科を置く。
1951（　　26）年２月　設置者　学校法人津田塾大学となり、高木八尺理事長となる。
1952（　　27）年３月　星野あい、学長を退任し名誉学長となる。
　　４月　粕谷よし、学長となる。
1954（　　29）年５月　石坂泰三、理事長となる。
1960（　　35）年１月　語学研究所を付設。
1962（　　37）年３月　粕谷よし、学長を退任。
　　４月　藤田たき、学長となる。
1963（　　38）年４月　大学院設置。文学研究科英文学専攻修士課程及び理学研究科数学専攻修士課程を置く。
1965（　　40）年４月　大学院文学研究科英文学専攻博士課程設置。
1969（　　44）年４月　学芸学部に国際関係学科を増設。
1971（　　46）年７月　計算センターを付設。
　　10月　保健センターを付設。
1972（　　47）年４月　大学院理学研究科数学専攻博士課程設置。
1973（　　48）年３月　藤田たき、学長を退任。
　　４月　河野正通、学長事務取扱となる。
　　11月　中島文雄、学長となる。
1974（　　49）年１月　横田喜三郎、理事長となる。
　　４月　大学院国際関係学研究科国際関係論専攻修士課程設置。
1975（　　50）年７月　国際関係研究所を付設。
1976（　　51）年４月　大学院国際関係学研究科国際関係論専攻博士課程設置。
1980（　　55）年10月　中島文雄、学長を退任。
　　11月　大束百合子、学長となる。
1985（　　60）年４月　語学研究所を言語文化研究所と改称。視聴覚センターを付設。
1988（　　63）年４月　数学・計算機科学研究所を付設。
　　10月　大束百合子、学長を退任。
　　11月　天滿美智子、学長となる。
1993（平成５）年７月　彌永昌吉、理事長となる。
1995（　　７）年10月　石坂一義、理事長となる。
1996（　　８）年４月　数学科を情報数理科学科と改称。
　　保健センターをウェルネス・センターと改称。
　　10月　天滿美智子、学長を退任。
　　11月　志村尚子、学長となる。
2000（　　12）年10月　津田梅子記念交流館を付設。
2001（　　13）年４月　国際センターを付設。
2004（　　16）年10月　志村尚子、学長を退任。
　　11月　飯野正子、学長となる。
2006（　　18）年４月　情報数理科学科を改組し、数学科と情報科学科を新設。
　　イングリッシュ・コーディネーション・センターを付設。
2006（　　18）年７月　服部禮次郎、理事長となる。
2008（　　20）年４月　千駄ヶ谷キャンパス開設。
2010（　　22）年４月　大学院理学研究科情報科学専攻修士課程設置。
2012（　　24）年４月　大学院理学研究科情報科学専攻後期博士課程設置。
　　10月　飯野正子、学長を退任。
　　11月　飯野正子、理事長となる。
　　國枝マリ、学長となる。
2013（　　25）年４月　島田精一、理事長となる。
2016（　　28）年３月　國枝マリ、学長を退任。
　　４月　髙橋裕子、学長となる。
2017（　　29）年４月　総合政策学部総合政策学科設置。総合政策研究所を付設。
2019（　　31）年４月　学芸学部に多文化・国際協力学科を増設。
　　学芸学部英文学科を学芸学部英語英文学科と改称。

Calendar　　2026～2027

2026

4

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	㉙	30		

5

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
③	④	⑤	⑥	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

6

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

7

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	⑳	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

8

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	⑪	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

9

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	㉑	㉒	㉓	24	25	26
27	28	29	30			

10

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	⑫	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

11

日	月	火	水	木	金	土
1	2	③	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	㉓	24	25	26	27	28
29	30					

12

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

2027

1

日	月	火	水	木	金	土
					①	2
3	4	5	6	7	8	9
10	⑪	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

2

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	⑪	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	㉓	24	25	26	27
28						

3

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
㉑	㉒	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

４月29日	昭和の日	10月12日	スポーツの日
５月３日	憲法記念日	11月３日	文化の日
５月４日	みどりの日	11月23日	勤労感謝の日
５月５日	こどもの日	１月１日	元日
５月６日	振替休日	１月11日	成人の日
７月20日	海の日	２月11日	建国記念の日
８月11日	山の日	２月23日	天皇誕生日
９月21日	敬老の日	３月21日	春分の日
９月22日	国民の休日	３月22日	振替休日
９月23日	秋分の日		

2026年度　学芸学部・総合政策学部
学　年　暦

月	日	曜	行　　事
2026年			
4月	2	木	入学式
	3、6～10	金、月～金	新入生オリエンテーション
	3、6～9	金、月～木	定期健康診断
	13	月	第1ターム授業開始
	29	水(昭和の日)	平常授業実施
6月	11・12	木・金	補講
	15～19	月～金	【学芸学部】第１ターム最終授業期間 【総合政策学部】第１ターム試験期間
	20	土	第1ターム授業終了
	22	月	第2ターム授業開始
7月	27	月	第2ターム授業終了
	28	火	夏期休暇開始（～9月3日）
	31	金	休業日
8月	10	月	休業日
	16	日	津田梅子命日
	25	火	休業日
	26	水	休業日
	27	木	休業日
	31	月	第１・第2ターム追試験開始
9月	4	金	第3ターム授業開始
	14	月	創立記念日（平常授業日）
	23	水(秋分の日)	平常授業実施
10月	11	日	津田梅子記念会
	12	月(スポーツの日)	平常授業実施
	16	金	休講日・津田塾祭準備
	17・18	土・日	津田塾祭
	19	月	休講日・津田塾祭後始末
	23	金	休講日・津田ヶ谷祭準備
	24・25	土・日	津田ヶ谷祭
11月	3	火(文化の日)	平常授業実施
	4・5	水・木	補講
	10～13、16	火～金、月	【学芸学部】第3ターム最終授業期間 【総合政策学部】第3ターム試験期間
	17	火	休講日・第3ターム授業終了
	18	水	第4ターム授業開始
	23	月(勤労感謝の日)	平常授業実施
12月	9	水	クリスマス礼拝
	28	月	12月授業終了
	29	火	冬期休暇開始（～1月4日）
2027年			
1月	5	火	第4ターム授業再開
	15	金	休講日
	20・21	水・木	補講
	26～29、2/1	火～金、月	【学芸学部】第4ターム最終授業期間 【総合政策学部】第4ターム試験期間
2月	2	火	第4ターム授業終了
	18	木	第3・第4ターム追試験開始（4年生のみ）
3月	1	月	第3・第4ターム追試験開始（3年生以下）
	16	火	卒業礼拝
	17	水	卒業式

【学芸学部・総合政策学部】授業は原則として各ターム授業期間の土日祝日を除いて行う。
【学芸学部】試験は原則として各タームの最終授業期間に行う。

2026年度　年間スケジュール

		行　事　日　程		履修等スケジュール
4 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 ㉙ 30	2日 3日 3日 13日 15日	入学式　午後各種ガイダンス（予定） 新入生オリエンテーション（3・6～10日） 健康診断（3・6～9日） 第1ターム授業開始 Fフレッシャーズ・デー	1日 2日 3日 6日 8日 9日 10日～ 10日 11日 14日 16日 中旬	2年生以上クラス指定発表 1年生英語　Proficiency　Test 事前抽選科目（予備登録科目）B~Dタイプ募集期間（～5日） FG第二外国語履修申込受付（～6日） ABH第三外国語履修申込受付（～6日） 夏期語学研修説明会 交換受入生オリエンテーション（～10日） 第二外国語認定試験 事前抽選科目（予備登録科目）B~Dタイプクラス発表 事前抽選科目（予備登録科目）B~Dタイプ追加募集 教育実習直前オリエンテーション（4年生） FG第二外国語抽選結果発表 ABH第三外国語抽選結果発表 履修登録（～20日） A専攻登録説明会（2年生） 協定校留学説明会 日本語教員養成課程説明会
5 日 月 火 水 木 金 土 1 2 ③ ④ ⑤ ⑥ 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	16日 17日 中旬	Aウェルカム・デー G新入生交流会 避難訓練	7日 上旬 上~中旬 中旬 13日～ 28日 下旬	履修放棄（～8日） レポートの書き方講座 A専攻の希望登録開始（2年生） A大学院進学説明会 介護等体験直前オリエンテーション（2年生） 事前抽選科目（予備登録科目）B~Dタイプ追加募集（~29日） FG大学院進学説明会
6 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	11·12日 15日 22日 20日	補講 第1ターム最終授業期間（～20日） 第2ターム授業開始 第1ターム授業終了・第1ターム第9週予備日	5日 9日～ 上旬 29日 下旬	履修登録（～12日） 教育実習登録オリエンテーション（3年生） B大学院進学説明会 第1ターム試験時間割発表 履修放棄（～30日） 転部・転科試験概要発表
7 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 ⑳ 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 △31	27日 28日 31日	第2ターム授業終了 夏期休暇開始 4月29日振替休業日	上旬 下旬	夏期語学研修（第2タームおよび夏期休暇中） 第1ターム成績発表
8 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 △10 ⑪ 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 △25 △26 △27 28 29 30 31	10日 16日 25日 26日 27日 31日	9月23日振替休業日 津田梅子命日 10月12日振替休業日 11月3日振替休業日 11月23日振替休業日 第1・第2ターム追試験開始	5日 上旬 17日 下旬	[帰学・復学学生対象]科目継続再開及びクラス指定科目登録確認期間（～12日） 4年生対象再履修科目登録受付（～12日） A大学院進学説明会（英語教育実践研究） 科目継続申請手続き締切 事前抽選科目（予備登録科目）B~Dタイプ追加募集（~18日） 第2ターム成績発表
9 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 ㉑ ㉒ ㉓ 24 25 26 27 28 29 30	3日 4日 14日 23日	夏期休暇終了 第3ターム授業開始 創立記念日（平常授業日） 平常授業日	1日 3日 4日 10日 中旬 29日 30日	交換受入生オリエンテーション（～3日） 履修登録（～11日） A3年生卒業論文登録（～15日） 教育実習登録期限（東京都公立校） 教育実習登録期限（東京都公立校以外） F新4年セミナー説明会及び登録 介護等体験登録オリエンテーション（1年生） 履修放棄（～10月1日）

授業期間、＿補講日、■最終授業期間、△休業日、○祝日、A英語英文学科、B国際関係学科、H多文化·国際協力学科、F数学科、G情報科学科、教職課程

		行　事　日　程		履修等スケジュール
10 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 ⑫ 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	11日 12日 16日 17日 19日 23日 24日	津田梅子記念会 平常授業日 休講日・津田塾祭準備 津田塾祭（～18日） 休講日・津田塾祭後始末 休講日・津田ヶ谷祭準備 津田ヶ谷祭（～25日）	6日～ 上旬 14日 19日 中旬 下旬	図教免一括申請説明会（４年生） F新３年セミナー説明会及び登録 F新４年セミナークラス発表 A新４年生卒論指導クラス発表 春期語学研修説明会 図介護等体験登録期限 事前抽選科目（予備登録科目）B~Dタイプ追加募集（~20日） F新２年セミナー説明会及び登録 B新３年セミナー相談期間・登録開始 G新３年セミナー説明会及び登録 G新４年セミナー説明会及び登録 デジタルメディア副専攻４年生向け修了手続き説明会 G新２年セミナー説明会及び登録
11 日 月 火 水 木 金 土 1 2 ③ 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 ㉓ 24 25 26 27 28 29 30	３日 4･5日 10日 17日 18日 23日	平常授業日 補講 第３ターム最終授業期間（～13・16～17日） 休講日・第３ターム第９週予備日・第３ターム授業終了 第４ターム授業開始 平常授業日	２日 上旬 14日 17日 中旬 下旬	A翻訳プログラム募集期間（～13日） Aセミナー登録説明会 A新３・４年セミナー登録開始 A卒業論文題目登録締切 第３ターム試験時間割発表 G３年プロジェクト発表会 履修登録（～25日） B新２年セミナー登録開始 A新３・４年セミナークラス発表
12 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	９日 28日 29日	クリスマス礼拝 12月授業終了 冬期休暇開始	９日 14日 上旬 ９日 中旬 中~下旬 21日 下旬	履修放棄（～10日） HFW報告卒業論文提出締切（15：00） F新２年セミナークラス発表 F新３年セミナークラス発表 フランス語Ⅰ共通テスト（４限） F大学院進学説明会 第３ターム成績発表 A卒業論文提出締切（15：00） B卒業論文提出締切（15：00） G大学院進学説明会
1 日 月 火 水 木 金 土 ① 2 3 4 5 6 7 8 9 10 ⑪ 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	４日 ５日 15日 20･21日 26日	冬期休暇終了 第４ターム授業再開 休講日 補講 第４ターム最終授業期間（～29・２月１～２日）	８日 14日～ 15日 中旬 21日 22日 25日 30日 下旬	A卒業論文口述試験 （～18日） 図教育実習内諾オリエンテーション（２年生） FG卒業論文提出締切（15：00） 第４ターム試験時間割発表 １年生英語 Proficiency Test G卒業論文概要提出締切（15：00） A卒業論文訂正版提出締切（15：00） G卒業論文発表会 A卒業研究プロジェクト発表会 A翻訳プログラム合格者発表
2 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 ⑪ 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 ㉓ 24 25 26 27 28	２日 18日	第４ターム第９週予備日・第４ターム授業終了 第３・第４ターム追試験／再試験開始（４年生）	２日 上旬 中旬	F卒業論文発表会 春期語学研修（春期休暇中） 第４ターム成績発表（４年生）
3 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 ㉑ ㉒ 23 24 25 26 27 28 29 30 31	１日 16日 17日	第３・第４ターム追試験開始（３年生以下） 卒業礼拝 卒業式	上旬	第４ターム成績発表（３年生以下）

※日程が変更になる場合や、ここに記載されていない予定もありますので、詳細はTsudaNet等で確認してください。

2026年度　曜日別授業実施予定表（学芸学部）

※　□は祝日授業日

【第１ターム】

	Mon.	Tues.	Wed.	Thurs.	Fri.
第１週	4/13	4/14	4/15	4/16	4/17
第２週	4/20	4/21	4/22	4/23	4/24
第３週	4/27	4/28	4/29	4/30	5/1
第４週	5/11	5/12	5/13	5/7	5/8
第５週	5/18	5/19	5/20	5/14	5/15
第６週	5/25	5/26	5/27	5/21	5/22
第７週	6/1	6/2	6/3	5/28	5/29
第８週	6/8	6/9	6/10	6/4	6/5
第９週	6/15	6/16	6/17	6/18	6/19

第１ターム補講日：６/11（木），６/12（金）　／　第１ターム第９週予備日：６/20（土）

【第２ターム】

	Mon.	Tues.	Wed.	Thurs.	Fri.
第１週	6/22	6/23	6/24	6/25	6/26
第２週	6/29	6/30	7/1	7/2	7/3
第３週	7/6	7/7	7/8	7/9	7/10
第４週	7/13	7/14	7/15	7/16	7/17
第５週	7/27	7/21	7/22	7/23	7/24

【第３ターム】

	Mon.	Tues.	Wed.	Thurs.	Fri.
第１週	9/7	9/8	9/9	9/10	9/4
第２週	9/14	9/15	9/16	9/17	9/11
第３週	9/28	9/29	9/23	9/24	9/18
第４週	10/5	10/6	9/30	10/1	9/25
第５週	10/12	10/13	10/7	10/8	10/2
第６週	10/26	10/20	10/14	10/15	10/9
第７週	11/2	10/27	10/21	10/22	10/30
第８週	11/9	11/3	10/28	10/29	11/6
第９週	11/16	11/10	11/11	11/12	11/13

第３ターム補講日：11/4（水）、11/5（木）　／　第３ターム第９週予備日：11/17（火）

【第４ターム】

	Mon.	Tues.	Wed.	Thurs.	Fri.
第１週	11/23	11/24	11/18	11/19	11/20
第２週	11/30	12/1	11/25	11/26	11/27
第３週	12/7	12/8	12/2	12/3	12/4
第４週	12/14	12/15	12/9	12/10	12/11
第５週	12/21	12/22	12/16	12/17	12/18
第６週	12/28	1/5	12/23	12/24	12/25
第７週	1/18	1/12	1/6	1/7	1/8
第８週	1/25	1/19	1/13	1/14	1/22
第９週	2/1	1/26	1/27	1/28	1/29

第４ターム補講日：１/20（水），１/21（木）　／　第４ターム第９週予備日：２/２（火）

最終授業期間に気象警報発表による休講があった場合は、そのタームの第９週予備日に試験日を移動します。

【授業時間（通常）】

１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50

【授業時間（第1、3、4ターム最終授業期間）】

１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
8:50～10:20	10:40～12:10	13:00～14:30	14:50～16:20	16:40～18:10

基本理念

津田塾大学は、キリスト教精神に則って、女性に幅広い教養と高度な専門的学術を教授し、国際的視野を備え、さまざまな地球的課題に対してイニシアティブを発揮して、地域社会と国際社会の双方に貢献できるオールラウンドな女性を育成する。

この目的のため、高度な英語力を含む言葉の力の習得、リベラル・アーツ教育に基づく教養および専門の学術の探求、現代社会が抱える諸問題に対する総合的な課題解決力の獲得を目指し、少人数教育を重視した教育課程を編成する。

本学の創設者、津田梅子の建学の理念である、自由で自立した個人としての女性、すなわち自分自身で考え、行動する力を備えた女性の社会参画を促す高等教育を今後とも展開し、これまでに築かれた本学の特色ある歴史と伝統を基盤に、先進的な女性の育成を通して社会的な使命を果たしていく。

学部の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

津田塾大学は、キリスト教精神に則って、女性に幅広い教養と専門的学術を教授し、国際的視野を備え、さまざまな地球的課題に対してイニシアティブを発揮して、地域社会と国際社会の双方に貢献できるオールラウンドな女性を育成します。このため、すべての学部・学科に共通する「７つの力」すなわち、幅広い教養、批判的思考力・洞察力、高度な英語力、コミュニケーション能力、情報処理・活用能力、社会への幅広い関心、問題に対して自分自身で考え、行動して課題解決へ導く力の育成を含む教育課程を、各学部・学科において編成し、各学部・学科が定める教育課程における所定の単位を修得した者に学位を授与します。

【学芸学部】

学芸学部では、学部が定める所定の在学期間において、各学科の教育目標に沿って設定された授業科目について所定の単位数を修得し、本学の教育理念である広く高度な教養と専門の学術を身につけ、多様な地球的課題に対するイニシアティブと、地域社会と国際社会の双方においてオールラウンドなリーダーシップを発揮し得る人物と認められた学生に学士の学位を授与します。

【英語英文学科】

英語英文学科では、高度な英語力と第二外国語の運用力を含む言葉の力を培い、幅広い教養を身につける共通教育とともに、言語や社会、文化、通時的共時的世界を総合的な視点で捉える専門教育を通して、地域社会および国際社会に資する思考力と実践力をもった人材の育成を目指します。この目標に沿って、以下の学修目標に到達したと認められる学生に学士（英文学）の学位を授与します。

＜知識・理解＞

人文科学の広い文脈で人間のありようや普遍的な命題について理解するための教養と専門知識を有する。また、グローバル社会における他者理解や共生についての知識をもち、現代的課題を設定して分析する力をもつ。

＜技能・表現＞

英語の語彙力、文法力、書く、読む、話す、聞くなど、総合的な英語の運用能力を身につけている。また、言葉を通して思考力を深めるための読解力や文章力、翻訳のスキル、ノンバーバルな面も含めたコミュニケーション能力など、言葉でしっかりと表現できる日英両方の発信力を有する。

＜関心・意欲・態度＞

社会や人間のありよう、多元化する世界に関心をもち、自主的に学ぶ意欲をもって課題に取り組むことを通して、自身の学びの意義を自覚し、そこから社会貢献の方法を探究していこうとする態度を有する。

＜思考・判断＞

深く物事を捉える思考とともに、他者との関係や社会のなかで自己を相対的に捉えるための総合的な理解力や判断力を有する。また、人間が直面する多様な問題にどのように対応するべきか主体的に判断し、行動することができる。

４年間の学修課程において段階的に求められる英語論文の執筆に際しての共通評価基準やGPAの導入などを通して、単位の修得がそれぞれの能力を示すことができるようなカリキュラム運営を行っています。また、単位修得に連動した履修必要要件の設定などを通して、学修の質を確保しています。

【国際関係学科】

国際関係学科では、国際社会、地域社会において、国家、民間企業、個人等に起こるさまざまな問題を、政治・経済・外交などの視点に加え、文化・社会的背景など多様な視点から総合的に考察できる人材の育成を目指します。以下の学修目標に到達したと認められる学生に学士（国際関係学）の学位を授与します。

＜知識・理解＞

現実の世界が抱える問題をまず受け止め、それを、既存の学問に当てはめるのではなく、時には複数の学問の手法を活用しながら解決策を模索していくことができる。

＜技能・表現＞

広い視野と多角的な視点を備え、文章を読み解き、自分の考えを的確に表すことができる。

鍛えられた英語、第二外国語の力を有する。

＜関心・意欲・態度＞

さまざまなことに関心をもち、自らの周囲、社会への貢献および国際的な仕事を意識するオールラウンドな姿勢を有する。

＜思考・判断＞

柔軟な思考をもち、深く物事を考え、判断に必要な材料を的確に探索し、主体的な判断に基づいて行動することができる。

このような力を確実に身につけたうえで卒業を迎えられるよう、卒業論文の執筆に際しての共通評価基準やGPAの導入などを通して、単位の修得がそれぞれの能力を示すことができるようなカリキュラム運営を行っています。また、単位修得に連動した履修必要要件の設定などを通して、学修の質を確保しています。

【多文化・国際協力学科】

多文化・国際協力学科は、社会構造や文化の違いが引き起こしている問題、国際協力・国際援助が抱える問題に向き合いより良い「共生型」社会の実現に向けての新しいアプローチを提案できる人材の育成を目指します。本学学則に定める卒業要件に必要な単位を修得することで以下のような能力を身に付けたと認められる学生に学士（多文化・国際協力学）の学位を授与します。

＜知識・理解＞

フィールドワークや密度の濃い3年間のセミナー活動をとおして培われた高度の専門知識と分析力を駆使しながら、国内外のさまざまな問題に対し、当事者意識を持って現状分析を行うことができる。

＜技能・表現＞

フィールドワーク準備、遂行に必要なコミュニケーション能力、現状分析能力獲得に加え、知見を文章で表わし発表することができる。実践的な英語と第二外国語の力を持つ。

＜関心・意欲・態度＞

それぞれの場において、当事者意識、責任感の強さを持ち、「何をするか」というより「今、どのようにあるか」という姿勢を保ち、また、行動することができる。

＜思考・判断＞

テーマと、フィールドワークへのこだわりを通じて、「それぞれの場でどのようにあるべきか」という当事者意識と責任感の強さを研ぎ澄ます。

このような力を確実に身につけた上で卒業を迎えられるよう、共通評価基準の導入を伴う卒業論文作成やGPAの導入などにより、単位の修得がそれぞれの能力を示すことができるようなカリキュラム運営を行っています。また、単位取得に連動した履修必要要件の設定などを通して、学修の質を確保しています。

【数学科】

数学は人類とともに発展してきた学問であり、現代社会のさまざまな分野において基盤的な役割を果たしています。数学科では、進級試験に合格し、所定の単位を修得し、自然現象や社会におけるさまざまな数学的仕組みの理解を目指した専門教育を通して、数学的な総合判断能力をもった人材の育成を目指します。この目標に沿って、以下の学修目標に到達したと認められる学生に学士（理学）の学位を授与します。

＜知識・理解＞

高度な教養教育や専門的知識に裏付けられた幅広い国際的な視野、思考力および発想力を身につけている。

現代数学の基礎理論を正しく理解している。

＜技能・表現＞
　修得した知識を応用しさまざまな問題の解決に役立てることができる。
　計算機を活用し現象の数学的理解に役立てることができる。
　修得した理論を的確に伝えることができる。
＜関心・意欲・態度＞
　さまざまな現象に内在する数学的な構造とその汎用性に興味を待ち続けることができる。
多様な価値観を尊重できる。
　リーダーシップをもって、さまざまな背景の人たちと協調できる。
＜思考・判断＞
　修得した数学的思考力によって物事を論理的に分析し判断できる。

本学科においては、卒業研究の実施に際しての共通評価基準やGPAの導入などを通して、単位の修得がそれぞれの能力を示すことができるようなカリキュラム運営を行っています。また、単位修得に連動した履修必要要件の設定などを通して、学修の質を確保しています。

【情報科学科】
情報科学科では、グローバル化する現代社会で、よりよい社会の実現を目指して活躍する情報科学のプロフェッショナルとなる人材の育成を目指します。この目標に沿って、以下の学修目標に到達したと認められる学生に学士（理学）の学位を授与します。
＜知識・理解＞
　情報科学の基本概念を理解している。
　社会における情報科学の役割と重要性を理解している。
＜技能・表現＞
　情報科学の専門知識を実践的に活用する応用力を備えている。
　専門的内容に関して、英語および日本語によってグローバルに交流できる高いコミュニケーション能力を有している。
＜関心・意欲・態度＞
　急速に発展する情報科学関連技術に常に関心をもち、自主的に学び続ける意欲をもっている。
　情報科学を応用し、リーダーシップをもって、課題解決に努める態度を身につけている。
＜思考・判断＞
　情報科学の知識に基づいて、問題を論理的に思考する力を身につけている。
　グローバルな世界や社会、他者との関係について十分な情報を収集し、適切な分析を通じて総合的に判断する力を身につけている。
　独創性や創造性に富む発想力を身につけている。

これらの学修目標に確実に到達していることを確認するために、卒業論文などの主要な必修科目に対する共通評価基準やGPAの導入、全体的な評価の場の設定などを通して、単位の修得がそれぞれの能力を示すことができるようなカリキュラム運営を行っています。また、単位修得に連動した履修必要要件の設定などを通して、学修の質を確保しています。

学部の教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

津田塾大学では、多様な地球的課題に対してイニシアティブを発揮しつつ、地域社会と国際社会の双方で貢献できるオールラウンドな女性を育成するため、リベラル・アーツ教育およびリベラル・アーツ教育に根差した専門教育を行っています。学士課程は、それぞれ次のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成しています。

【学芸学部】
学芸学部では、幅広い視野を培う教養教育、リベラル・アーツを重視し、人文科学・社会科学・自然科学の三領域を網羅する基礎教育のうえに、各学科の専門教育を編成しています。
１．基礎教育および専門教育への導入として、また広く学識を得ることを目的として共通科目を設置します。
２．語学教育を重視し、広い視野と国際性を培うため、高度な外国語能力の育成を目指して、英語科目および第二

外国語科目を設置します。

3．全人教育の一環として、自己の健康や余暇について関心をもち、さらに健康や余暇の問題を地球レベルで深く考え、社会に貢献しうる人材を育成するため、健康余暇科学科目を設置します。

4．専門的な方法論と知識を体系的に学ぶために、学科科目を設置します。

5．１年次から開設されるセミナーをはじめ少人数クラスで行う授業を多く設け、学生が主体的に考え、自発的に行動する力を培うことを目指します。

【英語英文学科】

英語英文学科では、リベラル・アーツ教育を行う学芸学部の方針に沿いつつ、高い英語の運用能力と幅広い学識、地域社会および国際社会に資する専門知識の涵養を目的として、次のような方針に基づくカリキュラム（教育課程）を編成しています。

＜知識・理解＞

少人数による英語教育およびリベラル・アーツ教育に根差した専門教育を通じて、日英語のテキストを広く深く読む力をさらに高め、人文科学の広い文脈で人間のありようや普遍的命題について理解するための教養と専門知識を培います。さらに、グローバル社会における他者理解や共生についての知識を深め、現代的課題を設定し、分析する力を養います。

＜技能・表現＞

英語力に関しては、１、２年次の「読む・書く・話す・聞く」４技能のトレーニングを基礎に、３、４年次には、英語テキストの読解力や語彙力、日英語双方での表現力や発信力などさらに高度な語学の運用能力を涵養します。また、英語力を基礎におく人文科学の専門教育を通して、地域社会および国際社会に貢献するために必要とされる思考力や表現力を培います。

＜関心・意欲・態度＞

学生の自主性・自発性を尊重するために、１年次から開設されるセミナーをはじめ、多くの授業を少人数クラスで実施すると同時に、言葉への関心と運用能力、さらに人文科学の知を実践の力へと展開する動機づけを行います。また、３年次からは、個々の学問的関心に応じて、英語圏言語文化専攻、異文化コミュニケーション専攻のうち、いずれかの専攻を選択して学びます。英語の学びを基礎とする各専攻の専門教育では、３年次のセミナー論文、４年次のセミナー論文、卒業論文、卒業研究において、幅広いテーマのもとに主体的な研究を深め、その成果を英語で学術的に論じることを学修の重要な到達目標とします。くわえて、自主的に学ぶ意欲をもって課題に取り組むことを通して、自身の学びの意義を自覚し、そこから社会貢献の方法を探究していこうとする態度を育みます。

＜思考・判断＞

英語力を基礎におく人文科学の専門教育、第二外国語教育、幅広い共通教育を通じて、深く物事を捉える思考とともに、他者との関係や社会のなかで自己を相対的に捉える総合的な理解力や判断力を培います。また、少人数のセミナー教育において現代社会にも通ずる課題に取り組むなかで、人間が直面する多様な問題にどう対応するか、主体的に判断し、行動できる力を育みます。

【国際関係学科】

国際関係学科では、多様な課題を積極的に見出し、地域社会と国際社会の双方で貢献できるオールラウンドな女性を育成するためのリベラル・アーツ教育を行う学芸学部の方針に沿いつつ、次のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成しています。政治･経済･外交などの視点に加え､文化･社会的背景など､国際社会の現実にアプローチする多様な視点と、総合的な分析・考察力を養います。

1．共通科目と学科の基本科目により､多分野にわたる知識やさまざまな方法論を学び､専門研究の出発点とします。

2．外国語科目により、高度な英語力、第二外国語の運用力を鍛え、外国語資料を活用する技能や外国語で発信する技能を養います。

3．社会・人文科学の諸分野および世界の諸地域をカバーする科目を、広い視野に立ちつつ、かつ専門性を効果的に深められるよう、専門分野を軸としたコースに分かれて学修します。

4．専門学修の中心に基幹科目を設置し、コースごとに指定された科目を履修することで専門分野に関する基礎知識を築きます。

5．世界の各地域を具体的に扱った地域・展開科目を設置し、基礎知識を地域研究とクロスさせ、立体的に学びを深めます。

6．各学年に少人数のセミナーを設置します。１年次のセミナーで「学び方」を身につけ、２年次のセミナーでは英語の文献を使い専門分野の基礎知識と語学力を養います。３年次からは各自の専門に沿ってセミナーで学び、４年次に今までの成果を卒業論文として形にします。

【多文化・国際協力学科】

多文化･国際協力学科では、2017年に発表されたTSUDA VISION 2030 のモットー「変革を担う、女性であること」を目指します。「弱さを、気づきに。強さを、分かち合う力に。不安を、勇気に。逆境を、創造を灯す光に。」というミッションステートメントの方向に添う女性を育成するため、リベラル・アーツ教育を行う学芸学部の方針に沿いつつ、次のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成しています。社会科学的な視点に加え、文化的背景など、多文化社会の現実に関わるための視点を持ち、分析、考察し、行動する力を養います。

1．「基本科目」を必修科目として１年次、２年次に置きます。国内外における多文化共生･国際協力の分野の様々な現今の課題と学問研究との関係を考えること、ならびに、本学科での学びが生涯を通じての学びになるような契機を理解するための、オリエンテーション講義としての役割を担うことが科目の目的です。
2．「MI English」と呼ばれる英語科目や第二外国語科目により、外国語運用能力を養います。
3．専門科目とともに健康余暇科学科目等の学びから、心身ともに自らの良い状態を理解できるようになり、自分が良き状態で考え、判断することができる力を養います。
4．本学科では国際協力、多文化共生、国際ウェルネスという三つのコースを用意し、学生は１年次の終わりにコースを選択します。
5．各コースの専門的な学びを深めるため、学科指定の基幹科目を２年次、学科指定及びコース指定の発展科目を３年次以降履修します。
6．必修科目として各学年に少人数のセミナーを設置します。１年基礎セミナーでは、「セミナーのやり方」を学び、ラウンドテーブルと呼ばれる２年セミナーでは、今後のフィールドワークの基礎となる知識やスキルの習得をめざします。３年セミナーでは、多文化共生、国際協力そして国際ウェルネスに関連する問題関心と専門に沿って学びます。４年セミナーでは、３年セミナーの継続としてフィールドワーク及びセミナー等における学びの成果を踏まえ、今までの成果をフィールドワーク報告卒業論文としてまとめます。

【数学科】

数学科では、独自性と柔軟な発想力、粘り強い問題解決能力を備えた人材、特に、高度な教養教育によって培われた幅広い視野をもった最先端で活躍する数学およびその関連分野の専門家、現代数学の体系的な知識をもった高度な教育者、および、数学的な思考力や発想力をもった国際社会で活躍する人材の育成を目指しています。そのために、次のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成しています。

1．共通科目や、健康余暇科学科目により、幅広い国際的な視野、思考力および発想力を身につけます。
2．１、２年次に必修の英語科目で基礎的な英語力を養い、セミナーでの英語の文献の講読を通じて数学分野に関する専門的な英語力を身につけます。
3．数学必修科目の履修により、さまざまな数学を体系的に学び得る基礎力をつけます。
4．個人の興味に応じた数学選択科目の履修により、さらに専門的な分野に対する理解を深めます。
5．演習により、講義で得られた数学的知識の定着を目指します。
6．コンピュータ関連科目により、計算機を援用して現象を数学的に理解する能力を身につけます。
7．少人数セミナーにより講義で学んだことを自分のものとして発展的に理解します。

【情報科学科】

情報科学科は、学芸学部のカリキュラム・ポリシーを受け、グローバル化する現代社会でよりよい社会の実現を目指して活躍する情報科学のプロフェッショナルを育てることを目標とします。特に、アドミッション・ポリシーに掲げた「数学･英語の基礎学力」、「日本語の表現力」、「コンピュータの基本操作能力」、「情報科学に関する関心と意欲」、「他者とのコミュニケーション基礎力」を備えている学生を対象として、「情報科学の専門知識を社会に適用する応用力」、「高いコミュニケーション能力」、「独創性や創造性に富む発想力」の３つの力を育むことに重点をおき、次の方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成しています。

1．コンピュータサイエンスの国際的なカリキュラム標準に基づいた教育を行います。
2．情報科学･数学の基礎科目を 1、2 年次の必修科目として設置します。特に重要な科目は演習付きの科目とし、3、4 年次の学修で必要となる情報科学･数学の専門基礎知識を修得します。また、一部の必修科目は必要に応じて、順次性を持つ科目とします。
3．3つの力を統合的に身につけるためにプロジェクト科目を 2、3、4 年次に設置します。プロジェクト科目は、学生が自ら課題を発見し、解決策を考え（独創性や創造性に富む発想力）、それまでの学修で獲得した専門知識を応用し（情報科学の専門知識を社会に適用する応用力）、共同作業や発表会を行う（高いコミュニケーション能力）課題解決型の科目です。
4．専門書や論文をテキストとし、専門知識を得るとともに、調査･発表･議論などのアカデミックスキルを身につける少人数のセミナー科目を全学年次に設置します。
5．情報科学･数学の様々な分野に関する発展的科目を 3、4 年次の選択科目として設置します。学生は自身の興味･関心に従って科目を選択し、各自の専門性を深めます。特に重要な科目は演習付きの選択必修科目（一定の単位数以上修得する必要がある科目群）とします。
6．最先端の知識や技術に関する科目や、理学･工学に限らず、他分野との境界領域について学ぶ科目を 3、4 年次の選択科目として随時提供します。
7．1 年次に英語の基礎科目、2 年次に情報科学分野の英語科目を必修科目として設置します。最新の専門知識に英語でアクセスする能力を重視し、情報科学を英語で学ぶ専門科目を 3、4 年次に設置します。

学部の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

津田塾大学は、深い知性と豊かな人間性を兼ね備え、自立して社会に貢献できる「オールラウンドな女性」の育成を目指しています。創立以来、幅広く確かな教養に裏打ちされた知見と実践力をもって、リーダーシップを発揮できる女性を輩出してきました。本学では、このような建学の理念に共感し、世界のさまざまな問題に関心をもち、主体的に学ぼうとするバイタリティ溢れる学生を求めています。

【学芸学部】

学芸学部が求めているのは、さまざまな問題に取り組むために必要な知識と思考力をもち、自分の考えを自分の言葉で的確に表現できる創造性に富む学生です。

学芸学部では、人間としてより自由に生きるための学問、学生一人ひとりの個性と自主性の尊重をその教育理念の根幹に据えています。男女共同参画が求められる時代において、多様でグローバルな課題に対してイニシアティブを発揮しつつ、地域社会と国際社会の双方で貢献できる女性を求めます。

【英語英文学科】

英語英文学科では、高度な英語力を修得し、幅広い学識と専門性をもって地域社会と国際社会に貢献できる人材の育成を目指しています。世界の多様な諸相を「英語で学ぶ」ことを基盤に、総合的な英語の運用能力の向上を目的とした英語教育ならびに専門領域におけるテキスト分析や論理的思考、表現力の鍛錬を通して、深い専門性、思考力、教養を培います。言葉の力に優れ、広い視野に立った世界への関心と、社会に貢献する意欲をもつ学生を求めています。

＜知識・理解＞

広く世界の様相を理解していくために日英語のテキストを広く深く読む力とともに、主として英語圏の言語・文化・社会などについて総合的に探求するために、地理、歴史や現代社会に関する幅広い知識が必要です。とりわけ「世界史」と「日本史」の学習は重要です。さらに、論理的な考察力を培うために、「数学」などの基礎的知識ならびに理解力を身につけていることが望まれます。

＜技能・表現＞

英語英文学科におけるリベラル・アーツ教育の基本となるのは、日本語でも英語でも自分の考えを論理的に構築し、それを的確に表現する力です。文章を読み解き、自分の考えを的確に表すことができるための「国語」の力は必須です。加えて、読む、書く、話す、聞く力や、語彙力、文法力など、総合的な英語能力が重視されます。

＜関心・意欲・態度＞

多様な言語や文化の問題に関心を深め、異なる価値観を理解し受容する柔軟な態度と、読書などを通して幅広い教養とともに専門知識を積極的に追求し、学ぼうとする意欲が期待されます。また、授業に向けて主体的に取り組み、自らリサーチし、発表や議論に積極的に参加する姿勢が求められます。

＜思考・判断＞

世界の多様な様相を理解し、言語・文化・社会などにおけるさまざまな問題を見出し、それに関して集めた情報を整理して、自分の考えを導き出す思考力が求められます。さらに、目的や状況等に応じて互いの考えを伝えあい、多様な考えを理解し、他者との関わりのなかで主体的に判断することが期待されます。

【国際関係学科】

国際関係学科では、英語および第二外国語の修得に裏付けられた広い知識をもとに、国際的に活躍できる人材の育成を目指しています。現代世界の諸事象に深い関心をもち、問題点を見つけ出す能力、さまざまな情報を自分なりの観点によって整理し統合していく力、問題を多角的に考察し、その結果を自分の言葉で説明できる表現力や対話の力を培うことを重視しており、そのような力を伸ばしたい学生を求めています。

＜知識・理解＞

歴史的な視野に立って考察する姿勢を身につけるために「世界史」、「日本史」、あるいは論理的な考察力をつけるために「数学」などの十分な理解が重要となります。

＜技能・表現＞

文章を読み解き、自分の考えを的確に表すことができるための「国語」の力は必須です。入学後の伝統と実績ある、レベルの高い英語教育を受講するためにも高等学校で学ぶ「英語」がしっかりと身についていることが求められます。

＜関心・意欲・態度＞

広く国内外の事象に興味をもち、異なる文化、背景にも広く開かれた態度をもつこと、新聞や本を日常的に読み

深く思考する習慣をもつこと、さまざまな人と接し、豊かな体験をしていること、などが重要です。
＜思考・判断＞
柔軟な思考力、深く物事を考えようとする力、判断に必要な材料を的確に探索し、主体的に判断しようとする力が求められます。

【多文化・国際協力学科】
多文化・国際協力学科では、新しい局面を迎えた国内外のさまざまな問題に対し、現状分析を踏まえ、当事者意識と強い責任感をもった「真の貢献」ができる女性の育成を目指しています。社会構造や文化の違いが引き起こしている問題、国際協力・国際援助が抱える問題等、現代社会において解決すべき問題は多種多様です。これらの問題に対し、1年次の基礎セミナーを経て、2年次からのフィールドワークや密度の濃い3年間のセミナー活動をとおして培われた高度の専門知識と分析力を駆使しながら、よりよい「共生型」社会の実現に向けての新しいアプローチを提案できるようになることを重視し、そのような力を伸ばしたい学生を求めています。
＜知識・理解＞
世界の現場で起きていることの理解の基礎となる「世界史」、歴史を踏まえたフィールド理解のための「日本史」、論理的な力をつけるための「数学」などの十分な理解が重要となります。
＜技能・表現＞
様々な問題に対処するために、的確にそして深く読み、自らの言葉で書き、表現し、対話するために「国語」の力は必須です。津田塾の伝統ある高レベルの英語教育を受けていくためには、高校までにしっかり基礎の「英語」力をつけておくことが重要です。
＜関心・意欲・態度＞
「それぞれの場でどのようにあるべきか」という当事者意識と責任感の強さを持ち、変革を担うことに意欲があること、本を読む習慣が身についていること、深く思考する態度、異なる経験への開かれた態度などが望まれます。
＜思考・判断＞
現代社会に創起するさまざまな問題、日々の共同生活における多くの課題、それらに対処するための判断は、的確で、早くなされる必要があることが多いでしょう。その場その場の判断が的確であるために、鍛えられるべきは、平素からの深く考える習慣と、自らの心身の状態の客観的な観察です。多文化・国際協力学科では、この的確な判断と深い思考を目指す人を求めます。

【数学科】
（一般選抜、学校推薦型選抜、特別入試、社会人）
数学科では数学を通して「ものの見方・考え方」を身につけ、豊かな判断力を備えた人を育むことを目標としており、高等学校で学習すべき数学に対する基本的な理解力、計算力、応用力、そして語学力をもった熱意ある人を求めています。
＜知識・理解＞
高等学校の「数学」の内容を理解していることが必要です。
＜技能・表現＞
学修を効率的に進めるために、コンピュータの基本操作に慣れていること、十分な日本語能力と論理的思考力が必要です。専門書の理解のために高等学校の「英語」を十分に習得していることも求められます。
＜関心・意欲・態度＞
人権・人格を尊重し、リーダーシップをもって、さまざまな背景の人たちと協調しうる国際性をもつことが望まれます。また、さまざまな現象に内在する数学的な構造に興味をもち続けることが望まれます。
＜思考・判断＞
基本的な定義や公式の導き方を理解し、問題に応じて適切に解答できる思考力、判断力が求められます。

（編入生）
数学科では数学を通して「ものの見方・考え方」を身につけ、豊かな判断力を備えた人を育むことを目標としており、高等学校で学習すべき数学に対する基本的な理解力、計算力、応用力、そして語学力をもった熱意ある人を求めています。
＜知識・理解＞
高等学校の「数学」と大学の編入年次に応じた数学の内容を理解していることが必要です。

＜技能・表現＞

学修を効率的に進めるために、コンピュータの基本操作に慣れていること、十分な日本語能力と論理的思考力が必要です。専門書の理解のために高等学校の「英語」を十分に習得していることも求められます。

＜関心・意欲・態度＞

人権・人格を尊重し、リーダーシップをもって、さまざまな背景の人たちと協調しうる国際性をもつことが望まれます。また、さまざまな現象に内在する数学的な構造に興味をもち続けることが望まれます。

＜思考・判断＞

基本的な定義や公式の導き方を理解し、問題に応じて適切に解答できる思考力、判断力が求められます。

【情報科学科】

情報科学科では、津田塾大学の建学の精神に沿って、情報科学の学修と研究に取り組みたいと考える学生を求めます。大学で情報科学を学ぶためには、高等学校において「英語」と「数学」の基礎学力を確実に身につけておくことが望まれます。「英語」は情報通信技術の発展によりグローバル化が進む現代では世界の共通言語としてますます重要になっています。「数学」はその知識が直接情報科学に役立つだけでなく、数学的・論理的なものの考え方自体が情報科学全体にとって非常に重要です。どちらもが入学試験において重視されます。また、大学は「ともに学び合う場」でもあります。お互いの価値観を尊重し合い、研鑽する精神を尊ぶ学生を歓迎します。

＜知識・理解＞

「数学」と「英語」を重視した入学試験を実施します。「数学」については、高等学校の数学の内容を十分に理解していることが望まれます。「英語」については、高等学校卒業までの範囲において、読む、書く、話す、聞く、の基礎的な能力を身につけていることが望まれます。

＜技能・表現＞

授業における発表・議論やレポートの作成を行うことができる日本語能力が求められます。

＜関心・意欲・態度＞

グローバル化する高度情報化社会に貢献できる情報科学のプロフェッショナルとなるために、以下の２点を備えていることが求められます。

１．コンピュータなどのテクノロジーそのものやその応用への興味

２．多様な人々と良好な関係を構築し、協働できるコミュニケーション能力

＜思考・判断＞

問題を論理的に考え、解決を図ろうとする思考力・判断力が求められます。

Ⅰ

学校法人津田塾大学寄附行為（抜粋）

Ⅱ

津田塾大学学則

Ⅰ　学校法人津田塾大学寄附行為（抜粋）

第1章　総　　則

第1条　（名称）この法人は、学校法人津田塾大学と称する。

第2条　（事務所の所在地）この法人は、その事務所を東京都小平市津田町２丁目１番１号に置く。

第3条　（目的）この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、キリスト教精神に基づく女子の大学を設置することを目的とする。

第4条　（設置する学校）この法人は、前条の目的を達成するため、次に掲げる大学を設置する。

津田塾大学

大学院	文学研究科　理学研究科　国際関係学研究科
学芸学部	英語英文学科　国際関係学科　多文化・国際協力学科　数学科　情報科学科
総合政策学部	総合政策学科

Ⅱ　津田塾大学学則

第1章　総　　則

第1条　この大学は女子に広く高度な教養を授けるとともに、専門の学術を教授研究し、キリスト教精神により、堅実円満にして自発的かつ奉仕的な人物を養成することを目的とする。

第2条　本学に学芸学部および総合政策学部を置く。

２　学芸学部に英語英文学科、国際関係学科、多文化・国際協力学科、数学科および情報科学科を置く。

３　総合政策学部に総合政策学科を置く。

第3条　学芸学部英語英文学科は、言語や文化を総合的な視点でとらえ、英語を通じて異なる文化的背景を探究する考察力と人間を洞察する力量を培い、高度な英語力を基盤とした専門的学識と広い視野をかね備えた、国際社会に貢献できる人材の育成を目的とする。

２　学芸学部国際関係学科は、政治・法、経済、文化、社会、地域などの多様な視点から、英語と第二外国語を基盤として、現代世界の諸問題を国際的かつ学際的に考察し、広い視野と独自の洞察力をもって国際社会で活躍できる人材の育成を目的とする。

３　学芸学部多文化・国際協力学科は、社会構造や文化の違いが引き起こしている問題、国際協力・国際援助が抱える問題に向き合い、より良い「共生型」社会の実現に向けての新しいアプローチを提案でき、国内外問わず「今ある状況」をよりよくするためにはどうすれば良いのか、それぞれの場で変革を担う人材の育成を目的とする。

４　学芸学部数学科は、数学の学習・研究を通じ、高度な分析力や論理的思考力および問題解決能力を養成するとともに、情報処理技術を身につけ、社会に貢献できる人材の育成を目的とする。

５　学芸学部情報科学科は、情報科学の専門知識とコミュニケーション能力を身につけ、最新のコンピュータや通信技術を駆使して、IT関連のさまざまな問題を創造的に解決できる情報科学のプロフェッショナルとして、国際社会に貢献できる人材の育成を目的とする。

６　総合政策学部総合政策学科は、社会の諸相を的確に把握する認識力と分析力、英語を用いた高度なコミュニケーション能力を養い、現代社会が直面する諸課題の解決を通じて新しい社会の仕組みを作り出すことのできるリーダーシップを備えた、国際社会に貢献できる人材の育成を目的とする。

第4条　第２条第２項の学科の収容定員は、次のとおりとする。

	入学定員	収容定員
英語英文学科	220人	880人
国際関係学科	200人	800人
多文化・国際協力学科	70人	280人
数学科	45人	180人
情報科学科	45人	180人

２　第２条第３項の学科の収容定員は、次のとおりとする。

	入学定員	収容定員
総合政策学科	110人	440人

第５条　本学各学部の修業年限は、４年とする。

２　本学各学部に在学できる年数は、通算して８年を限度とする。ただし、休学期間はこれに含めない。

３　進級および原級留置に関する規程は別に定める。

第６条　本学に大学院を置く。

２　大学院の学則は別にこれを定める。

第２章　学年・学期・休業日

第７条　学年は、４月１日に始まり、翌年３月31日に終わる。

２　学期の区分・期間および呼称は、学部ごとに学長が定める。

第８条　休業日は、次のとおりとする。ただし、第３号から第５号の休業日は、学部ごと、毎年度、学長が定める。

⑴　日曜日

⑵　国民の祝日に関する法律に定める休日

⑶　夏期休業日

⑷　冬期休業日

⑸　春期休業日

２　前項の規定にかかわらず、学長は臨時に休業日を定め、または臨時に休業日を変更することができる。

第３章　教育課程および履修方法

第９条　本学学芸学部の各学科および総合政策学部総合政策学科の教育課程および履修方法は、別表Ⅰのとおりとする。

第10条　本学において開設する授業科目の名称および単位数は、別に定める。

２　前項のほか、学長は臨時に授業科目を開設することができる。

第11条　本学は、授業の内容および方法の改善を図るための組織的な研修および研究を実施するものとする。

第12条　授業科目の単位の計算方法は、１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、その授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の各号に掲げる基準によるものとする。

⑴　講義および演習については、15時間から30時間までの範囲で別に定める時間の授業をもって１単位とする。

⑵　実験、実習および実技等については、30時間から45時間までの範囲で別に定める時間の授業をもって１単位とする。

２　前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を与えることが適切と学長から認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることがある。

３　本学では、文部科学大臣が別に定めるところによって、前項に規定する講義、演習、実験、実習または実技による授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

第12条の２　授業科目を履修し、その授業に所定の授業時間を出席し、かつ合格の評価を得た者には、学長が学期末に所定の単位を与える。

２　第12条第３項に定める授業の方法により修得した単位数は、60単位を超えて卒業に必要な単位として算入することができない。

第13条　学芸学部において教育職員免許状を取得しようとする者は、第９条に規定する教育課程および履修方法によるほか、教育職員免許法および同法施行規則の関係規定に基づく所定の科目を履修し、単位を修得しなければならない。

２　中学校教諭一種免許状を取得しようとする者は、前項の規定によるほか、「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」および同法施行規則に定める介護等の体験を行わなければならない。

３　本学において取得することができる教育職員免許状の種類は、高等学校教諭一種免許状および中学校教諭一種免許状とし、それらの免許教科は、学芸学部の各学科によりそれぞれ次のとおりとする。

英語英文学科	外国語（英語）
国際関係学科	外国語（英語）または中学校（社会）・高等学校（地理歴史、公民）
数　学　科	数学または高等学校（情報）
情報科学科	数学または高等学校（情報）

第13条の２　日本語教員養成のために必要な授業科目および単位数は、別に定める。

２　所定の単位を修得した者には修了証明書を授与する。

第14条　学長が、教育上有益と認めるときは、学生が他の大学または短期大学の授業科目を履修することを認めることが

ある。
2　学生が前項の他の大学または短期大学の授業科目を履修しようとするときは、あらかじめ学長の許可を受けなければならない。
3　前項の規定に基づき学生が履修し、修得した他の大学または短期大学の授業科目についての単位は、学長が30単位を超えない範囲で、本学で履修し、修得したものとみなすことがある。
4　前２項の規定は、第27条第１項の規定により、学生が外国の大学または短期大学に留学する場合に準用する。
第15条　学長が教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学または高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることがある。
2　前項の規定により与えることがある単位数は、前条第３項の規定により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて30単位を超えないものとする。
第15条の２　学長が教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学または短期大学もしくは外国の大学等において履修した授業科目について修得した単位（大学設置基準第31条に規定する科目等履修生等として修得した単位を含む）を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことがある。
2　学長が教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第１項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることがある。
3　前２項の規定により修得したものとみなし、または与えることがある単位数は、編入学、転入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、合わせて30単位を超えないものとする。
第15条の３　第14条、第15条および第15条の２により修得した単位は合わせて60単位を超えないものとする。
第16条　学生は、毎学年の始めに履修する科目を選択し、所定の期日までに事務局教務課へ届け出なければならない。

第４章　教職員組織

第17条　本学に学長を置く。
2　学長は、本学を統括しこれを代表する。
第18条　本学に副学長を置く。
2　副学長は、学長を助け、その命を受けて校務をつかさどる。
第18条の２　各学部に学部長を置く。
2　学部長は、所属学部の校務をつかさどる。
第19条　本学に教授、准教授、講師、助教、助手および事務職員を置く。
2　教授、准教授、講師、助教、助手および事務職員の定員は別にこれを定める。
第19条の２　本学の大学運営に関する重要事項を審議するため、学長の下に大学運営会議を置く。
2　大学運営会議は、学長、副学長、各学部長、学部から選出する者各１名、大学院委員会が選出する者１名および事務局長をもって構成し、学長が議長となる。
3　大学運営会議は、次の事項について審議する。
⑴　学則その他の教育研究に関する重要な規則の制定・改廃に関する事項
⑵　本学の事業計画に関する事項
⑶　教員人事に関する事項
⑷　教育課程編成の方針に関する事項
⑸　学生の厚生補導に関する事項
⑹　学生の入学や学位授与等の方針に関する事項
⑺　教育、研究、組織及び運営の状況についての自己点検、評価に関する事項
⑻　その他本学の運営に関する重要事項
第20条　各学部に、教授会を置く。
2　学部長、専任の教授、准教授、講師を以て教授会を組織する。
3　学部長は、教授会を招集し、その議長となる。
第21条　教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり、意見を述べるものとする。
⑴　学生の入学、卒業に関する事項
⑵　学位の授与に関する事項
⑶　前号までに掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの
2　教授会は、前項に規定するもののほか、学長および学部長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する次の事項について審議する。また、学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

⑴　留学、休学、復学、転部、転科、退学、および除籍に関する事項
⑵　試験および単位認定に関する事項
⑶　委託生、交換学生、科目等履修生、聴講生、外国人留学生に関する事項
⑷　学生の賞罰に関する事項
⑸　専任以外の教員の選考に関する事項
⑹　教授会の設置する委員会に関する事項
⑺　学長等の諮問する事項

第５章　入学・留学・休学・復学・編入学・転部・転科・退学・再入学および除籍

第22条　入学の時期は、毎学年の始めとする。

第23条　入学を志願することができる者は、女子で次の各号の一に該当する者とする。
⑴　高等学校または中等教育学校を卒業した者
⑵　通常の課程による12年の学校教育を修了した者
⑶　外国において、学校教育における12年の課程を修了した者またはこれに準ずる文部科学大臣の指定した者
⑷　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
⑸　文部科学大臣の指定した者
⑹　高等学校卒業程度認定規則により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験（旧大検）に合格した者
⑺　本学において、相当の年齢に達し高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

第24条　入学志願者に対しては、入学検定を行う。

第25条　入学を許可された者は、別に定める入学手続き要項により、保証人連署の保証書その他必要な入学書類を添えて、指定の期日までに手続きをしなければならない。

第26条　保証人は、独立の生計を営む親族または縁故者で確実に保証人の責を負い得る者でなければならない。
２　保証人が前項の条件を欠いた場合には、直ちに保証人を選定して届け出なければならない。
３　保証人は、保証人の身分、住所等に異動が生じた場合には、直ちにその旨を届け出なければならない。

第27条　外国の大学に留学しようとする者は、所定の手続きを経て学長の承認を得なければならない。
２　留学に関する細則は別にこれを定める。

第28条　病気その他やむを得ない理由により休学しようとする者は、所定の様式による休学願にその理由を記し、保証人連署の上、願い出なければならない。
２　休学期間は、１年または半年とする。ただし特別の事情のある場合は、学長は引き続き休学を許可することがある。
３　休学期間は、通算して４年を超えることができない。

第29条　休学を許可された者は、許可された休学期間満了後復学するものとする。
２　病気の事由により休学が許可された者が復学する場合は、修学が可能であることを証明する医師の診断書を提出しなければならない。

第30条　次の各号の一に該当する女子で本学への編入学を願い出た者には、欠員のある場合に限り、選考の上、学長は入学を許可することがある。
⑴　大学を卒業した者、または退学した者
⑵　短期大学、高等専門学校を卒業した者
⑶　本学において、第１号および前号と同等以上の学力があると学長が認めた者
２　前項の規定により入学を許可された者については、学長は、既に修得した授業科目、単位数および在学年数を本学における授業科目、単位数および在学年数として認定換算することを許可できる。
３　編入学に関する細則は別にこれを定める。

第31条　転部、転科を願い出た者には、事情を考慮した上で、学長がこれを許可することがある。
２　転部、転科に関する細則は別にこれを定める。

第32条　退学しようとする者は、所定の様式による退学願にその理由を記し、保証人連署の上、願い出なければならない。
２　退学に関する細則は別にこれを定める。

第33条　退学者が再入学を願い出たときは、事情を考慮した上で、学長がこれを許可することがある。
２　再入学に関する細則は別にこれを定める。

第34条　次の各号の一に該当する者は除籍する。
⑴　定められた期日までに履修登録を行わない者
⑵　授業料等諸料金の納付を怠り督促を受けてもなお納めない者
⑶　第５条第２項に定める在学年限を超えてなお退学しない者

⑷ 許可なくして３ヶ月以上欠席した者
２ 除籍に関する細則は別にこれを定める。

第６章 評価・卒業・学位

第35条 すべての授業科目は、その履修終了時において学習の評価を行う。
２ 学習の評価は、試験その他の方法によって行う。
３ 学習の評価は、原則としてＡ，Ｂ，Ｃ，Ｄ，Ｆで評価し、Ａ，Ｂ，Ｃ，Ｄを合格とする。
第36条 病気または正当な理由により試験を受けることができなかった者は、願い出により、学長から追試験の受験を許可されることがある。
２ 追試験に関する細則は別にこれを定める。
第37条 合格点を取得しなかった者は、願い出により、学長から再試験の受験を許可されることがある。
２ 再試験に関する細則は別にこれを定める
第38条 本学に４年以上（編入学者の場合を除く）在学し、第９条の定めに則って、所定の単位数を修得した者には、学長は、卒業を認め、学士の学位を授与する。
第39条 本学において授与される学士の学位は次のとおりとする。

学芸学部

英語英文学科	学士（英文学）
国際関係学科	学士（国際関係学）
多文化・国際協力学科	学士（多文化・国際協力学）
数学科	学士（理学）
情報科学科	学士（理学）

総合政策学部

総合政策学科	学士（総合政策学）

第７章 入学検定料・入学金・授業料・試験料等

第40条 入学を志願する者は、志願と同時に入学検定料を納入しなければならない。
２ 入学検定料の額は、別表Ⅱの定めるところによる。
第41条 入学を許可された者は、入学金、その期の授業料、施設設備費その他の所定の料金を指定の期日までに納入しなければならない。
２ 前項の規定は、再入学および編入学の場合にも準用する。
３ 入学金の額は、別表Ⅲの定めるところによる。
第42条 授業料および施設設備費は、年額を２期に分け、前期にあっては５月31日、後期にあっては10月31日までに納入しなければならない。
２ 第１項の規定にかかわらず、学生の申し出があったときは、事情を考慮した上で、前期分の授業料および施設設備費にあっては９月５日まで、後期分の授業料および施設設備費にあっては翌年の２月10日まで、納入を延期することができる。
３ 特別の事情がある場合には、前項の規定により９月５日まで延期した前期分の授業料および施設設備費の納入を翌年の２月10日まで延期することができる。
４ 授業料および施設設備費の年額は、別表Ⅳの定めるところによる。
第43条 追試験または再試験を受ける者は、試験料を前納しなければならない。
２ 追試験料および再試験料の額は、別にこれを定める。
第44条 既に納入した諸料金は、事情の如何にかかわらずこれを返却しない。
第45条 休学中については、授業料、施設設備費を免除し、在籍料を納入するものとする。
２ 留学中については、授業料、施設設備費を在籍料相当額に減免する。ただし、交換留学協定校への留学については別に定める。
３ 在籍料の年額は別表Ⅴの定めるところによる。
４ 休学中および留学中の授業料、施設設備費に関する規則は、別にこれを定める。
第46条 中途で退学する者もその学期分の授業料、施設設備費は納入しなければならない。
第47条 各学期分の授業料等諸料金未納者（第42条第３項および第４項の規定により授業料及び施設設備費の納入の延期を認められた者を除く。）は、その学期に実施される定期試験の受験資格を失うものとする。

第８章　委託生・交換学生・科目等履修生・聴講生

第48条　特定の機関または団体等から研修科目を定め、本学の修学を委託される場合には、教育および研究に妨げのない限り、選考の上、学長から委託生として受け入れを許可されることがある。

２　委託生は、本人の希望により試験を受けることができる。また試験に合格した者には、本人の請求により成績証明書を交付する。

３　委託生に関する細則は別にこれを定める。

第49条　他の大学または短期大学との協定に基づいて本学の授業を履修し、単位を修得しようとする者、もしくは本学と協定のある外国の大学の学生で本学の授業科目の履修を希望する者は、当該大学の推薦のもとに、学長から交換学生として入学を許可されることがある。

２　交換学生は、履修した授業科目につき試験を受けなければならない。また試験に合格した者には本人の請求により成績証明書を交付する。

３　交換学生に関する細則は別にこれを定める。

第50条　本学において、単位の修得を目的として特定の授業科目の履修を希望する者があるときは、学生の履修に妨げのない限り、選考の上、学長から科目等履修生として入学を許可されることがある。

２　科目等履修生が履修した授業科目の試験に合格したときは、その授業科目の所定の単位を与える。

３　科目等履修生に関する細則は別に定める。

第50条の２　本学において一または複数の授業科目の聴講を希望する者があるときは、学生の履修に妨げのない限り、選考の上、学長から聴講生として入学を許可されることがある。

２　聴講生の入学資格は、第23条各号の一に該当する者とする。

３　聴講生に関する細則は別に定める。

第51条　委託生、交換学生、科目等履修生および聴講生は定員外とする。

第９章　外国人留学生

第52条　外国人で本学において教育を受ける目的をもって入国し、第23条第３号および第７号の規定する要件をみたして入学を願い出た者は、選考の上、学長から外国人留学生として入学を許可されることがある。

２　前項の外国人留学生が日本語および日本事情に関連する科目を履修し、所定の単位を修得した場合には、26単位を限度として共通科目、外国語科目および健康余暇科学科目の単位に代えることができる。

３　外国人留学生には本学則その他本学の定める諸規定を準用する。

第10章　公開講座

第53条　本学に公開講座を設けることができる。

第11章　賞　　罰

第54条　本学の規則命令に背き、または学生の本分に反する行為をした者は、学長がこれを懲戒する。

２　懲戒は訓告、停学および退学とする。

３　懲戒に関する規程は別に定める。

第54条の２　学生として、表彰に値する行為があったものは、学長がこれを表彰することができる。

２　表彰に関する規程は別に定める。

第12章　付属施設

第55条　本学に図書館、言語文化研究所、国際関係研究所、数学・計算機科学研究所、総合政策研究所、計算センター、ウェルネス・センター、視聴覚センター、国際センター、イングリッシュ・コーディネーション・センター、津田梅子記念交流館、津田梅子資料室、女性研究者支援センター、ライティングセンター、学外学修・キャリアセンター、連携推進センター、オープンユニバーシティおよび大学ホールを付設する。

２　付属施設に関する細則は別にこれを定める。

第56条　本学に寮を付設する。

２　寮に関する細則は別にこれを定める。

第13章　自己点検・評価

第57条　本学は第１条の目的を達成するため、自らの点検・評価を行う。

２　点検項目および実施体制については別に定める。

附　則

１．この学則は、昭和23年（1948年）４月１日から施行する。
（昭和24年（1949年）４月１日施行から平成13年（2001年）４月１日施行まで省略）
２．この学則は、平成16年（2004年）４月１日から施行する。
３．この学則は、平成18年（2006年）４月１日から施行する。
４．学芸学部情報数理科学科は、改正後の第２条第２項、第４条、第13条第３項及び第39条の規定にかかわらず、平成18年（2006年）３月31日に情報数理科学科に在学する者がその学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
５．この学則は、平成19年（2007年）４月１日から施行する。
６．この学則は、平成20年（2008年）４月１日から施行する。
７．この学則は、平成21年（2009年）４月１日から施行する。
８．この学則は、平成22年（2010年）４月１日から施行する。
９．この学則は、平成23年（2011年）４月１日から施行する。
10．この学則は、平成24年（2012年）４月１日から施行する。
11．この学則は、平成26年（2014年）４月１日から施行する。
12．平成25年（2013年）度以前の入学者については、改正後の学則第46条は適用せず、休学および留学中の授業料、施設設備費は、学期分の半額を納入するものとする。ただし、交換留学協定校への留学の場合には、当該大学との協定に定めるところとする。平成25年（2013年）度以前の入学者の休学および留学中の授業料、施設設備費に関する規則は別に定める。この措置は平成25年（2013年）度以前の入学者が在学しなくなるまで、存続するものとする。
13．この学則は、平成26年（2014年）４月16日から施行する。
14．この学則は、平成27年（2015年）４月１日から施行する。
15．この学則は、平成27年（2015年）７月24日から施行する。
16．この学則は、平成28年（2016年）４月１日から施行する。
17．この学則は、平成29年（2017年）４月１日から施行する。
18．この学則は、平成29年（2017年）10月１日から施行する。
19．この学則は、平成31年（2019年）４月１日から施行する。
20．この学則は、令和４年（2022年）４月１日から施行する。
21．この学則は、2023年（令和５年）４月１日から改正、施行する。
22．この学則は、2024年（令和６年）４月１日から改正、施行する。
23．この学則は、2025年（令和７年）４月１日から改正、施行する。
24．この学則は、2026年（令和８年）４月１日から改正、施行する。

別　　表

別表Ⅰ　教育課程および履修方法

本学学芸学部の各学科、総合政策学部総合政策学科の教育課程および履修方法は次のとおりとし、入学年度を学則年度と定めて適用する。科目群の詳細や各種条件については別に定める。

（1）学芸学部英語英文学科

授業科目を必修科目、選択科目および自由科目に分け、以下に定める必要単位数を修得しなければならない。

必修科目			50単位
選択科目	共通科目	15単位	60単位
	基幹科目	15単位	
	発展科目	18単位	
	外国語科目	12単位	
自由科目			18単位
		合計	128単位

（2）学芸学部国際関係学科

授業科目を必修科目、選択科目および自由科目に分け、以下に定める必要単位数を修得しなければならない。

必修科目	セミナーおよび卒業論文	18単位	67単位
	基本科目	6単位	
	外国語科目（英語）	24単位	
	外国語科目（第２外国語）	12単位	
	外国語Ⅲ	3単位	
	健康余暇科学科目	4単位	
選択科目	共通科目	12単位	42単位
	基幹科目	12単位	
	地域・展開科目	18単位	
自由科目			15単位
		合計	124単位

（3）学芸学部多文化・国際協力学科

授業科目を必修科目、選択科目および自由科目に分け、以下に定める必要単位数を修得しなければならない。

必修科目	セミナーおよび卒業論文	18単位	58単位
	基本科目	9単位	
	外国語科目（英語）	27単位	
	健康余暇科学科目	4単位	
選択科目	外国語科目（第２外国語）	15単位	54単位
	共通科目	12単位	
	基幹科目	15単位	
	発展科目	12単位	
自由科目			12単位
		合計	124単位

（4）学芸学部数学科

授業科目を必修科目、選択科目および自由科目に分け、以下に定める必要単位数を修得しなければならない。

必修科目		60単位
選択科目		36単位
自由科目		28単位
	合計	124単位

（5）学芸学部情報科学科

授業科目を必修科目、選択科目および自由科目に分け、以下に定める必要単位数を修得しなければならない。

必修科目			72単位
選択科目	選択必修科目	13単位	37単位
	選択科目	24単位	
自由科目			21単位
		合計	130単位

（6）総合政策学部総合政策学科

授業科目を必修科目、選択科目および自由科目に分け、以下に定める必要単位数を修得しなければならない。

（2022年度以前入学者）

必修科目	基礎科目	64単位	74単位
	応用科目	10単位	
選択科目	基幹科目		32単位
自由科目	総合科目		24単位
		合計	130単位

（2023年度以降入学者）

必修科目	基礎科目	50単位	60単位
	応用科目	10単位	
選択科目	基幹科目		37単位
自由科目	総合科目		27単位
		合計	124単位

別表Ⅱ　入学検定料

金　　額	
Ａ方式による入学試験	35,000円
Ｂ方式　　〃	25,000円
Ｃ方式　　〃	15,000円

別表Ⅲ　入学金

金　額
200,000円

別表Ⅳ　2026年度の授業料・施設設備費

学芸学部　（単位：円）

入学年度	期間	英語英文学科／国際関係学科			多文化・国際協力学科			数学科			情報科学科		
		授業料	施設設備費	合　計	授業料	施設設備費	合　計	授業料	施設設備費	合　計	授業料	施設設備費	合　計
2023年度	半期	390,000	129,500	519,500	415,000	144,500	559,500	430,000	144,500	574,500	430,000	144,500	574,500
	年額	780,000	259,000	1,039,000	830,000	289,000	1,119,000	860,000	289,000	1,149,000	860,000	289,000	1,149,000
2024年度	半期	385,000	128,000	513,000	410,000	143,000	553,000	425,000	143,000	568,000	425,000	143,000	568,000
	年額	770,000	256,000	1,026,000	820,000	286,000	1,106,000	850,000	286,000	1,136,000	850,000	286,000	1,136,000
2025年度	半期	417,500	139,000	556,500	445,000	155,500	600,500	491,000	165,500	656,500	495,000	167,000	662,000
	年額	835,000	278,000	1,113,000	890,000	311,000	1,201,000	982,000	331,000	1,313,000	990,000	334,000	1,324,000
2026年度	半期	412,500	137,500	550,000	440,000	154,000	594,000	486,000	164,000	650,000	490,000	165,500	655,500
	年額	825,000	275,000	1,100,000	880,000	308,000	1,188,000	972,000	328,000	1,300,000	980,000	331,000	1,311,000

※漸増方式を適用し、授業料：年10,000円増、施設設備費：年3,000円増
※在学５年目以降は漸増方式適用外とし、2022年度以前の入学者については別に定める。

総合政策学部　（単位：円）

入学年度	期間	総合政策学科		
		授業料	施設設備費	合　計
2023年度	半期	415,000	144,500	559,500
	年額	830,000	289,000	1,119,000
2024年度	半期	410,000	143,000	553,000
	年額	820,000	286,000	1,106,000
2025年度	半期	445,000	155,500	600,500
	年額	890,000	311,000	1,201,000
2026年度	半期	440,000	154,000	594,000
	年額	880,000	308,000	1,188,000

※漸増方式を適用し、授業料：年10,000円増、施設設備費：年3,000円増
※在学５年目以降は漸増方式適用外とし、2022年度以前の入学者については別に定める。

納入期限　前期分：５月31日
　　後期分：10月31日

別表Ⅴ　在籍料

金　額
年額 200,000円

学則第５条が規定する「進級および原級留置に関する規程」

（趣　旨）
第１条　本規程は、津田塾大学学則第５条に基づき、進級および原級留置に関する事項を定める。

（進　級）
第２条　学生は、入学をもって１年次に在籍し、１年次に１年間の在籍をもって２年次へ進級する。２年次から３年次への進級（以下「３年次への進級」という。）については、第４条に定めるところによる。また、３年次に１年間の在籍をもって４年次に進級する。

（編入した学生）
第３条　編入学した学生が編入時に在籍する年次は、学長が別に定める。

（３年次への進級判定）
第４条　３年次への進級は、学年末において２年次に在籍する学生を対象とする。
２　前項の学生に対し、学年末に３年次への進級の可否について判定を行う。
３　３年次への進級を可とする要件は、２年次に１年間在籍し、学年末において随意科目を除く修得総単位数が32単位以上であることとする。
４　前項の要件に満たない学生は、２年次に留める。

（原級留置）
第５条　第２条および第４条によらず、前年度において１年間（通年）休学した学生は、進級することができない。ただし、前年度において半年間休学し、半年間在学した学生は、この限りではない。

（転部・転科にかかる原級留置）
第６条　転部・転科を希望し、選考を経て許可された場合には転部・転科後の所属年次が指定され、第２条の進級要件に関わらず原級に留置することがある。

（事　務）
第７条　本規程の事務は、教務課が行う。

（雑　則）
第８条　本規程に定めるほか、進級および原級留置に関し必要な事項は、全学教務委員会における審議の後、学長が別に定める。

（規程の改廃）
第９条　本規程の改廃は、各学部教授会および大学運営会議の議を経て、学長が行う。

附　則
本規程は、2025年（令和７年）４月１日から施行する。

学則第27条が規定する「留学に関する細則」

第１条　本学との間に事前に相互交流の協定があるか、または正規の高等教育機関で学士号以上の学位授与権を有する外国の大学への留学を希望する学生が、別に定める条件に基づき、その承認を得た場合は、１年を限度として、その留学期間を本学における修業年限に算入できる。
２　学籍上の留学期間は、実際の留学期間により、本学の前期、後期または通年とする。

3　上記に関わらず、語学研修と留学が同一大学で行われ、受入れ先大学からの受入れ通知に「語学研修付き留学」と明記されている場合、語学研修期間も含め留学の学籍とする。

第2条　留学先の大学において修得した単位のうち、適当と認められるものは、30単位を限度として、本学の卒業に必要な単位としての認定を受けることができる。

第3条　外国の大学に留学を希望する学生は、所属学科セミナー指導教員に申し出てその指導を受けた後、定められた期日（後期から留学する場合：６月末日、前期から留学する場合：１月末日）までに入学許可証を添えて留学願および所定書類を教務課に提出しなければならない。

第4条　留学の出願者は、本学に少なくとも１年以上在学し、前年度までに30単位以上の科目を修得した者に限る。

第5条　留学期間は最長２年間とする。そのうちの１年までは修業年限、残りの１年は在学期間とする。

第6条　後期より留学する者が、帰国後通年科目の継続履修を希望する場合は、留学前に教務課で所定の手続をしなければならない。

第7条　単位認定を受ける予定のある者は、留学先の大学では、本学で開講されている授業科目に該当する科目を履修するよう努めなければならない。

第8条　留学先大学での修得単位の認定を受けるためには、下記の書類を添付して、単位認定願を教務課に提出しなければならない。

①　留学先大学カタログ
②　成績証明書
③　履修科目講義内容説明書

第9条　この細則により留学した者が、引き続き次年度も留学する場合は、１年目終了の１ヶ月前までに所定の手続をとり、許可を得なければならない。

第10条　休学の学籍で留学した者の単位認定は、原則として行われない。

第11条　学籍上の留学期間には、本学において科目履修はできない。

附　則

1　この細則は、2013年（平成25年）４月１日から施行する。
2　この細則は、2017年（平成29年）４月１日から施行する。
3　総合政策学部においては、本細則第３条、第６条および第８条の「教務課」を「千駄ヶ谷キャンパス事務室」に読み替える。
4　この細則は、2017年（平成29年）５月17日から施行する。

（参考：留学に関する細則第１条第１項に規定する留学先の条件）
1．単位修得を目的とした留学であること。
2．留学期間については、以下のように定める。
　受入先が２学期制をとる場合には１学期以上、３学期制ないし４学期制をとる場合には２学期以上であること
3．上記にかかわらず、本学が協定を結んだ外国の大学に、協定に基づいて留学する場合の条件は別途定める。

学則第31条が規定する「転部・転科に関する細則」

（趣　旨）
第1条　この細則は、津田塾大学学則第31条に規定する転部、転科の取り扱いについて定めるものとする。

（転部、転科の募集）
第2条　学部、学科においては、定員に余裕がある場合、転部、転科を希望する学生を募集する場合がある。

（転部、転科の出願資格）
第3条　転部、転科の出願ができる学生は次の通りとする。
　1）本学の学部に在籍している者
　2）転部、転科を許可された場合、当該学部・学科に最低２年以上在籍することが可能である者
2　学校推薦型選抜（指定校制）、学校推薦型選抜（公募制）、および総合型選抜で入学した者は転部・転科の出願はできない。但し、2017年度以前の数学科および情報科学科の公募制推薦入試で入学した者はこれによらない。
3　学則年度が2016年度以前の者は、転部できない。

（転部、転科の時期）
第4条　転部、転科の時期は、学年の始めとする。

（転部、転科の出願）
第5条　転部、転科の出願手続きは次の通りとする。
1　６月下旬に次年度転部・転科募集について、教務課が告知を行う。
2　転部・転科を希望する学生は、所定の期日までに転部・転科願に学部、学科ごとに求める必要書類を添えて、教務課に提出する。

（転部、転科の選考）
第6条　転部・転科を願い出た者に対しては、希望する転部・転科先にて選考を行い、当該教授会が適当と認めた者につき学長が新学年より転部・転科を許可する。
2　転部・転科の許可にあたっては、転部・転科先での学年を指定する。
3　転部・転科希望者の選考は、書類審査、面接および筆記試験とする。筆記試験は省略されることがある。

（細則の改廃）
第7条　本規程の改廃は、全学教務委員会、学芸学部教授会および総合政策学部教授会、大学運営会議の議を経て、学長が行う。

附　則
1　この細則は、2017年（平成29年）６月29日から施行する。
　「転科に関する細則」は廃止する。
2　この細則は、2022年（令和４年）４月１日から改正、施行する。
　2020年度入学者までは第３条第２項の学校推薦型選抜（指定校制）を推薦入試（指定校制）、学校推薦型選抜（公募制）を推薦入試（公募制）、および総合型選抜をAO入試または特別入試（AO方式）と読み替えるものとする。
3　この細則は、2023年（令和５年）４月１日から改正、施行する。
4　この細則は、2025年（令和７年）４月１日から改正、施行する。

学則第32条が規定する「退学に関する細則」

退学しようとする者は、所定の様式による退学願を、教務課に提出すること。

退学を願い出る者が授業料等諸料金を滞納している場合の取扱い及び退学を許可された者の退学日については以下のとおりとする。

⑴ 授業料等諸料金を滞納している者が退学を願い出る場合には、次項に定める退学日が属する学期までの滞納額を納入していること。

⑵ 願い出て退学が許可された者の退学日は、原則として年度末日（３月31日）または前期末日（９月30日）とする。

⑶ 退学願は、願い出る退学日以前に提出するものとする。

⑷ 特別の事情がある場合には、次の期限内に限って、退学願にその事情を記した文書を添えて、退学日を遡って願い出ることを認める。

① 前年度末日（３月31日）に遡っての退学願　５月31日

② 当該年度前期末日に遡っての退学願　10月31日

⑸ 授業料等諸料金の納付を怠り督促を受けてもなお納めない者は、除籍する。

附　則

１　この細則は、平成22年（2010年）10月１日から施行する。

２　総合政策学部においては、本細則の「教務課」を「千駄ヶ谷キャンパス事務室」に読み替える。

学則第33条第２項が規定する「再入学に関する細則」

⑴ 再入学願は原則として入学希望の前年度10月末日までに提出しなければならない。

⑵ 再入学を出願できる学部・学科は、原則として在学時に所属した学部・学科とする。

⑶ 再入学を願い出た者に対しては、当該学科で選考の上、教授会が適当と認めた者につき学長が再入学を許可する。

⑷ 前項により、再入学を許可する者についての入学金は当該年度の半額とし、授業料、施設設備費は当該年度の額を適用する。

⑸ 再入学は年度の始めからとする。

⑹ 再入学前に本学で修得した単位は、原則として本学の卒業に必要な単位として認定する。

⑺ 再入学後のカリキュラムは、再入学後の学則年度に準じる。

⑻ 再入学前の在学期間、休学期間、留学期間は、再入学後に継続して適用される。

⑼ 除籍となった者は、「除籍に関する細則」に則る。

⑽ 再入学を許可された者が、再入学後に再び退学あるいは除籍となった場合、その後の再入学は認めない。

附　則

１　この細則は、平成30年（2018年）６月20日から施行する。

学則第34条が規定する「除籍に関する細則」

除籍の取扱いは次のようになります。

イ．⑴および⑷の事由による場合は、その事由が発生した日付をもって除籍する。

ロ．⑵の事由による場合は、授業料等諸料金の納付を完納した前期または後期の末日（３月31日または９月30日）付けをもって除籍する。

ハ．⑶の事由による場合は、９月30日または３月31日付をもって除籍する。

ニ．⑴、⑵および⑷の事由により除籍となった者が、再入学を願い出たときは、教授会の議を経て許可することがある。

ホ．⑵の事由により除籍となった者が、除籍通知発送後２週間以内に滞納した諸料金を納入し、許可願を提出したときは、除籍を取り消すことができる。

附　則

この細則は、平成22年（2010年）10月１日から施行する。

この細則は、2025年（令和７年）４月１日から改正、施行する。

学則第36条及び第37条が規定する「追試験及び再試験に関する細則」

第１章　総　　則

第１条　この細則は津田塾大学学則第36条及び第37条に基づき、追試験および再試験について必要な事項を定めるものとする。

第２章　追試験

（追試験の定義）

第２条　次の各号の事由により試験を受けることができない学生は、願い出により、教授会の承認を経て学長が許可した場合に限り追試験を受けることができる。

⑴　病気

⑵　二親等以内の親族の死亡による忌引き

⑶　交通機関の事故

⑷　交通事故等不慮の事故や火災等の災害

⑸　教育実習および介護等体験の実習

⑹　公務員試験、教員採用試験の試験日

⑺　裁判員制度に基づき裁判員候補者として裁判所へ出頭する場合及び裁判員として職務に従事する場合

⑻　教務委員会で許可された研修

⑼　その他特別の事情により教務委員会で正当な理由と認められる場合

２　追試験の受験許可は、教務委員会、教授会の審議を経て学長が行う。

（追試験の申請）

第３条　第２条により追試験の申請を行おうとする学生は、所定の期間内に教務課に申し出たうえで、別に定める期日までに診断書その他の証明書類を添えて、所定の追試験願を教務課に提出しなければならない。

２　病気等による特別な事情がある場合には、代理人による申請を認める。代理人は学生からの委任状と公的な身分証明書を持参のうえ、教務課で手続きを本人に代わって行うことができる。

（追試験料の納入）

第４条　追試験の許可を得た学生は、所定の期日までに所定の追試験料を納入する。

２　追試験料は別に定める。

３　前項に関わらず、第２条第１項⑶、⑷、⑸および⑺の事由により追試験が許可された場合には、追試験料を免除する。

（追試験の試験日）

第５条　追試験は学年暦に定める日程で行う。

２　前項に関わらず、４年次生の追試験は別に定める期日に実施する。

３　追試験に対する追試験は実施しない。

（追試験の評価）

第６条　追試験の評価については、期末試験とは別の評価基準で行う。

２　評価基準については別に定める。

（追試験の資格の喪失）

第７条　次のいずれかの項目に相当する場合、学生は追試験の資格を喪失する。

⑴　期日までに授業料、試験料等所定の料金を納入していない場合

⑵　期日までに申請書類が提出されない場合

⑶　虚偽の申告があった場合

第３章　再試験

（再試験の定義）

第８条　卒業年次に履修した授業科目の評価が不合格（Ｆ）となったことにより、次の科目が修得単位不足となった場合には、願い出により、学科および教授会審議を経て学長が許可した場合に限り再試験を受けることができる。

⑴　卒業に必要な科目

⑵　教育職員免許状取得に必要な科目

⑶　日本語教員養成課程の修了に必要な科目で同課程の必修科目であるもの

２　再試験は１科目について１回のみ実施することができる。

３　再試験の運用に関しては別に定める。

（再試験の申請）

第９条　第８条により再試験の申請を行おうとする学生は、所定の期日までに所定の再試験願を教務課に提出しなければならない。

２　病気等による特別な事情がある場合は、代理人による申請を認める。代理人は学生からの委任状と公的な身分証明書を持参のうえ、教務課で手続きを本人に代わって行うことができる。

（再試験料の納入）

第10条　再試験の許可を得た学生は、所定の期日までに所定の再試験料を納入する。

２　再試験料は別に定める。

（再試験の試験日）

第11条　再試験は別に定める期日に実施する。

２　再試験に対する追試験は実施しない。

（再試験の評価）

第12条　再試験の評価は、学則第35条第３項で定める５段階評価のＤ（合格）またはＦ（不合格）とする。

２　前項に関わらず、再試験を欠席した場合等には失格とする。

（再試験の資格の喪失）

第13条　次のいずれかの項目に相当する場合、学生は再試験の資格を喪失する。

⑴　期日までに授業料、試験料等所定の料金を納入していない場合

⑵　期日までに申請書類が提出されない場合

⑶　同時期に実施する再試験・追試験等において不正行為が行われた場合

⑷　虚偽の申告があった場合

第４章　細則の改廃および公示

（細則の改廃）

第14条　本細則の改廃は教授会の審議を経て、学長が行う。

（細則の公示）

第15条　本細則の改正が行われた場合には、直ちに学生に公示する。

附　則

１　この規程は、平成27年（2015年）４月１日から施行する。

２　総合政策学部においては、本細則第２条第１項８号および９号の「教務委員会」を「教授会」に、第３条第１項および第２項、第９条第１項および第２項の「教務課」を「千駄ヶ谷キャンパス事務室」に読み替える。第２条第２項の「教務委員会」を削除する。

３　この規程は、2019年（平成31年）４月１日より施行する。

４　この規程は、2022年（令和４年）４月１日より施行する。

学則第45条が規定する「休学・留学の期間中における学費減免措置に関する細則」

（目　的）

第１条　この細則は、「津田塾大学学則」第45条に基づき、休学・留学の期間中における学費減免措置について必要な事項を定める。

（学費の範囲）

第２条　この細則で定める学費とは、授業料および施設設備費をいう。

（減免の金額）

第３条　休学願の申請書を次の期間に提出し、許可された学生については、所定の期間中の学費を免除し、「津田塾大学学則」の別表Ⅴに定める在籍料を納入するものとする。学費の免除と在籍料の納入は学期分を単位として行う。

２　留学願の申請書を次の期間に提出し、許可された学生については、所定の期間中の学費を在籍料相当額に減免する。学費の減免は学期分を単位として行う。

⑴　通年または前期分学費の場合　　当該年度の５月31日まで

⑵　後期分学費の場合　　当該年度の10月31日まで

（休学または留学時の減免の開始時期）

第４条　休学または留学を４月１日から開始する場合は、前期分学費から減免し、10月１日から開始する場合は、後期分学費を減免する。

２　新入生のうち、４月入学の場合は前項の「４月１日」を「入学式当日」と読み替えるものとする。

（休学または留学時の減免の期間）

第５条　休学または留学の許可された期間により、次のとおり学費を減免する。

イ．６カ月以上12カ月未満　　１学期分の学費を減免する。

ロ．12カ月　　通算１年分の学費を減免する。

（適用除外）

第６条　交換留学協定校への留学の場合は、当該大学との協定によるところとする。

ただし、留学期間中の本学への学費納入額が当該期間の在籍料を超える場合は、該当期間の在籍料を納入するものとする。

（改　廃）

第７条　本規程の改廃は、財務・事業計画会議の審議を経て、学長が行う。

附　則

１　この細則は、平成元年（1989年）４月１日より施行する。

２　この細則は、平成２年（1990年）４月１日より改正、施行する。

（中　略）

８　この細則は、平成24年（2012年）４月１日より改正、施行する。

９　この細則は、2014年（平成26年）４月１日より改正、施行する。

10　この細則は、2022年（令和４年）４月１日より改正、施行する。

学則第54条が規定する「学生懲戒規程」

（目　的）

第１条　この規程は、津田塾大学学則（以下「学則」という。）第54条第３項に規定する懲戒に関する基準および手続きについて定めることを目的とする。

２　前項につき、別に規程が定められている場合、その規程にしたがう。

（懲戒の対象とする者）

第２条　この規程において懲戒の対象とする者とは、津田塾大学（以下「本学」という。）の学芸学部学生および総合政策学部学生（以下「学生」という。）のことをいう。

２　委託生、交換学生、科目等履修生、聴講生、外国人留学生の取扱いは本学の学生に準ずるものとする。

（懲戒の考え方）

第３条　懲戒は、学生が第５条にある懲戒の対象となる行為を行った場合、学校教育法および学校教育法施行規則に基づいて、教育機関としての大学の教育目的の達成と規律の維持のために行う。

２　懲戒は、懲戒の対象となる行為の様態、結果等を総合的に検討し、教育的配慮に基づいて行う。

３　懲戒により学生に課す不利益は、懲戒目的を達成するため、必要最小限にとどめなければならない。

（懲戒の対象とする期間）

第４条　懲戒の対象とする期間は、本学の学籍を有する期間とする。

（懲戒の対象とする行為）

第５条　懲戒の対象とする行為は、次の各号に掲げるものとする。

⑴　犯罪行為及びそれに準ずる社会的諸秩序を侵害する行為

⑵　論文等の作成における学問的倫理に反する行為

⑶　試験等における不正行為

⑷　コンピュータ及びネットワークに係る情報倫理に反する行為

⑸　本学の規則に違反する行為

⑹　そのほか、本学の秩序を乱し、本学の名誉を毀損する行為

（懲戒の種類）

第６条　学則第54条に定める懲戒は、次のとおりとする。

⑴　退学は、学生としての身分を剥奪するものとする。

⑵　停学は、一定期間、学生の教育課程の履修および課外活動等を停止するものとする。

⑶　訓告は、学生の行った行為の責任を確認し、将来にわたってそのようなことのないよう、口頭および書面をもって戒めるものとする。

（懲戒の量定）

第７条　懲戒処分の量定は、第３条に基づき、懲戒の標準例（以下「標準例」という。）についての「別紙」を参考にし、次に掲げる事項を基礎に、行為者の状態等並びに行為の悪質性及び重大性を、個々の事案の事情に即し、総合的に判断して行う。

⑴　非違行為の動機、態様及び結果

⑵　故意又は過失の別及びその程度

⑶　過去の非違行為の有無

⑷　日常における生活態度及び非違行為後の対応

２　前項での標準例にかかわらず、人命にかかわる重大事案においては、標準例に掲げる処分の種類以外とすることがある。また、標準例に掲げられていない非違行為についても、標準例に照らして判断し、相当の懲戒処分を行うことがある。

（停学の期間）

第８条　停学の期間は、無期または１か月以上６か月以下の有期とする。

２　無期の停学は、当該学生の反省の度合い等を勘案の上、当該停学の解除の時期を決定する。

3　無期停学解除の時期および停学解除の手続きについては、第19条に定める。
4　停学の期間は、修業年限４年に含めないが、在学年数８年に含める。

（停学に付帯する措置）
第９条　停学期間中の措置は、次のとおりとする。
⑴　無期停学の処分および１か月以上の停学処分があった場合には、当該停学の効力が開始した日を含む当該タームに履修中のすべての授業科目の履修登録を取り消す。
⑵　有期停学の期間中、当該学生に対し有期停学期間終了後の履修に関し履修登録を認める。
⑶　停学処分の決定後または停学中の場合は、休学の願い出を受理しない。
⑷　休学中の学生が停学処分となった場合は、当該学生の停学期間中の休学許可を取り消す。
⑸　停学期間中の授業料及び施設設備費は納付しなければならない。
⑹　停学期間中は、試験等の受験は認めない。
⑺　停学期間中は、登校、大学の施設利用および本学学生としての活動を制限する。

（停学期間中の教育的指導）
第10条　停学期間中は、教育的指導を定期的に行う。
2　学生への面談等の教育的指導は、学部長が行うものとする。ただし、他の教員に委任することができる。
3　学部長または教育的指導を委任された教員は、教育的指導に必要と判断される場合、学生の施設利用を認めることができる。

（懲戒事案の報告）
第11条　学部長は、所属する学部の学生が懲戒対象行為を行った場合、または、行った疑いのある場合は、直ちに学長に報告するものとする。

（事実関係の調査）
第12条　学長は、前条の報告を受け、当該学生の行為が懲戒事由に該当し、懲戒の必要があると思料されるとき、全学学生委員会または別に定められた規程による委員会（以下、「当該委員会」という。）に、当該事案について、調査および審議を付託する。
2　当該委員会は、必要に応じて本学専任教職員に調査を委託することができる。
3　当該委員会は、必要に応じて弁護士等、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。
4　当該委員会は、必要に応じて本学教職員、学生および事案に関係する者から事情聴取を行い、資料の提出を求めることができる。
5　当該委員会は、遅滞なく保護者または保証人に当該学生が懲戒の対象となる可能性がある旨を通知するとともに、当該学生に対する事情聴取等の調査を行い、事実関係を確認する。
6　前項の調査にあたり、当該委員会は、事前に当該学生に対して、事情聴取を行う期日、場所及び非違行為と目される事実の概要を口頭または文書で告知し、当該事実に関する弁明の機会を与えなければならない。ただし、弁明の機会が与えられたにもかかわらず、当該学生が、正当な理由なく欠席し又は弁明書を提出しなかったときは、この権利を放棄したものとみなす。
7　事情聴取を行う際、当該学生は１名の付添人を伴うことができるものとし、必要に応じて文書若しくは代理人による弁明を認めるものとする。
8　第５項の規定にかかわらず、連絡先不明、その他やむを得ない事由により、当該学生に通知および弁明の機会を与えることができないときは、これを行わないことがある。
9　当該委員会は、事情聴取終了後すみやかに、次に掲げる事項を記載した調査報告書を作成し、学長に提出しなければならない。
⑴　非違行為と目される事実に対する学生の意見陳述の内容
⑵　非違行為と目される事実に対する学生の意見陳述の内容に理由があるかどうかについての当該委員会の意見
⑶　当該事案に関しての懲戒処分の量定に関わる審議内容
⑷　学生への妥当と考えられる処分の案又は処分を不要とする案
10　学長は、調査報告書の内容に疑義があるときは、再調査を指示することができる。

（自宅待機）
第13条　学長は、調査報告書が提出されてから、第15条により処分を決定するまでの期間に、学生に対し自宅待機を命ずることができる。学長はその旨を当該学生が所属する学部の教授会（以下教授会）に報告する。

２　学長は、自宅待機を命じた学生に、授業科目の履修、大学施設の利用及び課外活動への参加を制限することができる。
３　自宅待機中の者が停学処分となった場合は、自宅待機の期間を処分期間に含めるものとする。

（謹　慎）
第14条　学長は、調査報告書により、学生の行為が退学または停学となり得る行為として明らかであると判断した場合、懲戒処分を決定する前に２か月を超えない範囲で学生に対し、謹慎を命ずることができる。学長はその旨を教授会に報告する。
２　前項の謹慎期間中は、第８条第４項、第９条第２号から第７号まで、第10条の規定を準用する。
３　謹慎期間は停学期間に含めるものとする。

（懲戒決定の手続き）
第15条　当該委員会は、調査報告書において、懲戒が相当と判断した場合、第６条に定める懲戒のうち相当と判断される処分を学長に提案する。
２　懲戒は、教授会および大学運営会議の審議を経て、学長が決定し、処分を行う。

（懲戒の発効および期間）
第16条　懲戒は、学生に対して懲戒の内容を文書で発信した日から発効する。
２　懲戒の期間は、効力が発生した日の翌日から起算し、暦日計算による。

（学生への通告および保証人への通知）
第17条　当該委員会は、学生に対し懲戒の内容および理由を学長名の文書により通告する。
２　当該委員会は、学生の保証人に対し前項に定める内容を学長名の文書により通知する。
３　第１項の通告および前項の通知を受領すべき学生あるいは保証人の所在を知ることができないときは、公示、送達、その他適切な方法により、その発信をもって代えることができる。

（公　示）
第18条　当該委員会は、懲戒を行った場合、遅滞なく学長名で公示を行う。
２　公示する事項は、学部、学科、学年、懲戒理由、懲戒の種類とその適用条文とする。
３　公示の期間は２週間とする。
４　特段の事情がある場合、当該委員会と調整のうえ、教授会、大学運営会議の議を経て、当該公示の一部又は全部を公示しないことができる。

（停学の解除）
第19条　無期停学は、懲戒の発効日の翌日から６か月を経過した後でなければ解除できない。
２　無期停学の解除は、学部長の解除申請に基づき、当該委員会が無期停学の解除が適当であると判断した場合、教授会および大学運営会議の審議を経て、学長が行う。ただし、解除の時期は、当該停学の効力が発生した日の翌日から起算して６か月を超え１年以内とする。
３　学長は、停学処分が終了するとき、又は停学処分を解除するときは、当該学生から誓約の意思を書面で提出させる。
４　無期停学解除の学生への通告および保証人への通知は、文書で行う。

（不服申立て）
第20条　懲戒を課せられた学生は、懲戒の発効日の翌日から２週間以内にその懲戒に対する不服申し立てを行うことができる。ただし、この期間内に不服申し立てをすることができない正当な理由が認められる場合は、その理由が消滅した日から起算して２週間以内に不服申し立てを行うことができる。
２　前項の申立ては、学長宛に文書をもって当該委員会に提出しなければならない。

（不服申立の審査）
第21条　前条により不服申立てがあった場合、学長は当該委員会に、不服申立ての当否について審査を付託する。
２　前項の審査にあたっては、第12条第２項から第７項までの規定を準用する。
３　当該委員会は、すみやかに事情聴取を行い、不服申立ての当否について審査報告書を作成し、学長に提出しなければならない。

（不服申立ての採否の決定）
第22条　学長は、審査報告書に基づき、教授会および大学運営会議の審議を経て、処分の変更又は不服申立ての棄却を決定する。
２　前項の決定についての当該学生への通告および保証人への通知については、第17条の規定を準用し、その公示については、第18条の規定を準用する。

（懲戒処分の取消・変更）
第23条　学長は、第15条により懲戒処分を決定告知した後、第20条に定める不服申し立てが無い場合においても、処分決定時に存在しながら考慮できなかった事情が新たに判明した結果、告知した懲戒処分を維持することが相当でないと判断したときは、教授会および大学運営会議の議を経て、これを取消または変更することができる。

（懲戒に関する記録）
第24条　懲戒の事実は学籍簿に記録する。
２　成績証明書、その他本人の成績及び修学状況に関する書類で、大学関係者以外の者が閲覧する可能性のある書類の作成にあたっては、懲戒を受けた旨の記載をしない。

（懲戒対象者の退学又は休学の申し出の取扱い）
第25条　学長は、調査報告書が提出されてから第15条による懲戒が決定される前に、当該学生から退学又は休学の申し出があった場合、懲戒が決定するまでこの申し出を受理しない。
２　停学期間中は、休学することを認めない。
３　懲戒処分決定後に退学の申し出があった場合は、退学を許可することがある。
４　前項により退学した者の再入学は認めない。

（厳重注意）
第26条　学長または当該委員会委員長は、懲戒に相当しない場合でも、教育的指導の下に文書または口頭により当該学生に厳重注意を行うことができる。
２　厳重注意は、行為の問題性を自覚させ反省を促すものとする。

（守秘義務）
第27条　この規程の運用に当たっては、学生の基本的人権を尊重するよう留意し、関係者は知り得た情報に関する守秘義務を負う。

（逮捕・拘留時の取扱い）
第28条　学生が逮捕・拘留され、大学が本人に接見することができない状況であっても懲戒処分が妥当であると判断した場合は、懲戒処分を行うことができる。

（補　則）
第29条　この規程に定めるもののほか、この規程の実施にあたって必要な事項は、別にこれを定める。

（改　廃）
第30条　この規程の改廃は、教授会、大学運営会議の審議を経て、学長が行う。

（規程の公示）
第31条　この規程の改正が行われた場合には、直ちに学長名で公示する。

附　則
１．この規程は、2014年（平成26年）４月16日から施行する。
２．この規程は、2015年（平成27年）７月15日から改正、施行する。
３．この規程は、2019年（平成31年）４月１日から改正、施行する。
４．この規程は、2025年（令和７年）４月１日から改正、施行する。

学生懲戒規程　第７条（別紙）標準例（参考）

区　分	懲戒対象行為	懲戒処分の目安
⑴犯罪行為及びそれに準ずる社会的諸秩序を侵害する行為 1)刑法犯・特別刑法犯	殺人、強盗、放火、誘拐、傷害等の凶悪な犯罪の既遂又は未遂の行為	退学
	窃盗、詐欺、恐喝、脅迫、強要、わいせつ行為等の犯罪の既遂又は未遂、重大な過失により死亡・傷害の結果を惹起する犯罪行為	退学又は停学
	賭博、住居・建造物侵入、他人を傷害するに至らない暴行、万引等の行為であって、刑罰法規に該当する行為	停学又は訓告
	盗撮行為、盗聴行為、のぞき見行為、その他の迷惑行為等であって、刑法、軽犯罪法、青少年保護条例、迷惑防止条例等に違反する行為	停学又は訓告
	麻薬、大麻、あへん、覚せい剤、向精神薬の不法所持、不正使用、売買、仲介等の行為	退学又は停学
	上記以外の不正行為	停学又は訓告
2)交通事犯	飲酒運転（酒酔い運転・酒気帯び運転を含む。以下同じ。）、無免許運転、重大な制限速度違反運転（制限速度時速30㎞以上の超過）等の悪質な運転により、被害者を死亡させ、又は高度後遺障害等を負わせる重大な人身事故を起こす行為	退学
	ひき逃げ、あて逃げ、飲酒運転、無免許運転、暴走運転、重大な過失等により、上記以外の人身事故を起こす行為	退学又は停学
	人身事故を伴わない飲酒運転、無免許運転、暴走運転等の悪質な交通法規違反の行為	停学又は訓告
	物損事故等の交通事故又は交通法規違反の行為 ただし、反則金（交通反則通告制度に基づき行政処分として課される過料）に該当する場合で、軽微な道路交通法違反については、懲戒処分の対象としない。	訓告又は厳重注意
	上記以外の不正行為	停学又は訓告
⑵論文等の作成における学問的倫理に反する行為	論文等の盗作、盗用、そのほか研究成果作成の際に論文やデータのねつ造を行う行為のうち、きわめて悪質なもの	退学又は停学
	上記以外の不正行為	停学又は訓告
⑶コンピュータ及びネットワークに係る情報倫理に反する行為	コンピュータ又はネットワークの不正使用に関する、きわめて悪質な犯罪行為	退学
	上記以外の不正行為	停学又は訓告
⑷本学の規則に違反する行為	本学の規則に違反する行為のうち、きわめて悪質な行為	退学又は停学
	上記以外の不正行為	停学又は訓告
⑸そのほか、本学の秩序を乱し、本学の名誉を毀損する行為 1)学習・研究・教育活動を妨害する行為	学生の学習・研究活動、教職員の教育・研究活動、業務等の正当な活動を、暴行、威力、偽計等の不当な手段によって妨害する行為のうち、きわめて悪質な犯罪行為	退学又は停学
	上記以外の不正行為	停学又は訓告
2)建造物等を損壊する行為等	本学が管理する建造物、施設、設備、器物を損壊し、汚損し、不法に改築する行為のうち、きわめて悪質な犯罪行為	退学又は停学
	上記以外の不正行為	停学又は訓告
3)そのほか	本学の学生、教職員に対する暴力行為、威嚇、拘禁、拘束等の行為	退学、停学又は訓告
	二十歳未満の者に対する飲酒、喫煙を強要し又は助長する行為	停学又は訓告
	二十歳未満の者であるにもかかわらず飲酒し又は喫煙する行為	停学又は訓告
	本学の秩序を乱し、本学の名誉を毀損する行為のうち、きわめて悪質なもの	退学又は停学
	上記以外の、本学の秩序を乱し、本学の名誉を毀損する行為	停学又は訓告

学則第54条が規定する「学生表彰規程」

（趣　旨）

第１条　この規程は、津田塾大学学則第54条の２第２項に規定する学生の表彰に関し必要な事項を定める。

２　前項につき、別に規程が定められている場合、その規程にしたがう。

（表　彰）

第２条　学生の表彰は、次の各号のいずれかに該当する個人または団体に対して行う。

⑴　学術研究活動において、特に顕著な業績を挙げたと認められるもの

⑵　本学における課外活動の成果が特に顕著であり、かつ、本学の課外活動の発展に功績があったと認められるもの。

⑶ 社会活動において優れた評価を受け、本学の名誉を著しく高めたと認められるもの。
⑷ その他前３号と同等の表彰に価すると認められるもの。

（被表彰者等の推薦）
第３条 学部長、学芸学部学生委員長、総合政策学部学生生活責任者は、前条各号のいずれかに該当すると認められるものがあるとき、学長に推薦することができる。
２ 前項の推薦に当たっては、被表彰者の属する学部の教授会または全学学生委員会の議を経なければならない。

（選考委員会）
第４条 前条で推薦された被表彰者等の選考を行うため、選考委員会を置く。

（組 織）
第５条 選考委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
⑴ 副学長（広報・学生担当）
⑵ 推薦された被表彰者の属する学部の学部長
⑶ 全学学生委員
⑷ その他、学長が必要と認める者若干名
２ 前項第４号に規定する委員は、学長が任命する。

（委員長）
第６条 選考委員会に委員長を置き、副学長（広報・学生担当）をもって充てる。
２ 委員長は、選考委員会を招集し、その議長となる。
３ 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長の指名する委員が、その職務を代行する。

（関係者からの意見聴取）
第７条 委員会が必要と認めたときは，委員以外の関係者を出席させて説明または意見を聴くことができる。

（表彰の決定）
第８条 表彰の決定は、選考委員会の意見を聴き、大学運営会議の議を経て、学長が行う。

（表彰の方法）
第９条 表彰は、学長が別紙様式による表彰状を授与することにより行う。
２ 前項の表彰状にあわせて、記念品を贈呈することができる。

（表彰の時期）
第10条 表彰の時期は、原則として卒業式の日とし、随時行うことができる。

（公 表）
第11条 被表彰者は学内に公表する。

（事 務）
第12条 学生の表彰に関する事務は、学生生活課において処理する。

（補 則）
第13条 この規程に定めるもののほか、学生の表彰に関し必要な事項は、別にこれを定める。

（改 廃）
第14条 この規程の改廃は、大学運営会議の議を経て、学長が行う。

（規程の公示）
第15条 本規程の改正が行われた場合には、直ちに学生に公示する。

附　則

1．この規程は、2015年（平成27年）４月１日から施行する。
2．この規程は、2017年（平成29年）４月１日から改正、施行する。

別紙様式

学　　長　　賞

氏名（団体名）

あなた（もしくは団体名）は、○○○○において（理由）本学の栄誉を高めました
よってここに功績をたたえ表彰します

年　　月　　日

津田塾大学　学長　　氏　　名　　印

備考：表彰の事由によって、表彰状の本文を変更することができるものとする。

津田塾大学　試験における不正行為および懲戒に関する規程

第１章　総　　則

（趣　旨）

第１条　この規程は、津田塾大学学則（以下「学則」という。）第54条に基づき、試験および単位修得に関わる学習評価の方法において、不正行為を行った者の懲戒に関する事項を定める。

第２章　不正行為の対象

（不正行為による懲戒の対象となる試験）

第２条　学則第35条第２項に定める学習評価に関わる試験および全ての考査方法を対象とする。

（不正行為に該当する行為）

第３条　次の各号に該当する行為は、不正行為とする。

⑴　他人の身代わりとなって受験すること、または他人を自己の身代わりとして受験させること
⑵　他人の答案を見ること、または他人に自分の答案をみせること
⑶　私語、動作その他の手段により解答の伝達または受信を行うこと
⑷　使用が許可されていない教科書、参考書、ノート、その他を参照すること
⑸　使用の許可によらず、試験時間中に教科書、参考書、ノート、その他を貸借すること
⑹　所持品、机、身体、その他に問題に関する内容を書込み、それを参照できる状態で受験すること
⑺　他人と答案を交換すること、答案への偽名の記入、および答案の破棄や答案を提出しないこと
⑻　持込みを許可されていない所持品を持ちこむこと
⑼　試験監督の指示に反すること等、試験の公正を害する行為を行うこと
⑽　試験、レポート、卒業論文等における剽窃行為
⑾　試験、レポート、論文等の作成において、実在しない文献、資料、データ、研究結果または事柄を作成し、それが実在するかのように記載する捏造行為
⑿その他　教務委員会および教授会が不正行為と認めた行為

２　不正行為を発見した場合には、速やかに教務課または教務委員に連絡する。

第３章　不正行為に対する懲戒処分、成績評価

（懲戒処分の決定）

第４条　第３条第１項に該当する不正行為が行われたことが確認された場合、教授会の議を経て学長が処分を行う。

２　処分は不正行為を行った者に文書にて通知する。

３　不正行為を行った者の保証人には処分を通知するものとする。

（懲戒処分の内容）
第５条　不正行為を行った者の懲戒は、訓告、停学、退学とする。
２　上記に関わらず、不正行為が軽微であると教務委員会が認めた場合（レポートにおける１回目の剽窃行為等）には、次の対応とする。
①当該科目は失格
②担当教員は教務委員同席の下、当該学生の指導を行い適切な改善策を取る。
３　不正行為を再度行った場合には、原則として前回以上の処分とする。

（成績評価および学籍簿への記録）
第６条　不正行為の行われた授業科目は成績評価を失格とし、不正行為による評価であることを学籍簿に記録する。
２　不正行為を行った者は、二度と不正行為を繰り返さないことを誓約する反省文を学長に速やかに提出しなくてはならない。

（懲戒の公示）
第７条　不正行為の懲戒については、学長名で公示するものとする。
２　公示する内容は処分学生の学科、学年、授業科目名および処分内容とする。ただし行為が悪質な場合には学生氏名の公示を行う。

（不服申し立て）
第８条　不正行為の懲戒に関して、学生は文書にて教務委員会に不服申し立てができるものとする。
２　不服申し立てへの細則は学生懲戒規程に準ずる。

第４章　規程の改廃、規程の公示
（規程の改廃）
第９条　本規程の改廃は教授会の議を経て、学長が行う。

（規程の公示）
第10条　本規程の改正が行われた場合には、直ちに学生に公示する。

附　則
１．本細則は2014年６月18日教授会で決定し、同日から施行する。
２．本細則は2017年４月１日から施行する。
３．総合政策学部においては、第５条第２項、第８条の「教務委員会」を「教授会」に、第３条第２項の「教務課」を「千駄ヶ谷キャンパス事務室」に、第３条第２項、第５条第２項の「教務委員」を「教務責任者」に読み替える。第３条第１項11号の「教務委員会」を削除する。

学則第７条２項が規定する学期の区分等に関する定め

学芸学部、総合政策学部では、学年を２期に分け、４月１日から９月30日までを前期、10月１日から翌年３月31日までを後期とする。
授業は１年を４期に分け実施するものとし、各期をタームと呼ぶものとする。
各タームの開始日および終了日は学部ごとに別に定める。
夏期休暇終了後から始まるタームは後期に属するものとする。

2017年４月１日
津田塾大学学長決定

津田塾大学学芸学部 授業科目および単位数に関する定め

津田塾大学学芸学部授業科目および単位数は、次のとおりとする。

（1）共通科目

	授　業　科　目	単位		授　業　科　目	単位
	哲学(1)	1		世界の文学（中国）(3)	1
	哲学(3)	1		世界の文学（中国）(4)	1
	哲学(4)	1		世界の文学（朝鮮）(1)	1
	心理学(1)	1		世界の文学（朝鮮）(3)	1
	心理学(3)	1		世界の文学（朝鮮）(4)	1
	心理学(4)	1		日本文学（古典文学）(1)	1
	宗教学(1)	1		日本文学（古典文学）(3)	1
	宗教学(3)	1		日本文学（古典文学）(4)	1
	宗教学(4)	1		日本文学（近現代文学）(1)	1
	キリスト教概論(1)	1		日本文学（近現代文学）(3)	1
	キリスト教概論(3)	1		日本文学（近現代文学）(4)	1
	キリスト教概論(4)	1		ことばの世界	3
	キリスト教史(1)	1		異文化理解とコミュニケーション	3
	キリスト教史(3)	1		国語学(1)	1
	キリスト教史(4)	1		国語学(3)	1
	世界の文学（イギリス）	1		国語学(4)	1
	世界の文学（アメリカ）	1		国語表現(1)	1
	世界の文学（英語圏）	1		国語表現(3)	1
	世界の文学（フランス）(1)	1		国語表現(4)	1
	世界の文学（フランス）(3)	1		多文化社会と言語教育	2
	世界の文学（フランス）(4)	1		美術	3
	世界の文学（ドイツ）(1)	1		音楽	3
	世界の文学（ドイツ）(3)	1		日本国憲法 a	1
	世界の文学（ドイツ）(4)	1		日本国憲法 b	1
	世界の文学（ロシア）(1)	1		法女性学	1
	世界の文学（ロシア）(3)	1		法学	1
	世界の文学（ロシア）(4)	1		政治学(1)	1
	世界の文学（東欧）(1)	1		政治学(3)	1
	世界の文学（東欧）(3)	1		政治学(4)	1
	世界の文学（東欧）(4)	1		経済学(1)	1
	世界の文学（北欧）(1)	1		経済学(3)	1
	世界の文学（北欧）(3)	1		経済学(4)	1
	世界の文学（北欧）(4)	1		世界史概説(1)	1
	世界の文学（中国）(1)	1		世界史概説(3)	1

	授　業　科　目	単位
	世界史概説(4)	1
	日本史概説(1)	1
	日本史概説(3)	1
	日本史概説(4)	1
	社会心理学(1)	1
	社会心理学(3)	1
	社会心理学(4)	1
	文化人類学(1)	1
	文化人類学(3)	1
	文化人類学(4)	1
	社会学(1)	1
	社会学(3)	1
	社会学(4)	1
	第三世界の思想と文化(1)	1
	第三世界の思想と文化(3)	1
	第三世界の思想と文化(4)	1
	データサイエンス入門	1
	データリテラシー入門	1
	情報と社会(1)	1
	情報と社会(3)	1
	社会とデータ活用	1
	くらしと地球環境	3
	物質と生命現象	3
	科学と人間(1)	1
	科学と人間(3)	1
	科学と人間(4)	1
	生物と人間	3
	精神分析学	1
	女性とメンタルヘルス	1
	青年期のメンタルヘルス	1
	ヒューマン・セクソロジー(1)	1
	ヒューマン・セクソロジー(3)	1
	ヒューマン・セクソロジー(4)	1
	総合	3
	女性学(1)	1
	女性学(3)	1
	女性学(4)	1
	平和研究	3

	授　業　科　目	単位
	津田梅子と建学の精神	1
	くらしと芸術	1
	日本語ボランティア入門	1
	グラフィックデザインリテラシー	1
	日本語ライティング(1)	1
	日本語ライティング(3)	1
	日本語ライティング(4)	1
	日本研究入門(1)	1
	日本研究入門(2)	1
	日本研究入門(3)	1
	日本研究入門(4)	1
	日本研究演習(1)	1
	日本研究演習(2)	1
	日本研究演習(3)	1
	日本研究演習(4)	1
	日本研究演習（英語）(1)	1
	日本研究演習（英語）(2)	1
	日本研究演習（英語）(3)	1
	日本研究演習（英語）(4)	1

（2）外国語科目

	授業科目	単位
第一外国語	Extensive Reading Ⅰ	1
	Intensive Reading Ⅰ a	1
	Intensive Reading Ⅰ b	1
	Reading Skills Ⅰ	3
	Oral English Ⅰ	3
	Composition Ⅰ	3
	Pronunciation Ⅰ	3
	Intensive Listening Ⅰ	3
	Reading Skills Ⅱ	3
	Oral English Ⅱ	3
	Composition Ⅱ	3
	Listening Ⅱ	3
	Listening and Speaking Ⅱ	3
	CS Reading Skills Ⅱ	3
	CS Composition Ⅱ	3
	CS Speaking and Listening Ⅱ	3
	Oral English Ⅲ	1
	MI Reading Skills Ⅱ	3
	MI Oral English Ⅱ	3
	MI Composition Ⅱ	3
	MI Listening Ⅱ	3
	Grammar Ⅱ	3
	Introduction to TOEFL	1
	Introduction to IELTS	1
	Oral English Fluency Development	1
	Journeys in English	1
第二外国語	フランス語Ⅰ（文法）	3
	フランス語Ⅰ（演習）	3
	フランス語Ⅱ（講読）	3
	フランス語Ⅱ（演習）	3
	フランス語Ⅲ（講読）(1)	1
	フランス語Ⅲ（講読）(3)	1
	フランス語Ⅲ（講読）(4)	1
	フランス語Ⅲ（演習）(1)	1
	フランス語Ⅲ（演習）(3)	1
	フランス語Ⅲ（演習）(4)	1
	フランス語Ⅳ(1)	1
	フランス語Ⅳ(3)	1
	フランス語Ⅳ(4)	1
	ドイツ語Ⅰ（文法）	3
	ドイツ語Ⅰ（演習）	3
	ドイツ語Ⅱ（講読）	3
	ドイツ語Ⅱ（演習）	3
	ドイツ語Ⅲ（講読）(1)	1
	ドイツ語Ⅲ（講読）(3)	1
	ドイツ語Ⅲ（講読）(4)	1
	ドイツ語Ⅲ（演習）(1)	1
	ドイツ語Ⅲ（演習）(3)	1
	ドイツ語Ⅲ（演習）(4)	1
	ドイツ語Ⅳ(1)	1
	ドイツ語Ⅳ(3)	1
	ドイツ語Ⅳ(4)	1
	中国語Ⅰ（文法）	3
	中国語Ⅰ（演習）	3
	中国語Ⅱ（講読）	3
	中国語Ⅱ（演習）	3
	中国語Ⅲ（講読）(1)	1
	中国語Ⅲ（講読）(3)	1
	中国語Ⅲ（講読）(4)	1
	中国語Ⅲ（演習）(1)	1
	中国語Ⅲ（演習）(3)	1
	中国語Ⅲ（演習）(4)	1
	中国語Ⅳ(1)	1
	中国語Ⅳ(3)	1
	中国語Ⅳ(4)	1
	ロシア語Ⅰ（文法）	3
	ロシア語Ⅰ（演習）	3
	ロシア語Ⅱ（講読）	3
	ロシア語Ⅱ（演習）	3
	ロシア語Ⅲ（講読）(1)	1
	ロシア語Ⅲ（講読）(3)	1
	ロシア語Ⅲ（講読）(4)	1
	ロシア語Ⅲ（演習）(1)	1
	ロシア語Ⅲ（演習）(3)	1
	ロシア語Ⅲ（演習）(4)	1
	ロシア語Ⅳ(1)	1

	授業科目	単位		授業科目	単位
第二外国語	ロシア語Ⅳ(3)	1	第二外国語	日本語Ⅲ(1)	1
	ロシア語Ⅳ(4)	1		日本語Ⅲ(3)	1
	スペイン語Ⅰ（文法）	3		日本語Ⅲ(4)	1
	スペイン語Ⅰ（演習）	3		日本語Ⅰ（特別演習）（読解・作文）	1
	スペイン語Ⅱ（講読）	3		日本語Ⅰ（特別演習）（聴解・会話）	1
	スペイン語Ⅱ（演習）	3		日本語Ⅱ（特別演習）（上級読解）	1
	スペイン語Ⅲ（講読）(1)	1		日本語Ⅱ（特別演習）（上級作文）	1
	スペイン語Ⅲ（講読）(3)	1		交換留学生のための日本語Ⅰ（読解・作文）(1)	1
	スペイン語Ⅲ（講読）(4)	1		交換留学生のための日本語Ⅰ（読解・作文）(2)	1
	スペイン語Ⅲ（演習）(1)	1		交換留学生のための日本語Ⅰ（読解・作文）(3)	1
	スペイン語Ⅲ（演習）(3)	1		交換留学生のための日本語Ⅰ（読解・作文）(4)	1
	スペイン語Ⅲ（演習）(4)	1		交換留学生のための日本語Ⅰ（聴解・会話）(1)	1
	スペイン語Ⅳ(1)	1		交換留学生のための日本語Ⅰ（聴解・会話）(2)	1
	スペイン語Ⅳ(3)	1		交換留学生のための日本語Ⅰ（聴解・会話）(3)	1
	スペイン語Ⅳ(4)	1		交換留学生のための日本語Ⅰ（聴解・会話）(4)	1
	韓国・朝鮮語Ⅰ（文法）	3		交換留学生のための日本語Ⅱ（上級読解）(1)	1
	韓国・朝鮮語Ⅰ（演習）	3		交換留学生のための日本語Ⅱ（上級読解）(2)	1
	韓国・朝鮮語Ⅱ（講読）	3		交換留学生のための日本語Ⅱ（上級読解）(3)	1
	韓国・朝鮮語Ⅱ（演習）	3		交換留学生のための日本語Ⅱ（上級読解）(4)	1
	韓国・朝鮮語Ⅲ（講読）(1)	1		交換留学生のための日本語Ⅱ（上級作文）(1)	1
	韓国・朝鮮語Ⅲ（講読）(3)	1		交換留学生のための日本語Ⅱ（上級作文）(2)	1
	韓国・朝鮮語Ⅲ（講読）(4)	1		交換留学生のための日本語Ⅱ（上級作文）(3)	1
	韓国・朝鮮語Ⅲ（演習）(1)	1		交換留学生のための日本語Ⅱ（上級作文）(4)	1
	韓国・朝鮮語Ⅲ（演習）(3)	1		日本語指導Ａａ（1）	1
	韓国・朝鮮語Ⅲ（演習）(4)	1		日本語指導Ａａ（2）	1
	韓国・朝鮮語Ⅳ(1)	1		日本語指導Ａａ（3）	1
	韓国・朝鮮語Ⅳ(3)	1		日本語指導Ａａ（4）	1
	韓国・朝鮮語Ⅳ(4)	1		日本語指導Ａｂ（1）	1
	フランス語（特別演習）	1		日本語指導Ａｂ（2）	1
	ドイツ語（特別演習）	1		日本語指導Ａｂ（3）	1
	中国語（特別演習）	1		日本語指導Ａｂ（4）	1
	ロシア語（特別演習）	1		日本語指導Ｂａ（1）	1
	スペイン語（特別演習）	1		日本語指導Ｂａ（2）	1
	韓国・朝鮮語（特別演習）	1		日本語指導Ｂａ（3）	1
	日本語Ⅰ（読解・作文）	3		日本語指導Ｂａ（4）	1
	日本語Ⅰ（聴解・会話）	3		日本語指導Ｂｂ（1）	1
	日本語Ⅱ（上級読解）	3		日本語指導Ｂｂ（2）	1
	日本語Ⅱ（上級作文）	3		日本語指導Ｂｂ（3）	1

	授　業　科　目	単位
第二外国語	日本語指導Ｂｂ（4）	1
	日本語指導Ｃ（1）	1
	日本語指導Ｃ（2）	1
	日本語指導Ｃ（3）	1
	日本語指導Ｃ（4）	1

（3）健康余暇科学科目

	授　業　科　目	単位
	動きの教育	1
	健康教育	1
余暇教育	余暇教育（レク活動とグループワーク）	0.5
	余暇教育（スポーツと身体スキル）	0.5
	余暇教育（フィットネスと健康）	0.5
ウェルネス研究	ウェルネス研究（スポーツ心理学）	1
	ウェルネス研究（人間関係論）	1
	ウェルネス研究（野外教育）	1
	ウェルネス研究（世界の身体文化表現論）	1
	ウェルネス研究（カウンセリングの基礎）	1
	ウェルネス研究（健康心理学）	1
	ウェルネス研究（武道身体文化論）	1
	ウェルネス研究（スポーツ・ジェンダー論）	1
	ウェルネス研究（女性の健康とキャリア）	1

（4）英語英文学科

	授業科目	単位
必修科目	基礎セミナー	3
	英語英文学科での学び	1
	Literary Reading Ⅰ	3
	Literary Reading Ⅱ	3
	Academic Reading Ⅱ	3
	Academic Writing Ⅱ	3
	Academic Listening Ⅱ	3
	Oral English Ⅱ	3
	Grammar Ⅱ	3
	３年セミナー	3
	Academic Writing & Presentation Ⅲ	3
	４年セミナー	3
	卒論指導	3
	卒業研究プロジェクト	3
	卒業論文（*注）	6
	卒業研究（*注）	6
第一外国語	Extensive Reading Ⅰ	1
	Intensive Reading Ⅰ a	1
	Intensive Reading Ⅰ b	1
	Oral English Ⅰ	3
	Composition Ⅰ	3
	Pronunciation Ⅰ	3
第二外国語	第二外国語Ⅰ	各３
	第二外国語Ⅱ	各３
基幹科目	イギリス文学史	3
	アメリカ文学史	3
	イギリス文学概論（詩・演劇・小説）	3
	Bible Studies	3
	イギリス文化概論	3
	アメリカ文化概論	3
	文章講座ａ（翻訳）	1
	文章講座ｂ（Creative Writing）	1
	文章講座ｃ（ジャーナリズム）	1
	英語学概論	3
	英語史	3
	社会言語学	3
	コミュニケーション概論	3
	Cultural Representation in Media	1

	授業科目	単位
基幹科目	言語とコミュニケーション	3
	異文化コミュニケーション理論	3
	第二言語習得概論（英語教育）	3
	Japan Studies in English（Introduction）	1
	Media Literacy	1
	Creative Drama	1
	翻訳・通訳特別講義	1
	英語英文学科特別講義（英語）	1
発展科目	イギリス文学特殊講義（詩）	1
	イギリス文学特殊講義（小説）	1
	イギリス文学特殊講義（演劇）	1
	アメリカ演劇特殊講義	3
	グローバル文学（英語）特殊講義	1
	アメリカ文学特殊講義	3
	アメリカ小説ａ	1
	アメリカ小説ｂ	1
	アメリカ小説ｃ	1
	文学批評	2
	イギリス研究特殊講義ａ	1
	イギリス研究特殊講義ｂ	1
	Contemporary British Society and Culture a	1
	Contemporary British Society and Culture b	1
	イギリス社会史ａ	1
	イギリス社会史ｂ	1
	イギリス文化史ａ	1
	イギリス文化史ｂ	1
	グローバルヒストリーのなかのイギリス	1
	アメリカ文化ａ	3
	アメリカ文化ｂ	3
	アメリカ文化ｃ	3
	American Studies a	1
	American Studies s	1
	American Studies b	1
	American Studies c	1
	中・古英語	2
	形態論	2
	文法論	3
	意味・語用論	2

（※注）必修科目の卒業論文および卒業研究の６単位は、選択科目の単位として認定される。

	授業科目	単位
発展科目	音韻論	2
	日英語の比較	2
	音声学	3
	英語学特殊講義 a	1
	英語学特殊講義 b	1
	Oral Communication	3
	Japan Studies in English（Lecture）	3
	認知科学と言語教育	3
	ギリシャ語・ラテン語演習 a	3
	ギリシャ語・ラテン語演習 b	3
	初等英語教育研究	3
	Journalistic English	1
	Film Reviewing	1
	Public Speaking	1
	Debate	1
	Japan Studies in English（Project）	1
	アメリカ政治(1)	1
	アメリカ政治(3)	1
	アメリカ政治(4)	1
	アメリカ経済（アメリカ経済史）(1)	1
	アメリカ経済（現代アメリカ経済論）(3)	1
	アメリカ経済（現代アメリカ経済論）(4)	1
	イギリス経済(1)	1
	イギリス経済(3)	1
	イギリス経済(4)	1
	イギリス社会(1)	1
	イギリス社会(3)	1
	イギリス社会(4)	1
	イギリス史(1)	1
	イギリス史(3)	1
	イギリス史(4)	1
	多文化共生論(1)	1
	多文化共生論(3)	1
	多文化共生論(4)	1
	Diaspora Studies	1
	演劇と教育	2
	言語教育とジェンダー	1
	言語政策	1

	授業科目	単位
	マルチリンガリズム	1
	Introduction to Statistics in English	1
日本語教員養成課程	日本語教授法	3
	日本語教材・教具論	3
	日本語教育実習	3
	日本語学概論	3
	日本語文法概論	3
	日本語学特殊講義 1	2
	日本語教育の学び	1
	対照言語学 1	2
	対照言語学 2	1
	第二言語習得論（日本語教育）	2
特設プログラム	（翻訳）	
	翻訳入門 a	1
	翻訳入門 b	1
	翻訳入門 c	1
	翻訳の理論と実践	3
	翻訳の世界 a	1
	翻訳の世界 b	1
	翻訳の世界 c	1
	（Teachers of Excellence）	
	The Practice of Teaching Oral English	1
自由科目	英語英文学科特設講義	1
	語学研修（英語）	2
	ボキャブラリー演習	1
	通訳概論 a	1
	通訳概論 b	1
	通訳概論 c	1
	通訳実践	1
	言葉は旅をする：翻訳から世界をみる	1
	生成AI時代のアカデミック・スキルズ	1
	英語科指導法Ⅰ	3
	英語科指導法Ⅱ	3
	英語科指導とICT活用	2

（5）国際関係学科

	授業科目	単位
必修科目	1年セミナー	3
	原書講読（2年セミナー）	3
	3年セミナー	3
	4年セミナー	3
	卒業論文	6
	Extensive Reading Ⅰ	1
	Intensive Reading Ⅰ a	1
	Intensive Reading Ⅰ b	1
	Oral English Ⅰ	3
	Composition Ⅰ	3
	Pronunciation Ⅰ	3
	Reading Skills Ⅱ	3
	Oral English Ⅱ	3
	Composition Ⅱ	3
	Listening Ⅱ	3
	English Ⅲ（British Society）（1）	1
	English Ⅲ（British Society）（3）	1
	English Ⅲ（British Society）（4）	1
	English Ⅲ（British History）（1）	1
	English Ⅲ（British History）（3）	1
	English Ⅲ（British History）（4）	1
	English Ⅲ（Australian Studies）（1）	1
	English Ⅲ（Australian Studies）（3）	1
	English Ⅲ（Australian Studies）（4）	1
	English Ⅲ（Current Global Issues）（1）	1
	English Ⅲ（Current Global Issues）（3）	1
	English Ⅲ（Current Global Issues）（4）	1
	English Ⅲ（Practice）	3
	第二外国語Ⅰ	各3
	第二外国語Ⅱ	各3
	第二外国語Ⅲ	各1
	国際関係概論(1)	1
	国際関係概論(3)	1
	国際関係概論(4)	1
	地域研究序説(1)	1
	地域研究序説(3)	1
	文化研究序説	1

	授業科目	単位
基幹科目	国際政治論(1)	1
	国際政治論(3)	1
	国際政治論(4)	1
	国際機構論(1)	1
	国際機構論(3)	1
	国際機構論(4)	1
	国際法(1)	1
	国際法(3)	1
	国際法(4)	1
	国際経済論(1)	1
	国際経済論(3)	1
	国際経済論(4)	1
	開発経済学(1)	1
	開発経済学(3)	1
	開発経済学(4)	1
	比較政治論(1)	1
	比較政治論(3)	1
	比較政治論(4)	1
	比較教育論(1)	1
	比較教育論(3)	1
	比較教育論(4)	1
	国際関係史(1)	1
	国際関係史(3)	1
	国際関係史(4)	1
	社会思想史(1)	1
	社会思想史(3)	1
	社会思想史(4)	1
	現代文化論(1)	1
	現代文化論(3)	1
	現代文化論(4)	1
	言語思想論(1)	1
	言語思想論(3)	1
	言語思想論(4)	1
	文学論(1)	1
	文学論(3)	1
	文学論(4)	1
	日本研究（Japanese Society）（1）	1
	日本研究（Japanese Society）（3）	1

	授業科目	単位		授業科目	単位
	日本研究（Japanese Society）（4）	1	地域・展開科目	東欧研究(1)	1
地域・展開科目	アメリカ政治(1)	1		東欧研究(3)	1
	アメリカ政治(3)	1		東欧研究(4)	1
	アメリカ政治(4)	1		ユーラシア研究(1)	1
	アメリカ経済（アメリカ経済史）（1）	1		ユーラシア研究(3)	1
	アメリカ経済（現代アメリカ経済論）（3）	1		ユーラシア研究(4)	1
	アメリカ経済（現代アメリカ経済論）（4）	1		西アジア研究(1)	1
	アメリカ社会(1)	1		西アジア研究(3)	1
	アメリカ社会(3)	1		西アジア研究(4)	1
	アメリカ社会(4)	1		南アジア研究(1)	1
	アメリカ文化 a	3		南アジア研究(3)	1
	アメリカ文化 b	3		南アジア研究(4)	1
	アメリカ文化 c	3		オーストラリア研究(1)	1
	EU研究(1)	1		オーストラリア研究(3)	1
	EU研究(4)	1		オーストラリア研究(4)	1
	ヨーロッパ政治(1)	1		東アジア研究（韓国現代史）	1
	ヨーロッパ政治(4)	1		東アジア研究（北朝鮮特論）	1
	ヨーロッパ経済（イギリス）（1）	1		東アジア研究（朝鮮半島の国際政治）	1
	ヨーロッパ経済（イギリス）（3）	1		東アジア研究（現代韓国特論）	1
	ヨーロッパ経済（イギリス）（4）	1		東アジア研究（中国現代史）	1
	ヨーロッパ社会（民族と言語）（3）	1		東アジア研究（中国・香港・台湾特論）	1
	ヨーロッパ社会（民族と言語）（4）	1		東アジア研究（中国の国際政治）	1
	ヨーロッパ社会（イギリス）（1）	1		東アジア研究（現代中国特論）	1
	ヨーロッパ社会（イギリス）（3）	1		東アジア研究（現代中国社会論）	1
	ヨーロッパ社会（イギリス）（4）	1		東アジア研究（現代中国経済論）	1
	ヨーロッパ社会（イギリス史）（1）	1		東南アジア研究（大陸部）（1）	1
	ヨーロッパ社会（イギリス史）（3）	1		東南アジア研究（大陸部）（3）	1
	ヨーロッパ文化（イギリス）（1）	1		東南アジア研究（大陸部）（4）	1
	ヨーロッパ文化（イギリス）（4）	1		東南アジア研究（島嶼部）（1）	1
	ヨーロッパ文化（フランス）（1）	1		東南アジア研究（島嶼部）（3）	1
	ヨーロッパ文化（フランス）（3）	1		東南アジア研究（島嶼部）（4）	1
	ヨーロッパ文化（フランス）（4）	1		東南アジア研究（現代東南アジア特論）（1）	1
	ヨーロッパ文化（ドイツ）（1）	1		東南アジア研究（現代東南アジア特論）（3）	1
	ヨーロッパ文化（ドイツ）（3）	1		東南アジア研究（現代東南アジア特論）（4）	1
	ヨーロッパ文化（ドイツ）（4）	1		日本研究（沖縄研究）（1）	1
	ヨーロッパ文化（スペイン）（1）	1		日本研究（沖縄研究）（3）	1
	ヨーロッパ文化（スペイン）（3）	1		日本研究（沖縄研究）（4）	1
	ヨーロッパ文化（スペイン）（4）	1		日本研究（日本と台湾の近現代関係史）	1

	授業科目	単位		授業科目	単位
地域・展開科目	日本研究（日本と朝鮮半島の近現代関係史）	1	地域・展開科目	現代日本政治経済論(4)	1
	日本研究（少数者の日本近現代史）	1		情報社会論(1)	1
	イスラーム概論	1		情報社会論(3)	1
	イスラーム地域研究入門	1		憲法(1)	1
	イスラーム地域研究特論	1		憲法(3)	1
	アジア交流史(1)	1		憲法(4)	1
	アジア交流史(3)	1		社会調査法入門(1)	1
	アジア交流史(4)	1		社会調査法入門(3)	1
	日本・アジアの文化研究(1)	1		社会調査法入門(4)	1
	日本・アジアの文化研究(3)	1		福祉社会学	1
	日本・アジアの文化研究(4)	1		家族社会学	1
	イギリス史(1)	1		ソーシャル・インクルージョン論	1
	イギリス史(3)	1		国際日本文化論(1)	1
	イギリス史(4)	1		国際日本文化論(3)	1
	イギリス文化概論	3		国際日本文化論(4)	1
	アメリカ文化概論	3		人文地理学(1)	1
	イギリス文学概論（詩・演劇・小説）	3		人文地理学(3)	1
	イギリス文学史	3		人文地理学(4)	1
	アメリカ文学史	3		自然地理学(1)	1
	地域研究特論	1		自然地理学(3)	1
	ラテンアメリカ研究	1		自然地理学(4)	1
	アフリカ研究	1		地誌(1)	1
	教養としての外国語	1		地誌(3)	1
	国際機構特論	2		地誌(4)	1
	国際金融論(1)	1		政治思想史(1)	1
	国際金融論(3)	1		政治思想史(3)	1
	国際金融論(4)	1		政治思想史(4)	1
	国際貿易論(1)	1		Oral English Ⅲ(1)	1
	国際貿易論(3)	1		Oral English Ⅲ(3)	1
	国際貿易論(4)	1		Composition Ⅲ(1)	1
	国際経営論(1)	1		Composition Ⅲ(3)	1
	国際経営論(3)	1		英語学概論	3
	国際経営論(4)	1		英語史	3
	グローバリゼーション論(1)	1		音声学	3
	グローバリゼーション論(3)	1		第二言語習得概論（英語教育）	3
	グローバリゼーション論(4)	1		GrammarⅡ	3
	現代日本政治経済論(1)	1		Intercultural Understanding (Japan and the World)	1
	現代日本政治経済論(3)	1		哲学研究(1)	1

	授　業　科　目	単位
地域・展開科目	哲学研究(3)	1
	哲学研究(4)	1
	宗教学研究(1)	1
	宗教学研究(3)	1
	宗教学研究(4)	1
	法学研究	1
	政治学研究(1)	1
	政治学研究(3)	1
	政治学研究(4)	1
	経済学研究(1)	1
	経済学研究(3)	1
	経済学研究(4)	1
	世界史研究(1)	1
	世界史研究(3)	1
	世界史研究(4)	1
	日本史概論(1)	1
	日本史概論(3)	1
	日本史概論(4)	1
	社会学研究(1)	1
	社会学研究(3)	1
	社会学研究(4)	1
自由科目	世界芸術としての文学・映画・芸能	1
	福祉ボランティア実習	1
	国際協力キャリア入門	1
	英語科指導法Ⅰ	3
	英語科指導法Ⅱ	3
	英語科指導とICT活用	2
	社会科・地理歴史科指導法Ⅰ	2
	社会科・地理歴史科指導法Ⅱ	2
	社会科・公民科指導法Ⅰ	2
	社会科・公民科指導法Ⅱ	2

（6）多文化・国際協力学科

	授業科目	単位		授業科目	単位
必修科目	１年基礎セミナー	3	基幹科目	国際社会学(3)	1
	多文化・国際協力の学び(1)	1		国際社会学(4)	1
	多文化・国際協力の学び(3)	1		文化とジェンダー(1)	1
	多文化・国際協力の学び(4)	1		文化とジェンダー(3)	1
	国際関係概論(1)	1		文化とジェンダー(4)	1
	地域研究概論(3)	1		国際政治論(1)	1
	地域研究概論(4)	1		国際政治論(3)	1
	Extensive Reading I	1		国際政治論(4)	1
	Intensive Reading I a	1		国際機構論(1)	1
	Intensive Reading I b	1		国際機構論(3)	1
	Oral English I	3		国際機構論(4)	1
	Composition I	3		国際法(1)	1
	Pronunciation I	3		国際法(3)	1
	２年セミナー（ラウンドテーブル）	3		国際法(4)	1
	社会調査法(1)	1		国際経済論(1)	1
	社会調査法(3)	1		国際経済論(3)	1
	社会調査法(4)	1		国際経済論(4)	1
	MI Reading Skills Ⅱ	3		開発経済学(1)	1
	MI Oral English Ⅱ	3		開発経済学(3)	1
	MI Composition Ⅱ	3		開発経済学(4)	1
	MI Listening Ⅱ	3		比較政治論(1)	1
	３年セミナー	3		比較政治論(3)	1
	MI Presentation & Academic Writing	3		比較政治論(4)	1
	４年セミナー	3		社会思想史(1)	1
	フィールドワーク報告卒業論文	6		社会思想史(3)	1
第二外国語	第二外国語 Ⅰ	各 3		社会思想史(4)	1
	第二外国語 Ⅱ	各 3		現代文化論(1)	1
	第二外国語 Ⅲ	各 1		現代文化論(3)	1
基幹科目	国際協力論(1)	1		現代文化論(4)	1
	国際協力論(3)	1		言語思想論(1)	1
	国際協力論(4)	1		言語思想論(3)	1
	多文化共生論(1)	1		言語思想論(4)	1
	多文化共生論(3)	1		環境と文化(1)	1
	多文化共生論(4)	1		環境と文化(3)	1
	グローバルヘルス(1)	1		環境と文化(4)	1
	グローバルヘルス(3)	1		日本語教材・教具論	3
	グローバルヘルス(4)	1		日本語学概論	3
	国際社会学(1)	1		日本語文法概論	3

	授業科目	単位		授業科目	単位
基幹科目	第二言語習得論（日本語教育）	2	発展科目	市民社会と健康	1
発展科目	社会調査法特講	1		民俗学	1
	多文化・国際協力の実践(1)	1		医療人類学	1
	多文化・国際協力の実践(3)	1		地域と歴史の中の子ども	1
	多文化・国際協力の実践(4)	1		ジェンダーと健康	1
	Global Southとフィールドワーク（アジア･アフリカ･ラテンアメリカ）a (1)	1		グローバル文学（英語）特殊講義	1
	Global Southとフィールドワーク（アジア･アフリカ･ラテンアメリカ）a (3)	1		Contemporary British Society and Culture a	1
	Global Southとフィールドワーク（アジア･アフリカ･ラテンアメリカ）a (4)	1		Contemporary British Society and Culture b	1
	Global Southとフィールドワーク（アジア･アフリカ･ラテンアメリカ）b (1)	1		グローバルヒストリーのなかのイギリス	1
	Global Southとフィールドワーク（アジア･アフリカ･ラテンアメリカ）b (3)	1		Diaspora Studies	1
	Global Southとフィールドワーク（アジア･アフリカ･ラテンアメリカ）b (4)	1		アメリカ政治(1)	1
	多文化社会とフィールドワーク（1）	1		アメリカ政治(3)	1
	多文化社会とフィールドワーク（3）	1		アメリカ政治(4)	1
	多文化社会とフィールドワーク（4）	1		アメリカ社会(1)	1
	デベロプメント・スタディーズ	1		アメリカ社会(3)	1
	フィールドワークの実践 a	1		アメリカ社会(4)	1
	フィールドワークの実践 b	1		ヨーロッパ社会（イギリス）（1）	1
	フィールドワークの実践 c	1		ヨーロッパ社会（イギリス）（3）	1
	人口研究	1		ヨーロッパ社会（イギリス）（4）	1
	国際移動論	1		ヨーロッパ社会（イギリス史）（1）	1
	マルチリンガリズム	1		ヨーロッパ社会（イギリス史）（3）	1
	言語政策	1		ヨーロッパ文化（イギリス）（1）	1
	言語教育とジェンダー	1		ヨーロッパ文化（イギリス）（4）	1
	マイノリティ論	1		ヨーロッパ文化（フランス）（1）	1
	先住民論	1		ヨーロッパ文化（フランス）（3）	1
	グローバリゼーションと文化	1		ヨーロッパ文化（フランス）（4）	1
	国際ボランティア論	1		ヨーロッパ文化（ドイツ）（1）	1
	国際援助論	1		ヨーロッパ文化（ドイツ）（3）	1
	NPO-NGO論	1		ヨーロッパ文化（ドイツ）（4）	1
	国際交流論	1		ヨーロッパ文化（スペイン）（1）	1
	開発と文化	1		ヨーロッパ文化（スペイン）（3）	1
	貧困問題	1		ヨーロッパ文化（スペイン）（4）	1
	紛争と平和	1		東欧研究(1)	1
	災害と復興	1		東欧研究(3)	1
	環境問題	1		東欧研究(4)	1
	世界の健康科学	1		オーストラリア研究(1)	1
	国際ウェルネス	1		オーストラリア研究(3)	1
	食と環境	1		オーストラリア研究(4)	1

	授　業　科　目	単位
発展科目	東アジア研究（韓国現代史）	1
	東アジア研究（北朝鮮特論）	1
	東アジア研究（朝鮮半島の国際政治）	1
	東アジア研究（中国現代史）	1
	東アジア研究（中国・香港・台湾特論）	1
	東アジア研究（中国の国際政治）	1
	日本研究（日本と台湾の近現代関係史）	1
	日本研究（日本と朝鮮半島の近現代関係史）	1
	日本研究（少数者の日本近現代史）	1
	日本研究（Japanese Society）(1)	1
	日本研究（Japanese Society）(3)	1
	日本研究（Japanese Society）(4)	1
	イスラーム概論	1
	イスラーム地域研究入門	1
	イスラーム地域研究特論	1
	イギリス史(1)	1
	イギリス史(3)	1
	イギリス史(4)	1
	日本語学特殊講義１	2
	日本語教育の学び	1
	対照言語学１	2
	対照言語学２	1
	情報社会論(1)	1
	情報社会論(3)	1
	人文地理学(1)	1
	人文地理学(3)	1
	人文地理学(4)	1
	Oral English Ⅲ(1)	1
	Oral English Ⅲ(3)	1
	Composition Ⅲ(1)	1
	Composition Ⅲ(3)	1
自由科目	フィールドワーク言語	1
	津田塾の植物フィールドワーク	1

（7）数学科

	授業科目	単位		授業科目	単位
必修科目	１年セミナー	1	選択科目	関数解析（演習付）	4
	解析学基礎Ⅰ（演習付）	6		ルベーグ積分（演習付）	3
	線形代数学Ⅰ（演習付）	4		測度論的確率論（演習付）	3
	ベクトル・行列と幾何学（演習付）	2		論理と計算機科学	3
	計算機数学（演習付）	2		最適化入門	1
	プログラミング入門（演習付）	2		コンピュータシミュレーション	3
	Reading Skills Ⅰ	3		計算論	3
	Oral English Ⅰ	3		暗号と情報	3
	Composition Ⅰ	3		情報システム入門	2
	Pronunciation Ⅰ	3		情報通信ネットワーク入門	1
	２年セミナー	3		数式図形画像処理入門	1
	解析学基礎Ⅱ（演習付）	6		データベース入門	1
	線形代数学Ⅱ（演習付）	6		数学特別講義Ａ（1）	1
	Listening and Speaking Ⅱ	3		数学特別講義Ａ（3）	1
	３年セミナー	3		数学特別講義Ａ（4）	1
	４年セミナー	6		数学特別講義Ｂ（1）	1
選択科目	大学数学への窓	1		数学特別講義Ｂ（3）	1
	情報と社会(1)	1		数学特別講義Ｂ（4）	1
	情報と社会(3)	1		数学特別講義Ｃ（1）	1
	社会とデータ活用	1		数学特別講義Ｃ（3）	1
	データサイエンス入門	1		数学特別講義Ｃ（4）	1
	データリテラシー入門	1		数学特別講義Ｄ（1）	1
	代数入門（演習付）	4		数学特別講義Ｄ（3）	1
	位相入門（演習付）	4		数学特別講義Ｄ（4）	1
	確率統計入門(3)	1		数学特別講義Ｅ	1
	確率統計入門(4)	1		数学特論ＸＡ	2
	メディア処理とモデリング入門	1		数学特論ＸＢ	2
	アルゴリズム入門	2		数学特論ＸＣ	2
	数値計算法	2		数学特論ＸＤ	2
	代数学基礎（演習付）	2		数学特論ＸＥ	2
	数値解析入門（演習付）	6		数学特論ＸＦ	2
	集合・写像入門（演習付）	2		数学特論ＸＧ	2
	集合・写像実践	1		数学特論ＸＨ	2
	情報社会と情報倫理	1		数学特論ＸＩ	2
	代数学（演習付）	6		数学特論ＸＪ	2
	幾何学Ａ（演習付）	6		数学特論ＸＫ	2
	幾何学Ｂ	3		数学特論ＸＬ	2
	複素解析学（演習付）	6		数学特論ＸＭ	2

	授　業　科　目	単位
選択科目	数学特論ＸＮ	2
	数学特論ＸＯ	2
自由科目	数学基礎講座Ⅰ	1
	数学基礎講座Ⅱ	1
	数学科指導法Ⅰ	3
	数学科指導法Ⅱ	3
	数学科指導とICT活用	2
	情報科指導法	3
	情報科指導とICT活用	1

（8）情報科学科

	授業科目	単位		授業科目	単位
必修科目	１年セミナー	2	選択必修科目	情報セキュリティ（演習付）	2
	プログラミングⅠ（演習付）(1)	2		ソフトウェア開発法（演習付）	2
	プログラミングⅠ（演習付）(3)	2		情報科学英語 a	1
	プログラミングⅠ（演習付）(4)	2		情報科学英語 b	1
	データサイエンス入門	1		情報科学英語 c	1
	データリテラシー入門	1		情報科学英語 d	1
	情報表現(3)	1		情報科学英語 e	1
	情報表現(4)	1		情報科学英語 f	1
	情報数学基礎（演習付）	2	選択科目	Reading and Listening for Proficiency Tests a	1
	線形代数Ⅰ（演習付）	2		Reading and Listening for Proficiency Tests b(1)	1
	微分積分Ⅰ（演習付）	2		Reading and Listening for Proficiency Tests b(3)	1
	Reading Skills Ⅰ	3		Reading and Listening for Proficiency Tests b(4)	1
	Oral English Ⅰ	3		情報と社会(1)	1
	Composition Ⅰ	3		情報と社会(3)	1
	Pronunciation Ⅰ	3		社会とデータ活用	1
	２年セミナー	1		Webテクノロジー a	1
	２年プロジェクト	2		映像コンテンツ制作	1
	プログラミングⅡ（演習付）(1)	2		コンピュータ概論Ⅰ	1
	プログラミングⅡ（演習付）(3)	2		コンピュータ概論Ⅱ	1
	アルゴリズム a（演習付）	2		インターラクティブシステム	1
	アルゴリズム b（演習付）	2		コンピュータグラフィックス a	1
	微分積分Ⅱ（演習付）	2		コンピュータグラフィックス b	1
	線形代数Ⅱ（演習付）	2		アプリケーションデザイン	1
	確率統計（演習付）	2		センサー入門	1
	CS Reading Skills Ⅱ	3		デジタルメディア概論	1
	CS Speaking and Listening Ⅱ	3		情報社会と情報倫理	1
	CS Composition Ⅱ	3		情報セキュリティ入門	1
	３年セミナー	1		プログラミング言語論	1
	３年プロジェクト	2		知的財産概論	1
	４年セミナー／プロジェクト	5		社会情報システム	1
	卒業論文	4		自然言語処理	1
選択必修科目	アルゴリズム c（演習付）	2		データベース入門	1
	マルチメディア（演習付）	2		コンピュータアーキテクチャ	1
	データサイエンス（演習付）	2		オペレーティングシステム	1
	ネットワークシステム（演習付）	2		センサーネットワーク	1
	システム運用（演習付）	2		数理ファイナンス	1
	人工知能・機械学習（演習付）	2		暗号理論	1
	数理モデル（演習付）	2		情報科学 a	1

	授業科目	単位
選択科目	情報科学 b	1
	情報科学 c	1
	情報科学 d	1
	情報科学 e	1
	情報科学 f	1
	情報科学特論 a	2
	情報科学特論 b	2
	情報科学特論 c	2
	情報科学特論 d	2
	情報科学特論 e	2
	情報科学特論 f	2
	情報科学特論 g	2
	情報科学特論 h	2
	大学数学入門 a	1
	大学数学入門 b	1
	離散数学 a	1
	離散数学 b	1
	離散数学 c	1
	情報数学 a	1
	情報数学 b	1
	情報数学 c	1
	情報数学 d	1
	情報数学 e	1
	情報数学 f	1
	情報数学特論 a	2
	情報数学特論 b	2
	情報数学特論 c	2
	情報数学特論 d	2
	情報数学特論 e	2
	情報数学特論 f	2
	情報数学特論 g	2
	情報数学特論 h	2
	Introduction to Data Literacy in English	1
自由科目	教育メディア a	2
	教育メディア b	2
	教育コンテンツ制作	1
	メディア概論 a	1
	メディア概論 b	1

	授業科目	単位
自由科目	ソーシャルコンテンツ制作	1
	地理情報システム入門	1
	ネット時代の広告とマーケティング論	1
	災害情報学入門	1
	データリテラシー a	1
	ITコンテンツ制作	1
	ネットワーク概論	1
	コンテンツビジネス論	1
	コンテンツ保護とセキュリティ	1
	教育メディアワークショップ	1
	メディアコミュニケーションワークショップ	1
	デジタルエンターテインメントワークショップ	1
	数学科指導法Ⅰ	3
	数学科指導法Ⅱ	3
	数学科指導とICT活用	2
	情報科指導法	3
	情報科指導とICT活用	1

（9）教職に関する科目

	授　業　科　目	単位
教育の基礎的理解に関する科目等	教職概論	2
	特別支援教育論	1
	教育学概論	3
	教育心理学	2
	教育課程論	2
	教育方法の理論と実践	1
	ICT活用の理論と方法	1
	道徳教育の理論と方法	2
	総合的な学習の時間の指導法	1
	特別活動の指導法	1
	生徒指導の理論と方法	1
	教育相談の理論と方法	2
	進路指導の理論と方法	1
	教育実習Ａ	5
	教育実習Ｂ	3
	教職実践演習（中・高）	2
大学が独自に設定する科目	教育学特講(1)	1
	教育学特講(3)	1
	教育学特講(4)	1
	教育メディアａ	2
	教育メディアｂ	2
	初等英語教育研究	3
	比較教育論(1)	1
	比較教育論(3)	1
	比較教育論(4)	1

（10）日本語教員養成課程

	授　業　科　目	単位		授　業　科　目	単位
必修科目	日本語教授法	3	選択科目	心理学(3)	1
	日本語教材・教具論	3		心理学(4)	1
	日本語教育実習	3		教育心理学	2
	日本語学概論	3		社会言語学	3
	日本語文法概論	3		異文化理解とコミュニケーション	3
	第二言語習得論（日本語教育）	2		言語思想論(1)	1
選択科目	多文化社会と言語教育	2		言語思想論(3)	1
	教育学特講(1)	1		言語思想論(4)	1
	教育学特講(3)	1		社会心理学(1)	1
	教育学特講(4)	1		社会心理学(3)	1
	言語教育とジェンダー	1		社会心理学(4)	1
	データサイエンス入門	1		多文化共生論(1)	1
	データリテラシー入門	1		多文化共生論(3)	1
	教育課程論	2		多文化共生論(4)	1
	日本語学特殊講義１	2		国際交流論	1
	日本語教育の学び	1		言語政策	1
	対照言語学１	2		日本研究演習（英語）(1)	1
	対照言語学２	1		日本研究演習（英語）(3)	1
	国語学(1)	1		日本研究演習（英語）(4)	1
	国語学(3)	1		日本史概説(1)	1
	国語学(4)	1		日本史概説(3)	1
	ことばの世界	3		日本史概説(4)	1
	音声学	3		世界史概説(1)	1
	音韻論	2		世界史概説(3)	1
	形態論	2		世界史概説(4)	1
	文法論	3		国際関係概論(1)	1
	意味・語用論	2		国際関係概論(3)	1
	言語とコミュニケーション	3		国際関係概論(4)	1
	Oral Communication	3		文化研究序説	1
	国語表現(1)	1		地域研究序説(1)	1
	国語表現(3)	1		地域研究序説(3)	1
	国語表現(4)	1		比較教育論(1)	1
	第二言語習得概論（英語教育）	3		比較教育論(3)	1
	認知科学と言語教育	3		比較教育論(4)	1
	コミュニケーション概論	3		文化人類学(1)	1
	異文化コミュニケーション理論	3		文化人類学(3)	1
	マルチリンガリズム	1		文化人類学(4)	1
	心理学(1)	1		第三世界の思想と文化(1)	1

	授　業　科　目	単位
選択科目	第三世界の思想と文化(3)	1
	第三世界の思想と文化(4)	1
	国際移動論	1
	国際ボランティア論	1
	情報と社会(1)	1
	情報と社会(3)	1
	社会とデータ活用	1
	情報社会と情報倫理	1

（11）デジタルメディア副専攻

	授　業　科　目	単位
DM必修科目	データサイエンス入門	1
	データリテラシー入門	1
	デジタルメディア概論	1
DMコア科目	教育メディア a	2
	教育メディア b	2
	教育コンテンツ制作	1
	メディア概論 a	1
	メディア概論 b	1
	ソーシャルコンテンツ制作	1
	地理情報システム入門	1
	ネット時代の広告とマーケティング論	1
	災害情報学入門	1
	データリテラシー a	1
	ITコンテンツ制作	1
	ネットワーク概論	1
	コンテンツビジネス論	1
	コンテンツ保護とセキュリティ	1
DMワークショップ科目	教育メディアワークショップ	1
	メディアコミュニケーションワークショップ	1
	デジタルエンターテインメントワークショップ	1
DM関連科目	情報と社会(1)	1
	情報と社会(3)	1
	社会とデータ活用	1
	情報社会と情報倫理	1
	グラフィックデザインリテラシー	1
	社会調査法(1)	1
	社会調査法(3)	1
	社会調査法(4)	1
	社会調査法特講	1

（12）随意科目

	授　業　科　目	単位
	発音クリニック	0
	インデペンデントスタディ	1
	サービスラーニング	1
	１，２年生のための就職基礎講座	1
	キャリア教育支援Ａ 就職力基礎講座	1
	キャリア教育支援Ｂ 就業応用力養成アクティブラーニング	1
	インターンシップ対応 自己分析深掘とES対策講座	1
	ITマネジメント論（資格取得対策科目）	1

（13）実践学修科目

	授　業　科　目	単位
	実践インターンシップ	1～2

（14）データサイエンス・リテラシープログラム

	授　業　科　目	単位
必修科目	データサイエンス入門	1
	データリテラシー入門	1
	社会とデータ活用	1

この定めは、2015年（平成27年）４月１日から施行する。
この定めは、2017年（平成29年）４月１日から施行する。
この定めは、2018年（平成30年）４月１日から施行する。
この定めは、2019年（平成31年）４月１日から施行する。
この定めは、2020年（令和２年）４月１日から施行する。
この定めは、2021年（令和３年）４月１日から施行する。
この定めは、2022年（令和４年）４月１日から施行する。
この定めは、2023年（令和５年）４月１日から施行する。
この定めは、2024年（令和６年）４月１日から改正、施行する。
この定めは、2025年（令和７年）４月１日から改正、施行する。
この定めは、2026年（令和８年）４月１日から改正、施行する。

Ⅲ

履修について

Ⅲ　履修について

この章では、授業や試験など、履修に関する各種制度を掲載しています。掲載内容に変更が生じたり、追加のお知らせが生じた場合は、原則、大学ポータルサイト（以下、TsudaNet）・「津田塾大学 教務課からのお知らせ」ページにて連絡します。

学生個人への連絡は、原則、TsudaNetの「掲示板」への掲載とTsudaNetからのメール配信にて行いますが、各事務局から直接メールによる連絡を行う場合もあります。大学から付与されたメールアドレスについても、適宜受信メールを確認するようにしてください。

履修、その他の質問は、要覧をよく確認した上で「教務課への問い合わせフォーム」または教務課窓口等で行ってください。

TsudaNet

津田塾大学
教務課からのお知らせ

教務課への
問い合わせフォーム

1．授業について

■授業期間

授業期間は第１ターム～第４タームの４期とし、第１、3、４タームは９週、第２タームは2026年度は５週とします。

第１ターム	第２ターム	第３ターム	第４ターム
４月13日～６月20日	６月22日～７月27日	９月４日～11月17日	11月18日～２月２日

授業はタームで完結するもの以外に、複数ターム連続で行われるものもあります。
2026年度に開講される科目の主な開講パターンは以下のとおりです。

開講ターム ／ 本冊子における呼称	第１ターム	第２ターム	夏期休暇	第３ターム	第４ターム
	９週	５週		９週	９週
第１ターム科目	→				
第２ターム科目*1		→			
第３ターム科目				→	
第４ターム科目					→
第１，３，４ターム科目	→			→	→
第１，３ターム科目	→			→	
第３，４ターム科目				→	→

*1　第２タームについて：本学では、第２タームと夏期休暇期間を合わせてギャップタームと称し、この期間を学外学修に充てることを推奨しています。学外学修については、学外学修・キャリアセンターの情報を確認してください。また、第１、3、４タームとは異なり、学内では、主に５週の間に原則９回の授業を行う科目を開講しますので、時間割をよく確認してください。

※上記と異なるパターンの科目もありますので、時間割をよく確認してください。

■授業時間

各週は月曜日より金曜日まで、毎日午前８時50分から午後５時50分までを５時限に分けて授業時間とします。土曜日は通例自習日ですが、特別講義、見学、実験、補講、試験等を行うことがあります。

１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
8：50 ～ 10：20	10：30 ～ 12：00	13：00 ～ 14：30	14：40 ～ 16：10	16：20 ～ 17：50

ただし、第１、3、４タームの最終授業期間については、次の授業時間となります。

１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
8：50 ～ 10：20	10：40 ～ 12：10	13：00 ～ 14：30	14：50 ～ 16：20	16：40 ～ 18：10

■メディアを高度に利用した授業

「メディアを高度に利用した授業」とは、オンライン型、オンデマンド型、そしてそれらと対面授業等を組み合わせたブレンド型という方法で実施される授業です。

「メディアを高度に利用した授業」で修得した単位は、随意科目を除き60単位を上限として卒業に必要な単位に算入できます。

「メディアを高度に利用した授業」の一覧は、「津田塾大学 教務課からのお知らせ」ページに掲載します。

■休講　電話照会には応じません。

教員の公務、学会出席、病気等により授業が休講になる場合には、担当教員から連絡があり次第、TsudaNetでの通知に加え、「津田塾大学 教務課からのお知らせ」ページの「休講情報」に掲示します。

休講の連絡がなく、始業時刻より30分以上経過しても授業が始まらない場合は、教務課に問い合わせて指示を受けてください。

緊急時については、以下に記載したとおりになります。ただし、授業の継続が困難と大学が判断した場合は、授業を中止することがあります。集中講義や定期試験についてもこれらに準じます。

緊急時の休講は大学のホームページおよびTsudaNetで発表します。電話照会には応じません。

【気象警報発表の場合の休講措置について】

各キャンパスの対象地域に、気象庁より以下の警報が発表された場合、休講となります。

状況を確認のうえ、詳細は大学のホームページおよびTsudaNetにてお知らせいたします。

［休講となる気象警報］

すべての特別警報(大雨、土砂災害のカテゴリにおいてはレベル4危険警報以上)、暴風警報、暴風雪警報、大雪警報

［対象となる地域］

小平キャンパス	東京都全域または多摩北部全域または小平市
千駄ヶ谷キャンパス	東京都全域または東京都23区西部全域または渋谷区

なお、他の地域に上記の警報が発表された場合は、通常どおり授業を行いますが、その影響により授業に出席できなかった場合は、ご自身でメールまたは次回の授業時に担当教員へ申し出てください。

発表された警報が解除された場合、その時間帯によって授業の実施は以下のとおりになります。

（小平キャンパス）

イ．午前６時までに解除された場合	通常どおり１時限目から授業を実施
ロ．午前６時現在発令中で、午前10時までに解除された場合	午前中は休講となり、３時限目から授業を開始
ハ．午前10時を過ぎても解除されない場合	午後も休講（１日休講）

※上記気象警報が授業開始後に発令された場合、原則としてその時限の授業は平常どおり実施し、次の時限以降の授業は上記ロ．ハ．に準じます。

（千駄ヶ谷キャンパス）

イ．午前６時までに解除された場合	通常どおり１時限目から授業を実施
ロ．午前６時現在発令中で、午前10時までに解除された場合	午前中は休講となり、３時限目から授業を開始
ハ．午前10時を過ぎても解除されない場合	３・４時限目も休講となり、５時限目から授業を開始
ニ．午後０時を過ぎても解除されない場合	５・６時限目も休講（１日休講）

※上記気象警報が授業開始後に発令された場合、原則としてその時限の授業は平常どおり実施し、次の時限以降の授業は上記ロ．ハ．ニ．に準じます。

※文学研究科英語教育実践研究及び英語教育研究コースにおいては、午後５時を過ぎても解除されない場合、７時限目も休講となります。

＊上記に該当しない場合でも、大学の判断により休講とする場合がありますので、大学のホームページおよびTsudaNetで確認してください。

【地震等災害発生時の休講措置について】

大学の指示に従ってください。

緊急事態発生時の心得

地震が発生した場合

1．あわてて飛び出さず、机の下などで落下物を避ける。
2．非常放送や教職員の指示に従い、落ち着いて避難する。
3．小平キャンパスの一時避難場所はグラウンド、千駄ヶ谷キャンパスの一時避難場所は梅公園とする。建物から外へ出る際は落下物に注意する。

火災が発生した場合
1．火災報知器により周囲に知らせるとともに、守衛所または教職員に状況を通報する。
2．非常放送や教職員の指示に従い、落ち着いて避難する。
3．避難を最優先し、初期消火は安全が確認できる範囲で行う。

【鉄道会社のストライキによる休講措置】

以下に該当する鉄道会社がストライキを行った場合、休講となります。
状況を確認のうえ、詳細は大学のホームページおよびTsudaNetにてお知らせいたします。

小平キャンパス	JR東日本および西武鉄道
千駄ヶ谷キャンパス	JR東日本

ストライキが解除された時間によって、授業開始時間が次のように異なります。
⑴ ストライキ実施当日午前０時までに、ストライキが解除された場合は、平常どおり授業を行います。
⑵ ストライキ実施当日午前６時までに、ストライキが解除された場合は、午後の授業は行います。

なお、他の鉄道会社がストライキを行う場合は、平常どおり授業を行いますが、その影響により授業に出席できなかった場合は、メールまたは次回の授業時に担当教員へ申し出てください。

2．単位制について

単位制とは、授業科目ごとに一定の基準で定められている単位を修得する制度のことです。単位は学則第12条２に定めているとおり、その授業に所定の授業時間出席し、かつ合格の評価を得た者に与えられます。

講義科目と演習科目は、15時間から30時間までの授業をもって１単位が与えられます。健康余暇科学科目の実技については、30時間から45時間までの授業をもって１単位が与えられます。

ただし、授業は、いずれも45時間の学修を標準とする内容で構成されています。つまり、授業のみに参加すればよいというわけではなく、その２倍以上の授業時間外での学習が求められます。例えば、１タームで完結する講義科目の授業時間は合計でおよそ15時間ですが、授業時間外で30時間程度の予習や復習を求める内容を取り扱います。履修登録を行う際は、この点に留意し、過剰な登録とならないよう気をつけてください。

3．履修登録について

大学における学習は、自己の責任において受講したい授業科目を選んで履修計画を立て、卒業に必要な単位を満たしていきます。

■注意事項

履修登録は修学意志の表明です。履修登録を期日までに行わない場合、修学意志がないものとして除籍となります。計画的に履修登録を行ってください。

⑴ 履修する科目は、各学科の履修方法と授業時間割によって決定し、４月の履修登録期間に第１～４タームすべての履修登録を行います。必要に応じて第２ターム、第３タームおよび第４タームの履修登録期間に履修登録の追加を行います。
⑵ 履修するすべての科目は履修登録をしなければ単位を修得することはできません。
⑶ 同一時間に２科目以上を重複して登録することはできません。
⑷ 原則として、一度合格の評価を得た科目を再度履修することはできません。※
⑸ 原則として、同一年度内に同じ科目を複数回履修することはできません。※
⑹ 履修希望者が10人以下の場合は開講を取り止めることがあります。また科目によっては受講者数を制限するものがあります（p.79参照）。
⑺ 登録した授業科目については、登録した開講ターム・曜日・時限・担当者以外のクラスには出席はできません。
⑻ 履修登録期間・履修放棄期間以外は、登録内容の変更が一切認められません。事前にシラバスを読み、講義内容をよく理解したうえで、登録してください。

※例外もありますので、必要に応じて教務課に問い合わせてください。

■履修登録制限

年間で履修登録できる授業科目の単位数には、上限が定められています。
※随意科目・実践インターンシップや認定された科目の単位（語学研修（英語）など）は除きます。
履修登録制限は、みなさんが学修する授業科目を精選することで予習・復習を含む十分な学修時間を確保し、授業内容を深く身に付けることを目的として、１年間の履修登録単位数の上限を定め、各年次を通して計画的な履修ができるよう設けている制度です。
履修登録に際しては、１科目１科目しっかりした学修を行って十分な成績評価を得られるように、それぞれの学修状況や履修計画をもとに、無理のない範囲で履修登録を行ってください。

学　年	単位数
１年生	48単位
２年生	48単位
３年生	48単位
４年生	48単位

【2023年度以前入学者】
※教職課程、英語英文学科特設プログラムの履修者は48単位の履修登録制限を超えて登録することができます。
※日本語教員養成課程：２年生以上かつ日本語教員養成課程の資格申請をし、日本語教員養成課程の必修科目を履修・修得している者は48単位の履修登録制限を超えて登録することができます。
※今年度の卒業を希望する卒業年次生は、学芸学部教務委員会で許可された場合、履修登録制限を超えた履修登録が卒業に必要な最低限の単位数のみ認められることがあります。

【2024年度以降入学者】
※教職課程の資格申請をしている者は、下表の「「教職に関する科目（教育の基礎的理解に関する科目等）」（程度Ⅱ以上）」のみ上限を超えて履修登録が可能です。
※日本語教員養成課程：２年生以上かつ日本語教員養成課程の資格申請をしている者は、下表の「日本語教員養成課程 必修科目」のみ上限を超えて履修登録が可能です。
※英語英文学科特設プログラム履修者は、下表の「英語英文学科翻訳プログラム必修科目」のみ上限を超えて履修登録が可能です。
※２年生以上で前年度までの総合GPAが3.4以上の者は、年間54単位まで履修登録が可能です。
※今年度の卒業を希望する卒業年次生は、学芸学部教務委員会で許可された場合、履修登録制限を超えた履修登録が卒業に必要な最低限の単位数のみ認められることがあります。

【年間履修登録単位数の上限を超えて履修できる科目】

教職課程「教職に関する科目（教育の基礎的理解に関する科目等）」（程度Ⅱ以上）	日本語教員養成課程 必修科目	英語英文学科 翻訳プログラム必修科目
教育課程論 教育方法の理論と実践 ICT活用の理論と方法 道徳教育の理論と方法 総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法 生徒指導の理論と方法 教育相談の理論と方法 進路指導の理論と方法 教育実習（教育実習指導を含む） 教職実践演習（中・高）	日本語教授法 日本語教材・教具論 日本語教育実習 日本語学概論 日本語文法概論 第二言語習得論（日本語教育）	翻訳の世界ａ 翻訳の世界ｂ 翻訳の世界ｃ 翻訳の理論と実践 翻訳入門ａ 翻訳入門ｂ 翻訳入門ｃ

■履修登録

指定された履修登録期間にTsudaNetでの履修登録を行うことによって、正式にその科目が登録されることになります。ただし、クラスを指定された科目および事前抽選科目（予備登録科目）は、最初の授業から出席しなければなりません。

【履修登録日程】

第１～４タームすべての科目について、４月に履修登録を行います。
必要に応じて、第２ターム、第３タームおよび第４タームの履修登録期間に履修登録の追加を行います。
履修登録期間中は、履修放棄もできます。
（詳細はp.93～ 99「６．TsudaNetでの履修登録の方法について」参照）

登録期間	対　　象
４月11日(土) 9：00～４月20日(月) 16：30	すべての科目
６月５日(金) 9：00～６月12日(金) 16：30	第２ターム以降に開始される科目
９月３日(木) 9：00～９月11日(金) 16：30	第３ターム以降に開始される科目
11月17日(火) 9：00～11月25日(水) 16：30	第４ターム開講科目

■期間外登録

履修登録期間に病気その他やむを得ない理由で履修登録ができない場合は、事前に教務課に連絡し、許可された場合のみ、履修登録を延期することができます。

この場合、「登録延期願」（大学所定様式）と理由を証明する書類の提出が必要です。

病気の事由……医師の診断書

その他の事由……保証人からの事由を説明する書類

上記以外の期間外登録は原則として認められません。ただし例外として期間外登録の申請をする者は、教務課に申し出の上、「登録延期願」（大学所定様式）の提出と、期間外登録審査料（１科目につき 500 円）の納入が必要です。

■留学に伴う登録延期

後期から留学し、次年度の５月末日までに帰学し本学での履修を希望する場合に限り、授業科目担当者の許可があれば、遅れて履修登録をすることができます※。ただし、留学開始前に教務課で登録延期の手続きを行っておく必要があります。

※　第１タームで完結する科目は登録できません。

※　第１、３ターム連続で開講される科目は、授業の第７回目までに履修できる場合のみ登録できます。

※　出席重視科目は、授業の進度によって登録できない場合があります。

※　事前抽選科目(予備登録科目)の抽選応募について、４月の応募期間中に申し込むことは可能です。ただし、誤って留学・休学期間中に開講される事前抽選科目(予備登録科目)への申込を行わないよう十分ご留意ください。

※　５月末日までに帰学し登録延期をする場合、科目継続（p.90参照）の資格を失います。

■履修科目の放棄

やむを得ない事情で履修科目を放棄する場合は、指定の期間に手続きを行うことで履修を取り止めることができます。TsudaNetの「履修登録・登録状況照会」の画面で履修放棄の手続を行ってください。

【放棄期間】

	放棄期間	対　　象
第１ターム	５月７日(木) 9：00～５月８日(金) 16：30	第１～第４タームすべての科目
第２ターム	６月29日(月) 9：00～６月30日(火) 16：30	第１タームまでに完結していない科目
第３ターム	９月30日(水) 9：00～10月１日(木) 16：30	第２タームまでに完結していない科目
第４ターム	12月９日(水) 9：00～12月10日(木) 16：30	第３タームまでに完結していない科目

※　必修科目、第３外国語（数学科、情報科学科は第２外国語）の程度Ⅰ・Ⅱ（特別演習は除く）、その他クラス指定科目（p.80～81参照）の放棄は認められません。

※　事前抽選科目（予備登録科目）(p.79参照）は、開講されるタームの前の履修放棄期間までであれば放棄可能です。
例：第２ターム開講の事前抽選科目（予備登録科目）は、第１ターム履修放棄期間までであれば放棄可。
したがって第１ターム開講の事前抽選科目（予備登録科目）は放棄できないので注意してください。

※　４年生は放棄することで、卒業単位、資格単位等が不足しないように注意してください。

※　履修放棄期間後に初回授業が行われる第２ターム開講科目については、別途履修放棄期間を設けます。

■評価が不合格、失格だった科目の再履修

評価が不合格、または失格により単位が修得できなかった場合は、翌年度以降に再度その授業科目を履修し単位を修得することができます。

■聴講について

聴講とは単位の修得を目的としない履修の仕方です。学部学生は、原則として必修科目、人数を制限する科目（p.79参照)、履修制限科目（p.81～83参照）以外の科目を聴講することができます。聴講を希望する場合は、各履修登録期間中に教務課に聴講願を提出してください。

■履修制約科目

履修制約科目とは、一定の条件を満たさないと履修できない科目のことです。2026年度の履修制約科目は下の表のとおりです。

※ →印は左側の科目の単位を修得しないと右側の科目を履修できません。

※ 科目名は入学年度により変更になっているものがあります。

英語英文学科

① Literary Reading Ⅰ→Literary Reading Ⅱ
② Extensive Reading Ⅰ＋Intensive Reading Ⅰa･Ⅰb（３科目中２科目）→Academic Reading Ⅱ
③ Oral English Ⅰ→Oral English Ⅱ　④ Composition Ⅰ→Academic Writing Ⅱ
⑤ Pronunciation Ⅰ→Academic Listening Ⅱ
⑥ Extensive Reading Ⅰ、Intensive Reading Ⅰa･Ⅰb、Oral English Ⅰ、Composition Ⅰ、Pronunciation Ⅰをすべて修得しなければ３・４年セミナー、卒論指導、および卒業研究プロジェクトを履修することはできません。
⑦ 卒論指導を履修する（卒業論文を書く）ためには以下の条件 a、b、c を満たすことが必要です。
　a ３年セミナーを修得済みであること。
　　ただし、留学した学生は、しかるべき理由があれば３年セミナーと卒論指導および卒業論文との同時履修を認める。
　b 原則として２年次終了までにAcademic Writing Ⅱ、Literary Reading Ⅱ、Academic Reading Ⅱの成績がＣ以上であること。
　　ただし、３年セミナー担当教員等の推薦を受けた上、さらに学科会議で承認された学生および特別の事情がある学生については、認めることがある。該当する学生は、３年セミナー担当教員に登録前に相談すること。
　c 卒業論文を同時に履修すること。
⑧ 卒業研究プロジェクトを履修するためには、以下の条件 a、b を満たすことが必要です。
　a ３年セミナーを修得済みであること。
　　ただし、留学した学生など、しかるべき理由があれば３年セミナーと卒業研究プロジェクトおよび卒業研究との同時履修を認める。
　b 卒業研究を同時に履修すること。

国際関係学科

① １年セミナー →原書講読（２年セミナー）→３年セミナー →４年セミナー　p.160参照
② Extensive Reading Ⅰ＋Intensive Reading Ⅰa･Ⅰb（３科目中２科目）→Reading Skills Ⅱ
③ Oral English Ⅰ→Oral English Ⅱ　④ Composition Ⅰ→Composition Ⅱ　⑤ Pronunciation Ⅰ→Listening Ⅱ
⑥ Reading Skills Ⅱ・Oral English Ⅱ・Composition Ⅱ・Listening Ⅱのうち１科目でも修得済みであればEnglish Ⅲを履修することができますが、４科目とも未修得の場合は、English Ⅲを履修することはできません。

多文化・国際協力学科

① １年基礎セミナー →２年セミナー（ラウンドテーブル）→３年セミナー（2023年度以前入学者は３年セミナー(1)･(3)･(4)）→４年セミナー
② １年次のExtensive Reading Ⅰ＋Intensive Reading Ⅰa・Ⅰb・Oral English Ⅰ・Composition Ⅰ・Pronunciation Ⅰの４科目のうち（Extensive Reading ⅠとIntensive Reading Ⅰa･Ⅰbはセットで１科目とカウント）、未修得の科目が３科目以上の場合は、２年次のMI Reading Skills Ⅱ・MI Oral English Ⅱ・MI Composition Ⅱ・MI Listening Ⅱをすべて履修することができません。

数学科

① ３年セミナーを履修するためには、１年次の必修科目のうち、数学科科目の単位をすべて修得していなければなりません。科目については数学科⑵履修方法（p.206、213）を参照
② ４年セミナーを履修するためには、原則として履修年度の前年度に実施される４年次進級試験に合格していなければなりません。さらに、１・２年次の必修科目のうち、数学科科目の単位をすべて修得していなければなりません。科目については数学科⑵履修方法（p.206、213）を参照

情報科学科

① ３年セミナー・３年プロジェクトを履修するためには、１年次の必修専門科目をすべて修得していなければなりません。
② ４年セミナー／プロジェクトと卒業論文を履修するためには、１・２年次の必修専門科目をすべて修得していなければなりません。
③ Reading and Listening for Proficiency Tests a、b⑴、b⑶、b⑷、その他情報科学科が指定する科目のうち１科目および１年次の外国語科目（英語）→情報科学英語 a、b、c
④ １年次の外国語科目（英語）→情報科学英語 d、e、f
⑤ Reading Skills Ⅰ→CS Reading Skills Ⅱ　⑥ Composition Ⅰ→CS Composition Ⅱ
⑦ Oral English Ⅰ＋Pronunciation Ⅰ→CS Speaking and Listening Ⅱ

健康余暇科学科目

動きの教育を未修得の場合は、原則として余暇教育（レク活動とグループワーク）、余暇教育（スポーツと身体スキル）、余暇教育（フィットネスと健康）を履修することはできません。

外国語科目

《英語英文学科、国際関係学科、多文化・国際協力学科適用》

第２外国語の程度Ⅰの文法と演習のどちらか１科目を未修得の場合は、第２外国語の程度Ⅱを履修することができますが、程度Ⅰの文法・演習の両方が未修得の場合は、程度Ⅱを履修することはできません。

日本語の程度Ⅰの２科目中どちらか１科目を未修得の場合は、日本語の程度Ⅱを履修することができますが、程度Ⅰの２科目両方が未修得の場合は、程度Ⅱを履修することはできません。

入学手続の際に選択した第２外国語の変更は、入学年度については一切認められません。次年度以降については所定の手続きにより変更することができます。

《全学科適用》

① 2018年度以前入学者は、第２外国語の程度Ⅰの文法と演習、程度Ⅱの講読と演習のすべてを修得済みでなければ第２外国語の程度Ⅲを履修することはできません。2019年度以降入学者は、第２外国語の程度Ⅰの文法と演習、程度Ⅱの講読と演習４科目のうち程度Ⅰの文法を含む３科目を修得済みでなければ第２外国語の程度Ⅲを履修することはできません。2018年度以前入学者は、日本語の程度Ⅰの２科目、程度Ⅱの２科目のすべてを修得済みでなければ日本語の程度Ⅲを履修することはできません。2019年度以降入学者は、日本語の程度Ⅰの２科目、程度Ⅱの２科目の４科目のうち３科目を修得済みでなければ日本語の程度Ⅲを履修することはできません。

② 上記①の条件を満たした後、程度ⅢとⅣを同時に履修することはできます。ただし、程度Ⅳを履修する場合は、担当教員の許可を必要とします。

同時履修できる程度ⅢとⅣ	程度Ⅲ(講読)(1)(3)(4)と程度Ⅳ 程度Ⅲ(演習)(1)(3)(4)と程度Ⅳ 程度Ⅲ(講読)(1)(3)(4)と程度Ⅲ(演習)(1)(3)(4)と程度Ⅳ
程度Ⅳを履修する場合	程度Ⅲ(講読)の(1)(3)(4)・程度Ⅲ(演習)の(1)(3)(4) のうち、いずれか１単位でも未修得の場合は、担当教員の許可を必要とします。

③ 上記①の条件を満たした後、程度Ⅲを修得せずに程度Ⅳを履修することはできます。ただし、程度Ⅳを履修する場合は、担当教員の許可を必要とします。

程度Ⅳを履修する場合	程度Ⅲ(講読)の(1)(3)(4)・程度Ⅲ(演習)の(1)(3)(4) のうち、いずれか１単位でも未修得の場合は、担当教員の許可を必要とします。

④ 第３外国語の履修制約は特に設けません。ただし、程度Ⅰ、Ⅱを履修せずに、程度Ⅲ、Ⅳを履修する場合は、担当教員の許可を必要とします。

程度Ⅰ、Ⅱを履修せずに程度Ⅲ、Ⅳを履修する	程度Ⅰ(文法)・程度Ⅰ(演習)・程度Ⅱ(講読)・程度Ⅱ(演習)以上４科目のうち、１科目でも履修していない科目がある状態で、程度Ⅲ(講読)(1)(3)(4)・程度Ⅲ(演習)(1)(3)(4)・程度Ⅳのいずれか、または複数を履修する場合のことを指します。該当する場合は、担当教員の許可を必要とします。

⑤ フランス語の程度Ⅲ・Ⅳは、(1)(3)(4)を連続して履修した場合のみ単位修得を可とします。

教職課程

① 教科指導とICT活用を履修するためには、教科指導法を修得済みであるか、履修中であることが必要です。

② 教育実習Ａ・Ｂを履修するためには、2018年度以前入学者はp.248、2019年度以降入学者はp.272の条件を満たしている必要があります。

日本語教員養成課程

① 2023年度以降入学者は、日本語教授法を履修するためには、日本語文法概論、日本語教材・教具論、第二言語習得論（日本語教育）のうち、いずれか１科目の単位を修得していなければなりません。

② 2024年度以前入学者：日本語教授法 → 日本語教育実習
2025年度以降入学者：日本語教材・教具論、第二言語習得論(日本語教育)、日本語文法概論、日本語学概論、日本語教授法→日本語教育実習

Teachers of Excellence

The Practice of Teaching Oral Englishを履修するためには、原則として英語科指導法Ⅰ・英語科指導法Ⅱを修得済み、または履修中であることが必要です。

その他

Introduction to Data Literacy in English を履修するためには、ＡとＢの条件を両方満たしていることが必要です。
＜Ａ：前提条件科目＞
以下の科目のうちいずれか１科目を修得済みであること。
データサイエンス入門、データリテラシー入門、データ・サイエンス入門
(2024 年度までの情報処理Ⅰa、情報処理Ⅰb、情報処理、コンピュータリテラシー a、コンピュータリテラシー b)
＜Ｂ：英語条件＞
外部英語試験の基準を満たしていること。

■事前抽選科目（予備登録科目）

事前抽選科目（予備登録科目）は、受講者数の定員を決めて行われる授業科目です。事前に申込みを行い、抽選の結果によって履修が確定します。募集方法は以下のA、B、C、Dの４つのタイプに分かれます。

全タームの科目について４月に抽選・選考を行います（Aタイプ、余暇教育を除く）。応募手順については、TsudaNet＞リンク＞マニュアル（学生用）よりご確認ください。（マニュアルを参照する際は、大学のアカウントにログインする必要があります。参照できない場合は、一度Googleにて全てのアカウントからログアウトの上、大学のアカウントに再度ログインしてください。）

※　科目により、履修できる学科に制限がありますので注意してください。

※　定員に満たない場合、追加募集を行います。日程は年間スケジュール（履修要覧p.10～11）を確認してください。

【募集期間・結果発表】

募集期間	４月２日(木) ８：30～４月５日(日) 23：59
結果発表	４月８日(水) 12：00

※　Aタイプは第一回目の授業時に申込みを行うため、第一回目の授業に出席し、担当教員の指示に従ってください。

※　B・C・Dタイプの抽選結果発表は、TsudaNetで行います。

【対象科目】

［Aタイプ］ 以下の科目は第一回目の授業時にクラスで申込みを行います。

科　目　名
Reading and Listening for Proficiency Tests a

［Bタイプ］ 以下の科目は授業開始前に抽選を行います。

※教職概論は学籍番号が奇数の学生は第１、３ターム履修、偶数の学生は第３、４ターム履修になりますので注意してください。

科　目　名	科　目　名	科　目　名	科　目　名
Composition Ⅲ (1)・(3)	Creative Drama	Debate	English Ⅲ (Practice)
English Ⅲ (Brisitsh History) (1)・(3)・(4)	English Ⅲ (Brisitsh Society) (1)・(3)・(4)	Film Reviewing	Intensive Listening Ⅰ
Introduction to Data Literacy in English	Intoroduction to IELTS	Introduction to Statistics in English	Introduction to TOEFL
Journalistic English	Journeys in English	Oral Communication	Oral English Fluency Development
Oral English Ⅲ (1)・(3)	Public Speaking	インターラクティブシステム	イギリス史 (1)・(3)・(4)
イギリス社会 (1)・(3)・(4)	韓国･朝鮮語(特別演習)	教育メディアワークショップ	教職概論
くらしと芸術	グラフィックデザインリテラシー	国語表現(1)・(3)・(4)	国際関係概論 (1)・(3)・(4)
システム運用(演習付)	社会調査法(1)	生成AI時代のアカデミック･スキルズ	センサー入門
多文化社会と言語教育	中国語(特別演習)	地理情報システム入門	通訳実践
津田塾の植物フィールドワーク	データリテラシー入門	デジタルエンターテインメントワークショップ	日本語ボランティア入門
日本語ライティング(1)・(3)・(4)	フィールドワークの実践 a･b･c	文章講座 a(翻訳)	文章講座 b(Creative Writing)
文章講座 c(ジャーナリズム)	ボキャブラリー演習	メディアコミュニケーションワークショップ	ヨーロッパ社会(イギリス)(1)・(3)・(4)

［Cタイプ］ 以下の科目はクラスごとの人数の偏りを防ぐため、応募の際に希望順位をつけて申込み、抽選を行います。

科　目　名	科　目　名	科　目　名	科　目　名
英語科指導法Ⅰ	英語科指導法Ⅱ	英語科指導とICT活用	音声学
日本語教授法	日本語教育実習		

［Dタイプ］ 以下の健康余暇科学科目は授業開始前に抽選を行います。

科　目　名	科　目　名	科　目　名
余暇教育(レク活動とグループワーク)	余暇教育(スポーツと身体スキル)	余暇教育(フィットネスと健康)
ウェルネス研究(人間関係論)	ウェルネス研究(野外教育)	ウェルネス研究(カウンセリングの基礎)

■第三外国語（英語英文学科・国際関係学科・多文化・国際協力学科）、第二外国語（数学科・情報科学科・総合政策学部）履修手続き

英語英文学科・国際関係学科・多文化・国際協力学科の学生で、第二外国語として修得済み、または履修中のものの他に、さらに外国語科目（程度Ⅰ・Ⅱ）の履修を希望する場合は、受付期間（４／３(金)～４／６(月)）に所定の方法で申し込んでください。数学科・情報科学科・総合政策学部生で、英語以外の外国語科目（程度Ⅰ・Ⅱ）の履修を希望する場合も同様です。クラスの人数に余裕のある場合に限り、募集を行います。担当教員との直接交渉は無効です。程度Ⅲ・Ⅳは、ご自身で履修登録期間中にTsudaNetにて履修登録を行ってください。

■クラス指定科目

クラス指定科目とは、事前に受講クラスが指定されている科目です。原則、クラスの変更はできません。また別のクラスに間違って出席していても、単位は修得できません。出席するクラスに間違いがないか必ず確認してください。クラス指定科目のうち、卒業要件に関わる科目の成績評価が不合格または失格であった場合、または留学・休学等で該当年次に履修しなかった場合は、再履修となり、次年度にクラスが指定されます。
※再履修が多く、曜日・時限が重複した場合、次年度にクラス指定科目を全て履修できない場合があります。
※以下に記載されていないセミナー科目については、各学科からの案内に従ってください。

【対象科目】

英語英文学科	国際関係学科	多文化・国際協力学科
１年次科目		
基礎セミナー 英語英文学科での学び Literary Reading Ⅰ Extensive Reading Ⅰ Intensive Reading Ⅰa/Ⅰb Oral English Ⅰ Composition Ⅰ Pronunciation Ⅰ 第二外国語　程度Ⅰ(文法/演習) 動きの教育	１年セミナー Extensive Reading Ⅰ Intensive Reading Ⅰa/Ⅰb Oral English Ⅰ Composition Ⅰ Pronunciation Ⅰ 国際関係概論(1)/(3)/(4) 地域研究序説(1)/(3) 文化研究序説 第二外国語　程度Ⅰ(文法/演習) 動きの教育	１年基礎セミナー 多文化・国際協力の学び(1)/(3)/(4) 国際関係概論(1) 地域研究概論(3)/(4) Extensive Reading Ⅰ Intensive Reading Ⅰa/Ⅰb Oral English Ⅰ Composition Ⅰ Pronunciation Ⅰ 第二外国語　程度Ⅰ(文法/演習) 動きの教育
２年次科目		
Literary Reading Ⅱ Academic Reading Ⅱ Academic Writing Ⅱ Academic Listening Ⅱ Oral English Ⅱ Grammar Ⅱ 第二外国語　程度Ⅱ(講読/演習) 健康教育	Reading Skills Ⅱ Oral English Ⅱ Composition Ⅱ Listening Ⅱ 第二外国語　程度Ⅱ(講読/演習) 健康教育	社会調査法(1)/(3)/(4) MI Reading Skills Ⅱ MI Oral English Ⅱ MI Composition Ⅱ MI Listening Ⅱ 第二外国語　程度Ⅱ(講読/演習) 健康教育
３年次科目		
Academic Writing & Presentation Ⅲ		MI Presentation & Academic Writing

数　学　科	情報科学科
１年次科目	
１年セミナー 解析学基礎Ⅰ(演習付) ベクトル・行列と幾何学(演習付) 線形代数学Ⅰ(演習付) 計算機数学(演習付) プログラミング入門(演習付) Reading Skills Ⅰ Oral English Ⅰ Composition Ⅰ Pronunciation Ⅰ 動きの教育	１年セミナー プログラミングⅠ(演習付)(1)/(3)/(4) データサイエンス入門 データリテラシー入門 情報表現(3)/(4) 情報数学基礎(演習付) 微分積分Ⅰ(演習付) 線形代数Ⅰ(演習付) Reading Skills Ⅰ Oral English Ⅰ Composition Ⅰ Pronunciation Ⅰ 動きの教育
２年次科目	
解析学基礎Ⅱ(演習付) 線形代数学Ⅱ(演習付) Listening and Speaking Ⅱ 健康教育	プログラミングⅡ(演習付)(1)/(3) アルゴリズム a/b(演習付) 微分積分Ⅱ(演習付) 線形代数Ⅱ(演習付) 確率統計(演習付) CS Reading Skills Ⅱ CS Speaking and Listening Ⅱ CS Composition Ⅱ 健康教育

※その他	
データサイエンス入門（英語英文・国際・多文化 対象）	必修科目ではありませんが、１年次はクラスが指定されます。 ※再履修を希望する場合は、「事前登録変更願」を教務課に提出してください。
翻訳入門ａ、翻訳入門ｂ、翻訳入門ｃ、翻訳の理論と実践、翻訳の世界ｂ、翻訳の世界ｃ	選考を経た英語英文学科の学生のみ対象
The Practice of Teaching Oral English	選考を経た英語英文学科の学生のみ対象
教育実習指導、教育実習Ａ、教育実習Ｂ、教職実践演習	教職課程の履修者のみ対象

■履修制限科目

科目には他学科学生等に履修の制限がかかっているものもあります。制限のある科目は以下の表のとおりです。

※略称について

英語英文＝英語英文学科、国際＝国際関係学科、多文化＝多文化･国際協力学科、数学＝数学科、情報＝情報科学科

（１）以下の科目は、所属学科の学生のみに履修が認められます。

開講部局	科　目　名　称	その他条件
英語英文学科	基礎セミナー、３年セミナー(英語英文学科)、４年セミナー(英語英文学科)、 卒論指導、卒業論文(英語英文学科)、卒業研究プロジェクト、卒業研究、 Academic Writing & PresentationⅢ、英語英文学科での学び、Literary ReadingⅠ、 Literary ReadingⅡ、Academic ListeningⅡ、Academic ReadingⅡ、 Academic WritingⅡ、GrammarⅡ(英)、Oral EnglishⅡ(英)、 文章講座ｂ(Creative Writing)、Journalistic English、Film Reviewing、 Public Speaking、Japan Studies in English（Project)、通訳実践	
	翻訳入門ａ、翻訳入門ｂ、翻訳入門ｃ、翻訳の理論と実践、翻訳の世界ｂ、翻訳の世界ｃ	選考を経た学生のみ
	The Practice of Teaching Oral English	選考を経た学生のみ
国際関係学科	１年セミナー(国際関係学科)、原書講読(２年セミナー)、３年セミナー(国際関係学科)、 ４年セミナー(国際関係学科)、Reading SkillsⅡ、Oral EnglishⅡ、CompositionⅡ、 ListeningⅡ、EnglishⅢ(Practice)、福祉ボランティア実習、卒業論文(国際関係学科)、 Intercultural Understanding（Japan and the World)	
多文化・国際協力学科	１年基礎セミナー、２年セミナー(ラウンドテーブル)、 ３年セミナー(多文化・国際協力学科)、４年セミナー(多文化・国際協力学科)、 フィールドワーク報告卒業論文、MI Reading SkillsⅡ、MI Oral EnglishⅡ、 MI CompositionⅡ、MI ListeningⅡ、MI Presentation and Academic Writing、 フィールドワークの実践ａ、フィールドワークの実践ｂ、フィールドワークの実践ｃ	
数学科	１年セミナー(数学科)、２年セミナー(数学科)、３年セミナー(数学科)、 ４年セミナー(数学科)、Listening and SpeakingⅡ	
	数学基礎講座Ⅱ	学科から指定された学生のみ
情報科学科	１年セミナー(情報科学科)、２年セミナー(情報科学科)、２年プロジェクト、 ３年セミナー(情報科学科)、３年プロジェクト、４年セミナー／プロジェクト、 卒業論文(情報科学科)、システム運用(演習付)、 CS Reading SkillsⅡ、CS Speaking and ListeningⅡ、CS CompositionⅡ、 Reading and Listening for Proficiency Tests ｂ(1)、 Reading and Listening for Proficiency Tests ｂ(3)、 Reading and Listening for Proficiency Tests ｂ(4)	
	情報科学英語ｄ、情報科学英語ｅ、情報科学英語ｆ	学科から指定された学生のみ

（２）以下の科目は、履修できる所属学科等に制限があります。他学科のクラス指定科目の履修が認められた場合、履修放棄できません。

開講部局	科　目　名　称	履修が認められる所属学科・その他条件
外国語科目	Oral EnglishⅢ	数学、情報
	Grammar Ⅱ(国・多)	国際、多文化
	日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、 日本語Ⅰ(特別演習)(読解・作文)、 日本語Ⅰ(特別演習)(聴解・会話)、 日本語Ⅱ(特別演習)(上級読解)、 日本語Ⅱ(特別演習)(上級作文)	外国人留学生のための科目 (交換学生はp.126参照)

英語英文学科	音声学、Oral Communication	英語英文、国際
国際関係学科	CompositionⅢ(1)、CompositionⅢ(3)	国際、多文化
	社会調査法入門(1)、社会調査法入門(3)、社会調査法入門(4)	英語英文、国際、数学、情報
数学科	情報通信ネットワーク入門、数式図形画像処理入門、 情報システム入門、コンピュータシミュレーション、 大学数学への窓	数学 ＊英語英文、国際、多文化、情報の学生は、事前に教務課に相談のこと
	計算機数学(演習付)、プログラミング入門(演習付)、 メディア処理とモデリング入門、アルゴリズム入門、暗号と情報	数学 ＊英語英文、国際、多文化の学生は、事前に教務課に相談のこと
	ベクトル・行列と幾何学(演習付)、 集合・写像入門(演習付)、集合・写像実践、 線形代数学Ⅰ(演習付)、線形代数学Ⅱ(演習付)、 確率統計入門(3)、確率統計入門(4)、 解析学基礎Ⅰ(演習付)、解析学基礎Ⅱ(演習付)	英語英文、国際、多文化、数学
情報科学科	プログラミングⅠ(演習付)(1)、プログラミングⅠ(演習付)(3)、 プログラミングⅠ(演習付)(4)、アプリケーションデザイン、 マルチメディア(演習付)、ネットワークシステム(演習付)、 数理モデル(演習付)、アルゴリズムａ(演習付)、 アルゴリズムｂ(演習付)、アルゴリズムｃ(演習付)、 データサイエンス(演習付)、人工知能・機械学習(演習付)、 情報セキュリティ(演習付)	情報 ＊英語英文、国際、多文化、数学の学生は、事前に教務課に相談のこと
	情報数学基礎(演習付)、暗号理論、微分積分Ⅰ(演習付)、 線形代数Ⅰ(演習付)、大学数学入門ａ、大学数学入門ｂ、 微分積分Ⅱ(演習付)、線形代数Ⅱ(演習付)、 確率統計(演習付)、情報数学ａ、情報数学ｂ、情報数学ｃ、 情報数学ｄ、情報数学ｅ、情報数学ｆ、 プログラミングⅡ(演習付)(1)、プログラミングⅡ(演習付)(3)、 センサーネットワーク、ソフトウェア開発法(演習付)	情報 ＊英語英文、国際、多文化の学生は、事前に教務課に相談のこと
	コンピュータグラフィックスａ、 コンピュータグラフィックスｂ、コンピュータアーキテクチャ	情報
	情報科学英語ａ、情報科学英語ｂ、情報科学英語ｃ	TOEIC600点以上の学生のみ

（３）以下の教職課程の科目は、教職課程履修者のみ履修可能です。

科　目　名　称
教育実習指導、教育実習Ａ、教育実習Ｂ、教職実践演習、教育基礎論※、教育組織論※、特別活動の研究※、教育方法論※※

※2018年度以前入学者のみ
※※2021年度以前入学者のみ

（４）以下の教職課程の科目は、履修できる所属学科に制限があります。

科　目　名　称	履修が認められる所属学科
英語科指導法Ⅰ・Ⅱ、英語科指導とICT活用	英語英文学科、国際関係学科
社会科・地理歴史科指導法Ⅰ・Ⅱ、社会科・公民科指導法Ⅰ・Ⅱ	国際関係学科
数学科指導法Ⅰ・Ⅱ、数学科指導とICT活用 情報科指導法、情報科指導とICT活用	数学科、情報科学科

（５）以下の教職課程の科目は、2019年度以降入学者（2019年度以降編入生を含む）のみ履修可能です。

科　目　名　称
特別支援教育論、教育学概論、特別活動の指導法、総合的な学習の時間の指導法

（６）以下の教職課程の科目は、2022年度以降入学者（2022年度以降編入生を含む）のみ履修可能です。

科　目　名　称
教育方法の理論と実践、ICT活用の理論と方法

（7）以下の科目は交換留学生以外の学生は履修できません。

開講部局	科　目　名　称
共通科目	日本研究入門(2)、日本研究演習(1)～(4)
外国語科目	交換留学生のための日本語　Ⅰ(読解・作文)(1)～(4)、交換留学生のための日本語　Ⅰ(聴解・会話)(1)～(4) 交換留学生のための日本語　Ⅱ(上級読解)(1)～(4)、交換留学生のための日本語　Ⅱ(上級作文)(1)～(4) 日本語指導　Aa(1)～(4)、日本語指導　Ab(1)～(4)、日本語指導　Ba(1)～(4)、日本語指導　Bb(1)～(4)、 日本語指導　C(1)・(2)・(3)・(4)

■履修可能な総合政策学部科目

学芸学部の学生が履修できる総合政策学部の科目は、以下の表のとおりです。

学芸学部学生が履修可能な総合政策学部科目一覧（2026）					
科　目　名	注	科　目　名	注	科　目　名	注
アプリケーション開発		ジェンダーと社会変動		長期的価値創造の経営	
イノベーションと社会		事業戦略とイノベーション		知的財産法	
医療・介護の経済分析		時事問題特論		デザイン思考による地域創生学	
インターネット概論	①	実証政治理論		データで読み解く世界	
Web情報システム論		質的調査法		データ政策科学	
映像コミュニケーションデザイン		市民社会における安全保障		データ分析実践	
科学技術と文明		社会階層論		統治システム論	
家族社会学		社会学概論		日本語ライティングA	①
環境政策論		社会実践の諸相		日本語ライティングB	①
企業の社会的責任		社会調査入門		日本語ライティングC	①
キャリア入門A	①	少子高齢化の進展と社会保障の持続可能性		日本政治史	
キャリア入門B		情報セキュリティ論		日本の財政・金融	
キャリア入門C		情報通信技術と社会		能力開発論	
行政学		情報通信政策		パーソナルファイナンス論	
共生社会と法		女性のキャリア開発		人の国際移動と社会の多文化化	
クリティカル・シンキング		スマートコミュニティ論		福祉政策論	
グローバリゼーション論		政策過程論		ブランディング実践	①※
グローバル・ポリティクス論		政治参加		プログラミング実践	
経営情報システム		政治制度論		プロジェクト・マネジメント	
経済活動のための法		政治とは何か	②	プロパガンダとアドボカシー	
経済人類学		世界の開発と貧困問題		文化交流論	
経済政策論		世界の宗教と社会		分配のポリティクス	
経済の仕組み	②	総合政策概論A	②	平和構築	
健康医療情報システム		総合政策概論B	②	貿易政策論	
現代社会論		ソーシャル・インクルージョン論		法からみた社会	②
公共政策論		ソーシャル・デザイン論		法制度設計	
公共哲学		ソーシャル・ヘルス・マネジメント		法と公共政策	
行動経済分析		ダイバーシティ社会論		簿記入門	
国際標準化論		多国籍企業論		マーケティング戦略	
子どもの貧困と教育格差		多変量解析と公的統計		メディア産業論	
コミュニティスタディ	①	地域ケア論		歴史入門	
雇用経済論		地域政策論		International Training Course A	
				International Training Course B	①

注①　事前抽選科目(予備登録科目)。総合政策学部の学生で抽選ののち、定員に空きがある場合のみ応募可能。
　※　「ブランディング実践」は両学部同時での事前抽選科目（予備登録科目）
注②　TsudaNetでの履修登録はできません。「履修修正願」の提出が必要です。

4．学習の評価について

（1）評価基準

学習は、担当教員の評価基準によって試験、平常点、レポート等で評価されます。

	合　　格					不合格	失　格	認　定
評　　価	A	B	C	D	P	F	X	N
評　　点	100～90	89～80	79～70	69～60	合　格	59～0	―	―
評価内容	特に優れた成績を表します。	優れた成績を表します。	妥当と認められる成績を表します。	合格と認められる最低限の成績を表します。	合格と認められる成績を表します。	合格と認められる最低限の成績に達していないことを表します。	欠席超過、試験欠席等のため、評価ができないことを表します。	編入学や留学などにより他大学等で修得した科目を本学の単位として認定したことを表します。
Grade Point	4.0	3.0	2.0	1.0	対象外	0.0	0.0	対象外
成績通知書	A	B	C	D	P	F	X	N
成績証明書	A	B	C	D	P	表示されない	表示されない	＊

単位認定された科目は評価にＮが付きます（証明書は＊で表示されます）。

単位が付与される時期およびGPA確定は各学期末（９月末・３月末）です。

■失格について

次のいずれかに該当する場合、評価は失格となります。

⑴　成績評価を行うために担当教員が定めた要件を、試験の不受験、レポート等の課題の未提出、出席不足などにより満たさない場合。

⑵　出席重視科目において、授業時間の３分の１より多く欠席した場合。

⑶　平常点の科目において、授業時間の３分の１より多く欠席した場合、もしくは要求された課題で提出しないものがあった場合（平常点については、「（２）平常点」を参照）。

⑷　試験、レポートもしくは卒業論文において不正行為があったと認められた場合。

■評価保留「Ｉ」について

提出物が不足していたり、提出物や発表内容が合格点に達せず追加課題を出されその提出や発表がまだ行われていない等の場合には、成績評価ができないため、評価保留「Ｉ」となります。

保留の理由が不明な場合は、必要に応じ担当教員または教務課へ確認してください（注意：確認・質問期間は成績公開日から１週間です）。

必要な対応がなされない場合、成績評価は「不合格」または「失格」となります。評価は原則として第１・第２タームに完結する科目の場合は９月末日、第３・第４タームに完結する科目の場合には３月初旬までに確定します。

（2）平常点

平常点の科目では評価を受けるにあたり次の条件を満たす必要があります。

イ．授業時間数の３分の２以上に出席している。

ロ．要求された課題等をすべて提出している。

＊　平常点で評価される科目についてはシラバス等の評価方法を参照のこと。

（3）授業の欠席について

学校保健安全法に定められた疾病による欠席と、裁判員候補者として裁判所へ出頭する場合以外は、公欠として取り扱われません。授業を欠席する場合は、担当教員に申し出てください。教務課への連絡は不要です。期末試験の欠席はこれと取り扱いが異なりますので、「■追試験」（p.88）を参照してください。

■新型コロナウイルス感染症またはインフルエンザによる欠席

ウェルネス・センターに感染した旨を連絡してください。療養期間中は「健康観察表」* で体調を記録してください。出席停止期間が明けたら、1週間以内に次の書類を教務課に提出してください。必要な手続きを行った場合、欠席扱いとはなりません。

※出席停止期間後1週間を超えた場合は、手続きができない場合があります（連続した振替休業日や冬期休暇など、事務局の長期休業期間を除く）。

※1週間以内に手続きができない場合は、事前に教務課へ連絡してください。

（提出書類）

1．医療機関の「診療明細書」または「領収書」

2．出席停止期間の体調を記録した「健康観察表」*

■学校保健安全法に定められた疾病（新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ以外）による欠席

ウェルネス・センターに感染した旨を連絡してください。ほかの人にうつさない、登校しても支障がないことが診察医によって確認されたら、「登校許可証明書」* の作成を診察医に依頼し、1週間以内に教務課に提出してください。必要な手続きを行った場合、欠席扱いとはなりません。

※出席停止期間後1週間を超えた場合は、手続きができない場合があります（連続した振替休業日や冬期休暇など、事務局の長期休業期間を除く）。

※1週間以内に手続きができない場合は、事前に教務課へ連絡してください。

*「健康観察表」と「登校許可証明書」は、下記 QR コードより書式をダウンロードしてください。

■裁判員候補者としての裁判所出頭による欠席

裁判所へ出頭するために授業に出席できない場合、あるいは試験を受験できない場合は、その間の取り扱いについて、「選任手続期日のお知らせ（呼出状）」を持参し、教務課で手続きを行うことで、特別に配慮します。対象となる方は、法律により学生であることを理由に、裁判員の辞退を申し出ることができます。

■入院・病気等による2週間を超える欠席

医師の診断書（入院・療養期間の記載のあるもの）を添えて教務課に申し出てください。教務課にて担当教員への欠席連絡を代行します。ただし、この場合も公欠としては取り扱われません。

（4）出席重視科目

2026年度の出席重視科目は下記のとおりです。授業時間の３分の２以上出席しなければ、受験資格を失います。履修放棄せず３分の２以上出席がなければ単位修得できない、という要件であり、出席さえしていれば単位修得が確約されるということではありません。なお、ここに掲げる以外の科目でも、出席が重視されることがあります。

共通科目	国語表現(1)・(3)・(4)、日本史概説(1)・(3)・(4)
外国語科目	Extensive Reading Ⅰ、Intensive Reading Ⅰa、Intensive Reading Ⅰb、Oral English Ⅰ*、Composition Ⅰ*、 Pronunciation Ⅰ*、Intensive Listening Ⅰ*、Reading Skills Ⅰ*、Grammar Ⅱ*、Oral English Ⅲ、 Introduction to TOEFL、Introduction to IELTS、Oral English Fluency Development、Journeys in English、 第二外国語程度Ⅰ*・Ⅱ*、第二外国語程度Ⅲ・Ⅳ(フランス語履修者はⅢ*・Ⅳ*)、フランス語(特別演習)、ドイツ語(特別演習)、 ロシア語(特別演習)、中国語(特別演習)、スペイン語(特別演習)、韓国・朝鮮語(特別演習)、 日本語Ⅰ(特別演習)(読解・作文)、日本語Ⅰ(特別演習)(聴解・会話)、日本語Ⅱ(特別演習)(上級読解)、 日本語Ⅱ(特別演習)(上級作文) 交換留学生のための日本語Ⅰ(読解・作文)(1)・(2)・(3)・(4)、 交換留学生のための日本語Ⅰ(聴解・会話)(1)・(2)・(3)・(4)、 交換留学生のための日本語Ⅱ(上級読解)(1)・(2)・(3)・(4)、交換留学生のための日本語Ⅱ(上級作文)(1)・(2)・(3)・(4)、 日本語指導Aa(1)・(2)・(3)・(4)、日本語指導Ab(1)・(2)・(3)・(4)、日本語指導Ba(1)・(2)・(3)・(4)、 日本語指導Bb(1)・(2)・(3)・(4)、日本語指導C(1)・(2)・(3)・(4)
健康余暇科学科目	動きの教育、健康教育、 余暇教育(レク活動とグループワーク)、余暇教育(スポーツと身体スキル)、余暇教育(フィットネスと健康)、 ウェルネス研究(スポーツ心理学)、ウェルネス研究(人間関係論)、ウェルネス研究(野外教育)、 ウェルネス研究(世界の身体文化表現論)、ウェルネス研究(カウンセリングの基礎)、ウェルネス研究(健康心理学)、 ウェルネス研究(武道身体文化論)、ウェルネス研究(スポーツ・ジェンダー論)、ウェルネス研究(女性の健康とキャリア)
英語英文学科	基礎セミナー、３年セミナー、４年セミナー、卒論指導、卒業研究プロジェクト、 英語英文学科での学び、 Literary Reading Ⅰ*、Literary Reading Ⅱ*、Academic Reading Ⅱ*、Academic Writing Ⅱ*、 Oral English Ⅱ*、Academic Listening Ⅱ*、Grammar Ⅱ*、Academic Writing & Presentation Ⅲ、 Journalistic English、Film Reviewing、Public Speaking、 翻訳入門ａ、翻訳入門ｂ、翻訳入門ｃ、翻訳の理論と実践*、翻訳の世界ａ、翻訳の世界ｂ、翻訳の世界ｃ
国際関係学科	１年セミナー、原書講読(２年セミナー)、３年セミナー、４年セミナー、 Reading Skills Ⅱ*、Oral English Ⅱ*、Composition Ⅱ*、Listening Ⅱ*、 English Ⅲ(Practice)*、Oral English Ⅲ(1)・(3)、Composition Ⅲ(1)・(3)、English Ⅲ(Australian Studies)(1)・(3)・(4)、 オーストラリア研究(1)・(3)・(4)、日本研究(Japanese Society)(1)・(3)・(4)、 国際機構特論、現代文化論(1)・(3)・(4)、日本史概論(1)・(3)・(4)
多文化・国際協力学科	１年基礎セミナー、２年セミナー(ラウンドテーブル)、３年セミナー、４年セミナー、 MI Reading Skills Ⅱ*、MI Oral English Ⅱ*、MI Composition Ⅱ*、MI Listening Ⅱ*、 MI Presentation & Academic Writing*、社会調査法(1)・(3)・(4)、社会調査法特講、フィールドワークの実践ａ、 フィールドワークの実践ｂ、フィールドワークの実践ｃ
数学科	１年セミナー、２年セミナー、３年セミナー、４年セミナー、 Listening and Speaking Ⅱ*
情報科学科	１年セミナー、２年セミナー、２年プロジェクト、３年セミナー、３年プロジェクト、４年セミナー／プロジェクト、 CS Reading Skills Ⅱ*、CS Speaking and Listening Ⅱ*、CS Composition Ⅱ*、 Reading and Listening for Proficiency Tests a、Reading and Listening for Proficiency Tests b(1)・(3)・(4)、 情報科学英語ａ、情報科学英語ｂ、情報科学英語ｃ、情報科学英語ｄ、情報科学英語ｅ、情報科学英語ｆ
教職課程	教職概論、特別支援教育論、教育学概論、教育基礎論、教育組織論、教育心理学、教育課程論、教育方法の理論と実践、 ICT活用の理論と方法、教育方法論、英語科指導法Ⅰ*、英語科指導法Ⅱ*、英語科指導とICT活用*、 社会科・地理歴史科指導法Ⅰ*、社会科・地理歴史科指導法Ⅱ*、社会科・公民科指導法Ⅰ、社会科・公民科指導法Ⅱ*、 数学科指導法Ⅰ*、数学科指導法Ⅱ*、数学科指導とICT活用*、情報科指導法*、情報科指導とICT活用、 道徳教育の理論と方法、総合的な学習の時間の指導法、特別活動の指導法、特別活動の研究、生徒指導の理論と方法、 教育相談の理論と方法、進路指導の理論と方法、教育実習指導(欠席３回で失格)、教職実践演習、 教育学特講(1)・(3)・(4)

＊複数ターム連続で開講される科目ですが、タームごとに３分の２以上の出席が必要となります。
• 科目によっては個別の要件がありますので、シラバスもよく確認してください。

（5）GPAについて

GPAは、Grade Point Averageの略で、大学で修得した単位の成績評価の平均（１単位あたりのポイント）を表すものです。成績通知書・成績証明書に記載されます。

GPAは下表に従い計算し、それに各単位数を掛けて足した合計点を総単位数で割ってスコア化します。

算出方法：

$$\frac{4\times\text{Aの修得単位数}+3\times\text{Bの修得単位数}+2\times\text{Cの修得単位数}+1\times\text{Dの修得単位数}}{\text{総履修登録単位数（F「不合格」とX「失格」の単位数を含む）}}$$

	合格					不合格	失格
評価	A	B	C	D	P・N	F	X
ポイント	4	3	2	1	対象外	0	0

・放棄した科目は履修しなかったものとみなし、カウントされません。
・評価がP（合格のみの科目）とN（認定された科目）は対象外となり、カウントされません。

＊学年末の成績評価の結果、年間GPAが1.0に満たない場合には、セミナー担当者等が面談を行い、学習方法の改善等のアドバイスを行います。

（6）進級基準

２年次までの修得総単位数が32単位に満たない者は、３年次に進級できません。学年は２年生に留まるので、程度Ⅲ以上の科目は履修できません。

＊随意科目（p.294参照）は進級基準の修得総単位数には含まれません。
＊上記の進級基準を満たさず、かつ年間GPAが1.0に満たない学生には、面談を行い、学習方法の改善や進路変更（退学勧告を含む）等のアドバイスを行います。

（7）試　　験

■期末試験

第１、３、４タームの最終授業期間は、試験の実施に対応した時間割と教室配置になります。試験については授業内で教員が指示します。時間割・教室についてはTsudaNet等で告知します。

【受験資格】
イ．履修科目の登録をしている。
ロ．授業料、その他の諸料金を納入している。
ハ．出席重視科目（p.86参照）については、授業時間数の３分の２以上出席している。

【試験時間割・試験期間の授業時間】
試験時間割は、TsudaNet等で告知します。試験会場は平常授業の教室と異なる場合がありますので注意してください。また、第１、３、４ターム最終授業期間の授業時間は下表のとおり平常時と異なります。試験時間や試験会場を間違えて受験できなかった場合、追試験は受けられません。

１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
８：50～10：20	10：40～12：10	13：00～14：30	14：50～16：20	16：40～18：10

※　第２ターム最終週については平常時と同じ授業時間となります。

【受験上の注意】
イ．受験に際しては、必ず学生証を携行すること。
ロ．答案用紙には必ず学籍番号・氏名を記入すること。
ハ．答案は鉛筆またはボールペンで書くこと（別途指示がある場合を除く）。
ニ．筆記用具以外の所持品は自席に置かないこと（参照物として許可されたものを除く）。
ホ．携帯電話、スマートフォン、計算機能付き時計、スマートウォッチ等ウェアラブル端末は、試験実施時の時計として利用することはできない。
ヘ．「自筆ノート参照可」の場合、ノートのコピーは自筆ノートとは認めない。
ト．答案はたとえ無回答でも、学籍番号・氏名を記入し退室の際に提出すること。
チ．試験監督者は、原則として試験問題について説明せず、また質問にも応じない。
リ．入室は試験時間の２分の１までとする。退室は試験開始後、試験時間の２分の１を過ぎてからとする。

■不正行為〔学則第54条・学生懲戒規程・試験における不正行為および懲戒に関する規程〕

試験で不正行為ありと認められた場合、その科目は失格となり不正行為者は学則に従って訓告、停学または退学に処され、学内に告示されます。

なお、卒業論文およびレポート等すべての考査方法において、不正行為（盗用等）ありと認められた場合は、上記に準じます。

＜剽窃（盗用）について＞
他人の文章(全部もしくは一部)を勝手に使用し、引用元を明らかにせず自分の文章として使うことを「剽窃」と言います。引用を行う場合も、引用元を明らかにするだけではなく、本文と引用部分を明確に区別する、必要最低限の長さにとどめるなどのルールがあります。字句通りの引用だけではなく、他人の考え・意見・収集したデータ・分析・結論などを出典注なしで言い換えて使った場合も、剽窃とみなされます。剽窃は、他人の物を盗むのと同じように悪いことです。他人の物を盗んだ場合に、謝ったり、盗品を返したりするだけですまないのと同じで、知的財産の盗用も、謝罪、書き直しですむ問題ではありません。「履修要覧」にあるとおり、卒業論文やレポートに関して、不正行為（剽窃等）ありと認められた場合、定期試験における不正行為と同様の処罰が下されます。十分注意をしてください。

■生成AIの利用について

生成AIの利用は社会の中でますます重要になっていくことを考えると、一律に禁止するものではありませんが、その利用については担当教員の指示に従って適切に活用してください。指示された範囲を超えて生成AIを利用すること、または適切な引用や出所の明示をせずに自分が作成したものとして提出することは、剽窃等の不正行為にあたります。

＜注意事項＞
・個人情報や機密情報を生成AIに入力しないこと。
・正確性については自身で信頼できる情報源から確認すること。
・著作権侵害等の不正行為に該当する可能性があるため、生成AIから出力された文章や画像をそのまま使用しないこと。

■追試験〔学則第36条〕

病気またはやむを得ぬ事情で試験当日に受験できない場合は、願い出により、教授会の議を経て学長が許可した者に限り追試験を受けることができます。

欠　席　理　由	証　明　書　類
病気	医師の診断書またはこれに代わる証明書
忌引（２親等以内の親族の死亡）	死亡に関する公的証明書
交通機関の事故	遅延証明等交通機関の証明書
不慮の事故（交通事故等）・災害（火災等）	理由書または証明書
教育実習および介護等体験	教職課程委員長の発行する所定の文書
公務員試験、教員採用試験	受験証明書
裁判員制度に基づき裁判員候補者として裁判所へ出頭する場合及び裁判員として職務に従事する場合	裁判所発行の証明書
教務委員会で許可された研修	審議願、参加許可証
その他特別な事情*により正当な理由と認める場合	理由書または証明書

＊就職活動における面接の場合、企業・機関が発行する証明書（社印等の押印があり、面接の場所・日時が明記されているもの）を提出する必要があります。

【追試験受験の手続き】

届け出　所定の期間内に教務課に届け出る。
↓　※　この時点で追試験料（１科目2,000円）の支払義務が発生します。
追試験願提出　定められた期日までに、追試験料を証明書自動発行機で納入し、追試験願（所定用紙）と欠席理由の証明書等を教務課に提出。（手続きが期日までに完了しなければ受験できません。）
↓
追試験受験　試験時間割発表は追試験開始１週間前（電話照会には応じません）。
追試験手続きについても同時期に「津田塾大学 教務課からのお知らせ」ページにて連絡します。

【実施時期】

第１・第２タームに行われた期末試験の追試験	８月31日(月)～
第３・第４タームに行われた期末試験の追試験	３月１日(月)～ ただし４年生は２月18日(木)～

【成績評価】追試験の成績評価は、期末試験とは別の評価基準で行われます。

■再試験〔学則第37条〕

卒業年次に履修した科目が不合格（評価Ｆ）である場合、次のいずれかに該当する科目のみ、願い出により、学科および教授会の議を経て学長が許可した場合に限り、各科目１回にかぎり再試験（レポートや卒業論文に対する再審査を含む）を受験することができます。なお、評価が失格（評価Ｘ）である場合は、その科目の再試験を受験することはできません。

⑴　卒業に必要な科目
⑵　教育職員免許状の取得に必要な科目
⑶　日本語教員養成課程の修了に必要な科目で同課程の必修科目であるもの
※　再試験については、学科により内規があります。詳細は、教務課に確認してください。

【再試験受験の手続き】

再試験を受けようとする者は、定められた期日までに再試験料を証明書自動発行機で納入し、所定の再試験願を記入して教務課に提出しなければなりません。再試験料１科目2,000円。

【実施時期】

科目の開講期によらず、卒業確定者発表日の翌日から開始します。

【成績評価】

再試験の成績評価はＤ、またはＦとします。

【再試験対象外科目】

学外での実習をもとに成績評価を行う以下の科目は再試験対象外科目となります。

学芸学部：「語学研修（英語）」、「実践インターンシップ」、「教育実習Ａ」、「教育実習Ｂ」

（８）レポート

レポートは、担当教員の指示に従い、指定の期日までに指定の方法で提出してください。教務課へ提出する場合もあります。いずれの場合も、インターネットなどからの明らかな剽窃は不正行為として、学則第54条に基づき処分されますので注意してください。

教務課提出ではないレポートの期日や提出方法等の情報は教務課では把握していませんので、直接担当教員に確認してください。また、それらのレポート提出を教務課で代行することはありません。

■教務課提出レポート

教務課提出レポートが課されている科目、及び提出締切日等はTsudaNet等にてお知らせします。受付は締切日の15：00までです。締切後に提出されたレポートは、いかなる理由であっても受理しません。

【レポートの追審査】

長期の病気等で所定の日時までに提出できない場合に限り、追試験と同様の手続きをし、教授会の議を経て学長が許可した場合に限り、追審査を受けることができます。成績評価は追試験の場合に準じます。追審査料１科目2,000円。

（９）卒業論文等の提出

卒業論文（フィールドワーク報告卒業論文・卒業研究を含む）は各学科・コースの規定の様式に従って作成し、学芸学部事務室に提出してください。期限後の提出は受け付けません。

ただし、病気等の理由で指定の日時までに提出できない場合は追審査を願い出ることができます（追審査願提出先：学芸学部事務室（各学科））。また、審査の結果が不合格の場合は、再試験と同様の手続をし、学科および教授会の審議を経て学長が許可した場合に限り、再審査を受けることができます（再審査願提出先：教務課）。追・再審査料2,000円。

成績評価は再試験の場合に準じます。

(10) 再履修

必修科目の成績評価が不合格または失格の場合は、翌年度にその科目を再履修しなければなりません。

なお、卒業年次生で、不合格または失格となった科目が次のいずれかに該当し、それ以降のタームにも当該科目が開講される場合、所定の期間内（８月５日～８月12日）に教務課に申し出てください。

⑴　卒業に必要な科目
⑵　教育職員免許状の取得に必要な科目
⑶　日本語教員養成課程の修了に必要な科目で同課程の必修科目であるもの

(11) 科目継続

留学・学外学修等の事由により、複数タームにまたがって開講される科目の履修を当年度の途中のターム末で中断し、翌年度の途中から履修を再開することを科目継続といいます。科目継続は、学芸学部開講科目のみが対象です。

(1) 科目継続の条件

・履修中断期間に本学での履修が一切ないこと。

・翌年度に該当科目を初めから履修できないこと。

科目継続について

主な科目継続パターン

対象科目の開講ターム	当年度		翌年度	
第1、3、4ターム 連続開講科目	第1タームを履修	履修中断期間	第3、4タームを履修	
第1、3ターム連続開講科目	第1タームを履修	履修中断期間	第3タームを履修	

＊履修中断期間に前期相当期間（第1、2ターム）または後期相当期間（第3、4ターム）が含まれる場合、学籍異動手続きが必要となります。詳細は「学籍について（p.106～109）」を参照してください。

＊履修中断期間を任意に変更することはできません。他の開講ターム科目や他の履修中断期間については教務課に問い合わせてください。

※科目継続を希望する場合は、担当教員にも連絡してください。

※計画よりも早く留学・学外学修等を終え、その結果翌年度に該当科目を初めから履修できる場合か、留学に伴う登録延期（p.76）を行った場合、科目継続の資格を失います。

※1年間の留学・休学をした後、続けて留学や休学を申請する場合、科目継続の資格を失います。

(2) 留学・休学前の手続き

所定のフォームに必要事項を入力後、提出してください。フォームのURLは、科目継続の申請を希望されている旨をご連絡いただいた方にのみ、別途TsudaNetでご連絡します。申請の期日は以下のとおりです。

・第1タームの履修を終え、履修を中断する場合　8月上旬

(3) 帰学・復学後の手続き

科目継続再開及びクラス指定科目登録確認期間中（8月5日～8月12日）に、TsudaNetで前年度科目継続許可となった科目が正しく履修登録されているかを確認してください。

不備等があった場合は、所定のフォームから申請してください。

フォームのURLは、前年度に科目継続を申請された方を対象にTsudaNetからご連絡します。

学籍上は帰学・復学は10月1日からとなりますが、授業は第3ターム初回から出席してください。

Attention!

＊科目継続は、帰国後の継続履修を確約するものではありません。
例えば、帰国後に継続した科目が開講されていなかった、必修科目と継続した科目の時限が重複してしまった等の場合は、渡航前に科目継続の手続きをしていても継続することができません。

＊科目継続申請対象科目については、申請フォームの案内をご確認ください。

(12) 単位認定

認定単位総数の上限は学則第14条、第15条、第27条が規定する「留学に関する細則」に定める単位を合計して30単位です。

■留学先等で修得した単位の認定〔学則第27条が規定する「留学に関する細則」〕

本学入学後に、留学先で修得した単位は、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることがあります。（p.107 Ⅳ学籍について　7．留学）

※留学先で修得した単位は、セミナーや英語英文学科特設プログラムの一部科目、日本語教員養成課程の必修科目の単位に認定することはできません。

※留学先で修得した単位は、教員免許状取得に必要な科目（教育の基礎的理解に関する科目等・教科及び教科の指導法に関する科目）としては認められません。

■他の大学・短期大学で修得した単位の認定〔学則第14条〕

学長が教育上有益と認めるときは、他の大学または短期大学の授業科目を履修することを認めることがあり、修得

した単位を本学で履修し、修得したものとみなすことがあります。
　これを希望する場合は、事前に指導教員からの指導を受け、教務課へ「他大学科目履修許可願」を提出する必要があります。

■他の短期大学・高等専門学校での学修の認定〔学則第15条〕
　学長が教育上有益と認めるときは、短期大学または高等専門学校の専門科における学修、その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることがあります。

■単位互換制度〔学則第14条〕
- 一橋大学との単位互換制度
- 多摩アカデミックコンソーシアム（TAC）単位互換制度：国際基督教大学、国立音楽大学、東京経済大学、武蔵野美術大学、東京外国語大学
- 沖縄大学との単位互換制度
- 電気通信大学との単位互換制度
- お茶の水女子大学との単位互換制度

　これら制度を利用し、他大学の科目の履修を希望する学生は、それぞれの実施要項に定められた所定の手続きを行います。受講料は無料です。この制度により修得した単位は、卒業に必要な単位として認定されます。ただし、所属学科により上限単位数が定められています*ので注意が必要です。分類は原則として、語学研修プログラムの表に準じます。
　実施要項は、「津田塾大学 教務課からのお知らせ」ページの「単位互換」に掲示しますので注意していてください。
　休学中は単位が認定できませんので注意してください。
　＊　単位互換科目の認定単位数の上限：英語英文学科、多文化・国際協力学科　12単位
　　国際関係学科、数学科、情報科学科　30単位

(13) 既修得単位の認定について
　他大学、短期大学、および高等専門学校を卒業または中途退学し、新たに本学に編入学または第１年次に入学した場合、前校での既修得単位の認定を願い出ることができます。本学の修得単位に相当すると認められた場合は卒業に必要な単位として認定されます。
　高大連携科目等履修制度により修得した単位については本学に入学した後、本人の願い出により、教授会の議を経て、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができます（ただし一部例外科目もあります）。
　編入学、転入学等の場合を除き、学則第15条の２に定める認定単位総数の上限は30単位です。

■第１年次に入学した場合〔学則第15条の２〕
　教育上有益と認められた場合で、30単位を上限として認定されます。

■教免科目の単位認定〔学則第15条の２〕
　教育職員免許状取得に必要な科目の単位認定については、出身校の別（大学、短期大学、高等専門学校）や、出身校の教職認定課程の有無によって異なりますので、教務課で十分に相談してください。

■編入学の場合〔学則第30条〕
　認定される単位数に上限はありません。すべての科目について認定を願い出ることができます。

(14) その他の単位認定
■語学研修プログラムの単位認定
　夏期休暇期間および春期休暇期間を利用して、海外の大学で英語を学ぶ本学主催の語学研修プログラムは、単位認定が可能です。
　語学研修プログラムの単位認定については、次のとおりです。

科目名：語学研修（英語） 単位数：２単位　※この単位は履修登録制限（p.75）の対象外です。 分　類：自由科目 評　価：Ｐ（合格）あるいはＦ（不合格）

　詳細はシラバスや国際センターのホームページを確認してください。

※社会情勢等により、プログラムの催行を中止する場合があります。あらかじめご了承ください。

■インターンシップ・インデペンデントスタディ・サービスラーニング

詳細は随意科目のページ（p.294）、および、学外学修・キャリアセンターの情報を確認してください。

■実践インターンシップ

詳細は実践学修科目のページ（p.296）、および、学外学修・キャリアセンターの情報を確認してください。

5．卒業の要件について

⑴　本学を卒業するためには４年の修業年限を満たし（編入者を除く）所定の単位を修得しなければなりません。（随意科目（p.294）は、卒業要件において必要な単位として算入されません。）
　卒業に必要な単位の修得期間は８年を限度とします。ただし、休学期間を除きます。
⑵　各学科の所定の単位を修得した者には学士の学位が授与されます。
⑶　卒業に必要な最低の単位数は、所属学科およびコースの教育課程のページを参照してください。

6．TsudaNetでの履修登録の方法について

４月の履修登録期間に、年間すべての科目について履修登録を行います。
履修登録はTsudaNetにて行い、必要に応じて「履修修正願」を教務課へ提出します。
履修登録の日程は以下のとおりです。

日程（TsudaNetでの履修登録）	備　　考
４月11日（土）9：00～４月20日（月）16：30	「履修修正願」の提出締切 ４月20日（月）16：30

※　履修登録されていない場合、休講情報などがTsudaNetから配信されませんので、登録は早めに行ってください。
※　履修登録期間の初日と最終日はアクセスが集中し、動作が重くなることがあります。
※　手順の詳細については、TsudaNet＞リンク＞マニュアル（学生用）より確認できます。
　（マニュアルを参照する際は、大学のアカウントにログインする必要があります。参照できない場合は、一度Googleにて全てのアカウントからログアウトの上、大学のアカウントに再度ログインしてください。）

■履修登録の手順

津田塾大学
教務課からのお知らせ

1．履修科目の決定

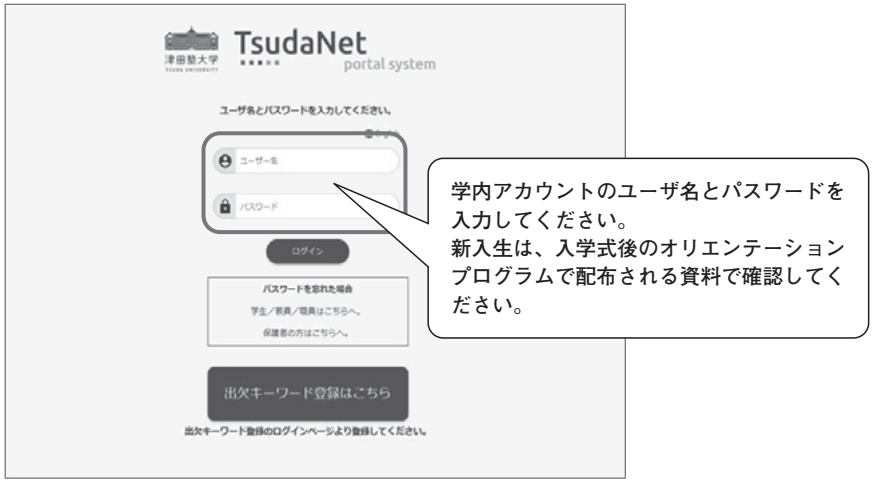
履修要覧、シラバス、時間割等を参照し、履修する科目を決定します。
時間割は、「津田塾大学 教務課からのお知らせ」ページを参照してください。

シラバスへは、津田塾大学公式サイトよりアクセスしてください。
（「学部・大学院」⇒「シラバス・履修要覧」）

2．TsudaNetへログイン

右記QRコードよりTsudaNetにアクセスし、ログインします。

TsudaNetログイン



3．履修登録・登録状況照会画面へ遷移

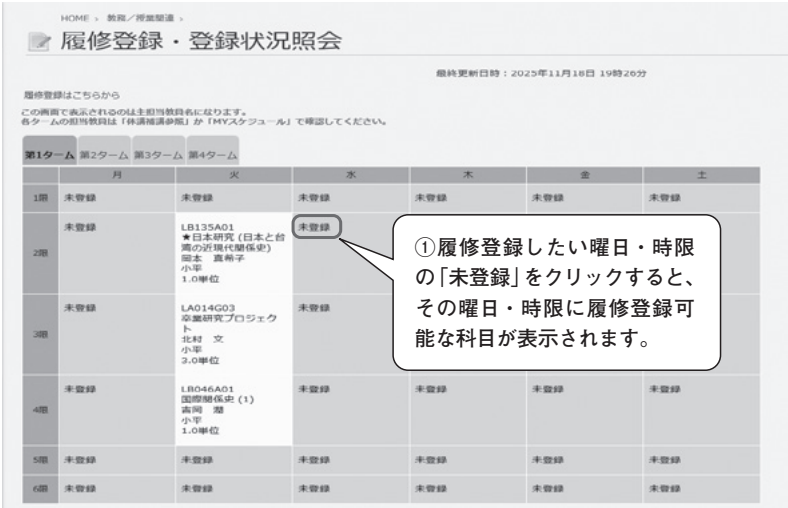
教務／授業関連⇒履修⇒履修登録・登録状況照会をクリックします。

※各タームではじめて「履修登録・登録状況照会」画面を開いた際は、登録住所等の確認・変更を行う必要があります。

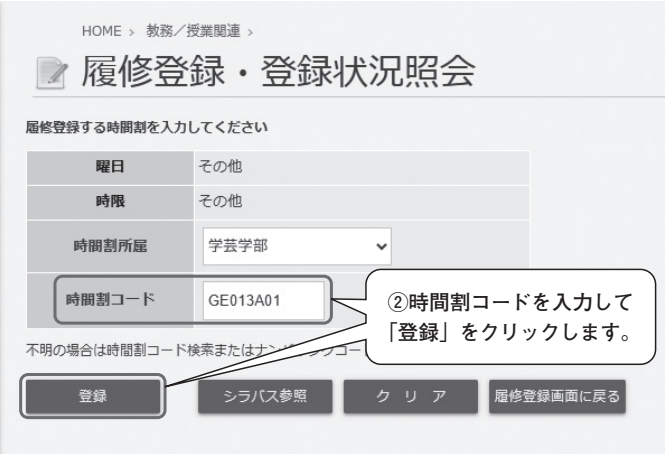
4．履修登録および確認

履修登録には主に２つの方法があります。

〔空いている曜日・時限から登録する方法〕



〔コードを指定して登録する方法〕

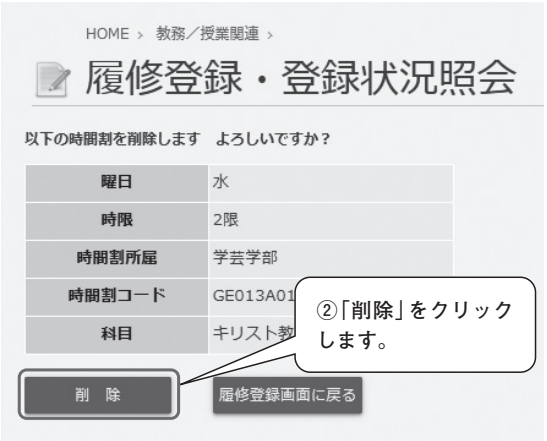


時間割コードは、TsudaNet画面上の「時間割コード検索」または、「津田塾大学 教務課からのお知らせ」ページの時間割資料で確認してください。

以上の登録作業が終わったら、「履修登録・登録状況照会」ですべての科目が正しく登録できているか（科目名だけでなく教員名も）確認してください。

操作を終了するときは必ずログアウトしてください。
砂時計が０分になると自動的にログアウトされます。それまでの作業内容は保存されないのでご注意ください。
※　履修登録期間中であれば、登録内容を何度でも修正できます。

〔履修放棄の手順〕



以上の放棄作業が終わったら、「履修登録・登録状況照会」で放棄した科目が表示されていないことを確認してください。

操作を終了するときは必ずログアウトしてください。

砂時計が０分になると自動的にログアウトされます。それまでの作業内容は保存されないのでご注意ください。

５．履修エラーがある場合

教務課から履修エラーを解消するよう連絡がある場合は、速やかに対応してください。

※　**教務課からの督促に応じずエラーを解消しない場合、履修登録が全て削除されます。**

６．「履修修正願」の提出（該当者のみ）

以下のように、TsudaNet上での登録ができなかった場合、教務課に「履修修正願」を提出してください。

- 科目の配当年次の程度を超えて履修することを許可された場合
  （編入生や認定試験合格者などで特別に許可された場合など）
- 第三外国語の程度Ⅰ・Ⅱを履修せず、程度Ⅲ・Ⅳの履修を許可された場合
- サブセミナーの履修を許可された場合
- その他、登録できるはずの科目が画面上に表示されない場合等

※ 「履修修正願」も、履修登録期限までに提出する必要がありますので注意してください。

■注意事項

事由によらず、登録されていない科目の授業に出席し、試験を受けたとしても、単位修得はできませんので注意してください。
「登録したつもりだったができていなかった」という場合も、履修登録期間後に修正はできません。

登録内容については、TsudaNetの「履修登録・登録状況照会」で入念に確認してください。

- 事前に登録されているクラス指定科目は変更できません。
- 開講されるタームの前の履修放棄期間に放棄しなかった事前抽選科目（予備登録科目）も変更できません。
- 聴講する科目はTsudaNet上で履修登録せず、「聴講願」を提出してください。自身でTsudaNet上での履修登録をした場合、通常の履修登録科目として扱われます。

7.「卒業単位修得シミュレーション（自己判定）」機能について

TsudaNet の「卒業単位修得シミュレーション（自己判定）」では、卒業要件単位の履修・修得状況を確認することができます。「卒業単位修得シミュレーション（自己判定）」の使い方については、TsudaNet ＞リンク＞マニュアル（学生用）よりご確認ください。なお、英語英文学科、国際関係学科、多文化･国際協力学科の場合は、TsudaNet にてコースを登録することで、「卒業単位修得シミュレーション（自己判定）」を使用できます。

8．コースの登録について（英語英文学科、国際関係学科、多文化・国際協力学科のみ）

TsudaNet ＞学生生活＞学生カルテ＞学籍情報にて、TsudaNet にて登録しているコースを確認できます。コースが未登録で、コース登録を希望する場合は、コース・資格変更届（下記 QR コード）より申請してください。

コースの登録については、下記もご確認ください。

- 英語英文学科１、２年生：希望する専攻・コースを選択してください。
- 英語英文学科３年生以上：所属する専攻・セミナーに連動する専攻・コースを第１ターム履修登録期間までに教務課にて登録します。
- 国際関係学科:希望するコースを選択してください。本格的なコースの登録は３年次ですが、１、２年次でもコースの登録は可能です。また、選択したコースの変更は最終学年まで可能です。
- 多文化・国際協力学科１年生：希望するコースを選択してください。
- 多文化・国際協力学科２年生以上：所属するセミナーに連動するコースを第１ターム履修登録期間までに教務課にて登録します。

【注意点】
- 所属する専攻・コースによって卒業に必要な単位が変わりますのでご注意ください。
- 英語英文学科､多文化･国際協力学科において､１年次または１､２年次に TsudaNet 上で登録した専攻･コースは､「卒業単位修得シミュレーション（自己判定）」機能を利用するために便宜的に登録しているものであり、所属学科での専攻・コース専攻の際に考慮されることはありません。

- 英語英文学科、多文化・国際協力学科の専攻やコースの正式な希望登録は、コース・資格変更届からは行えません。専攻やコースの正式な希望登録は、TsudaNet 上での登録と別に、定められた期間に所定の手続きを行う必要があります。

7．履修および授業等に関するＱ＆Ａ

毎年、４月に以下のような質問が学生の皆さんから多く出ています。この時期、教務課の窓口は混雑しますので質問する前に該当する質問・回答がないか確認してください。

よくある質問

教務課への
問い合わせフォーム

【履修・授業】

Q　選択科目を卒業に必要な単位数を超えて修得した場合、余剰分は自由科目として算入されますか？

A　余剰分は自由科目に算入されます。例えば、英語英文学科 2019 年度以降入学者のカリキュラムでは、共通科目 15 単位の修得が卒業に必要ですが、18 単位修得した場合は、余剰分の 3 単位が自由科目に算入されます。また、TsudaNet の「卒業単位修得シミュレーション（自己判定）」にて、履修・修得した選択科目の余剰分は自由科目の単位として自動的に計算されます。ただし、選択科目において卒業に必要な単位数および要件を満たした場合に限ります。

Q　４年生です。今年度卒業するために必要な単位に不足がないか確認してもらえますか？

A　ご自身で TsudaNet の「卒業単位修得シミュレーション（自己判定）」から確認してください。「卒業単位修得シミュレーション（自己判定）」の使い方については、TsudaNet ＞リンク＞マニュアル（学生用）よりご確認ください。なお、卒業するための要件については、履修要覧 p.93 および各学科の標準カリキュラム表を必ず確認してください。

Q　「卒業単位修得シミュレーション（自己判定）」で自由科目の判定結果が「合格」となっていますが、表示されている単位数の合計が合いません。

A　修得している科目の内訳によっては、自由科目の単位計算は一部特殊になります。詳細については、TsudaNet ＞リンク＞マニュアル（学生用）よりご確認ください。なお、卒業するための要件については、履修要覧 p.93 および各学科の標準カリキュラム表を必ず確認してください。

Q　４月に 48 単位分の科目を履修登録しました。第 1 タームに 2 単位不合格となったので、それ以降のタームに 2 単位分の科目を追加で登録できますか？

A　できません。不合格（F）や失格（X）は、「履修登録した科目」の結果なので、登録単位数が変わるわけではありません。ただし卒業年次生に関しては、履修要覧 p.89 もご確認の上、必要に応じて教務課にお問い合わせください。

Q　余暇教育の履修方法を教えてください。

A　余暇教育は事前抽選科目（予備登録科目）（抽選で履修者が決まる科目）です。履修するためには事前抽選科目（予備登録科目）募集期間にて応募する必要があります。応募方法については、時期が近くなりましたら教務課よりお知らせします。なお、応募に際して、以下についてもご留意ください。

- 余暇教育は各タームに1科目しか履修できません。
- 余暇教育 （レク活動とグループワーク）、余暇教育 （スポーツと身体スキル）、余暇教育 （フィットネスと健康）はそれぞれ1科目（0.5単位）ずつしか履修できません。
- 動きの教育が未修得の場合、余暇教育は履修できません。
- 応募した曜日時限にクラス指定科目や他の事前抽選科目（予備登録科目）が履修登録されている場合は落選となります。

※抽選は上級生が優先して当選となります。

Q　セミナーの同時履修をしたいです。

A　所属学科の学芸学部事務室にお問い合わせください。なお、履修制約（p.77～78）もご確認ください。
英語英文学科 eiji@tsuda.ac.jp、国際関係学科 kokuji@tsuda.ac.jp、多文化・国際協力学科 tabunka-jimu@tsuda.ac.jp、数学科 suuji@tsuda.ac.jp、情報科学科 suuji@tsuda.ac.jp

---

Q　同じ授業で科目名が異なる科目があります（例:「宗教学（1）」と「宗教学研究（1）」）。既に修得した「宗教学（1）」を「宗教学研究（1）」にしたいです。

A　「津田塾大学 教務課からのお知らせ」ページに掲載されております、「科目移行届」より申請してください。変更可能な科目については「科目移行届」にて確認してください。また、変更することにより、単位が算入される科目区分も変わります。事前に各学科の標準カリキュラム表にて確認してください。

Q　第 1 ターム履修登録時に第 1,3,4 ターム科目（通年で授業が行われる科目）を登録しました。この科目を履修放棄することはできますか？

A　授業が全て終わっていない科目は、履修登録 / 放棄期間に履修放棄できます。例えば、第 1,3,4 ターム科目（通年で授業が行われる科目）は、第 4 ターム履修放棄期間まで履修放棄できます。

Q　第 1 ターム履修放棄期間に 1 単位分放棄しました。代わりに追加で履修登録できますか？

A　可能です。ただし、履修登録、履修放棄は定められた期間（p.75～76）に行う必要がありますので、この点に注意してください。

Q　昨年度履修した科目の中で、もう一度履修したい科目があるのですが、再度の履修は可能ですか？

A　過去に履修した科目でも、評価が不合格（F）、失格（X）、または履修放棄したために単位を修得できなかった場合は、再履修して単位修得することができます。また、必修科目については再履修が必須となります。しかし、合格して単位を修得した科目は、原則として 2 度目の履修はできません（※）。
※例外：「総合」は授業を企画・運営する学生スタッフに限り、2度の履修により単位修得が認められています。

Q　科目名が変更になった科目は、また履修できますか？

A　原則として履修できません。

Q　今年「C」という評価を得た科目があります。修得した単位を放棄して、もう一度その科目を履修することはできますか？

A　一度評価の出た科目については、その成績を放棄することはできません。

Q　小平キャンパスから千駄ヶ谷キャンパスへ移動して総合政策学部の選択科目を履修する場合、制限はありますか？

A　キャンパス間移動を伴う授業を履修する場合、間に 1 時限分（90 分）の空き時間が確保されていないと、履修登録できません。（例：2 時限目に小平での授業を履修した場合、3 時限目に千駄ヶ谷での授業を履修することはできません。）

Q　週時とは何ですか？

A　週時とは 1 週間で何時間分の授業時間があるかを表しています。大学授業 1 時限分（90 分）は 2 時間として計算されます。週時 2 とは、1 週間に 1 時限分の授業があるということです。

■数学科（2024年度以前入学者）

Q　自由科目（1）の説明がわかりません。

A　イ・ロ・ハの単位数を合計して9単位以上修得すれば（1）の条件を満たします。（必ずしもイ・ロ・ハ全ての中から修得する必要はありません。例えば、イを9単位修得しても（1）の条件を満たします。）「選択科目」のうち、卒業に必要な単位数を超えて修得した単位は、自動的にイに算入されます。

【教職課程】

Q　「教科に関する専門的事項（2019年度以降入学者）」「教科に関する科目（2018年度以前入学者）」として履修した専門科目は、学科の卒業単位としてカウントされますか？また、「教育の基礎的理解に関する科目（教職に関する科目）」はどうですか？

A　「教科に関する専門的事項」「教科に関する科目」として修得した専門科目も学科の卒業単位としてカウントされます。「教育の基礎的理解に関する科目（教職に関する科目）」については、各学科の自由科目の単位に算入できますが、入学年度や学科により算入可能な科目や単位数に制限がありますので、各学科のページを参照してください。

Q　4年生です。今年度教職課程を修了するために必要な単位に不足がないか確認してもらえますか？

A　ご自身でTsudaNetの「資格単位修得シミュレーション（資格自己判定）」を確認してください。「資格単位修得シミュレーション（資格自己判定）」の使い方については、TsudaNet ＞リンク＞マニュアル（学生用）よりご確認ください。なお、教員免許取得要件については、履修要覧 p.253～275（2018年度以前入学者は、履修要覧 p.242～252）を必ず確認してください。

Q　多文化・国際協力学科の学生は、教員免許を取得できますか？

A　多文化・国際協力学科の学生は、本学で教員免許を取得することはできません。教職に関する科目の履修可否については、p.82を確認してください。

■日本語教員養成課程

Q　日本語教員養成課程の単位は、卒業のための単位としても算入できますか？

A　各学科の卒業単位に算入できます。ただし、日本語教員養成課程の必修科目は学科により算入できる単位数に制限がありますので、各学科のページを参照してください。

Q　4年生です。今年度日本語教員養成課程を修了するために必要な単位に不足がないか確認してもらえますか？

A　ご自身でTsudaNetの「資格単位修得シミュレーション（資格自己判定）」を確認してください。「資格単位修得シミュレーション（資格自己判定）」の使い方については、TsudaNet ＞リンク＞マニュアル（学生用）よりご確認ください。なお、日本語教員養成課程修了要件については、履修要覧 p.278～282を必ず確認してください。

【休学・留学】

Q　後期から帰学・復学するのですが、授業は第3ターム初回から参加できますか？

A　学籍上は10月1日から帰学・復学となりますが、第3タームは後期に属するものと定められていますので、授業には第3ターム初回から出席してください。

Q　休学または留学するときの手続きや必要な書類を教えてください。

A　履修要覧 p.109を確認してください。

Q　休学または留学した場合、卒業時期にはどのように影響しますか？

A　休学…休学した分だけ卒業時期は延期します。実際の卒業時期については、単位の履修・修得状況によって変わります。
留学…留学期間のうち1年間までは、修業年限（卒業するまでに必要な期間である4年間）にカウントされます。実際の卒業時期については、単位の履修・修得状況によって変わります。

Q　休学または留学した場合、教員免許は４年間で取得できますか？

A　休学または留学した場合、4年間で教員免許を取得することはできません。休学または留学と教職課程の履修をどのように両立していくかは、予め教務課でよく相談してください。

Q　半年間休学または留学した場合、学年はどうなりますか？

A　半年間在学しているので、学年は進級します。ただし、進級基準（p.87）を満たさなければ3年次に進級できません。ご自身の現在の学年については、TsudaNet ＞学生生活＞学生カルテ＞学籍情報にて確認できます。

8．科目番号（ナンバリング）について

授業科目には、それぞれ科目番号（ナンバリング）がついています。各科目番号はシラバスに記載されています（履修登録に用いられる時間割コードとは異なります）。

■科目番号の意味

科目番号（ナンバリング）とは、その科目が取り扱う学問分野や推奨レベルを表すものです。これを参考に、学修計画にあった体系的な科目選択を行ってください。

■科目番号の構造

ABC 1 234

① ② ③

① **学問分野**　授業で取り扱う主な学問分野を示します
② **推奨レベル**　授業で取り扱う内容のレベルを示します
③ **整理番号**　科目ごとの区分番号です

① 学問分野コード一覧

LIT	文学　Literature
AS	地域研究　Area Studies
LNG	言語学　Linguistics
COM	コミュニケーション学　Communication Studies
PL	政治学・法学　Political Studies（POL）/ Law（LAW）
ECO	経済学　Economics
SOC	社会学　Sociology
MAT	数学　Mathematics
CS	情報科学　Computer Science
DM	デジタル・メディア　Digital Media
HPE	健康・スポーツ科学　Health and Physical Education
LAN	語学　Languages
EDU	教育学　Education
IFM	情報学　Informatics
GEH	その他人文分野　General Human Science
GES	その他社会分野　General Social Science
GEN	その他自然分野　General Natural Science
GEX	その他学際領域　Interdisciplinary Studies
XE	その他（英語英文学科／文学研究科）
XIC	その他（国際関係学科／国際関係学研究科）
XM	その他（数学科／理学研究科数学専攻）
CSX	その他（情報科学科／理学研究科情報科学専攻）
XMC	その他（理学研究科）
XMI	その他（多文化・国際協力学科）
XPS	その他（総合政策学科）

② 推奨レベル一覧

0　大学入学前に修得すべき内容を扱う科目
1　入門的な知識を修得する科目、幅広い視野を得ることを目的とした科目
2　基礎的な知識をもとに専門における基本的な知識を修得する科目
3　専門知識を修得する科目
4　学士課程で学修する最終段階の水準の科目
5　修士レベルの科目（大学院）
6　博士レベルの科目（大学院）

Ⅳ

学籍について

Ⅳ　学籍について

1．修業年限と在学期間

〔学則第５条〕

修業年限とは、本学の教育課程を修了するために必要な期間で４年です。それに対して在学期間とは、本学において学生の身分を有している期間で休学期間を除き８年と定めています。

2．休　学

〔学則第28条〕

病気その他やむを得ない理由により休学しようとする者は、「休学願」（所定用紙）にその理由を記し、保証人連署の上教務課に提出し、教授会の議を経て学長の許可を受けなければなりません。なお、病気の場合は医師の診断書を添付してください。

〔休学期間〕

⑴　休学期間は、１年または半年とする。ただし特別の事情がある場合には、引き続き休学を許可することがある。

⑵　休学期間は、通算して４年を超えることはできない。

⑶　休学期間は、修業年限および在学期間に算入されない。＊休学した学期分、卒業が延期になります。

3．復　学

〔学則第29条〕

⑴　休学を許可された者は、許可された休学期間満了後復学するものとします。

⑵　病気の事由により休学が許可された者が復学する場合は、修学が可能であることを証明する医師の診断書を提出しなければなりません。

⑶　学期途中の復学はできません。

4．退　学

〔学則第32条および細則〕

〔学則第46条〕

退学しようとする者は、「退学願」（所定用紙）にその理由を記し、保証人連署の上教務課に提出し、教授会の議を経て学長の許可を受けなければなりません。なお、退学を願い出る時期までの授業料および寮費等を未納のまま退学することは許可されません。

当該義務を怠って登校しない者は除籍となります。

5．除　籍

〔学則第34条および細則〕

次のいずれかに該当する者は、所定の手続きを経て除籍されます。

⑴　定められた期限までに履修科目登録を行わない者

⑵　授業料等諸料金の納付を怠り督促を受けてもなお納めない者

⑶　学則第５条第２項に定める在学年限を超えてなお退学しない者

⑷　許可なくして３ヶ月以上欠席した者

〔除籍の取扱い〕

除籍の取扱いは次のようになります。

イ．⑴および⑷の事由による場合は、その事由が発生した日付をもって除籍し、⑵および⑶の事由による場合は、９月30日または３月31日付をもって除籍する。

ロ．⑴、⑵および⑷の事由により除籍となった者が、再入学を願い出たときは、教授会の議を経て学長が許可することがある。

ハ．⑵の事由により除籍となった者が、除籍通知発送後２週間以内に滞納した諸料金を納入し、除籍取消許可願を

提出したときは、除籍を取り消すことができる。

6．転部・転科

〔学則第31条および細則〕

本学学生で転部・転科を希望する者は、所定の期日までに転部・転科願に必要書類を添えて教務課に提出してください。なお、転部・転科の取扱いについては以下のとおりです。

⑴　毎年６月下旬に次年度転部・転科希望の募集について教務課が告知を行う。
⑵　転部・転科を希望する者は、所定の期日までに転部・転科願に必要書類を添えて教務課に提出する。
⑶　転部・転科を願い出た者に対しては、当該学科で選考の上、教授会が適当と認めた者につき学長が新学年より転部・転科を許可する。
⑷　転部・転科希望者の選考は、書類審査、面接および筆記試験とする。筆記試験は省略されることがある。
⑸　転部・転科の許可にあたっては、転部・転科先での学年を指定する。
⑹　転部・転科を許可された者は、当該学科に最低２年以上在籍しなければならない。
⑺　学校推薦型選抜（指定校制）、学校推薦型選抜（公募制）、および総合型選抜で入学した者は転部・転科できない。但し、2017年度以前の数学科および情報科学科の公募制推薦入試で入学した者はこれによらない。

7．留　学

〔学則第27条および細則〕

外国の大学に留学をしようとする者は、所属学科セミナー指導教員に申し出てその指導を受けた後、定められた期日（後期から留学する場合：６月末日、翌年度の前期から留学する場合：１月末日）までに入学許可通知を添えて留学願および所定書類を教務課に提出し、教授会の議を経て学長の許可を受けなければなりません。なお、留学期間については以下のとおりです。

受入先が２学期制をとる場合には１学期以上、３学期制ないし４学期制をとる場合には２学期以上であること。

また、留学の学籍として認められる期間は最長２年間で、そのうち１年までは修業年限および在学期間に算入され、残りの１年は在学期間にのみ算入されます。

8．交換学生派遣（国内）

〔学則第14条〕

本学学生で、本学との間に相互交流の協定がある国内の大学または短期大学に留学しようとする者に関する細則は以下のとおりです。

⑴　本学学生で、本学との間に相互交流の協定がある国内の大学または短期大学における授業科目の履修をする者を交換学生と呼ぶ。
⑵　交換学生は、本学が教育上有益と判断した場合に限り、本学選考機関の審査を経て、学長がこれを決定する。
⑶　交換学生は、本学に在籍のまま１年を限度として、委託先の大学での学修を許可され、当該大学で修得した単位のうち適当と認められるものは、30単位を限度として、本学の卒業に必要な単位としての認定を受けることができる。
⑷　委託先での修学期間は、本学における修業年限に算入できる。
⑸　交換学生の出願者は、本学に少なくとも１年以上在学し、前年度までに30単位以上の科目を修得した者に限る。
⑹　委託先での身分は、当該大学の定めによる聴講生とし、その間当該大学の学則および指示決定に従う義務を負う。
⑺　交換学生は、原則として、その期間本学の学費を全額納入するものとする。
⑻　交換学生に関する費用は、協定の定めによるものとする。
⑼　その他の事項については、協定校との協議に基づいて別に定めるものとする。

９．再入学

〔学則第33条〕

退学者が再入学を願い出たときは、事情を考慮した上で学長がこれを許可することがある。

⑴　再入学願は原則として入学希望の前年度10月末日までに提出しなければならない。

⑵　前項により、再入学を許可する者についての入学金は当該年度の半額とし、授業料、施設設備費は当該年度の額を適用する。

⑶　再入学は年度の始めからとする。

⑷　再入学前に本学で修得した単位は、原則として本学の卒業に必要な単位として認定する。

10. 学籍異動手続きの流れ

■休学・留学・退学・復学・帰学の手続き

教務課に下記の書類を提出

	休　学	留　学	交換留学･派遣留学	退　学	復学・帰学
所定用紙(必須)	①休学願 (②海外滞在計画書 ③課外活動届)	①留学願 ②海外滞在計画書 ③留学許可願	①留学願 ②海外滞在計画書	①退学願	なし (許可された休学/留学期間満了後、復学/帰学するものとする。)
添付書類(該当者のみ)	(1)　事由が病気の場合、診断書。 (2)　事由が留学または語学研修の場合、②及び入学許可通知のコピー。 (3)　事由がインターンシップまたはボランティア活動等の場合、③課外活動届。	(1)　入学許可通知のコピー。 ※③は本人が記入し、セミナー担当者等に面接を依頼する。署名捺印されたものを教務課に提出。セミナー担当者が非常勤講師の場合は、学科主任に依頼する。	(1)　入学許可通知のコピー。	(1)　事由が病気の場合、診断書。	(1)　休学の事由が病気の場合、診断書。
提出期限	(1)　第１タームからの休学の場合：当該年度の５月末日 (2)　第３タームからの休学の場合：当該年度の10月末日	(1)　第１タームからの留学の場合：前年度の１月末日 (2)　第３タームからの留学の場合：当該年度の６月末日 ※渡航前に余裕をもってご提出ください。		(1)　９月30日付退学の場合：当該年度の10月末日 (2)　３月31日付退学の場合：次年度の５月末日	(1)　第１タームからの復学の場合：前年度の３月１日 (2)　第３タームからの復学の場合：当該年度の８月31日

所属学科および教授会での審議

↓

学長許可

↓

休学・留学・交換留学・派遣留学・退学は大学より保証人及び学生宛に審議結果を通知

※学籍異動手続の詳細は「津田塾大学 教務課からのお知らせ」サイト内「よくある質問Ｑ＆Ａ」をご参照ください。
※休学願・留学願・退学願を提出期限までに提出した場合には学費減免措置が適用されます。
※学費減免措置を受けるためには所定の期日までに学籍異動書類の提出が必要です。
　通年または前期分学費：当該年度の５月31日まで　後期分学費：当該年度の10月31日まで
※提出期限が土日祝日にあたる場合、前営業日が提出期限となります。
※休学を許可された者は、許可された休学期間の満了とともに復学します。
※留学を許可された者は、許可された留学期間の満了とともに帰学します。
※第３タームから帰学・復学する場合は、授業には第３ターム初回から出席してください。
※学籍上の休学・留学期間の開始日は、４月１日と10月１日です。
※後期から１年間の留学・休学をする場合、科目継続を申請することができます。詳細はⅢ履修について(11)科目継続の項を参照してください。
※海外渡航を伴う休学・留学の場合は『津田塾生のための留学ハンドブック』を併せてご参照ください。

よくある質問Q&A

休学・留学期間中の学費減免措置が適用される場合は、教授会での審議、学長許可後、経理課より詳細を記した書類が送付されます。願い出の時期等により学費納入方法が異なりますので、決定後送付された書類に従ってください。

11. 学費等

〔学則第41条、第42条、第50条〕

2026年度授業料・施設設備費納入額表

学芸学部　（単位：円）

入学年度	期間	英語英文学科／国際関係学科			多文化・国際協力学科			数学科			情報科学科		
		授業料	施設設備費	合　計	授業料	施設設備費	合　計	授業料	施設設備費	合　計	授業料	施設設備費	合　計
2023年度	半期	390,000	129,500	519,500	415,000	144,500	559,500	430,000	144,500	574,500	430,000	144,500	574,500
	年額	780,000	259,000	1,039,000	830,000	289,000	1,119,000	860,000	289,000	1,149,000	860,000	289,000	1,149,000
2024年度	半期	385,000	128,000	513,000	410,000	143,000	553,000	425,000	143,000	568,000	425,000	143,000	568,000
	年額	770,000	256,000	1,026,000	820,000	286,000	1,106,000	850,000	286,000	1,136,000	850,000	286,000	1,136,000
2025年度	半期	417,500	139,000	556,500	445,000	155,500	600,500	491,000	165,500	656,500	495,000	167,000	662,000
	年額	835,000	278,000	1,113,000	890,000	311,000	1,201,000	982,000	331,000	1,313,000	990,000	334,000	1,324,000
2026年度	半期	412,500	137,500	550,000	440,000	154,000	594,000	486,000	164,000	650,000	490,000	165,500	655,500
	年額	825,000	275,000	1,100,000	880,000	308,000	1,188,000	972,000	328,000	1,300,000	980,000	331,000	1,311,000

※漸増方式を適用し、授業料：年10,000円増、施設設備費：年3,000円増
※在学５年目以降は漸増方式適用外とし、2022年度以前の入学者については別に定める。

総合政策学部　（単位：円）

入学年度	期間	総合政策学科		
		授業料	施設設備費	合　計
2023年度	半期	415,000	144,500	559,500
	年額	830,000	289,000	1,119,000
2024年度	半期	410,000	143,000	553,000
	年額	820,000	286,000	1,106,000
2025年度	半期	445,000	155,500	600,500
	年額	890,000	311,000	1,201,000
2026年度	半期	440,000	154,000	594,000
	年額	880,000	308,000	1,188,000

※漸増方式を適用し、授業料：年10,000円増、施設設備費：年3,000円増
※在学５年目以降は漸増方式適用外とし、2022年度以前の入学者については別に定める。

授業料・施設設備費および寮舎費（ただし、在寮生のみ）の納入については、次の通りです。

⑴　納入期限（納入期限が金融機関休業日のときは翌営業日とします。）

イ．前期分については５月31日までに、後期分については10月31日までに納入してください。

⑵　納入方法

イ．学費は前期分は５月27日、後期分は10月27日に口座振替（引落とし）にて納入いただきます。

ロ．寮舎費は納入期限までに指定口座へお振込みください。

ハ．新入生については、前期分は入学手続時に納入済みですので、８月初旬に後期学費の口座振替の案内および寮舎費の納入案内を保証人宛に郵送します。

2026年度　入　学　金

金　　額	備　　考
200,000円	下記以外の者
100,000円	再入学者

■科目等履修生・聴講生・委託生

（単位：円）

	出身校	検定料	在籍料	
科目等履修生	本学以外	3,500	3,000	履修料１単位 18,000
	本学	3,500	0	
聴講生	本学以外	3,500	3,000	聴講料１単位分の授業聴講につき 13,500
	本学	3,500	0	
委託生			30,000	履修料１単位 15,000

12. 経済的理由により修学が困難な私費外国人留学生の授業料減免措置に関する規程

（目　的）

第１条　この規程は、経済的理由により修学が困難な私費外国人留学生に対する授業料減免措置について必要な事項を定める。

（資　格）

第２条　私費外国人留学生とは、津田塾大学及び津田塾大学大学院の正規の課程（以下「本学の正規課程」という。）に在学し、かつ、出入国管理及び難民認定法別表第１に定める「留学」の在留資格（年度途中に、「家族滞在」等から「留学」に変わる者を含む。）を有する者とし、国費外国人留学生制度に定める国費外国人留学生及び外国政府の派遣する留学生以外の者を対象とする。

（減免者の選考）

第３条　本規程により授業料減免措置を受ける者の選考は、減免の申請に基づき、国際センター運営委員会が本人の経済的理由に加え、学業成績並びに学問研究への熱意等を考慮して行う。

２　申請書類、選考基準については別に定める。

（減免額）

第４条　前条により選考された私費外国人留学生については授業料の半額を減免する。

（適用除外）

第５条　第１条の私費外国人留学生が休学または留学をする場合は、休学・留学期間中の学費減免措置を適用し、本規程を重複して適用しないものとする。

（期　間）

第６条　第１条の私費外国人留学生が本制度の対象となる期間は、当該学生の修業年限を上限とする。

２　但し当該学生が留学した場合、審議のうえ１年間を限度として対象期間の延長を認めることができる。

（改　廃）

第７条　本規程の改廃は国際センター運営委員会、財務・事業計画会議および大学運営会議の議を経て、学長が行う。

附　則

この規程は、平成24年（2012年）４月１日から施行する。
この規程は、2014年（平成26年）４月１日から施行する。
この規程は、2016年（平成28年）４月１日から施行する。
この規程は、2019年（平成31年）４月１日から改正、施行する。

13. 学籍番号形態について

学籍番号の見方……例）

A	26	001
↓	↓	↓
学科等を表すアルファベット	入学・編／再入学年度	識別番号

学科等を表すアルファベット一覧

					アルファベット
正規学生	学部	学芸学部		英語英文学科	A
				国際関係学科	B
				多文化・国際協力学科	H
				数学科	F
				情報科学科	G
		総合政策学部		総合政策学科	P
	大学院	文学研究科修士課程			EM
		文学研究科後期博士課程			ED
		国際関係学研究科修士課程			IM
		国際関係学研究科後期博士課程			ID
		理学研究科修士課程			MM
		理学研究科後期博士課程			MD
正規外学生	学部	科目等履修生			ZS
				高大連携協定	ZK
		聴講生			ZJ
		委託聴講生	（特別聴講学生）	電気通信大学	ZE
				五女子大学コンソーシアム	ZG
				一橋大学	ZH
				東京外国語大学	ZL
			（単位互換履修生）	TAC	ZA
		交換留学生			ZR
				沖縄大学	ZP
	大学院	科目等履修生			ZT
		聴講生			ZU
		特別聴講学生			ZY
		交換留学生			ZV
		研究生			ZX
		特別研究学生			ZZ
		委託生			ZW

※上表は2025年度より適用

V

教　育　課　程

1. 共　通　科　目

Ⅴ　教育課程

原則として程度Ⅰは第１、２年次に、Ⅱは第２、３年次に、Ⅲは第３、４年次に、Ⅳは第４年次において履修します。

１．共通科目

地球規模での急激な変化が進む中で、専門的学識と広い視野をかね備え、個性的で豊かな想像力をもつ自立した人間が今ほど必要とされる時代はないでしょう。

本学では、専門教育のための導入・基礎教育の場として、またさらに広く専門領域以外の学識を得る場として、共通科目を提供しています。現代の最先端の学問状況についての平易な解説を通じて、今日的な問題への関心を喚起し、知的・創造的能力を刺激し伸ばすこと、また地球市民のひとりとしていかに生きるか考える場を提供することがその目的です。

（１）履修方法

イ．英語英文学科は、p.134（2018年度入学者）またはp.144（2019年度以降入学者）を参照してください。

ロ．国際関係学科は、p.160を参照してください。

ハ．多文化・国際協力学科は、p.180（2023年度以前入学者）またはp.192（2024年度以降入学者）を参照してください。

ニ．数学科は、p.206（2018年度～2024年度入学者）またはp.213（2025年度以降入学者）を参照してください。

ホ．情報科学科は、p.222（2020年度～2022年度入学者）またはp.226（2023年度入学者）またはp.230（2024年度入学者）またはp.234（2025年度以降入学者）を参照してください。

（２）交換学生（外国人学生）のための科目

交換学生（外国人学生）のための共通科目は以下のとおりです。一部科目は、一般の学生も履修することができます。

授業科目名	単　位	週　時	担当者	一般学生の履修可否
日本研究入門(1)	1	2	斎　藤　敬　太	○
日本研究入門(2)	1	4	遠　藤　律　子	×
日本研究入門(3)	1	2	斎　藤　敬　太	○
日本研究入門(4)	1	2	斎　藤　敬　太	○
日本研究演習(1)	1	2	吉　田　夏　美	×
日本研究演習(2)	1	4	吉　田　夏　美	×
日本研究演習(3)	1	2	吉　田　夏　美	×
日本研究演習(4)	1	2	吉　田　夏　美	×
日本研究演習(英語)(1)	1	2	Dylan James Hallingstad O'Brien	○
日本研究演習(英語)(2)	1	4	竹　山　明　子	○
日本研究演習(英語)(3)	1	2	Dylan James Hallingstad O'Brien	○
日本研究演習(英語)(4)	1	2	Dylan James Hallingstad O'Brien	○

（3）授業科目名・単位

授業科目	程度	開講ターム	単位	週時	担当者	備考
人文分野						
哲学(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	穴見　愼一	「哲学研究(1)」(国際)
哲学(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	穴見　愼一	「哲学研究(3)」(国際)
哲学(4)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	穴見　愼一	「哲学研究(4)」(国際)
心理学(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	Wang Jue	
心理学(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	Wang Jue	
心理学(4)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	Wang Jue	
宗教学(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	丹羽　宣子	「宗教学研究(1)」(国際)
宗教学(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	丹羽　宣子	「宗教学研究(3)」(国際)
宗教学(4)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	丹羽　宣子	「宗教学研究(4)」(国際)
キリスト教概論(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	中西　恭子	
キリスト教概論(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	中西　恭子	
キリスト教概論(4)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	中西　恭子	
キリスト教史(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	寺戸　淳子	
キリスト教史(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	寺戸　淳子	
キリスト教史(4)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	寺戸　淳子	
世界の文学（イギリス）	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	阿部　曜子	
世界の文学（アメリカ）	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	相木　裕史	
世界の文学（英語圏）	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	中谷　　森	
世界の文学（フランス）(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	市川　裕史	(フランス)と(ドイツ)を交互に開講する。
世界の文学（フランス）(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	市川　裕史	
世界の文学（フランス）(4)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	市川　裕史	
世界の文学（ドイツ）(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	(本年度休講)	
世界の文学（ドイツ）(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2		
世界の文学（ドイツ）(4)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2		
世界の文学（ロシア）(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	長井　　淳	(ロシア)(東欧)(北欧)のうちどれか1科目を開講する。
世界の文学（ロシア）(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	長井　　淳	
世界の文学（ロシア）(4)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	長井　　淳	
世界の文学（東欧）(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	(本年度休講)	
世界の文学（東欧）(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2		
世界の文学（東欧）(4)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2		
世界の文学（北欧）(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	(本年度休講)	
世界の文学（北欧）(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2		
世界の文学（北欧）(4)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2		
世界の文学（中国）(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	ユ　キンブン	(中国)と(朝鮮)を交互に開講する。
世界の文学（中国）(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	ユ　キンブン	
世界の文学（中国）(4)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	ユ　キンブン	
世界の文学（朝鮮）(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	(本年度休講)	
世界の文学（朝鮮）(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2		
世界の文学（朝鮮）(4)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2		
日本文学（古典文学）(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	木村　朗子	
日本文学（古典文学）(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	木村　朗子	
日本文学（古典文学）(4)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	木村　朗子	
日本文学（近現代文学）(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	亀有　　碧	
日本文学（近現代文学）(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	亀有　　碧	
日本文学（近現代文学）(4)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	亀有　　碧	
ことばの世界	Ⅰ～Ⅳ	1,3,4	3	2	郷路　拓也	
異文化理解とコミュニケーション	Ⅰ～Ⅳ	1,3,4	3	2	川野　優希	
国語学(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	ヤロシュ島田むつみ	
国語学(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	ヤロシュ島田むつみ	
国語学(4)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	ヤロシュ島田むつみ	
国語表現(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	吉田　夏美	
			1	2	亀有　　碧	
国語表現(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	吉田　夏美	
				2	亀有　　碧	

授業科目	程度	開講ターム	単位	週時	担当者	備考
国語表現(4)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	吉田　夏美	
			1	2	亀有　　碧	
多文化社会と言語教育	Ⅰ～Ⅳ	3,4	2	2	古川　敦子	
美術	Ⅰ～Ⅳ	1,3,4	3	2	森下和貴子	
音楽	Ⅰ～Ⅳ	1,3,4	3	2	成田　麗奈	
津田梅子と建学の精神	Ⅰ～Ⅳ	2	1	4	大類　久恵・小島美枝子 砂田恵理加	
くらしと芸術	Ⅰ～Ⅳ	2	1	4	遠藤　律子	
日本語ボランティア入門	Ⅰ～Ⅳ	2	1	4	野山　　広	
社会分野						
日本国憲法a	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	久保田茉莉	
		3	1	2	南　　諭子	
日本国憲法b	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	久保田茉莉	
		4	1	2	南　　諭子	
法女性学	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	久保田茉莉	
法学	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	南　　諭子	「法学研究」(国際)
政治学(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	葛西　弘隆	「政治学研究(1)」(国際)
政治学(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	葛西　弘隆	「政治学研究(3)」(国際)
政治学(4)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	葛西　弘隆	「政治学研究(4)」(国際)
経済学(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	松本　広大	「経済学研究(1)」(国際)
経済学(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	松本　広大	「経済学研究(3)」(国際)
経済学(4)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	松本　広大	「経済学研究(4)」(国際)
世界史概説(1)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	藤波　伸嘉	「世界史研究(1)」(国際)
世界史概説(3)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	藤波　伸嘉	「世界史研究(3)」(国際)
世界史概説(4)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	藤波　伸嘉	「世界史研究(4)」(国際)
日本史概説(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	岡本真希子	「日本史概論(1)」(国際)
日本史概説(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	岡本真希子	「日本史概論(3)」(国際)
日本史概説(4)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	岡本真希子	「日本史概論(4)」(国際)
社会心理学(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	南谷　則子	
社会心理学(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	南谷　則子	
社会心理学(4)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	南谷　則子	
文化人類学(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	宮本　佳和	
文化人類学(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	宮本　佳和	
文化人類学(4)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	宮本　佳和	
社会学(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	元橋　利恵	「社会学研究(1)」(国際)
社会学(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	元橋　利恵	「社会学研究(3)」(国際)
社会学(4)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	元橋　利恵	「社会学研究(4)」(国際)
国際関係概論(1)	国際関係学科のページ参照					国際関係学科１年次必修 多文化・国際協力学科１年次必修((1)のみ)
国際関係概論(3)						
国際関係概論(4)						
第三世界の思想と文化(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	杉山圭以子	
第三世界の思想と文化(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	杉山圭以子	
第三世界の思想と文化(4)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	杉山圭以子	
自然分野						
データサイエンス入門	Ⅰ～Ⅳ	1 または 3	1	2	松岡　淳子・小田　正美 原山智重子・白倉　悟子 眞中　裕子	英語英文学科、国際関係学科、多文化・国際協力学科、情報科学科の１年次生は、指定されたクラスで受講すること。 2024年度までの「情報処理Ⅰa」
データリテラシー入門	Ⅰ～Ⅳ	3 または 4	1	2	松岡　淳子・小田　正美 原山智重子・白倉　悟子 眞中　裕子	情報科学科の１年次生は、指定されたクラスで受講すること。 2024年度までの「データリテラシーb」
情報と社会(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	藤吉　隆雄	
情報と社会(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	藤吉　隆雄	
社会とデータ活用	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	栗原　一貴 他	2024年度までの「情報と社会(4)」

授業科目	程度	開講ターム	単位	週時	担当者	備考	
くらしと地球環境	Ⅰ～Ⅳ	1,3,4	3	2	渋江　桂子		
物質と生命現象	Ⅰ～Ⅳ	1,3,4	3	2	岩崎　容子		
科学と人間(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	加藤　光裕		
科学と人間(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	藤吉　隆雄		
科学と人間(4)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	小山　俊士		
生物と人間	Ⅰ～Ⅳ	1,3,4	3	2	矢ケ崎朋樹		
精神分析学	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	木戸秋明男	2018年度までの「精神分析学(1)・(3)・(4)」	
女性とメンタルヘルス	Ⅰ～Ⅳ	2	1	2	葉柴　陽子	2018年度までの「女性とメンタルヘルス(1)・(3)」	
青年期のメンタルヘルス	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	丸田　伯子		
ヒューマン・セクソロジー(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	松本　亜紀		
ヒューマン・セクソロジー(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	松本　亜紀		
ヒューマン・セクソロジー(4)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	松本　亜紀		
グラフィックデザインリテラシー	Ⅰ～Ⅳ	2	1	4	白石　　学		
総　　合							
総合	Ⅰ～Ⅳ	1,3,4	3	2	中谷　　森・水谷　明子 菊池　弘明		
女性学(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	吉朝　加奈		
女性学(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	大橋　　稔		
女性学(4)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	大橋　　稔		
平和研究	Ⅰ～Ⅳ	1,3,4	3	2	川上　泰徳		
日本語ライティング(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	飯野　朋美	「日本語ライティング(3)」を修得済の場合は履修できない。また、「日本語ライティング(3)」を同時に履修できない。	キャリア教育科目
日本語ライティング(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	飯野　朋美	「日本語ライティング(1)」を修得済の場合は履修できない。また、「日本語ライティング(1)」を同時に履修できない。	
日本語ライティング(4)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	田渕　紫織		
交換学生のための科目							
日本研究入門(1)		1	1	2	斎藤　敬太		
日本研究入門(2)		2	1	4	遠藤　律子	一般の学生は履修できません。	
日本研究入門(3)		3	1	2	斎藤　敬太		
日本研究入門(4)		4	1	2	斎藤　敬太		
日本研究演習(1)		1	1	2	吉田　夏美	一般の学生は履修できません。	
日本研究演習(2)		2	1	4	吉田　夏美		
日本研究演習(3)		3	1	2	吉田　夏美		
日本研究演習(4)		4	1	2	吉田　夏美		
日本研究演習（英語）(1)		1	1	2	Dylan James Hallingstad O'Brien		
日本研究演習（英語）(2)		2	1	4	竹山　明子		
日本研究演習（英語）(3)		3	1	2	Dylan James Hallingstad O'Brien		
日本研究演習（英語）(4)		4	1	2	Dylan James Hallingstad O'Brien		

2. 外国語科目

２．外国語科目

（１）履修方法

イ．英語英文学科の学生は、必修科目として、１年次において第１外国語（英語）12単位、１・２年次にわたって第２外国語（フランス語、ドイツ語、中国語、ロシア語、スペイン語、韓国・朝鮮語*のうち１言語）12単位を修得します。

国際関係学科の学生は、必修科目として、１・２年次において英語24単位と第２外国語（フランス語、ドイツ語、中国語、ロシア語、スペイン語、韓国・朝鮮語*のうち１言語）12単位を修得します。３年次においては外国語ⅢとしてⅢレベルの英語、フランス語、ドイツ語、中国語、ロシア語、スペイン語、韓国・朝鮮語*のうち１言語３単位を修得します。

多文化・国際協力学科の学生は、必修科目として１・２・３年次において英語27単位と、第２外国語としてフランス語、ドイツ語、中国語、ロシア語、スペイン語、韓国・朝鮮語のうち１言語15単位を修得します。

数学科の学生は、必修科目として、１・２年次にわたって英語合計15単位を修得します。

情報科学科の学生は、必修科目として、１・２年次に英語合計21単位を修得します。

ロ．履修方法の詳細は、授業科目講義内容、各学科履修単位表、標準カリキュラムおよび同脚注を参照。

ハ．すべての外国語科目に関して、期末試験ではp.87の受験資格の条項が適用されます。また、平常点で評価する科目に関しては、p.84の平常点についての条項が適用されます。

ニ．フランス語、ドイツ語、中国語、ロシア語、スペイン語、韓国・朝鮮語*各Ⅰ・Ⅱについては、それぞれのレベルに達している者は、入学年度の４月に本学で行われる認定試験を受けて教授会で承認された場合、受講免除を受けることができます。受講免除を受けた科目は単位を与えられ、その科目のひとつ上のレベルに該当する科目を飛び級で履修することができます。

ホ．入学手続の際に選択した第２外国語の変更は、入学年度については一切認められません。次年度以降については所定の手続きにより変更することができます。

（２）英語Proficiency TestとPACE（Proficiency-Adjusted Classroom Environment）について

イ．１・２年次の英語科目は、PACE形式を中心にクラス分けされています。
入学時と１月中に英語Proficiency Testを実施して、そのスコアをもとにクラス分けを行います。

ロ．クラス分け対象科目

① 第１回の結果は次の１年生科目のレベル別クラス分けに利用されています。
- 英語英文学科、国際関係学科、多文化・国際協力学科のOral English Ⅰ、Intensive Reading Ⅰa、Intensive Reading Ⅰb、Extensive Reading Ⅰ、Composition Ⅰ
- 数学科、情報科学科のOral English Ⅰ、Reading Skills Ⅰ、Composition Ⅰ

② 第２回の結果は次の２年生科目のレベル別クラス分けに利用されます。
- 英語英文学科のOral English Ⅱ、Academic Writing Ⅱ
- 国際関係学科のOral English Ⅱ、Reading Skills Ⅱ、Composition Ⅱ
- 数学科のListening and Speaking Ⅱ
- 情報科学科のCS Speaking and Listening Ⅱ、CS Reading Skills Ⅱ、CS Composition Ⅱ

③ 第２回の結果は次の２年生科目の参考にします。
- 多文化・国際協力学科のMI Reading Skills Ⅱ、MI Oral English Ⅱ、MI Composition Ⅱ、MI Listening Ⅱ

ハ．英語Proficiency TestのスコアはPronunciation Ⅰの評価等にも利用されます。
英語Proficiency TestやPACEについての問い合わせ先は、１号館２ＦのTsuda English Coordination Center（TECC）です。

（３）外国人学生のための日本語科目

イ．外国人留学生のための日本語科目は以下のとおりです。

ａ．日本語Ⅰ　６単位　大学生活、社会生活に必要な日本語の基礎力を養います。

ｂ．日本語Ⅱ　６単位　専門書を読み、論文を書くなど、より専門的な活動に必要な日本語能力の習得を目指します。

ｃ．日本語Ⅲ　３単位　履修者の専門分野の研究に必要な日本語の能力を高めます。

~~ロ．日本語Ⅰ、日本語Ⅱについては、外国人留学生のうち特に学力が優秀な者は、認定試験を受けて教授会で承認された場合、受講免除を受けることができます。受講免除を受けた科目は単位を与えられます。~~

ハ．外国人留学生については、日本語科目12単位までを外国語科目として履修することができます。なお、国際関係学科の留学生の場合、日本語Ⅲを外国語Ⅲとして履修することができます。多文化・国際協力学科の留学生の場合、日本語Ⅲを第二外国語Ⅲとして履修することができます。

ニ．交換学生（外国人学生）は交換留学生のための日本語Ⅰと日本語Ⅱを各ターム１単位で受講することができます。この他日本語指導（１ターム１単位）を開講し、既習の日本語能力に応じて、日本語の基礎力を養います。

（４）授業科目名・単位

授　業　科　目	程度	開講ターム	単位	週時	担　当　者	備　考
第一外国語						
Extensive Reading I （英・国・多）	I	1 または 3 または 4	1	2	Joshua B. Antle 安澤　梨花 長谷川志保・川島るり子 米須　初美・楠　香織 三木はるか・村越　麻子 中尾　真子・奥野　晶子 菅原　供子・高橋奈緒子 山田　純子	英語英文学科/国際関係学科/多文化･国際協力学科 １年次必修
Intensive Reading I a （英・国・多）	I	1 または 3	1	2	藤坂　恭子・船林　麻理 堀口　優子・伊藤孝一郎 岩田有美子・川島るり子 米須　初美・三木はるか 都田　青子・中尾　真子 奥野　晶子・高橋奈緒子 高橋百合子・山田　純子 山本　三穂	
Intensive Reading I b （英・国・多）	I	3 または 4	1	2	安澤　梨花・藤坂　恭子 船林　麻理・長谷川志保 堀口　優子・池野みさお 伊藤孝一郎・岩田有美子 川島るり子・米須　初美 楠　香織・三木はるか 村越　麻子・中尾　真子 奥野　晶子・菅原　供子 高橋奈緒子・高橋百合子 山田　純子・山本　三穂	英語英文学科/国際関係学科/多文化･国際協力学科 １年次必修
Oral English I（英・国・多）	I	1,3,4	3	2	Kristofer Bayne Gelard E. Bolthouse Richard L. Burton Elizabeth I. Dow Christopher Elvin Steven P. Engler Terry K. Fieldsend Paul M. Garside Dylan Hallingstad O'Brien Soo-Hye Han Brian Heagney Paul Kallender Charles D. Miceli Sadie Nitta Simon R. Potter Brian J. Sayers Simon Stevens Andy Vajirasarn Richard B. Wilcox Bernard F. Wilson	英語英文学科/国際関係学科/多文化･国際協力学科 １年次必修
Composition I（英・国・多）	I	1,3,4	3	2	阿部　曜子・相木　裕史 藤坂　恭子・船林　麻理 舩田まなみ・長谷川志保 堀口　優子・池野みさお 今尾　香雪・伊藤孝一郎 川島るり子・久島智津子 楠　香織・増田　珠子 増井由紀美・三木はるか 中根友里恵・菅原　供子 伊藤　千晴／近藤　森音 野口　啓子・奥野　晶子 佐賀　裕実・佐藤　陽介 清水由布紀・シェイク愛仁香 高橋百合子・冨岡志寿子 山田　純子・山越美規枝	英語英文学科/国際関係学科/多文化･国際協力学科 １年次必修

授業科目	程度	開講ターム	単位	週時	担当者	備考
Pronunciation I（英･国･多）	I	1,3,4	3	2	阿部　曜子・藤坂　恭子 岩田有美子・楠　香織 村越　麻子・奥野　晶子 佐賀　裕実・佐藤　響子 関根　泰子・菅原　供子 高橋百合子・冨岡志寿子 山越美規枝	英語英文学科/国際関係学科/多文化･国際協力学科 １年次必修
Intensive Listening I	I	1,3,4	3	2	Kristofer Bayne Kathleen A. R. Era Paul Kallender Christopher J. S. Piper Bernard F. Wilson	
Reading Skills I（数・情）	I	1,3,4	3	2	甲斐　絵理 近藤　森音／伊藤　千晴 佐藤亜希子・山田　純子	数学科、情報科学科１年次必修
Oral English I（数・情）	I	1,3,4	3	2	Kristofer Bayne Brian Heagney Sadie Nitta Brian J. Sayers Andy Vajirasarn	数学科、情報科学科１年次必修
Composition I（数・情）	I	1,3,4	3	2	岩田有美子・甲斐　絵理 佐藤亜希子・豊嶋　朗子 山内智恵子	数学科、情報科学科１年次必修
Pronunciation I（数・情）	I	1,3,4	3	2	荒木　和美・岩田有美子 小野　雅子・宇佐見英美子	数学科、情報科学科１年次必修
CS Reading Skills Ⅱ	Ⅱ	1,3,4	3	2	坂口美知子・山田　純子	情報科学科２年次必修 Reading Skills I の単位修得者のみ履修可
CS Speaking and Listening Ⅱ	Ⅱ	1,3,4	3	2	Helen Nagasawa Simon R. Potter	情報科学科２年次必修 Oral English I の単位修得者のみ履修可
CS Composition Ⅱ	Ⅱ	1,3,4	3	2	大類　久恵・山田　純子 山本　三穂	情報科学科２年次必修 Composition I の単位修得者のみ履修可
Listening and Speaking Ⅱ	Ⅱ	1,3,4	3	2	Lola Moriguchi Helen Nagasawa Christopher J. S. Piper	数学科２年次必修
Grammar Ⅱ	Ⅱ	1,3,4	3	2	小林真由美	2018年度までの「English Grammer」
Oral English Ⅲ	Ⅲ	1	1	2	Kristofer Bayne	
Oral English Fluency Development	I	2	1	2または4	Kristofer Bayne Andy Vajirasarn	
Journeys in English	I	2	1	2または4	Paul Kallender Brian J. Sayers Simon Stevens	
Introduction to TOEFL	Ⅱ	2	1	2または4	小西　正恵	※寄付金による開講
Introduction to IELTS	Ⅱ	2	1	2または4	小西　正恵	※寄付金による開講
第二外国語						
フランス語 I（文法）	I	1,3,4	3	2	市川　裕史・稲村　真実 加藤　三和・北見　秀司 小林ゆり子・小嶋　洋介 高山　典子	
フランス語 I（演習）	I	1,3,4	3	2	稲村　真実・加藤美季子 加藤　三和・小林ゆり子 高山　典子・土屋　良二 安川　孝	
フランス語 Ⅱ（講読）	Ⅱ	1,3,4	3	2	市川　裕史・稲村　真実 加藤美季子・小嶋　洋介 高山　典子・竹本　研史 安川　孝	

授業科目	程度	開講ターム	単位	週時	担当者	備考
フランス語Ⅱ(演習)	Ⅱ	1,3,4	3	2	市川　裕史／ Nicolas Blanchard 市川　裕史・加藤美季子 加藤　三和・小林ゆり子 土屋　良二・安川　孝	
フランス語Ⅲ(講読)(1)	Ⅲ	1	1	2	土屋　良二	第1-3-4ターム連続して履修すること。 国際関係学科の外国語Ⅲに振替可能。
フランス語Ⅲ(講読)(3)	Ⅲ	3	1	2	土屋　良二	
フランス語Ⅲ(講読)(4)	Ⅲ	4	1	2	土屋　良二	
フランス語Ⅲ(演習)(1)	Ⅲ	1	1	2	市川　裕史／ Nicolas Blanchard Olivier Ruaud	
フランス語Ⅲ(演習)(3)	Ⅲ	3	1	2	市川　裕史／ Nicolas Blanchard Olivier Ruaud	
フランス語Ⅲ(演習)(4)	Ⅲ	4	1	2	市川　裕史／ Nicolas Blanchard Olivier Ruaud	
フランス語Ⅳ(1)	Ⅳ	1	1	2	北見　秀司	第1-3-4ターム連続して履修すること。 国際関係学科の外国語Ⅲに振替可能。 程度Ⅱの単位修得者は担当者の許可があれば程度Ⅳを履修できる。
フランス語Ⅳ(3)	Ⅳ	3	1	2	北見　秀司	
フランス語Ⅳ(4)	Ⅳ	4	1	2	北見　秀司	
ドイツ語Ⅰ(文法)	Ⅰ	1,3,4	3	2	松原　良輔・高本　教之 山口　知廣	
ドイツ語Ⅰ(演習)	Ⅰ	1,3,4	3	2	松鵜　功記・高本　教之 若林　恵	
ドイツ語Ⅱ(講読)	Ⅱ	1,3,4	3	2	松原　良輔・松鵜　功記 田邉　恵子	
ドイツ語Ⅱ(演習)	Ⅱ	1,3,4	3	2	Anette Liebhart 高本　教之・山口　知廣	
ドイツ語Ⅲ(講読)(1)	Ⅲ	1	1	2	田邉　恵子	国際関係学科の外国語Ⅲに振替可能。
ドイツ語Ⅲ(講読)(3)	Ⅲ	3	1	2	田邉　恵子	
ドイツ語Ⅲ(講読)(4)	Ⅲ	4	1	2	田邉　恵子	
ドイツ語Ⅲ(演習)(1)	Ⅲ	1	1	2	Anette Liebhart	
ドイツ語Ⅲ(演習)(3)	Ⅲ	3	1	2	Anette Liebhart	
ドイツ語Ⅲ(演習)(4)	Ⅲ	4	1	2	Anette Liebhart	
ドイツ語Ⅳ(1)	Ⅳ	1	1	2	田邉　恵子	国際関係学科の外国語Ⅲに振替可能。 程度Ⅱの単位修得者は担当者の許可があれば程度Ⅳを履修できる。
ドイツ語Ⅳ(3)	Ⅳ	3	1	2	田邉　恵子	
ドイツ語Ⅳ(4)	Ⅳ	4	1	2	田邉　恵子	
中国語Ⅰ(文法)	Ⅰ	1,3,4	3	2	阿部由美子・橋本　恭子 金子　真生・布川　雅英 関　智英	
中国語Ⅰ(演習)	Ⅰ	1,3,4	3	2	呉　志剛・何　珍時 李　洵・張　玉萍	
中国語Ⅱ(講読)	Ⅱ	1,3,4	3	2	阿部由美子・橋本　恭子 金子　真生・関　智英 鈴木　航	
中国語Ⅱ(演習)	Ⅱ	1,3,4	3	2	呉　志剛・何　珍時 姚　毅・ユ キンブン 張　玉萍	
中国語Ⅲ(講読)(1)	Ⅲ	1	1	2	鈴木　航	国際関係学科の外国語Ⅲに振替可能。
中国語Ⅲ(講読)(3)	Ⅲ	3	1	2	鈴木　航	
中国語Ⅲ(講読)(4)	Ⅲ	4	1	2	鈴木　航	
中国語Ⅲ(演習)(1)	Ⅲ	1	1	2	呉　志剛・李　洵	
中国語Ⅲ(演習)(3)	Ⅲ	3	1	2	呉　志剛・李　洵	
中国語Ⅲ(演習)(4)	Ⅲ	4	1	2	呉　志剛・李　洵	

授業科目	程度	開講ターム	単位	週時	担当者	備考
中国語Ⅳ(1)	Ⅳ	1	1	2	ユ キンブン	国際関係学科の外国語Ⅲに振替可能。 程度Ⅱの単位修得者は担当者の許可があれば程度Ⅳを履修できる。
中国語Ⅳ(3)	Ⅳ	3	1	2	ユ キンブン	
中国語Ⅳ(4)	Ⅳ	4	1	2	ユ キンブン	
ロシア語Ⅰ(文法)	Ⅰ	1,3,4	3	2	長井　淳	
ロシア語Ⅰ(演習)	Ⅰ	1,3,4	3	2	松嵜　英也	
ロシア語Ⅱ(講読)	Ⅱ	1,3,4	3	2	松嵜　英也	
ロシア語Ⅱ(演習)	Ⅱ	1,3,4	3	2	南平かおり	
ロシア語Ⅲ(講読)(1)	Ⅲ	1	1	2	長井　淳	国際関係学科の外国語Ⅲに振替可能。
ロシア語Ⅲ(講読)(3)	Ⅲ	3	1	2	長井　淳	
ロシア語Ⅲ(講読)(4)	Ⅲ	4	1	2	長井　淳	
ロシア語Ⅲ(演習)(1)	Ⅲ	1	1	2	南平かおり	
ロシア語Ⅲ(演習)(3)	Ⅲ	3	1	2	南平かおり	
ロシア語Ⅲ(演習)(4)	Ⅲ	4	1	2	南平かおり	
ロシア語Ⅳ(1)	Ⅳ	1	1	2	松嵜　英也	国際関係学科の外国語Ⅲに振替可能。 程度Ⅱの単位修得者は担当者の許可があれば程度Ⅳを履修できる。
ロシア語Ⅳ(3)	Ⅳ	3	1	2	松嵜　英也	
ロシア語Ⅳ(4)	Ⅳ	4	1	2	松嵜　英也	
スペイン語Ⅰ(文法)	Ⅰ	1,3,4	3	2	星川　真樹・Niko Schultz 高松　英樹・土屋　亮	
スペイン語Ⅰ(演習)	Ⅰ	1,3,4	3	2	Carolina Cristaldo・Lourdes Domenech	
スペイン語Ⅱ(講読)	Ⅱ	1,3,4	3	2	喜多田敏嵩・中井　博康 Niko Schultz・高松　英樹	
スペイン語Ⅱ(演習)	Ⅱ	1,3,4	3	2	Carolina Cristaldo・Olivier Ruaud	
スペイン語Ⅲ(講読)(1)	Ⅲ	1	1	2	土屋　亮	国際関係学科の外国語Ⅲに振替可能。
スペイン語Ⅲ(講読)(3)	Ⅲ	3	1	2	土屋　亮	
スペイン語Ⅲ(講読)(4)	Ⅲ	4	1	2	土屋　亮	
スペイン語Ⅲ(演習)(1)	Ⅲ	1	1	2	Carolina Cristaldo・Lourdes Domenech	
スペイン語Ⅲ(演習)(3)	Ⅲ	3	1	2	Cristina Cenzano Lourdes Domenech	
スペイン語Ⅲ(演習)(4)	Ⅲ	4	1	2	Carolina Cristaldo・Lourdes Domenech	
スペイン語Ⅳ(1)	Ⅳ	1	1	2	中井　博康	国際関係学科の外国語Ⅲに振替可能。 程度Ⅱの単位修得者は担当者の許可があれば程度Ⅳを履修できる。
スペイン語Ⅳ(3)	Ⅳ	3	1	2	中井　博康	
スペイン語Ⅳ(4)	Ⅳ	4	1	2	中井　博康	
韓国・朝鮮語Ⅰ(文法)	Ⅰ	1,3,4	3	2	稲毛　恵・金　愛慶 キム ジニョプ	
韓国・朝鮮語Ⅰ(演習)	Ⅰ	1,3,4	3	2	趙　銀栄・韓　昇熹	
韓国・朝鮮語Ⅱ(講読)	Ⅱ	1,3,4	3	2	稲毛　恵・張　景喚 金　愛慶・禹　丞美	
韓国・朝鮮語Ⅱ(演習)	Ⅱ	1,3,4	3	2	崔　敏敬・韓　昇熹 稲毛　恵・禹　丞美	
韓国・朝鮮語Ⅲ(講読)(1)	Ⅲ	1	1	2	張　景喚・禹　丞美	国際関係学科の外国語Ⅲに振替可能。
韓国・朝鮮語Ⅲ(講読)(3)	Ⅲ	3	1	2	張　景喚・禹　丞美	
韓国・朝鮮語Ⅲ(講読)(4)	Ⅲ	4	1	2	張　景喚・禹　丞美	
韓国・朝鮮語Ⅲ(演習)(1)	Ⅲ	1	1	2	崔　敏敬	
韓国・朝鮮語Ⅲ(演習)(3)	Ⅲ	3	1	2	崔　敏敬	
韓国・朝鮮語Ⅲ(演習)(4)	Ⅲ	4	1	2	崔　敏敬	

授　業　科　目	程度	開講ターム	単位	週時	担　当　者	備　考
韓国・朝鮮語Ⅳ(1)	Ⅳ	1	1	2	金　愛慶	国際関係学科の外国語Ⅲに振替可能。 程度Ⅱの単位修得者は担当者の許可があれば程度Ⅳを履修できる。
韓国・朝鮮語Ⅳ(3)	Ⅳ	3	1	2	金　愛慶	
韓国・朝鮮語Ⅳ(4)	Ⅳ	4	1	2	金　愛慶	
日本語Ⅰ(読解・作文)	Ⅰ	1,3,4	3	2	塩谷由美子	外国人留学生のための科目 (交換学生は「交換留学生のための日本語Ⅰ・Ⅱ」の履修が可能)
日本語Ⅰ(聴解・会話)	Ⅰ	1,3,4	3	2	志村ゆかり	
日本語Ⅱ(上級読解)	Ⅱ	1,3,4	3	2	志村ゆかり	
日本語Ⅱ(上級作文)	Ⅱ	1,3,4	3	2	関　麻由美	
日本語Ⅲ(1)	Ⅲ	1	1	2	塩谷由美子	外国人留学生のための科目
日本語Ⅲ(3)	Ⅲ	3	1	2	塩谷由美子	
日本語Ⅲ(4)	Ⅲ	4	1	2	塩谷由美子	
交換留学生のための日本語Ⅰ(読解・作文)(1)(2)(3)(4)	Ⅰ	1,2,3,4	各1	2	塩谷由美子	交換学生のための科目 363ページ参照 第２タームの週時は２または４
交換留学生のための日本語Ⅰ(聴解・会話)(1)(2)(3)(4)	Ⅰ	1,2,3,4	各1	2	志村ゆかり	
交換留学生のための日本語Ⅱ(上級読解)(1)(2)(3)(4)	Ⅱ	1,2,3,4	各1	2	志村ゆかり	
交換留学生のための日本語Ⅱ(上級作文)(1)(2)(3)(4)	Ⅱ	1,2,3,4	各1	2	関　麻由美	
日本語指導Ａａ(1)(2)(3)(4)		1,2,3,4	各1	2	関　麻由美	
日本語指導Ａｂ(1)(2)(3)(4)		1,2,3,4	各1	2	西部　由佳	
日本語指導Ｂａ(1)(2)(3)(4)		1,2,3,4	各1	2	作田　奈苗	
日本語指導Ｂｂ(1)(2)(3)(4)		1,2,3,4	各1	2	作田　奈苗	
日本語指導Ｃ(1)(2)(3)(4)		1,2,3,4	各1	2	塩谷由美子	
フランス語（特別演習）	Ⅰ	2	1	2または4	市川　裕史	
ドイツ語（特別演習）	Ⅰ	2	1	2または4	Anette Liebhart	
中国語（特別演習）	Ⅰ	2	1	2または4	鈴木　航	
ロシア語（特別演習）	Ⅰ	2	1	2または4	Diana Idzieva	
スペイン語（特別演習）	Ⅰ	2	1	2または4	星川　真樹	
韓国・朝鮮語（特別演習）	Ⅰ	2	1	2または4	崔　敏敬	
日本語Ⅰ(特別演習)(読解・作文)	Ⅰ	2	1	2または4	塩谷由美子	外国人留学生のための科目 (交換学生は「交換留学生のための日本語Ⅰ・Ⅱ」の(2)の履修が可能)
日本語Ⅰ(特別演習)(聴解・会話)	Ⅰ	2	1	2または4	志村ゆかり	
日本語Ⅱ(特別演習)(上級読解)	Ⅱ	2	1	2または4	志村ゆかり	
日本語Ⅱ(特別演習)(上級作文)	Ⅱ	2	1	2または4	関　麻由美	

３．健康余暇科学科目

３．健康余暇科学科目

（1）履修内容

全人教育の一貫として、自己および地球レベルの幅広い健康や余暇の問題に関心をはらい、社会に貢献し得る人材を育成するため、健康余暇科学として次の４つから成るカリキュラムを提供します。それらは、動きの教育 健康教育 余暇教育 ウェルネス研究 であり、余暇教育とウェルネス研究には、それぞれ多様な科目が提供されていて、各自の関心に基づいて選択履修することができます。

（2）履修方法

動きの教育（１単位）、健康教育（１単位）、余暇教育（0.5単位×２科目）、ウェルネス研究（１単位）の合計４単位を修得します。

動きの教育（１単位）は１年次に全員必修です。
指定されたクラスでの学修に加えて、普通救命講習会を受講します。

健康教育（１単位）は２年次に全員必修です。

余暇教育（0.5単位）は選択必修科目として、２年次から履修できます。２科目履修しなければなりませんが、各タームに１科目しか履修できません。必修以外に余暇教育を履修した場合、自由科目の単位として数えられます。
※レク活動とグループワーク・スポーツと身体スキル・フィットネスと健康はそれぞれ0.5単位ずつしか履修できません。３種類の中から２科目を履修してください。クラスによって内容が異なりますので、詳細はシラバス等で確認してください。

ウェルネス研究（１単位）は選択必修科目として、１年次から履修可能ですが、人数制限がある科目もあります。必修以外にウェルネス研究を履修した場合、自由科目の単位として数えられます。

ウェルネス研究（自由科目としても履修可）

野外教育	スポーツ心理学	健康心理学
人間関係論	カウンセリングの基礎	世界の身体文化表現論
武道身体文化論	スポーツ・ジェンダー論	女性の健康とキャリア

etc.

余暇教育（自由科目としても履修可）

（レク活動とグループワーク）	（スポーツと身体スキル）	（フィットネスと健康）
世界のダンスと文化	バドミントンと卓球	コンディショニング
日本のダンスと文化	インディアカと卓球	太極拳と中国舞踊
レクリエーション教育	ユニホックとフライングディスク	エアロビクスとオリエンタルエクササイズ
ボールゲーム	フットサルとバスケットボール	ボディワーク
	生涯スポーツとしての硬式テニス	
	生涯スポーツとしての武道	

etc.

健康教育
（２年次必修）

余暇教育
（２年次以降選択必修）

↑

動きの教育（１年次必修）　ウェルネス研究（１年次以降選択必修）

健康余暇科学

（３）授業科目名・単位

授業科目	程度	開講ターム	単位	週時	担当者	備考
＜動きの教育＞						
動きの教育	Ⅰ	1	1	2	井上　則子	
					茗井香保里	
					Maja Sori Doval	
		3			井上　則子	
					茗井香保里	
					大森　愛美	
					Maja Sori Doval	
		4			針ヶ谷雅子	
					井上　則子	
					茗井香保里	
					大森　愛美	
					Maja Sori Doval	
					谷野　悦代	
＜健康教育＞						
健康教育	Ⅱ	1	1	2	井上　則子	
					岡　　伊織	
		3			井上　則子	
					岡　　伊織	
					庄山すわ子	
		4			井上　則子	
					Maja Sori Doval	
＜余暇教育＞						
余暇教育 （レク活動とグループワーク）	Ⅱ～Ⅳ	1	0.5	2	針ヶ谷雅子	
					茗井香保里	
					大森　愛美	
		2		4または2	針ヶ谷雅子	
					小林　敦子	
					茗井香保里	
		3		2	茗井香保里	
					Maja Sori Doval	
					薄井澄誉子	
		4		2	針ヶ谷雅子	
					井上　則子	
余暇教育 （スポーツと身体スキル）	Ⅱ～Ⅳ	1	0.5	2	井上　則子	
					Maja Sori Doval	
					宇佐美かおる	
					薄井澄誉子	
		3		2	井上　則子	
					Maja Sori Doval	
					宇佐美かおる	
		4		2	Maja Sori Doval	
					宇佐美かおる	
余暇教育 （フィットネスと健康）	Ⅱ～Ⅳ	1	0.5	2	針ヶ谷雅子	
					井上　則子	
					シン　イェンリン	
					谷野　悦代	
		2		4または2	薄井澄誉子	
		3		2	井上　則子	
					シン　イェンリン	
					谷野　悦代	
		4		2	シン　イェンリン	
					薄井澄誉子	

授　業　科　目	程度	開講ターム	単位	週時	担　当　者	備　考
＜ウェルネス研究＞						
ウェルネス研究 （スポーツ心理学）	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	井上　則子	
ウェルネス研究 （人間関係論）	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	森岡さやか	
ウェルネス研究 （野外教育）	Ⅰ～Ⅳ	2	1	－	井上　則子	
ウェルネス研究 （世界の身体文化表現論）	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	Maja Sori Doval	
ウェルネス研究 （カウンセリングの基礎）	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	庄山すわ子	
ウェルネス研究 （健康心理学）	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	庄山すわ子	
ウェルネス研究 （武道身体文化論）	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	Maja Sori Doval	
ウェルネス研究 （スポーツ・ジェンダー論）	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	山田ゆかり	
ウェルネス研究 （女性の健康とキャリア）	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	大庭　さよ	
		4			大庭　さよ	

4. 英語英文学科

４-１．英語英文学科

（１）履修単位数

卒業に必要な最小限単位数は、以下の通りです。

必修科目
　セミナーおよび英語科目　46単位
　健康余暇科学科目　４単位
選択科目
　共通科目　15単位
　基幹科目　15単位
　発展科目　18単位
　卒業論文　６単位（注１：履修方法のイの㈩を参照してください。）
　外国語科目（第２外国語）　12単位
自由科目　18単位（注２：卒論指導を履修する場合、12単位となります。）
合計 128単位

（２）履修方法

イ．必修科目（50単位）

㈠　各年次に以下の必修科目を履修します。

年次			
１　年	２　年	３　年	４　年
基礎セミナー 英文学科での学び （または英語英文学科での学び） Literary Reading Ⅰ Extensive Reading Ⅰ Intensive Reading Ⅰ a/b Oral English Ⅰ Composition Ⅰ Pronunciation Ⅰ 動きの教育 ウェルネス研究	Literary Reading Ⅱ Academic Reading Ⅱ Academic Writing Ⅱ Academic Listening Ⅱ Oral English Ⅱ Grammar Ⅱ 健康教育 余暇教育	３年セミナー Academic Writing & Presentation Ⅲ	４年セミナー又は卒論指導（どちらかを選択。ただし、卒論指導を履修する場合は、卒業論文を書かなければなりません。）

㈡　英語英文学科には６つのコースがあります。

コース	コースの概要	履　修　方　法
英米文学コース	イギリスまたはアメリカの文学を通して、歴史的、文化的、社会的な視点から社会の価値観や世界観、人間観などを探究するコース	各コースではいくつかのセミナーを開設します。２年次と３年次の11月に、３年セミナー、４年セミナーに登録してください。どのセミナーを選ぶかによって、自動的に各自のコースが決まります。 （英米文学コースのセミナーは、３・４年生が一緒に学ぶ「合同セミナー」で行われます。）
イギリス文化コース	イギリス社会の多様なテーマを学ぶコース	
アメリカ文化コース	アメリカ社会について人種、エスニシティ、ジェンダー、階級、宗教など多角的な視点から学ぶコース	
英語学コース	英語をはじめとする言語の仕組み、言語の習得、英語と他言語との比較、言語と脳の関係、ことばと文化の関わりなどを学ぶコース	
コミュニケーションコース	言葉による説得や異文化間・対人コミュニケーション理論などを学ぶコース	
英語教育コース	応用言語学、第二言語習得の理論と実践を学ぶコース	

(ハ) 英語英文学科の６つのコースでは、４年次にセミナーに代わって卒論指導を取り、卒業論文を書くことができます。卒業論文を選択した場合、卒論指導（３単位）と卒業論文（６単位）の単位は単独では認定されず、常に同時に認定されます。（卒業論文は選択科目の単位として認定されます。それにともなって、自由科目の卒業に必要な最小限の単位数は12単位となります。）

なお、卒論を選択する場合には、原則としてAcademic WritingⅡ、Academic ReadingⅡ、Literary ReadingⅡのいずれの科目においても評価がC以上であることが必要とされます。

加えて、卒論指導および卒業論文の単位が修得できなかった場合、原則として翌年度以降の再履修はできません。

(ニ) 英語で行われる科目

「英語で行われる科目」は、２～４年次で英語による授業を受けることを目的としています。

英語で行われる必修科目のほかに、２～４年次で３単位以上英語で行われる科目を修得してください。

※例年、「英語で行われる科目」の登録を忘れて卒業要件を満たせない学生がいます。
履修登録時に注意してください。
2026年度開講の「英語で行われる科目」はp.145～146を参照。

ロ．選択科目

(イ) 共通科目（15単位）（「１．共通科目」のページ参照）

共通科目から15単位を修得してください。なお、次の科目を履修する場合は、できるだけ１年次で履修してください。

- 世界の文学（イギリス）
- 世界の文学（アメリカ）
- ことばの世界
- 異文化理解とコミュニケーション

(ロ) 基幹科目（15単位）

英語英文学科の基幹科目から15単位を修得してください。

- 「英米文学コース」を履修する学生は、イギリス文学史かアメリカ文学史のうち少なくとも１科目を履修することが望ましい。
- 「アメリカ文化コース」を履修する学生は、アメリカ文化概論を選択することが望ましい。
- 「英語学コース」を履修する学生は、英語学概論か英語史のうち少なくとも１科目を選択すること。
- 「コミュニケーションコース」を履修する学生は、コミュニケーション概論を選択すること。
- 「英語教育コース」を履修する学生は、第二言語習得概論（英語教育）を選択すること。

(ハ) 発展科目（18単位）

英語英文学科の発展科目から18単位を修得してください。

(ニ) 外国語科目（12単位）（「２．外国語科目」のページ参照）

１、２年次にわたって、第２外国語のうち１言語12単位を修得

ハ．単位修得後、同一科目をくりかえし履修することは原則できません。ただし、サブセミナーの履修については、この限りではありません。

ニ．自由科目

18単位を修得してください。ただし卒業論文を修得した場合には、卒業に必要な自由科目は12単位となります。

※自由科目として履修できる科目は、(ハ)以外の本学の全開講科目、および他大学における専門科目で本学科が認める科目です。

(イ) 以下の科目は自由科目とすることができます。

- 共通科目、健康余暇科学科目、英語英文学科の基幹科目、発展科目の中で、必修科目または選択科目として修得したもの以外の科目
- 語学研修（英語）の認定単位
- 外国語科目のうち、選択科目として修得した言語以外の外国語（程度Ⅰ～Ⅳ）、および選択科目として修得した外国語の程度Ⅲ・Ⅳの科目
- 教職に関する科目のうち英語科指導法、教職概論、教育基礎論、教育組織論、教育心理学、教育課程論、教育メディアの研究、教育相談の研究

(ロ) 以下の科目は、自由科目として修得必要単位数に算入できる単位数に制限があります。

- 日本語教員養成課程の必修科目は６単位まで自由科目として修得必要単位数に算入できます。

(ハ) 以下の科目は自由科目とすることができません。
- 上記(イ)にある科目を除く教職に関する科目
- 交換学生（外国人学生）のみに開講されている科目
- 随意科目

（３）特設プログラムについて （※通訳プログラムは2025年度から新規募集終了）

■「翻訳・通訳プログラム」の履修は次のとおりです。募集対象は原則として英語英文学科の学生のみです。

1．履修定員は各プログラム15名を上限とする。
2．履修は、３年次生および出席可能な４年次生とする。
3．履修は在学中に修了する。
4．「翻訳の世界ａ」および「通訳の世界ａ」を除き、必修科目は、原則として同一学年内に履修する。
5．選考は、学科で行う。
6．選考は、GPA、課題、および志望書等をもとに１月中に行う。
7．３年次編入または転部・転科の学生は、編入もしくは転部・転科時までに履修している科目、志望動機書、課題等によって選考する。
8．「翻訳の世界ａ」および「通訳の世界ａ」を除き、不合格となった必修科目の翌年度の再履修は認めない。
9．各プログラムで定められた単位を修得した者には、卒業時に修了証明書が発行される。
10．在学中に翻訳プログラム、通訳プログラムの両方を履修することはできない。

		（　）数字は単位数。
必修科目	【翻訳プログラム】 ９単位	翻訳入門１(2)　翻訳入門２(1)　2021年度以降 翻訳入門ａ(1)　翻訳入門ｂ(1)　翻訳入門ｃ(1) 翻訳の理論と実践(3)　翻訳の世界(3) 2025年度以降　翻訳の世界ａ(1)　翻訳の世界ｂ(1)　翻訳の世界ｃ(1)
	【通訳プログラム】 ９単位	通訳入門１(2)　通訳入門２(1)　2021年度以降 通訳入門ａ(1)　通訳入門ｂ(1)　通訳入門ｃ(1) 通訳の理論と実践(3)　通訳の世界(3) 2025年度以降　通訳の世界ａ(1)　通訳の世界ｂ(1)　通訳の世界ｃ(1)

※2025年度通訳プログラム履修生は、別途TsudaNetから配付されている「2025年度通訳プログラム履修のしおり（別紙）」に記載の通りの科目の修得でも修了要件を満たす。

■「Teachers of Excellence」プログラムの履修は次のとおりです。募集対象は原則として英語英文学科の学生のみです。

1．プログラムの履修は、英語の教職課程を履修し、卒業時に教員免許取得が見込まれることを条件とする。
2．履修定員は20名を上限とする。
3．履修は在学中に修了する。
4．選考は、学科で行う。
5．プログラムの履修を希望する学生は、２年次の１月にプログラム履修希望の申し込みを行う。
6．選考は、学科必修科目（英語）および教職科目の成績をもとに２年次の３月に行う。
7．プログラム向けに独自に設定されている科目の「The Practice of Teaching Oral English」は３年次または４年次に履修する。履修にあたっては、英語科指導法Ⅰ・英語科指導法Ⅱを修得済み、または履修中であることを条件とする。
8．推奨科目：サービスラーニングまたはインデペンデントスタディ。これらの科目の履修にあたっては、英語科指導法Ⅰ・英語科指導法Ⅱ・初等英語教育研究を修得済み、または履修中であることが望ましい。
- サービスラーニングでは、小・中学校の教育現場で学習ボランティアとして、外国語（英語）活動および英語の授業の支援に携わる実習体験を行う。
- インデペンデントスタディでは、津田塾大学自主フォーラム「英語のひろば」がキャンパス内外で小・中学生を対象に提供するプログラムに、所定の期間、学生スタッフとして関与する。
  ※自主フォーラム「英語のひろば」の活動については、津田塾大学のHPおよび大学の情報誌plum garden（Official Web Magazine）を参照のこと。
- 科目履修については、学外学修・キャリアセンターの定める条件にしたがって手続きをすること。

9．随意科目のサービスラーニングおよびインデペンデントスタディは、英語英文学科の最低修得必要単位数（128単位）に算入できない。
10．定められた単位を修得した者には、卒業時に修了証明書が発行される。
11．不合格または失格となった「The Practice of Teaching Oral English」の翌年度の再履修は認めない。

必修科目（６単位）		（　）数字は単位数。
	The Practice of Teaching Oral English(1)	Teachers of Excellenceプログラム向けに独自に設定されている科目
	初等英語教育研究(3)	英語英文学科　発展科目
	第二言語習得論(日本語教育)(2)	日本語教員養成課程　必修科目
選択科目（６単位）	以下の科目群から６単位以上を履修する。	
	イギリス文学概論（詩・演劇・小説） Bible Studies コミュニケーション概論 Japan Studies in English（Introduction）	アメリカ文学特殊講義 英語史 演劇と教育
推奨科目（１単位）	サービスラーニング(1)または インデペンデントスタディ(1)	随意科目

（４）日本語教員養成課程

日本語教員養成課程を修了するためには、必修科目として６科目17単位、選択必修科目として１科目以上３単位、自由選択科目20単位、合計40単位を履修しなければなりません（「10. 日本語教員養成課程」のページ参照）。必修科目は、以下の通りです。

日本語教授法（３単位）
日本語教材・教具論（３単位）
日本語教育実習（３単位）　※2022年度までの「日本語教授法演習」（３単位）
日本語学概論（３単位）
日本語文法概論（３単位）
第二言語習得論（日本語教育）（２単位）

（５）語学研修

語学研修プログラムの単位認定については、「Ⅲ　履修について」の「(14)その他の単位認定」のページを参照してください。

（６）教職課程

教職課程を履修する学生は、定められた単位をかならず修得してください。
詳細については、「9. 教職課程」のページを参照してください。

（７）学士・修士５年プログラム

学士・修士５年プログラムでは、４年間の学部教育（学芸学部英語英文学科）と１年間の大学院教育（文学研究科修士課程）を有機的に組み合わせ、最短５年間で「学士」と「修士」の学位が取得できます。

３年次：第２タームまでの成績が一定の基準（GPA 3.7以上）を満たし、学士・修士５年プログラムへの参加を希望する学生は、２月に選考を受け、合格した場合は、４年次より学士・修士５年プログラム候補生になることが許可されます。

４年次：本プログラム候補生は、学部４年次に大学院文学研究科科目等履修生として大学院文学研究科修士課程の科目の履修を開始することができます。10月に選考を受け、合格した場合は、大学院への入学が許可されます。本プログラム候補生として学部４年次に修得した大学院文学研究科修士課程の科目の単位は、文学研究科履修規程「10. 課程修了のための単位数」に基づき10単位まで、大学院文学研究科修士課程に進学した際に、入学前の既修得単位として認定されます。

（８）英語英文学科　2018年度入学者用　標準カリキュラム表

	1　年　次				2　年　次			
	授　業　科　目	程度	単位	週時	授　業　科　目	程度	単位	週時
必修科目	基礎セミナー	Ⅰ	3	2	Literary Reading Ⅱ	Ⅱ	3	2
	英文学科での学び(または英語英文学科での学び)	Ⅰ	1	2	Academic Reading Ⅱ	Ⅱ	3	2
	Literary Reading Ⅰ	Ⅰ	3	2	Academic Writing Ⅱ	Ⅱ	3	2
	Extensive Reading Ⅰ	Ⅰ	1	2	Academic Listening Ⅱ	Ⅱ	3	2
	Intensive Reading Ⅰ a	Ⅰ	1	2	Oral English Ⅱ	Ⅱ	3	2
	Intensive Reading Ⅰ b	Ⅰ	1	2	Grammar Ⅱ	Ⅱ	3	2
	Oral English Ⅰ	Ⅰ	3	2				
	Composition Ⅰ	Ⅰ	3	2				
	Pronunciation Ⅰ	Ⅰ	3	2				
	健康余暇科学科目				健康教育	Ⅱ	1	2
	動きの教育	Ⅰ	1	2	余暇教育	Ⅱ	0.5×2	2
	ウェルネス研究	Ⅰ	1	2				
選択科目	共通科目(15単位)							
					基幹科目（15単位） イギリス文学史、イギリス概論、イギリス文化概論、イギ文章講座 b (Creative Writing)★、文章講座 c (ジャーナリ英語英文学科特別講義(英語)★、英文学科特別講義(英語)異文化コミュニケーション理論★、Japan Studies in English			
					発展科目（18単位） イギリス文学特殊講義(詩)、イギリス文学特殊講義(演劇)、アメリカ文学特殊講義★、文学批評、イギリス研究特殊講グローバルヒストリーのなかのイギリス、イギリス社会アメリカ文化 a ・ b ・ c 、American Studies a ★・ s ★・中・古英語、形態論、文法論、意味・語用論、音韻論、日Diaspora Studies★、演劇と教育、多文化共生論(3)・(4)、Japan Studies in English(Project)★、音声学、Journalistic Introduction to Statistics in English★			
	外国語科目（12単位） 次の科目から１言語２科目（６単位） フランス語、ドイツ語、スペイン語、ロシア語、中国語、韓国・朝鮮語	Ⅰ	6		１年次で履修した外国語科目と同じ言語の程度Ⅱを１言語２科目（６単位）	Ⅱ	6	
自由科目	教職に関する科目のうち英語科指導法、教職概論、教育基礎論、教育組織論、教育心理学、教育課程論、教育メディアの研その他、上記以外の教職に関する科目、交換学生（外国人学生）のみに開講されている科目および随意科目を除く、本学のなお、日本語教員養成課程の必修科目は６単位までを自由科目として最低修得必要単位数に算入することができる。 英語英文学科特設講義、ボキャブラリー演習☆、英語指導者のための英語の知識、目利きが選ぶ特別な一冊―文学の扉を開く、言葉は旅をする：翻訳から世界をみる、通訳概論 a・b ・ c 、通訳実践、生成AI時代のアカデミック・スキルズ							

（注）１．科目名に★印が付いているものは、学科が指定する「英語で行われる科目」。☆印がついているものは、2023年度までの「英語で行われる科目」。
２．卒論指導（４年次、３単位）と卒業論文（６単位）の単位は、単独では認定されず、常に同時に認定される。両科目は履修制約科目であるので、「Ⅲ 履修について」の履修制約科目のページを参照すること。
３．卒業論文（６単位）は選択科目の単位として認定されるが、それにともなって、卒業論文を書く学生の自由科目の最低履修単位数は12単位となる。
４．通訳プログラムの履修は2025年度履修生まで。

３　年　次				４　年　次				計
授　業　科　目	程度	単位	週時	授　業　科　目	程度	単位	週時	
３年セミナー Academic Writing & PresentationⅢ	Ⅲ Ⅲ	3 3	2 2	４年セミナー又は卒論指導（注2）	Ⅳ	3	2	46
								4
								15
リス文学概論(詩・演劇・小説)、Bible Studies★、アメリカ文学史、アメリカ文化概論、文章講座ａ(翻訳)、 ズム)、英語学概論、英語史、社会言語学、第二言語習得概論(英語教育)、翻訳・通訳特別講義、 ★、コミュニケーション概論、Cultural Representation in Media★、言語とコミュニケーション★、 (Introduction)★、Media Literacy★、Creative Drama								15
イギリス文学特殊講義(小説)、アメリカ演劇特殊講義、グローバル文学(英語)特殊講義、 義ａ・ｂ、Contemporary British Society and Culture ａ★・ｂ★、イギリス社会史ａ・ｂ、イギリス文化史ａ・ｂ、 (1)★・(3)★・(4)★、イギリス史(1)★・(3)★・(4)★、イギリス経済(1)・(3)・(4)、アメリカ小説ａ・ｂ・ｃ、 ｂ★・ｃ★、アメリカ政治(1)・(3)・(4)、アメリカ経済(アメリカ経済史)(1)、アメリカ経済(現代アメリカ経済論)(3)・(4)、 英語の比較、英語学特殊講義ａ・ｂ、認知科学と言語教育、ギリシャ語・ラテン語演習ａ・ｂ、初等英語教育研究、 言語政策、マルチリンガリズム、言語教育とジェンダー、Public Speaking★、Debate★、 English★、Film Reviewing★、Oral Communication★、Japan Studies in English(Lecture)★、 **【特設プログラム(注4)】** 翻訳プログラム：翻訳入門１・２、翻訳入門ａ・ｂ・ｃ、翻訳の理論と実践、翻訳の世界、翻訳の世界ａ・ｂ・ｃ 通訳プログラム：通訳入門１・２、通訳入門ａ・ｂ・ｃ、通訳の理論と実践、通訳の世界、通訳の世界ａ・ｂ・ｃ Teachers of Excellenceプログラム：The Practice of Teaching Oral English★								18
								12
				卒業論文（６単位）（注2）				（＋６）
究、教育相談の研究。 全開講科目。本学主催語学研修（英語）の認定単位。他大学における専門科目で、本学科が認める科目。 Gender and Sexuality in Japan★、Women in Japanese History★、Digital Humanities★、コロナ禍に立ち向かう世界ａ・ｂ、								18 （－６） （注3）
							最低修得必要単位数	128

（９）授業科目名・単位（2018年度入学者用）

授業科目	程度	開講ターム	単位	週時	担当者	備考
【必修科目】						
［１年次必修］						
基礎セミナー	Ⅰ	1,3,4	3	2	152ページ参照	
英語英文学科での学び	Ⅰ	1	1	2	英語英文学科教員	オムニバス講義 2018年度までの「英文学科での学び」
Literary Reading Ⅰ	Ⅰ	1,3,4	3	2	152ページ参照	
Extensive Reading Ⅰ	外国語科目のページ参照					
Intensive Reading Ⅰ a						
Intensive Reading Ⅰ b						
Oral English Ⅰ						
Composition Ⅰ						
Pronunciation Ⅰ						
動きの教育	健康余暇科学科目のページ参照					
ウェルネス研究						
［２年次必修］						
Literary Reading Ⅱ	Ⅱ	1,3,4	3	2	152～153ページ参照	
Academic Reading Ⅱ	Ⅱ	1,3,4	3	2		
Academic Writing Ⅱ	Ⅱ	1,3,4	3	2		
Academic Listening Ⅱ	Ⅱ	1,3,4	3	2		
Oral English Ⅱ	Ⅱ	1,3,4	3	2		
Grammar Ⅱ	Ⅱ	1,3,4	3	2		
健康教育	健康余暇科学科目のページ参照					
余暇教育						
［３年次必修］						
３年セミナー	Ⅲ	1,3,4	3	2	153～154ページ参照	
Academic Writing & Presentation Ⅲ	Ⅲ	1,3,4	3	2		
［４年次必修］						
４年セミナー	Ⅳ	1,3,4	3	2	154ページ参照	
卒論指導	Ⅳ	1,3,4	3	2		
卒論論文	Ⅳ	－	6	－		
【選択科目】						
［共通科目］						
共通科目のページ参照						
［基幹科目］						
イギリス文学史	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	阿部　曜子／米須　初美／原田　範行	原則として３年次以上でとることが望ましい。
アメリカ文学史	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	木原　健次	
イギリス文学概論（詩・演劇・小説）	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	阿部　曜子／中谷　森／早川　敦子	原則として２年次でとることが望ましい。
Bible Studies	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	Matthew M. Hanley	★
イギリス文化概論	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	伊藤　航多／菅　靖子	2018年度までの「イギリス概論」
アメリカ文化概論	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	大類　久恵	アメリカ文化コースを履修したい学生は、２年次でとることが望ましい。
英語学概論	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	郷路　拓也／佐藤　陽介／井原　駿	原則として２年次でとることが望ましい。
英語史	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	海田　皓介	
社会言語学	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	朝日　祥之	
コミュニケーション概論	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	川野　優希	
第二言語習得概論（英語教育）	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	星野　徳子／稲垣　善律	

★は英語英文学科指定の「英語で行われる科目」

授　業　科　目	程度	開講ターム	単位	週時	担　当　者	備　考
言語とコミュニケーション	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	Soo-Hye Han	★
異文化コミュニケーション理論	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	Elizabeth I. Dow	★
Japan Studies in English (Introduction)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	Dylan Hallingstad O'Brien	★
英語英文学科特別講義(英語)	Ⅱ～Ⅳ	2	1	4	Brian J. Sayers	★2018年度までの「英文学科特別講義(英語)」
文章講座 a（翻訳）	Ⅱ～Ⅳ	2	1	4	和田　一美	
文章講座 b (Creative Writing)	Ⅱ～Ⅳ	2	1	4	Marc Lowenstein	★
文章講座 c (ジャーナリズム)	Ⅱ～Ⅳ	2	1	4	木村　恭子	
Cultural Representation in Media	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	Misha Cade	★
Media Literacy	Ⅱ～Ⅳ	2	1	2	John W. Cheng	★
Creative Drama	Ⅰ～Ⅳ	2	1	4	小林由利子	
翻訳・通訳特別講義	Ⅱ～Ⅳ		1			(本年度休講)
［発展科目］						
イギリス文学特殊講義(詩)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	米須　初美	
イギリス文学特殊講義(小説)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	早川　敦子	
イギリス文学特殊講義(演劇)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	中谷　　森	
アメリカ演劇特殊講義	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	佐藤　里野	(隔年開講)
イギリス研究特殊講義 a	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	佐藤　繭香	
イギリス研究特殊講義 b	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	町本　亮大	
Contemporary British Society and Culture a	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	Brian J. Sayers	★ ３年次以上でとることが望ましい。
Contemporary British Society and Culture b	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	Brian J. Sayers	★ ３年次以上でとることが望ましい。
グローバル文学(英語)特殊講義	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	米須　初美	
アメリカ文学特殊講義	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	Michael Pronko	★
アメリカ小説 a	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	相木　裕史	
アメリカ小説 b	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	池野みさお	
アメリカ小説 c	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	木原　健次	
文学批評	Ⅱ～Ⅳ	3,4	2	2	大田　信良	
イギリス社会(1)	国際関係学科のページ参照					★(本年度休講)「EnglishⅢ(British History)(1)(3)(4)」(国際) 「ヨーロッパ社会（イギリス）(1)(3)(4)」(国際) 2022年度までの「EnglishⅢ(Lecture)(1)(3)(4)」(サブタイトル:ヨーロッパ社会(イギリス))(国際)
イギリス社会(3)						
イギリス社会(4)						
アメリカ文化 a	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	増井由紀美	
アメリカ文化 b	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	倉林　直子	
アメリカ文化 c	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	小澤　智子	
イギリス史(1)	国際関係学科のページ参照					★「EnglishⅢ(British History)(1)(3)(4)」(国際) 2022年度までの「EnglishⅢ(Lecture)(1)(3)(4)」(サブタイトル：イギリス史)(国際)
イギリス史(3)						
イギリス史(4)						
イギリス経済(1)						「ヨーロッパ経済(イギリス)(1)(3)(4)」(国際)
イギリス経済(3)						
イギリス経済(4)						
アメリカ政治(1)	国際関係学科のページ参照					
アメリカ政治(3)						
アメリカ政治(4)						
アメリカ経済(アメリカ経済史)(1)						
アメリカ経済(現代アメリカ経済論)(3)						
アメリカ経済(現代アメリカ経済論)(4)						

★は英語英文学科指定の「英語で行われる科目」

授　業　科　目	程度	開講ターム	単位	週時	担　当　者	備　考
中・古英語	Ⅱ～Ⅳ	3,4	2	2	海田　皓介	
形態論	Ⅱ～Ⅳ	1,3	2	2	佐藤　陽介	
文法論	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	佐藤　陽介	
意味・語用論	Ⅱ～Ⅳ	1,3	2	2	井原　　駿	
音韻論	Ⅱ～Ⅳ	1,3	2	2	都田　青子	
日英語の比較	Ⅱ～Ⅳ	1,3	2	2	都田　青子	「対照言語学１」（多文化）
音声学	Ⅲ	1,3,4	3	2	広実　義人 都田　青子 小川　直樹 山内智恵子	
英語学特殊講義 a	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	郷路　拓也	
英語学特殊講義 b	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	小野　　創	
Oral Communication	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	Soo-Hye Han	★
Diaspora Studies	Ⅱ～Ⅳ	2	1	4	Dylan Hallingstad O'Brien	★
認知科学と言語教育	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	久野　雅樹	
ギリシャ語・ラテン語演習 a	Ⅱ～Ⅳ		3			（本年度休講） ギリシャ語／ラテン語を隔年で開講 2027年度「ギリシャ語」
ギリシャ語・ラテン語演習 b	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	吉川　　斉	2026年度開講「ラテン語」
初等英語教育研究	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	執行　智子	
演劇と教育	Ⅱ～Ⅳ	3,4	2	2	小林由利子	
多文化共生論(3)	多文化・国際協力学科のページ参照					
多文化共生論(4)						
言語教育とジェンダー						
言語政策						
マルチリンガリズム						
Journalistic English	Ⅲ	1	1	2	Bernard F. Wilson	★
Film Reviewing	Ⅲ	3	1	2	Bernard F. Wilson	★
Public Speaking	Ⅲ	4	1	2	Bernard F. Wilson	★
Debate	Ⅱ～Ⅳ	2	1	4	Paul Kallender	★
Japan Studies in English (Project)	Ⅲ～Ⅳ	3	1	2	Dylan Hallingstad O'Brien	★
Japan Studies in English (Lecture)	Ⅲ～Ⅳ	1,3,4	3	2	藤野　悠子	★（隔年開講）
イギリス社会史 a	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	菅　　靖子	「ヨーロッパ社会（イギリス史）(1)」（国際）
イギリス社会史 b	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	成田　芙美	「ヨーロッパ社会（イギリス史）(3)」（国際）
イギリス文化史 a	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	町本　亮大	「ヨーロッパ文化（イギリス）(1)」（国際）
イギリス文化史 b	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	坂口美知子	「ヨーロッパ文化（イギリス）(4)」（国際）
グローバルヒストリーのなかのイギリス	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	伊藤　航多	
American Studies a	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	Evan Chaloupka	★
American Studies s	Ⅱ～Ⅳ	2	1	4	Evan Chaloupka	★
American Studies b	Ⅱ～Ⅳ		1			★（本年度休講）
American Studies c	Ⅱ～Ⅳ		1			★（本年度休講）
Introduction to Statistics in English	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	小野　　創	★
［外国語科目］						
第二外国語　程度Ⅰ（文法・演習）	外国語科目のページ参照					
第二外国語　程度Ⅱ（講読・演習）						

★は英語英文学科指定の「英語で行われる科目」

授　業　科　目	程度	開講ターム	単位	週時	担　当　者	備　考
［日本語教員養成課程］						
日本語教授法	Ⅲ	1,3,4	3	2	古川　敦子	「日本語教材・教具論」、「日本語文法概論」の単位修得後に履修することが望ましい。
日本語教材・教具論	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	古川　敦子	
日本語教育実習	Ⅳ	1,3,4	3	2	古川　敦子 鈴木　靖代 武　　一美	「日本語教授法」の単位修得者のみ履修可。また他の日本語教員養成課程の必修科目単位修得後に履修することが望ましい。 2022年度までの「日本語教授法演習」
第二言語習得論（日本語教育）	Ⅱ～Ⅳ	1,3	2	2	烏　　日哲	
日本語学概論	Ⅰ～Ⅳ	1,3,4	3	2	内田　宗一	
日本語文法概論	Ⅰ～Ⅳ	1,3,4	3	2	庵　　功雄	
日本語学特殊講義１	Ⅱ～Ⅳ	3,4	2	2	宇佐美　洋	
日本語教育の学び	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	古川　敦子	
対照言語学１	Ⅱ～Ⅳ	1,3	2	2	都田　青子	「日英語の比較」（発展科目）
対照言語学２	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	佐藤　陽介	
［翻訳プログラム］						
翻訳入門 a	Ⅲ	1	1	2	柳田　利枝	2020年度までの「翻訳入門１」「翻訳入門２」
翻訳入門 b	Ⅲ	3	1	2	柳田　利枝	
翻訳入門 c	Ⅲ	4	1	2	柳田　利枝	
翻訳の理論と実践	Ⅲ	1,3,4	3	2	早川　敦子	
翻訳の世界 a	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	中谷　　森	2024年度までの「翻訳の世界」 「翻訳の世界 a」は翻訳プログラム履修者以外も履修可。
翻訳の世界 b	Ⅲ	3	1	2	中谷　　森	
翻訳の世界 c	Ⅲ	4	1	2	寺井　暁子	
［Teachers of Excellenceプログラム］						
The Practice of Teaching Oral English	Ⅲ～Ⅳ	4	1	2	Joshua B. Antle	★
【自由科目】						
教職に関する科目のうち英語科指導法、教職概論、教育基礎論、教育組織論、教育心理学、教育課程論、教育メディアの研究、教育相談の研究。 その他、上記以外の教職に関する科目、交換学生（外国人学生）のみに開講されている科目および随意科目を除く、本学の全開講科目。本学主催語学研修（英語）の認定単位。他大学における専門科目で、本学科が認める科目。 なお、日本語教員養成課程の必修科目は６単位までを最低修得必要単位数に算入することができる。						
英語英文学科特設講義	Ⅰ～Ⅳ		1			（本年度休講）
語学研修（英語）	Ⅰ～Ⅳ		2			
ボキャブラリー演習	Ⅰ～Ⅳ	2	1	4	Paul M. Garside	
言葉は旅をする： 翻訳から世界をみる	Ⅰ～Ⅳ	2	1	4	早川　敦子	実験的講座
通訳概論 a	Ⅰ	1	1	2	住本　時久	
通訳概論 b	Ⅰ	3	1	2	住本　時久	
通訳概論 c	Ⅰ	4	1	2	住本　時久	
通訳実践	Ⅰ	2	1	4	和田　一美	
生成AI時代のアカデミック・スキルズ	Ⅰ	2	1	4	郷路　拓也	実験的講座

★は英語英文学科指定の「英語で行われる科目」

４-２．英語英文学科

（１）履修単位数

卒業に必要な最小限単位数は、以下の通りです。

必修科目

セミナーおよび英語科目	46単位
健康余暇科学科目	４単位

選択科目

共通科目	15単位
基幹科目	15単位
発展科目	18単位
卒業論文または卒業研究	６単位（履修方法のイの㈩を参照してください。）
外国語科目（第２外国語）	12単位
自由科目	18単位（卒論指導・卒業研究プロジェクトを履修する場合、12単位となります。）
合計	128単位

（２）履修方法

イ．必修科目（50単位）

㈠　各年次に以下の必修科目を履修します。

年次			
１　年	２　年	３　年	４　年
基礎セミナー 英語英文学科での学び Literary Reading Ⅰ Extensive Reading Ⅰ Intensive Reading Ⅰ a/b Oral English Ⅰ Composition Ⅰ Pronunciation Ⅰ 動きの教育 ウェルネス研究	Literary Reading Ⅱ Academic Reading Ⅱ Academic Writing Ⅱ Academic Listening Ⅱ Oral English Ⅱ Grammar Ⅱ 健康教育 余暇教育	３年セミナー Academic Writing & Presentation Ⅲ	【英語圏言語文化専攻】 ４年セミナー又は卒論指導（どちらかを選択。卒論指導を履修する場合は、卒業論文を合わせて履修しなければなりません。） 【異文化コミュニケーション専攻】 卒業研究プロジェクト（卒業研究と合わせて履修しなければなりません。）

㈡　英語英文学科には２専攻、６コースがあります。

２年次に専攻登録を行います。一旦確定した専攻については原則変更は認めません。

所属コースはその年度に履修する３年セミナー、４年セミナー、卒論指導、卒業研究プロジェクトによって自動的に決まります。

英語圏言語文化専攻	コースの概要
イギリス文学・文化コース	イギリスとその関連地域の文学や歴史をとおして、背景となる思想や制度について学び、言語や文化、社会のあり方について広く考察するコースです。
アメリカ文学・文化コース	アメリカの文学や歴史を人種・民族・ジェンダーなどの視点から読み解き、多文化社会アメリカについて理解を深めるコースです。
英語学・言語学コース（2023年度以前入学者は英語学コース）	英語をはじめとする人間言語について、獲得や理解の過程、言語間の構造の差異、ことばと社会の関係などの探求を通して学ぶコースです。
英語教育コース	応用言語学、第二言語習得の理論と実践を学ぶコースです。
異文化コミュニケーション専攻	コースの概要
異文化コミュニケーションコース	理論的、実践的な学びをとおして、グローバル社会で求められる高度な英語力、異文化コミュニケーション能力を学ぶコースです。
Japan Studies in Englishコース	英語圏文化における「日本＝Japan」のイメージを分析し、移動や越境、翻訳といった観点から「日本＝Japan」を研究するコースです。

※英語英文学科の異文化コミュニケーション専攻（異文化コミュニケーションコース、Japan Studies in Englishコース）においては、国内外での学修・異文化体験を推奨します。その場合には、交通費、滞在費、保険料など、別途費用がかかりますが、すべて自己負担となります。

(ハ) ３年セミナー、４年セミナー、卒論指導、卒業研究プロジェクト

英語英文学科では、３年次には３年セミナーが必修科目となっています。４年次には、英語圏言語文化専攻では４年セミナーまたは卒論指導、異文化コミュニケーション専攻では卒業研究プロジェクトが必修科目となっています。なお、卒論指導は必ず卒業論文と合わせて、卒業研究プロジェクトは必ず卒業研究と合わせて履修します。各科目の登録手続きについては(3)を参照してください。

• ３年セミナー

所属する専攻の３年セミナーを履修します。

• ４年セミナー

英語圏言語文化専攻の４コースで開設されます。英語圏言語文化専攻では、４年次に卒論指導を履修しない場合は４年セミナーを履修しなければなりません。

• 卒論指導

英語圏言語文化専攻の４コースで開設されます。英語圏言語文化専攻では、４年セミナーに代わって卒論指導を履修し、卒業論文を書くことができます。卒業論文を書くことを選択した場合、卒論指導と卒業論文を同時に履修しなければなりません。卒論指導（３単位）と卒業論文（６単位）の単位は単独では認定されず、常に同時に認定されます。（卒業論文は選択科目の単位として認定されます。それにともなって自由科目の卒業に必要な最小限の単位数は12単位となります。）なお、卒論指導は一定の条件を満たさないと履修できません。詳しい履修制約の条件についてはp.77を参照してください。加えて、卒論指導および卒業論文の単位が修得できなかった場合、原則として翌年度以降の再履修はできません。

• 卒業研究プロジェクト

異文化コミュニケーション専攻の２コースで開設されます。異文化コミュニケーション専攻では、４年次に卒業研究プロジェクトを履修し、卒業研究を行います。原則として３年セミナーと同じコースの卒業研究プロジェクトを履修します。卒業研究プロジェクト（３単位）と卒業研究（６単位）の単位は単独では認定されず、常に同時に認定されます。（卒業研究は選択科目の単位として認定されます。それにともなって自由科目の卒業に必要な最小限の単位数は12単位となります。）なお、卒業研究プロジェクトを履修するためには、３年セミナーを修得済みであることが必要です。ただし、留学した学生など、しかるべき理由があれば３年セミナーと卒業研究プロジェクトおよび卒業研究との同時履修を認めます。

(ニ) 英語で行われる科目

学科が指定する「英語で行われる科目」を所属する専攻に応じて以下の通り修得することが卒業要件に含まれます。（「英語で行われる科目」は、３年次以降も英語による授業を履修することを目的に定めています。）

英語圏言語文化専攻：２～４年次で「英語で行われる科目」を３単位以上修得すること。

異文化コミュニケーション専攻：２～４年次で「英語で行われる科目」を10単位以上修得すること。

※英語で行われる必修科目は「英語で行われる科目」には含まれないので注意してください。

※例年、「英語で行われる科目」の登録を忘れて卒業要件を満たせない学生がいます。履修登録時に注意してください。

2026年度開講の「英語で行われる科目」は以下のとおりです。

科　目　名	開講ターム	単位	担　当　者	備　　考
American Studies a	1	1	Evan Chaloupka	
American Studies s	2	1	Evan Chaloupka	
American Studies b				（本年度休講）
American Studies c				（本年度休講）
Bible Studies	1,3,4	3	Matthew M. Hanley	
Contemporary British Society and Culture a	1	1	Brian J. Sayers	
Contemporary British Society and Culture b	3	1	Brian J. Sayers	
Cultural Representation in Media	4	1	Misha Cade	
Debate	2	1	Paul Kallender	
Diaspora Studies	2	1	Dylan Hallingstad O'Brien	
Film Reviewing	3	1	Bernard F. Wilson	
Introduction to Statistics in English	3	1	小野　　創	
Japan Studies in English (Introduction)	1	1	Dylan Hallingstad O'Brien	
Japan Studies in English (Project)	3	1	Dylan Hallingstad O'Brien	
Japan Studies in English (Lecture)	1,3,4	3	藤野　悠子	
Journalistic English	1	1	Bernard F. Wilson	
Media Literacy	2	1	John W. Cheng	
Oral Communication	1,3,4	3	Soo-Hye Han	

Public Speaking	4	1	Bernard F. Wilson	
The Practice of Teaching Oral English	4	1	Joshua B. Antle	
アメリカ文学特殊講義	1,3,4	3	Michael Pronko	
イギリス史(1)	1	1	Alan G. Milne	
イギリス史(3)	3	1	Alan G. Milne	
イギリス史(4)	4	1	Alan G. Milne	
イギリス社会(1)				（本年度休講）
イギリス社会(3)				（本年度休講）
イギリス社会(4)				（本年度休講）
異文化コミュニケーション理論	1,3,4	3	Elizabeth I. Dow	
英語英文学科特別講義(英語)	2	1	Brian J. Sayers	
言語とコミュニケーション	1,3,4	3	Soo-Hye Han	
文章講座 b (Creative Writing)	2	1	Marc Lowenstein	

ロ．選択科目

(イ). 共通科目（15単位）（「１．共通科目」のページ参照）

共通科目から15単位を修得してください。なお、次の科目は英語英文学科の基幹科目に先立って履修することが望ましいので、履修する場合は１年次で履修することが推奨されます。

- 世界の文学（イギリス）
- 世界の文学（アメリカ）
- ことばの世界
- 異文化理解とコミュニケーション

(ロ) 基幹科目（15単位）

英語英文学科の基幹科目から15単位を修得してください。コース別の推奨科目は以下のとおりです。

専攻	コース	推奨科目
英語圏言語文化専攻	イギリス文学・文化コース	イギリス文学概論（詩・演劇・小説）、イギリス文化概論
	アメリカ文学・文化コース	アメリカ文学史、アメリカ文化概論
	英語学・言語学コース※	英語学概論、英語史
	英語教育コース	第二言語習得概論（英語教育）
異文化コミュニケーション専攻	異文化コミュニケーションコース	コミュニケーション概論、異文化コミュニケーション理論
	Japan Studies in English コース	Japan Studies in English (Introduction)

※2023年度以前入学者は英語学コース

(ハ) 発展科目（18単位）

英語英文学科の発展科目から18単位を修得してください。

(ニ) 外国語科目（12単位）（「２．外国語科目」のページ参照）

１、２年次にわたって、第２外国語のうち１言語12単位を修得

ハ．単位修得後、同一科目をくりかえし履修することは原則できません。ただし、サブセミナーの履修については、この限りではありません。

ニ．自由科目

18単位を修得してください。ただし卒業論文、卒業研究を修得した場合には卒業に必要な自由科目は12単位となります。

※自由科目として履修できる科目は、(ロ)以外の本学の全開講科目、および他大学における専門科目で本学科が認める科目です。

(イ) 以下の科目は自由科目とすることができます。

- 共通科目、健康余暇科学科目、英語英文学科の基幹科目、発展科目の中で、必修科目または選択科目として修得したもの以外の科目
- 語学研修（英語）の認定単位
- 外国語科目のうち、選択科目として修得した言語以外の外国語（程度Ⅰ～Ⅳ）、および選択科目として修得した外国語の程度Ⅲ・Ⅳの科目

(ロ) 以下の科目は自由科目とすることができません。

- 交換学生（外国人学生）のみに開講されている科目
- 教育実習Ａ・Ｂおよび教職実践演習
- 随意科目

（３）専攻および３、４年次のセミナー等の登録について

※最新の登録手続きについてはTsudaNetを通して配信予定です。随時確認し、指示に従って登録してください。

イ．専攻登録について

２年次の４月中旬に説明会を行い、５～６月に専攻登録を行います。定員を超過した専攻については選考が行われます。一旦確定した専攻については原則として変更は認めません。

ロ．３年セミナー、４年セミナー、卒論指導、卒業研究プロジェクトの登録について

それぞれ所定の期間に登録を行い、所属セミナーまたは卒論指導、卒業研究プロジェクトを決めます。

【３年セミナー】

２年次の11月にセミナー登録資料が配付されます。セミナー担当教員による相談日も設けますので、自分の関心に合ったセミナーに登録するために有効活用してください。登録期間内に、所属する専攻より希望するセミナーを登録します（１次登録）。定員を超過したセミナーについては人数調整が行われます。１次登録でセミナーが決定しなかった場合は、２次登録を行います。

【４年セミナー、卒論指導、卒業研究プロジェクト】

英語圏言語文化専攻：

卒論指導を希望する場合は、３年次の９月に卒論登録を行います。登録前に必ず３年セミナー担当教員に登録内容について相談してください。３年セミナーと異なるコースを希望する場合は、希望するコースの教員にも事前に相談をする必要があります。

卒論指導を履修しない場合は、４年セミナーに登録します。３年次の11月にセミナー登録資料が配付され、セミナー担当教員による相談日が設けられます。登録期間内に、希望する４年セミナーを登録します（１次登録）。なお、定員を超過したセミナーについては人数調整が行われます。１次登録でセミナーが決定しなかった場合は、２次登録を行います。

異文化コミュニケーション専攻：

３年次の11月に卒業研究プロジェクト登録資料が配付され、担当教員による相談日が設けられます。登録期間内に、原則として３年セミナーと同じコースより卒業研究プロジェクトを選び、登録します（１次登録）。１次登録で卒業研究プロジェクトが決定しなかった場合は、２次登録を行います。

（４）特設プログラムについて （※通訳プログラムは2025年度から新規募集終了）

■「翻訳・通訳プログラム」の履修は次のとおりです。募集対象は原則として英語英文学科の学生のみです。

1．履修定員は各プログラム15名を上限とする。
2．履修は、３年次生および出席可能な４年次生とする。
3．履修は在学中に修了する。
4．「翻訳の世界ａ」および「通訳の世界ａ」を除き、必修科目は、原則として同一学年内に履修する。
5．選考は、学科で行う。
6．選考は、GPA、課題、および志望書等をもとに１月中に行う。
7．３年次編入または転部・転科の学生は、編入もしくは転部・転科時までに履修している科目、志望動機書、課題等によって選考する。
8．「翻訳の世界ａ」および「通訳の世界ａ」を除き、不合格となった必修科目の翌年度の再履修は認めない。
9．各プログラムで定められた単位を修得した者には、卒業時に修了証明書が発行される。
10．在学中に翻訳プログラム、通訳プログラムの両方を履修することはできない。

		（　）数字は単位数。
必修科目	【翻訳プログラム】 ９単位	翻訳入門１(2)　翻訳入門２(1)　2021年度以降 翻訳入門ａ(1)　翻訳入門ｂ(1)　翻訳入門ｃ(1) 翻訳の理論と実践(3)　翻訳の世界(3) 2025年度以降　翻訳の世界ａ(1)　翻訳の世界ｂ(1)　翻訳の世界ｃ(1)
	【通訳プログラム】 ９単位	通訳入門１(2)　通訳入門２(1)　2021年度以降 通訳入門ａ(1)　通訳入門ｂ(1)　通訳入門ｃ(1) 通訳の理論と実践(3)　通訳の世界(3) 2025年度以降　通訳の世界ａ(1)　通訳の世界ｂ(1)　通訳の世界ｃ(1)

※2025年度通訳プログラム履修生は、別途TsudaNetから配付されている「2025年度通訳プログラム履修のしおり（別紙）」に記載の通りの科目の修得でも修了要件を満たす。

■「Teachers of Excellence」プログラムの履修は次のとおりです。募集対象は原則として英語英文学科の学生のみです。

1．プログラムの履修は、英語の教職課程を履修し、卒業時に教員免許取得が見込まれることを条件とする。
2．履修定員は20名を上限とする。
3．履修は在学中に修了する。
4．選考は、学科で行う。
5．プログラムの履修を希望する学生は、２年次の１月にプログラム履修希望の申し込みを行う。
6．選考は、学科必修科目（英語）および教職科目の成績をもとに２年次の３月に行う。
7．プログラム向けに独自に設定されている科目の「The Practice of Teaching Oral English」は３年次または４年次に履修する。履修にあたっては、英語科指導法Ⅰ・英語科指導法Ⅱを修得済み、または履修中であることを条件とする。
8．推奨科目：サービスラーニングまたはインデペンデントスタディ。これらの科目の履修にあたっては、英語科指導法Ⅰ・英語科指導法Ⅱ・初等英語教育研究を修得済み、または履修中であることが望ましい。
- サービスラーニングでは、小・中学校の教育現場で学習ボランティアとして、外国語（英語）活動および英語の授業の支援に携わる実習体験を行う。
- インデペンデントスタディでは、津田塾大学自主フォーラム「英語のひろば」がキャンパス内外で小・中学生を対象に提供するプログラムに、所定の期間、学生スタッフとして関与する。
  ※自主フォーラム「英語のひろば」の活動については、津田塾大学のHPおよび大学の情報誌plum garden（Official Web Magazine）を参照のこと。
- 科目履修については、学外学修・キャリアセンターの定める条件にしたがって手続きをすること。

9．随意科目のサービスラーニングおよびインデペンデントスタディは、英語英文学科の最低修得必要単位数（128単位）に算入できない。
10．定められた単位を修得した者には、卒業時に修了証明書が発行される。
11．不合格または失格となった「The Practice of Teaching Oral English」の翌年度の再履修は認めない。

必修科目（６単位）		（　）数字は単位数。
	The Practice of Teaching Oral English(1)	Teachers of Excellenceプログラム向けに独自に設定されている科目
	初等英語教育研究(3)	英語英文学科　発展科目
	第二言語習得論(日本語教育)(2)	日本語教員養成課程　必修科目
選択科目（６単位）	以下の科目群から６単位以上を履修する。	
	イギリス文学概論（詩・演劇・小説） Bible Studies コミュニケーション概論 Japan Studies in English（Introduction）	アメリカ文学特殊講義 英語史 演劇と教育
推奨科目（１単位）	サービスラーニング(1)または インデペンデントスタディ(1)	随意科目

（５）日本語教員養成課程

日本語教員養成課程を修了するためには、必修科目として６科目17単位、選択必修科目として１科目以上３単位、自由選択科目20単位、合計40単位を履修しなければなりません（「10．日本語教員養成課程」のページ参照）。必修科目は、以下の通りです。

日本語教授法（３単位）
日本語教材・教具論（３単位）
日本語教育実習（３単位）　※2022年度までの「日本語教授法演習」（３単位）
日本語学概論（３単位）
日本語文法概論（３単位）
第二言語習得論（日本語教育）（２単位）

（６）語学研修

語学研修プログラムの単位認定については、「Ⅲ　履修について」の「(14)その他の単位認定」のページを参照してください。

（７）教職課程

教職課程を履修する学生は、定められた単位をかならず修得してください。
詳細については、「9. 教職課程」のページを参照してください。

（８）学士・修士５年プログラム

学士・修士５年プログラムでは、４年間の学部教育（学芸学部英語英文学科）と１年間の大学院教育（文学研究科修士課程）を有機的に組み合わせ、最短５年間で「学士」と「修士」の学位が取得できます。

３年次：第２タームまでの成績が一定の基準（GPA 3.7以上）を満たし、学士・修士５年プログラムへの参加を希望する学生は、２月に選考を受け、合格した場合は、４年次より学士・修士５年プログラム候補生になることが許可されます。

４年次：本プログラム候補生は、学部４年次に大学院文学研究科科目等履修生として大学院文学研究科修士課程の科目の履修を開始することができます。10月に選考を受け、合格した場合は、大学院への入学が許可されます。本プログラム候補生として学部４年次に修得した大学院文学研究科修士課程の科目の単位は、文学研究科履修規程「10. 課程修了のための単位数」に基づき10単位まで、大学院文学研究科修士課程に進学した際に、入学前の既修得単位として認定されます。

（９）英語英文学科　2019年度以降入学者用　標準カリキュラム表

	1　年　次				2　年　次			
	授　業　科　目	程度	単位	週時	授　業　科　目	程度	単位	週時
必修科目	基礎セミナー	Ⅰ	3	2	Literary Reading Ⅱ	Ⅱ	3	2
	英語英文学科での学び	Ⅰ	1	2	Academic Reading Ⅱ	Ⅱ	3	2
	Literary Reading Ⅰ	Ⅰ	3	2	Academic Writing Ⅱ	Ⅱ	3	2
	Extensive Reading Ⅰ	Ⅰ	1	2	Academic Listening Ⅱ	Ⅱ	3	2
	Intensive Reading Ⅰ a	Ⅰ	1	2	Oral English Ⅱ	Ⅱ	3	2
	Intensive Reading Ⅰ b	Ⅰ	1	2	Grammar Ⅱ	Ⅱ	3	2
	Oral English Ⅰ	Ⅰ	3	2				
	Composition Ⅰ	Ⅰ	3	2				
	Pronunciation Ⅰ	Ⅰ	3	2				
	健康余暇科学科目				健康教育	Ⅱ	1	2
	動きの教育	Ⅰ	1	2	余暇教育	Ⅱ	0.5×2	2
	ウェルネス研究	Ⅰ	1	2				
選択科目	共通科目（15単位）							
					基幹科目（15単位） イギリス文学史、イギリス文化概論、イギリス文学概論 文章講座ｂ（Creative Writing）★、文章講座ｃ（ジャーナリズ コミュニケーション概論、Cultural Representation in Media Media Literacy★、Creative Drama			
					発展科目（18単位） イギリス文学特殊講義（詩）、イギリス文学特殊講義（演劇）、 文学批評、イギリス研究特殊講義ａ・ｂ、Contemporary グローバルヒストリーのなかのイギリス、イギリス社会 アメリカ文化ａ・ｂ・ｃ、American Studies a★・s★・b★・ 中・古英語、形態論、文法論、意味・語用論、音韻論、日 Diaspora Studies★、演劇と教育、多文化共生論（1）・（3）・ Japan Studies in English（Project）★、音声学、Journalistic Introduction to Statistics in English★			
	外国語科目（12単位） 次の科目から１言語２科目（６単位） フランス語、ドイツ語、スペイン語、 ロシア語、中国語、韓国・朝鮮語	Ⅰ	6		１年次で履修した外国語科目と同じ言語の程度Ⅱを１言語２科目（６単位）	Ⅱ	6	
自由科目	教育実習Ａ・Ｂと教職実践演習を除くすべての教職課程科目（p.270およびp.275） 交換学生（外国人学生）のみに開講されている科目および随意科目を除く、本学の全開講科目。本学主催語学研修（英語） 英語英文学科特設講義、ボキャブラリー演習☆、英語指導者のための英語の知識、目利きが選ぶ特別な一冊－文学の扉を開く、 言葉は旅をする：翻訳から世界をみる、通訳概論ａ・ｂ・ｃ、通訳実践、生成AI時代のアカデミック・スキルズ							

（注）１．科目名に★印が付いているものは、学科が指定する「英語で行われる科目」。☆印がついているものは、2023年度までの「英語で行われる科目」。
２．英語圏言語文化専攻の卒業論文（６単位）と卒論指導（４年次、３単位）は、単独では認定されず、常に同時に認定される。
異文化コミュニケーション専攻の卒業研究（６単位）と卒業研究プロジェクト（４年次、３単位）は、単独では認定されず、常に同時に認定される。卒論指導および卒業研究は履修制約科目であるので、「Ⅲ 履修について」の履修制約科目のページを参照すること。

３　年　次				４　年　次				計
授　業　科　目	程度	単位	週時	授　業　科　目	程度	単位	週時	
３年セミナー Academic Writing & PresentationⅢ	Ⅲ Ⅲ	3 3	2 2	【英語圏言語文化専攻】 ４年セミナー又は卒論指導 【異文化コミュニケーション専攻】 卒業研究プロジェクト	Ⅳ	 3 3	 2 2	46
								4
								15
(詩・演劇・小説)、Bible Studies★、アメリカ文学史、アメリカ文化概論、文章講座ａ(翻訳)、 ム)、英語学概論、英語史、社会言語学、第二言語習得概論(英語教育)、翻訳･通訳特別講義、英語英文学科特別講義(英語)★ ★、言語とコミュニケーション★、異文化コミュニケーション理論★、Japan Studies in English (Introduction)★、								15
イギリス文学特殊講義(小説)、アメリカ演劇特殊講義、グローバル文学(英語)特殊講義、アメリカ文学特殊講義★、 British Society and Culture ａ★・ｂ★、イギリス社会史ａ・ｂ、イギリス文化史ａ・ｂ、 (1)★・(3)★・(4)★、イギリス史(1)★・(3)★・(4)★、イギリス経済(1)・(3)・(4)、アメリカ小説ａ・ｂ・ｃ、 ｃ★、アメリカ政治 (1)･(3)･(4)、アメリカ経済(アメリカ経済史)(1)、アメリカ経済(現代アメリカ経済論)(3)･(4)、 英語の比較、英語学特殊講義ａ・ｂ、認知科学と言語教育、ギリシャ語・ラテン語演習ａ・ｂ、初等英語教育研究、 (4)、言語政策、マルチリンガリズム、言語教育とジェンダー、Public Speaking★、Debate★、 English★、Film Reviewing★、Oral Communication★、Japan Studies in English (Lecture)★、 **【特設プログラム】翻訳・通訳プログラム**(注5) 翻訳入門ａ･ｂ･ｃ、翻訳の理論と実践、翻訳の世界、翻訳の世界ａ(注4)・ｂ・ｃ 通訳入門ａ･ｂ･ｃ、通訳の理論と実践、通訳の世界、通訳の世界ａ(注4)・ｂ・ｃ **【特設プログラム】Teachers of Excellence** The Practice of Teaching Oral English★								18
								12
				卒業論文 卒業研究				(＋６) (注2)
の認定単位。他大学における専門科目で、本学科が認める科目。 Gender and Sexuality in Japan★、Women in Japanese History★、Digital Humanities★、コロナ禍に立ち向かう世界ａ･ｂ、								18 (－６) (注3)
							最低修得必要単位数	128

３．卒業論文（６単位）と卒業研究（６単位）は選択科目の単位として認定されるが、それにともなって、自由科目の最低履修単位数は12単位となる。
４．2024年度以前入学者までは発展科目、2025年度以降入学者からは自由科目として取り扱う。
５．通訳プログラムの履修は2025年度履修生まで。

(10) 授業科目名・単位（2019年度以降入学者用）

授業科目	程度	開講ターム	単位	週時	担当者	備考
【必修科目】						
［１年次必修］						
基礎セミナー	Ⅰ	1,3,4	3	2	阿部　曜子 相木　裕史 Joshua B. Antle Elizabeth I. Dow 郷路　拓也 Soo-Hye Han 井原　　駿 池野みさお 稲垣　善律 伊藤　航多 木原　健次 米須　初美 菅　　靖子	
英語英文学科での学び	Ⅰ	1	1	2	英語英文学科教員	オムニバス講義
Literary Reading Ⅰ	Ⅰ	1,3,4	3	2	道家美紀子 長谷川志保 Iain B.M. Lambert 増井由紀美 村越　麻子 佐賀　裕美 菅原　供子 高橋百合子 田丸由美子 戸田　徹子 柳田　利枝	
Extensive Reading Ⅰ a	外国語科目のページ参照					
Intensive Reading Ⅰ a						
Intensive Reading Ⅰ b						
Oral English Ⅰ						
Composition Ⅰ						
Pronunciation Ⅰ						
動きの教育	健康余暇科学科目のページ参照					
ウェルネス研究						
［２年次必修］						
Literary Reading Ⅱ	Ⅱ	1,3,4	3	2	相木　裕史 安澤　梨花 Matthew M. Hanley 早川　敦子 甲斐　絵理 増田　直子 村越　麻子 中谷　　森 野口　啓子 佐賀　裕実 山田　純子	
Academic Reading Ⅱ	Ⅱ	1,3,4	3	2	Joshua B. Antle Dylan Hallingstad O'Brien 早川　敦子 広実　義人 星野　徳子 伊藤　航多 川島るり子 木原　健次 米須　初美 三木はるか 宮井勢都子 中谷　　森 大類　久恵 佐藤　繭香 菅　　靖子 上神　弥生	

授　業　科　目	程度	開講ターム	単位	週時	担　当　者	備　考
Academic Writing Ⅱ	Ⅱ	1,3,4	3	2	Joshua B. Antle Gelard E. Bolthouse Richard L. Burton Elizabeth I. Dow Keith Ford Matthew M. Hanley 井原　駿 伊藤　航多 伊藤美代子 木原　健次 倉林　直子 Iain B.M. Lambert Marc Lowenstein 村越　麻子 小野　雅子 Robert Spivak Rosa W. S. Suen 高橋百合子 冨岡志寿子	
Academic Listening Ⅱ	Ⅱ	1,3,4	3	2	Joshua Brook Antle Brian Heagney Christopher Piper Simon R. Potter Paul Maxwell Shackleford Simon Stevens Anthony Tobin Andy Vajirasarn	
Oral English Ⅱ	Ⅱ	1,3,4	3	2	Kristofer Raymond Bayne Kenneth Biegel Misha Cade Richard Caraker Terence J. Cooney Kathleen A. R. Era Keith Ford Paul Kallender Timothy P. Knight Charles D. Miceli Geoffrey Pierce Robert Spivak Rosa W. S. Suen Anthony Tobin	
Grammar Ⅱ	Ⅱ	1,3,4	3	2	郷路　拓也 井原　駿 伊藤美代子 川島るり子 永盛　貴一 佐藤　陽介	
健康教育 余暇教育	健康余暇科学科目のページ参照					
［３年次必修］						
３年セミナー	Ⅲ	1,3,4	3	2	阿部　曜子 相木　裕史 John W. Cheng 郷路　拓也 Alexandra Hambleton Soo-Hye Han 早川　敦子 星野　徳子 井原　駿 池野みさお／木原　健次 稲垣　善律 伊藤　航多 木原　健次／池野みさお Anh Le 都田　青子 大類　久恵	

授　業　科　目	程度	開講ターム	単位	週時	担　当　者	備　考
Academic Writing & PresentationⅢ	Ⅲ	1,3,4	3	2	Gerald E. Bolthouse Elizabeth I. Dow Terry Keith Fieldsend Keith Ford Paul Michael Garside Timothy P. Knight Marc Lowenstein Sadie Nitta Jonathan David Picken Geofferey Pierce Paul Maxwell Shackleford Anthony Tobin	
［４年次必修］						
４年セミナー	Ⅳ	1,3,4	3	2	相木　裕史 郷路　拓也 Soo-Hye Han 池野みさお 稲垣　善律 木原　健次／池野みさお 米須　初美 都田　青子 佐藤　陽介 Rosa W. S. Suen 菅　　靖子	
卒論指導	Ⅳ	1,3,4	3	2	相木　裕史 中谷　　森 佐藤　陽介	
卒業研究プロジェクト	Ⅳ	1,3,4	3	2	John W. Cheng Alexandra Hambleton Soo-Hye Han 佐藤　響子	
卒業論文	Ⅳ	－	6	－	相木　裕史 中谷　　森 佐藤　陽介	
卒業研究	Ⅳ	－	6	－	John W. Cheng Alexandra Hambleton Soo-Hye Han 佐藤　響子	
【選択科目】						
［共通科目］						
共通科目のページ参照						
［基幹科目］						
イギリス文学史	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	阿部　曜子／米須　初美／原田　範行	原則として３年次以上でとることが望ましい。
アメリカ文学史	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	木原　健次	
イギリス文学概論（詩・演劇・小説）	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	阿部　曜子／中谷　　森／早川　敦子	原則として２年次でとることが望ましい。
Bible Studies	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	Matthew M. Hanley	★
イギリス文化概論	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	伊藤　航多／菅　　靖子	
アメリカ文化概論	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	大類　久恵	アメリカ文化コースを履修したい学生は、２年次でとることが望ましい。
英語学概論	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	郷路　拓也／佐藤　陽介／井原　　駿	原則として２年次でとることが望ましい。
英語史	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	海田　皓介	
社会言語学	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	朝日　祥之	

★は英語英文学科指定の「英語で行われる科目」

授業科目	程度	開講ターム	単位	週時	担当者	備考
コミュニケーション概論	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	川野　優希	
第二言語習得概論(英語教育)	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	星野　徳子／稲垣　善律	
言語とコミュニケーション	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	Soo-Hye Han	★
異文化コミュニケーション理論	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	Elizabeth I. Dow	★
Japan Studies in English (Introduction)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	Dylan Hallingstad O'Brien	★
英語英文学科特別講義(英語)	Ⅱ～Ⅳ	2	1	4	Brian J. Sayers	★
文章講座 a（翻訳）	Ⅱ～Ⅳ	2	1	4	和田　一美	
文章講座 b (Creative Writing)	Ⅱ～Ⅳ	2	1	4	Marc Lowenstein	★
文章講座 c (ジャーナリズム)	Ⅱ～Ⅳ	2	1	4	木村　恭子	
Cultural Representation in Media	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	Misha Cade	★
Media Literacy	Ⅱ～Ⅳ	2	1	2	John W. Cheng	★
Creative Drama	Ⅰ～Ⅳ	2	1	4	小林由利子	
翻訳・通訳特別講義	Ⅱ～Ⅳ		1			(本年度休講)
［発展科目］						
イギリス文学特殊講義(詩)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	米須　初美	
イギリス文学特殊講義(小説)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	早川　敦子	
イギリス文学特殊講義(演劇)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	中谷　　森	
アメリカ演劇特殊講義	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	佐藤　里野	(隔年開講)
イギリス研究特殊講義 a	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	佐藤　繭香	
イギリス研究特殊講義 b	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	町本　亮大	
Contemporary British Society and Culture a	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	Brian J. Sayers	★ ３年次以上でとることが望ましい。
Contemporary British Society and Culture b	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	Brian J. Sayers	★ ３年次以上でとることが望ましい。
グローバル文学(英語) 特殊講義	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	米須　初美	
アメリカ文学特殊講義	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	Michael Pronko	★
アメリカ小説 a	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	相木　裕史	
アメリカ小説 b	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	池野みさお	
アメリカ小説 c	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	木原　健次	
文学批評	Ⅱ～Ⅳ	3,4	2	2	大田　信良	
イギリス社会(1)	国際関係学科のページ参照					★(本年度休講)「EnglishⅢ(British Society)(1)(3)(4)」(国際) 「ヨーロッパ社会（イギリス）(1)(3)(4)」(国際) 2022年度までの「EnglishⅢ(Lecture)(1)(3)(4)」(サブタイトル:ヨーロッパ社会(イギリス))(国際)
イギリス社会(3)						
イギリス社会(4)						
アメリカ文化 a	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	増井由紀美	
アメリカ文化 b	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	倉林　直子	
アメリカ文化 c	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	小澤　智子	
イギリス史(1)	国際関係学科のページ参照					★「EnglishⅢ(British History)(1)(3)(4)」(国際) 2022年度までの「EnglishⅢ(Lecture)(1)(3)(4)」(サブタイトル：イギリス史)(国際)
イギリス史(3)						
イギリス史(4)						
イギリス経済(1)						「ヨーロッパ経済(イギリス)(1)(3)(4)」(国際)
イギリス経済(3)						
イギリス経済(4)						
アメリカ政治(1)						
アメリカ政治(3)						
アメリカ政治(4)						
アメリカ経済 (アメリカ経済史)(1)	国際関係学科のページ参照					
アメリカ経済 (現代アメリカ経済論)(3)						
アメリカ経済 (現代アメリカ経済論)(4)						

★は英語英文学科指定の「英語で行われる科目」

授　業　科　目	程度	開講ターム	単位	週時	担　当　者	備　考
中・古英語	Ⅱ～Ⅳ	3,4	2	2	海田　皓介	
形態論	Ⅱ～Ⅳ	1,3	2	2	佐藤　陽介	
文法論	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	佐藤　陽介	
意味・語用論	Ⅱ～Ⅳ	1,3	2	2	井原　　駿	
音韻論	Ⅱ～Ⅳ	1,3	2	2	都田　青子	
日英語の比較	Ⅱ～Ⅳ	1,3	2	2	都田　青子	「対照言語学１」（多文化）
音声学	Ⅲ	1,3,4	3	2	広実　義人 都田　青子 小川　直樹 山内智恵子	
英語学特殊講義 a	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	郷路　拓也	
英語学特殊講義 b	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	小野　　創	
Oral Communication	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	Soo-Hye Han	★
Diaspora Studies	Ⅱ～Ⅳ	2	1	4	Dylan Hallingstad O'Brien	★
認知科学と言語教育	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	久野　雅樹	
ギリシャ語・ラテン語演習 a	Ⅱ～Ⅳ		3			（本年度休講） ギリシャ語／ラテン語を隔年で開講 2027年度「ギリシャ語」
ギリシャ語・ラテン語演習 b	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	吉川　　斉	2026年度開講「ラテン語」
初等英語教育研究	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	執行　智子	
演劇と教育	Ⅱ～Ⅳ	3,4	2	2	小林由利子	
多文化共生論(1)	多文化・国際協力学科のページ参照					
多文化共生論(3)						
多文化共生論(4)						
言語教育とジェンダー						
言語政策						
マルチリンガリズム						
Journalistic English	Ⅲ	1	1	2	Bernard F. Wilson	★
Film Reviewing	Ⅲ	3	1	2	Bernard F. Wilson	★
Public Speaking	Ⅲ	4	1	2	Bernard F. Wilson	★
Debate	Ⅱ～Ⅳ	2	1	4	Paul Kallender	★
Japan Studies in English (Project)	Ⅲ～Ⅳ	3	1	2	Dylan Hallingstad O'Brien	★
Japan Studies in English (Lecture)	Ⅲ～Ⅳ	1,3,4	3	2	藤野　悠子	★（隔年開講）
イギリス社会史 a	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	菅　　靖子	「ヨーロッパ社会（イギリス史）(1)」（国際）
イギリス社会史 b	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	成田　芙美	「ヨーロッパ社会（イギリス史）(3)」（国際）
イギリス文化史 a	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	町本　亮大	「ヨーロッパ文化（イギリス）(1)」（国際）
イギリス文化史 b	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	坂口美知子	「ヨーロッパ文化（イギリス）(4)」（国際）
グローバルヒストリーのなかのイギリス	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	伊藤　航多	
American Studies a	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	Evan Chaloupka	★
American Studies s	Ⅱ～Ⅳ	2	1	4	Evan Chaloupka	★
American Studies b	Ⅱ～Ⅳ		1			★（本年度休講）
American Studies c	Ⅱ～Ⅳ		1			★（本年度休講）
Introduction to Statistics in English	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	小野　　創	★
［外国語科目］						
第二外国語　程度Ⅰ（文法･演習）	外国語科目のページ参照					
第二外国語　程度Ⅱ（講読・演習）						

★は英語英文学科指定の「英語で行われる科目」

授業科目	程度	開講ターム	単位	週時	担当者	備考
［日本語教員養成課程］						
日本語教授法	Ⅲ	1,3,4	3	2	古川　敦子	2022年度以前入学者：「日本語教材・教具論」、「日本語文法概論」の単位修得後に履修することが望ましい。 2023年度以降入学者：「日本語教材・教具論」、「日本語文法概論」、「第二言語習得論（日本語教育）」のいずれか１科目の単位修得者のみ履修可。
日本語教材・教具論	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	古川　敦子	
日本語教育実習	Ⅳ	1,3,4	3	2	古川　敦子 鈴木　靖代 武　　一美	2024年度以前入学者：「日本語教授法」の単位修得者のみ履修可。また他の日本語教員養成課程の必修科目単位修得後に履修することが望ましい。 2025年度以降入学者：「日本語教材・教具論」、「第二言語習得論（日本語教育）」、「日本語文法概論」、「日本語学概論」、「日本語教授法」の単位修得者のみ履修可。 2022年度までの「日本語教授法演習」
第二言語習得論（日本語教育）	Ⅱ～Ⅳ	1,3	2	2	烏　　日哲	
日本語学概論	Ⅰ～Ⅳ	1,3,4	3	2	内田　宗一	
日本語文法概論	Ⅰ～Ⅳ	1,3,4	3	2	庵　　功雄	
日本語学特殊講義１	Ⅱ～Ⅳ	3,4	2	2	宇佐美　洋	
日本語教育の学び	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	古川　敦子	
対照言語学１	Ⅱ～Ⅳ	1,3	2	2	都田　青子	「日英語の比較」（発展科目）
対照言語学２	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	佐藤　陽介	
［翻訳プログラム］						
翻訳入門 a	Ⅲ	1	1	2	柳田　利枝	2020年度までの「翻訳入門１」「翻訳入門２」
翻訳入門 b	Ⅲ	3	1	2	柳田　利枝	
翻訳入門 c	Ⅲ	4	1	2	柳田　利枝	
翻訳の理論と実践	Ⅲ	1,3,4	3	2	早川　敦子	
翻訳の世界 a	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	中谷　　森	2024年度までの「翻訳の世界」 「翻訳の世界 a」は翻訳プログラム履修者以外も履修可。
翻訳の世界 b	Ⅲ	3	1	2	中谷　　森	
翻訳の世界 c	Ⅲ	4	1	2	寺井　暁子	
［Teachers of Excellenceプログラム］						
The Practice of Teaching Oral English	Ⅲ～Ⅳ	4	1	2	Joshua B. Antle	★
【自由科目】						
教育実習Ａ・Ｂと教職実践演習を除くすべての教職課程科目（p.270およびp.275） 交換学生（外国人学生）のみに開講されている科目および随意科目を除く、本学の全開講科目。本学主催語学研修（英語）の認定単位。他大学における専門科目で、本学科が認める科目。						
英語英文学科特設講義	Ⅰ～Ⅳ		1			（本年度休講）
語学研修（英語）	Ⅰ～Ⅳ		2			
ボキャブラリー演習	Ⅰ～Ⅳ	2	1	4	Paul M. Garside	
言葉は旅をする： 翻訳から世界をみる	Ⅰ～Ⅳ	2	1	4	早川　敦子	実験的講座
通訳概論 a	Ⅰ	1	1	2	住本　時久	
通訳概論 b	Ⅰ	3	1	2	住本　時久	
通訳概論 c	Ⅰ	4	1	2	住本　時久	
通訳実践	Ⅰ	2	1	4	和田　一美	
生成AI時代のアカデミック・スキルズ	Ⅰ	2	1	4	郷路　拓也	実験的講座

★は英語英文学科指定の「英語で行われる科目」

5. 国際関係学科

５．国際関係学科

（１）履修単位数

卒業に必要な最小限単位数は以下の通りです。

必修科目	
セミナーおよび卒業論文	18単位
基本科目	６単位
外国語科目（英語）	24単位
外国語科目（第二外国語）	12単位
外国語Ⅲ	３単位
健康余暇科学科目	４単位
選択科目	
共通科目	12単位
基幹科目	12単位
地域・展開科目	18単位
自由科目	15単位
合　計	124単位

（２）履修方法

イ．セミナーおよび卒業論文〔必修科目〕

１年次から４年次まで、学習の中心を少人数指導のセミナーにおき、学年をおって１つだけ履修します。ただし、転部・転科・留学、その他やむをえない理由により、１年間に異なる学年のセミナー２つの同時履修を認めることがあります。

- １年セミナー

  国際関係学科での学びの基礎となる用語や知識を習得し、研究の手法や学問のあり方を学びます。

- 原書講読（２年セミナー）

  外国語教育を重視する国際関係学科では、より専門的な読解力を養うため、英語の原書をテキストに用いて２年セミナーを行います。

- ３年セミナー

  １～２年次で学んだ基礎的知識をふまえて、専門的なテーマに取り組みます。研究テーマの設定方法、文献の読み方、資料の扱い方などが個別に指導されます。セミナーは登録コースに関係なく、自由に選択することができます。

- ４年セミナー

  原則として３年セミナーを継続し、独自の着眼と発想に基づいて、セミナー担当教員の指導を受けつつ４年間の総仕上げを行います。その成果を、卒業論文として形にします。

ロ．基本科目〔必修科目〕

国際関係学科の学びの出発点となる科目です。国際関係概論(1)(3)(4)、地域研究序説(1)(3)、文化研究序説の合計６単位を修得しなければなりません。１年次に履修して下さい。

ハ．外国語科目・外国語Ⅲ〔必修科目〕

ａ）外国語科目（英語）

１年次に６科目12単位、２年次に４科目12単位を履修し、合計24単位を修得しなければなりません。詳しくは「外国語科目」のページを参照してください。

ｂ）外国語科目（第二外国語）

１・２年次にわたって１言語12単位を修得しなければなりません。詳しくは「外国語科目」のページを参照してください。

ｃ）外国語Ⅲ

外国語Ⅲは、以下のｉ～ⅱのうち、いずれかの条件を満たし合計３単位修得しなければなりません。

ｉ．「EnglishⅢ(Lecture)※」または「EnglishⅢ(Practice)」を修得する。

※2023年度以降は「EnglishⅢ(British Society)(1)(3)(4)」、「EnglishⅢ(British History)(1)(3)(4)」、「EnglishⅢ(Australian Studies)(1)(3)(4)」、「EnglishⅢ(Current Global Issues)(1)(3)(4)」の科目の中から３単位を修得する。

ⅱ．選択している第二外国語の程度Ⅲ以上の科目から合計３単位修得する。

講読・演習や、程度の組み合せは問いません。

例：「中国語Ⅲ(講読)(1)」、「中国語Ⅲ(演習)(3)」、「中国語Ⅳ(3)」という履修で３単位修得する。

但し、フランス語Ⅲ以上については「外国語科目」のページを参照すること。

- 第二外国語の程度Ⅳは、担当教員の許可があれば程度Ⅱ修得後に履修することができ、外国語Ⅲに振替が可能です。
- 以下の場合、２年次以下でも外国語の程度Ⅲを外国語Ⅲ（必修科目）として履修することができます。

⑴　第二外国語の程度Ⅱを１年次で２科目（講読または演習）３単位修得済みの場合、２年次から履修できます（第二外国語の程度Ⅰの文法と演習、程度Ⅱの講読と演習４科目のうち程度Ⅰの文法を含む３科目を修得済みでなければ第二外国語の程度Ⅲを履修することはできません）。

⑵　第二外国語の程度ⅠとⅡ計12単位の認定試験に合格した場合、１年次から履修できます。

ニ．健康余暇科学科目〔必修科目〕

なるべく１・２年次に合計４単位を修得します。詳しくは「健康余暇科学科目」のページを参照してください。

ホ．共通科目〔選択科目〕

広く専門領域以外からも学識を得ることを目的に、~~全学~~共通科目からなるべく１・２年次に12単位を修得します。

- 専門教育のための導入として、コースごとに推奨されている授業科目があります。詳しくは「⑶コースについて」を参照してください。
- セミナーごとに授業科目が推奨される場合もあります。詳しくはシラバスを参照してください。

ヘ．基幹科目〔選択科目〕

国際関係学科の専門的な学びの幹となる科目です。修得必要単位数12単位のうち、６単位はコースが指定する授業科目から修得しなければなりません。詳しくは「⑶コースについて」を参照してください。

ト．地域・展開科目〔選択科目〕

具体的な地域の視点から国際関係を理解する地域研究科目群を中心に、国際関係学科の学びを深め、また広げていく科目群です。

チ．自由科目

自由科目として履修できる科目は、以下のとおりです。

- 本学で開講され履修可能な科目のすべて、および他大学において開講される科目で本学科が認めた科目
  ※ただし、随意科目、教育実習Ａ・Ｂおよび教職実践演習は除きます。
- 必修科目と選択科目の各分類が指定する修得必要単位数を超えて修得した単位

リ．教職課程を履修する学生は、定められた単位を必ず修得してください。

詳細については、教職課程のページを参照してください。

国際関係学科では、各自の履修した科目によって、英語もしくは中学社会科・高校地理歴史科、中学社会科・高校公民科、中学社会科・高校地理歴史科・高校公民科の教員資格を得ることができます。

（３）コースについて

国際関係学科のカリキュラムは、社会・人文科学の諸分野および世界の諸地域を広くカバーするように編成されています。また、そうした広い視野に立ちながら各自の専門分野を深めていく学びの指針となるよう、グローバル・国際関係コース、地域・文化コース、国際日本コースの３コースが設けられています。

コースの登録は３年次の履修登録時に行います。４年次履修登録の際にコースを変更することも可能です。

卒業時までに、これらのいずれかのコースの最小限必要単位数を満たさなければなりません。各コースが指定する基幹科目および履修を推奨する共通科目は、以下の表の通りです。

	グローバル・国際関係コース	地域・文化コース	国際日本コース
指定の基幹科目	国際法 国際機構論 国際政治論 国際経済論 開発経済学	国際関係史 社会思想史 現代文化論 言語思想論 翻訳文化論 越境文学論 文学論特論 文学論	比較政治論 比較教育論 日本研究(Japanese Society) 現代文化論 翻訳文化論 越境文学論 文学論特論 文学論
推奨する共通科目	法学 政治学 経済学	哲学 宗教学 世界史概説 世界の文学	日本国憲法 政治学 社会学 日本史概説

- 基幹科目については、修得必要単位数12単位のうち、６単位をコース指定の授業科目から修得しなければなりません。
- 国際関係学科の科目名の最後の「(数字)」は原則開講タームを示すものなので、上の表では省略。a・bの区別についても省略。詳しくは、5.(6)授業科目名・単位で確認してください。

（４）セミナー登録について

国際関係学科では、各学年のセミナーは必修科目となっています。セミナーを履修する際には、前年度の秋に登録を行う必要があります。

なお、このセミナー登録は仮登録なので、毎年４月に教務課で行う履修登録のときに、必ず確認してください。

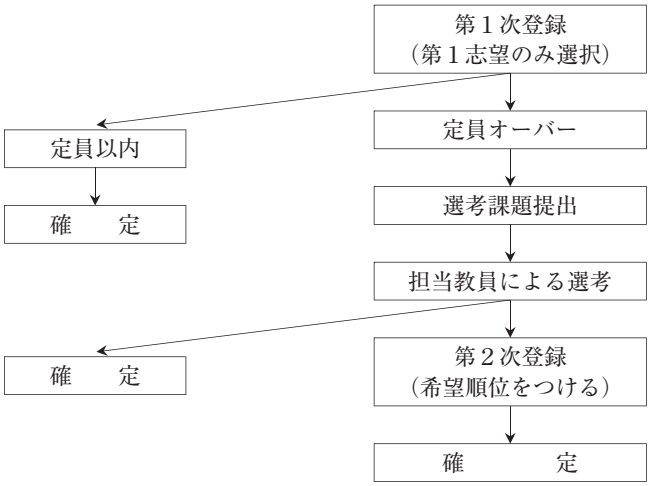
【登録手順】

※最新の登録手順についてはTsudaNetポータルを通じて掲示(配信)予定です。大学メールアドレス(@gm.tsuda.ac.jp)宛に届くメールとあわせて随時確認し、指示に従って登録してください。

２年セミナー

- 11月中旬に、次年度の２年セミナーの講義内容および使用するテキストの説明が載った資料がTsudaNetを通じて配付されます。
- 第１次登録は全員行います。このとき、希望は１つしか選択できません。
- TsudaNetで配信する登録方法に従い登録URLから登録してください。(締切厳守)
- １セミナーの定員は15名の予定です。定員に満たなかったセミナーを選択した人は自動的に決定となります。
- 第１次登録締切で定員数をオーバーした場合、セミナーごとに選考が行われます。
- 選考に漏れた学生は第２次登録を必ず行わなければなりません。
  このとき、定員に空きのあるセミナー全てに希望順位をつけます。
- 第２次登録も指定される登録URLから登録してください。
- 第２次登録締切後、結果発表を行います。

［登録手順図解］



３年セミナー

- 10月中旬にセミナー登録方法・講義内容の載った資料が、TsudaNetポータルを通じて掲示(配信)されます。各２年セミナーの授業のなかでもセミナー教員より３年セミナーに関する説明がされます。
- 教員との相談日や相談方法等も公表されるので、その期間内に必ず希望するセミナーの教員と直接相談してください。出来るだけ多くのセミナー担当教員と相談をしてセミナーを選ぶ際の参考にしてください。
- TsudaNetポータルで掲示(配信)する登録方法に従い登録URLから登録してください。(締切厳守)
- １セミナーの定員は12名の予定です。定員に満たなかったセミナーを選択した人は自動的に決定となります。
- 定員を超過したセミナーについては、選考方法等の指示が出ます。
- 選考結果を発表します。
- 選考に漏れた学生は、第２次登録を必ず行わなければなりません。指定される登録URLから登録してください。
- 第２次登録結果を発表します。
- 第２次登録（第１～第３希望）で決まらない場合は第３次登録をする場合があります。

４年セミナー

- ４年セミナーは原則として３年セミナーを継続します。※担当者については変更になる場合があります。
- **４年次進級に際してセミナーの変更を希望する場合のみ、学芸学部事務室（国際関係学科）に４年セミナー変更登録用紙を提出してください。**ただし、クラスの人数が定員を超えている場合など希望通りにならないこともあります。学芸学部事務室（国際関係学科）に手続きについて確認した後、３年セミナー担当教員と変更希望先（４年セミナー）担当教員に相談して了解を得てください。

留学・休学する学生

- ２年セミナー：次年度前期から留学・休学を予定している場合も、出発・休学前に２年セミナーの仮登録を行ってください。実際に留学・休学した場合は、その仮登録は無効になります。再度２年セミナーの仮登録が必要です。履修前年度の10月末日までに学芸学部事務室（国際関係学科）（kokuji@tsuda.ac.jp）へ資料を請求してください。11月以降に配付される資料等の指示に従って希望のセミナーを仮登録してください。
  次年度後期から留学・休学する場合は原則同じセミナーを帰学・復学後に履修します。ただし、同じセミナーが開講されない場合もあり、その場合は新たに登録をする必要があります。履修前年度の10月末日までに学芸学部事務室（国際関係学科）（kokuji@tsuda.ac.jp）に確認の連絡をしてください。
- ３年セミナー：次年度前期から留学・休学を予定している場合も、出発・休学前に３年セミナーの仮登録を行ってください。帰学・復学後、４月から『仮登録したセミナー』を履修することになります。登録前の相談期間中に留学・休学の予定についても担当教員に相談をした上で、セミナーを選択してください。留学・休学が決定したら『仮登録したセミナー』担当教員にその旨報告してください。留学・休学中にセミナーの変更を希望する場合は、10月上旬までに学芸学部事務室（国際関係学科）（kokuji@tsuda.ac.jp）に連絡してください。
  次年度後期から留学・休学する場合は原則同じセミナーを帰学・復学後に履修します。
  ※担当者については変更になる場合があります。
  ※同じセミナー（テーマ）が開講されない場合もあり、その場合は新たに登録をする必要があります。
- ４年セミナー：原則として３年セミナーを継続しますので、留学・休学する旨を担当教員に申し出てください。
  ※担当者については変更になる場合があります。
  ※同じセミナー（テーマ）が開講されない場合もあり、その場合は新たに登録をする必要があります。
- 学芸学部事務室（国際関係学科）への連絡の際には、**メールの件名に学籍番号・氏名をいれてください。**
- 科目継続についてはⅢ 履修について(10)科目継続の項を参照してください。
- 帰学・復学後、直ちに学芸学部事務室（国際関係学科）でセミナーの確認をしてください。

国際関係学科への転科が決定した学生

- セミナーの登録をする必要があります。決定後すぐに学芸学部事務室（国際関係学科）まで連絡してください。

セミナーの再履修について

- ２～４年セミナーの再履修が決まった学生（学年末の成績評価が不合格または失格の場合）は、直ちに学芸学部事務室（国際関係学科）へ連絡してください。再履修の説明を行います。
  現在履修しているセミナーと同じセミナーが開講される場合は、原則同じセミナーを再履修しますが、同じセミナーが開講されない場合は、新たに登録をする必要があります。

登録に関する注意

- セミナーの登録に関する問合せは、**学芸学部事務室（国際関係学科）（１号館３階）（kokuji@tsuda.ac.jp）**で受け付けています。教務課では扱っていないので注意してください。
- セミナーに関する連絡はTsudaNetポータルで掲示（配信）します。大学メールアドレス（@gm.tsuda.ac.jp）宛に届くメールとあわせて随時確認してください。
- 登録したセミナーの担当教員から新セミナーに関する連絡メールがある場合がありますので、随時、大学メールアドレスからメールを確認してください。

（５）国際関係学科　標準カリキュラム表

	1　年　次				2　年　次			
	授　業　科　目	程度	単位	週時	授　業　科　目	程度	単位	週時
必修科目	セミナーおよび卒業論文〔18単位〕							
	１年セミナー	Ⅰ	3	2	原書講読（２年セミナー）	Ⅱ	3	2
	外国語科目（英語）〔24単位〕							
	Extensive Reading Ⅰ	Ⅰ	1	2	Reading Skills Ⅱ	Ⅱ	3	2
	Intensive Reading Ⅰ a	Ⅰ	1	2	Oral English Ⅱ	Ⅱ	3	2
	Intensive Reading Ⅰ b	Ⅰ	1	2	Composition Ⅱ	Ⅱ	3	2
	Oral English Ⅰ	Ⅰ	3	2	Listening Ⅱ	Ⅱ	3	2
	Composition Ⅰ	Ⅰ	3	2				
	Pronunciation Ⅰ	Ⅰ	3	2				
	外国語科目（第二外国語）〔12単位〕							
	第二外国語（文法）	Ⅰ	3	2	第二外国語（講読）	Ⅱ	3	2
	第二外国語（演習）	Ⅰ	3	2	第二外国語（演習）	Ⅱ	3	2
	基本科目〔６単位〕							
	国際関係概論(1)	Ⅰ	1	2				
	国際関係概論(3)	Ⅰ	1	2				
	国際関係概論(4)	Ⅰ	1	2				
	地域研究序説(1)	Ⅰ	1	2				
	地域研究序説(3)	Ⅰ	1	2				
	文化研究序説	Ⅰ	1	2				
	健康余暇科学科目〔４単位〕							
	動きの教育	Ⅰ	1	2	健康教育	Ⅱ	1	2
	ウェルネス研究	Ⅰ	1	2	余暇教育	Ⅱ	0.5×2	2
選択科目	共通科目〔12単位〕							
	基幹科目（12単位） 次の科目のうち、コース別指定の６単位を含めて12単位 国際政治論(1)・(3)・(4)、国際機構論(1)・(3)・(4)、開発経済学(1)・(3)・(4)、比較政治論(1)・(3)・(4)、国際関係史(1)・(3)・(4)、社会思想史(1)・(3)・(4)、言語思想論(1)・(3)・(4)、翻訳文化論、越境文学論、							
	地域・展開科目（18単位） アメリカ政治(1)・(3)・(4)、アメリカ経済(アメリカ経済EU研究(1)・(4)、ヨーロッパ政治(1)・(4)、ヨーロッパ経ヨーロッパ社会(イギリス)(1)・(3)・(4)、ヨーロッパ社会ヨーロッパ文化(フランス)(1)・(3)・(4)、ヨーロッパ文化東欧研究(1)・(3)・(4)、ユーラシア研究(1)・(3)・(4)、西ア東アジア研究(韓国現代史)、東アジア研究(北朝鮮特論)、東アジア研究(中国・香港・台湾特論)、東アジア研究(中東南アジア研究(大陸部)(1)・(3)・(4)、東南アジア研究(島日本研究(沖縄研究)(1)・(3)・(4)、日本研究(日本と台湾の日本研究(古典文学)(1)・(3)・(4)、日本研究(近現代文学)イスラーム地域研究特論、アジア交流史、アジア交流史イギリス文化概論、アメリカ文化概論、イギリス文学概論教養としての外国語、国際機構特論、国際金融論(1)・(3)・グローバリゼーション論(1)・(3)・(4)、現代日本政治経済社会調査法入門(1)・(3)・(4)、福祉社会学、家族社会学、人文地理学(1)・(3)・(4)、自然地理学(1)・(3)・(4)、地誌エビデンス・ベースド・ポリシー入門、Oral English Ⅲ Intercultural Understanding(Japan and the World)、哲学世界史研究(1)・(3)・(4)、日本史概論(1)・(3)・(4)、社会学							
自由科目	世界芸術としての文学・映画・芸能、Japanese Literature and Culture in English、福祉ボランティア実習、新聞が読める国 ・本学で開講され履修可能な科目のすべて、および他大学において開講される科目で本学科が認めた科目 ※ただし、随意科目、教育実習Ａ・Ｂおよび教職実践演習は除きます。 ・必修科目と選択科目の各分類が指定する修得必要単位数を超えて修得した単位							

（注）教職課程については教職課程のページ参照。

3　年　次				4　年　次				計
授　業　科　目	程度	単位	週時	授　業　科　目	程度	単位	週時	
３年セミナー	Ⅲ	3	2	４年セミナー 卒業論文	Ⅳ Ⅳ	3 6	2	63
外国語Ⅲ［３単位］								
EnglishⅢまたは第二外国語の程度Ⅲ以上	Ⅲ	3	2					
								4
国際法(1)・(3)・(4)、国際経済論(1)・(3)・(4)、 比較教育論(1)・(3)・(4)、 現代文化論(1)・(3)・(4)、 文学論特論、文学論(1)・(3)・(4)、日本研究(Japanese Society)(1)・(3)・(4)								42
史)(1)、アメリカ経済(現代アメリカ経済論)(3)・(4)、アメリカ社会(1)・(3)・(4)、アメリカ文化ａ・ｂ・ｃ、 済(イギリス)(1)・(3)・(4)、ヨーロッパ社会(民族と言語)(3)・(4)、 (イギリス史)(1)・(3)、ヨーロッパ文化(イギリス)(1)・(4)、 (ドイツ)(1)・(3)・(4)、ヨーロッパ文化(スペイン)(1)・(3)・(4)、 ジア研究(1)・(3)・(4)、　南アジア研究(1)・(3)・(4)、オーストラリア研究(1)・(3)・(4)、 東アジア研究(朝鮮半島の国際政治)、東アジア研究(現代韓国特論)、東アジア研究(中国現代史)、 国の国際政治)、東アジア研究(現代中国特論)、東アジア研究(現代中国社会論)、東アジア研究(現代中国経済論)、 嶼部)(1)・(3)・(4)、東南アジア研究(現代東南アジア特論)(1)・(3)・(4)、 近現代関係史)、日本研究(日本と朝鮮半島の近現代関係史)、日本研究(少数者の日本近現代史)、 (1)・(3)・(4)、イスラーム概論、イスラーム地域研究入門、 (1)・(3)・(4)、日本・アジアの文化研究(1)・(3)・(4)、イギリス史(1)・(3)・(4)、 (詩・演劇・小説)、イギリス文学史、アメリカ文学史、地域研究特論、ラテンアメリカ研究、アフリカ研究、 (4)、国際貿易論(1)・(3)・(4)、国際経営論(1)・(3)・(4)、 論(1)・(3)・(4)、情報社会論(1)・(3)、憲法(1)・(3)・(4)、 ソーシャル･インクルージョン論、国際日本文化論(1)・(3)・(4)、 (1)・(3)・(4)、政治思想史(1)・(3)・(4)、 (1)・(3)、CompositionⅢ(1)・(3)、英語学概論、英語史、音声学、第二言語習得概論(英語教育)、GrammarⅡ、 研究(1)・(3)・(4)、宗教学研究(1)・(3)・(4)、法学研究、政治学研究(1)・(3)・(4)、経済学研究(1)・(3)・(4)、 研究(1)・(3)・(4)								
際経済入門、国際協力キャリア入門、経済数学の基礎、手話と点字の世界、日本手話とAmerican Sign Language								15
						最低修得必要単位数		124

（６）授業科目名・単位

授業科目	程度	開講ターム	単位	週時	担当者	備考
【必修科目】						
［セミナーおよび卒業論文］						
１年セミナー	Ⅰ	1,3,4	3	2	藤波　伸嘉 Sookyeong Hong 井上　則子 葛西　弘隆 松嵜　英也 南　　諭子 光成　　歩 水谷　明子 元橋　利恵 朴　　正鎮 澤木　久之 下谷内奈緒 多賀　吉隆 山下　靖子 吉岡　　潤	１年次必修
原書講読（２年セミナー）	Ⅱ	1,3,4	3	2	Chris Burgess 藤波　伸嘉 廣瀬　方美 葛西　弘隆 輿石　采佳 南　　諭子 光成　　歩 水谷　明子 元橋　利恵 朴　　正鎮 澤木　久之 下谷内奈緒 橘　　生子 多賀　吉隆 高垣マユミ 渡邊　あや 山下　靖子 吉岡　　潤	２年次必修
３年セミナー	Ⅲ	1,3,4	3	2		３年次必修
比較政治・政策研究					濱松　若菜	
文化の政治学					葛西　弘隆	
国際政治・国際機構論					下谷内奈緒	
国際法					南　　諭子	
国際経済研究					澤木　久之	
ジェンダーとセクシュアリティの社会学					元橋　利恵	
現代史研究					吉岡　　潤	
ウェルネス研究					井上　則子	
教育					高垣マユミ	
言語の多様性					多賀　吉隆	
哲学・社会思想史					北見　秀司	
フランス文学					市川　裕史	
ドイツ語圏文化研究					田邉　恵子	

授業科目	程度	開講ターム	単位	週時	担当者	備考
スペイン語圏文化研究					中井　博康	3年次必修
ユーラシア研究・途上国の政治と社会					松嵜　英也	
東南アジア研究					小島　敬裕	
東南アジアの社会と文化					光成　　歩	
朝鮮半島研究					朴　　正鎮	
中国・東アジア研究					関　　智英	
近現代日本と東アジア					岡本真希子	
近現代日本研究					Sookyeong Hong	
Japanese Society					Chris Burgess	
イスラーム地域研究					藤波　伸嘉	
4年セミナー	Ⅳ	1,3,4	3	2		4年次必修
比較政治・政策研究					東郷　育子	
文化の政治学					葛西　弘隆	
国際政治・国際機構論					下谷内奈緒	
国際法					南　　諭子	
国際化のなかの人権（憲法・法学）					武田万里子	
国際経済研究					澤木　久之	
開発経済論					森　　悠子	
ジェンダーとセクシュアリティの社会学					元橋　利恵	
現代史研究					吉岡　　潤	
ウェルネス研究					Maja Sori Doval	
教育					渡邊　あや	
言語の多様性					多賀　吉隆	
哲学・社会思想史					北見　秀司	
フランス文学					市川　裕史	
ドイツ語圏文化研究					田邉　恵子	
スペイン語圏文化研究					中井　博康	
ユーラシア研究					松嵜　英也	
東南アジア研究					小島　敬裕	
東南アジアの社会と文化					光成　　歩	
朝鮮半島研究					朴　　正鎮	
中国・東アジア研究					関　　智英	
近現代日本と東アジア					岡本真希子	
近現代日本研究					Sookyeong Hong	
Japanese Society					Chris Burgess	
イスラーム地域研究					藤波　伸嘉	
卒業論文	Ⅳ	－	6	－	4年セミナー各教員	4年次必修
［外国語科目（英語）］						
Extensive Reading Ⅰ	外国語科目のページ参照					
Intensive Reading Ⅰa Intensive Reading Ⅰb						
Oral English Ⅰ						
Composition Ⅰ						
Pronunciation Ⅰ						
Reading Skills Ⅱ	Ⅱ	1,3,4	3	2	増田　直子 奥野　晶子 大類　久恵 榊原かをり 高橋百合子 宇佐見英美子	2年次必修 Intensive Reading ⅠとExtensie Reading Ⅰの単位修得者のみ履修可

授業科目	程度	開講ターム	単位	週時	担当者	備考	
Oral English Ⅱ	Ⅱ	1,3,4	3	2	Kristofer R. Bayne Terence J. Cooney Kathleen A. R. Era Terry K. Fieldsend Paul Kallender Charles D. Miceli Lola G. Moriguchi Geoffrey Pierce Brian J. Sayers Paul M. Shackleford Robert Spivak Rosa W. S. Suen	２年次必修 Oral English Ⅰの単位修得者のみ履修可	
Composition Ⅱ	Ⅱ	1,3,4	3	2	安澤　梨花 五十嵐佐知子 伊藤孝一郎 米須　初美 真部多真記 増田　直子 榊原かをり 執行　智子 塩田　直子 宇佐見英美子 柳田　利枝 柳澤　波香	２年次必修 Composition Ⅰの単位修得者のみ履修可	
Listening Ⅱ	Ⅱ	1,3,4	3	2	Kenneth Biegel Terence J. Cooney Helen T. Nagasawa Jonathan D. Picken Paul M. Shackleford Robert Spivak Simon Stevens	２年次必修 Pronunciation Ⅰの単位修得者のみ履修可	
［外国語科目（第二外国語）］							
第二外国語　程度Ⅰ （文法・演習）	外国語科目のページ参照						
第二外国語　程度Ⅱ （講読・演習）							
［外国語Ⅲ］							
English Ⅲ (British Society) (1)	Ⅲ	1	1	2		（本年度休講） 隔年開講 「English Ⅲ (British History)(1)」 と交互に開講する。	「ヨーロッパ社会(イギリス)(1)」(国際) 「イギリス社会(1)」(英語英文) ３年次以上修得のみ English Ⅲの単位となる。 事前抽選科目（予備登録科目） 2022年度までの 「English Ⅲ (Lecture) (1)」 (サブタイトル：ヨーロッパ社会(イギリス))
English Ⅲ (British Society) (3)	Ⅲ	3	1	2		（本年度休講） 隔年開講 「English Ⅲ (British History)(3)」 と交互に開講する。	「ヨーロッパ社会(イギリス)(3)」(国際) 「イギリス社会(3)」(英語英文) ３年次以上修得のみ English Ⅲの単位となる。 事前抽選科目（予備登録科目） 2022年度までの 「English Ⅲ (Lecture) (3)」 (サブタイトル：ヨーロッパ社会(イギリス))
English Ⅲ (British Society) (4)	Ⅲ	4	1	2		（本年度休講） 隔年開講 「English Ⅲ (British History)(4)」 と交互に開講する。	「ヨーロッパ社会(イギリス)(4)」(国際) 「イギリス社会(4)」(英語英文) ３年次以上修得のみ English Ⅲの単位となる。 事前抽選科目（予備登録科目） 2022年度までの 「English Ⅲ (Lecture) (4)」 (サブタイトル：ヨーロッパ社会(イギリス))

授　業　科　目	程度	開講ターム	単位	週時	担　当　者	備　考	
EnglishⅢ (British History)(1)	Ⅲ	1	1	2	Alan G. Milne	隔年開講 「EnglishⅢ (British Society)(1)」 と交互に開講する。	「イギリス史(1)」(国際) ３年次以上修得のみ EnglishⅢの単位となる。 事前抽選科目(予備登録科目) 2022年度までの 「EnglishⅢ(Lecture)(1)」 (サブタイトル：イギリス史)
EnglishⅢ (British History)(3)	Ⅲ	3	1	2	Alan G. Milne	隔年開講 「EnglishⅢ (British Society)(3)」 と交互に開講する。	「イギリス史(3)」(国際) ３年次以上修得のみ EnglishⅢの単位となる。 事前抽選科目(予備登録科目) 2022年度までの 「EnglishⅢ(Lecture)(3)」 (サブタイトル：イギリス史)
EnglishⅢ (British History)(4)	Ⅲ	4	1	2	Alan G. Milne	隔年開講 「EnglishⅢ (British Society)(4)」 と交互に開講する。	「イギリス史(4)」(国際) ３年次以上修得のみ EnglishⅢの単位となる。 事前抽選科目(予備登録科目) 2022年度までの 「EnglishⅢ(Lecture)(4)」 (サブタイトル：イギリス史)
EnglishⅢ (Australian Studies)(1)	Ⅲ	1	1	2	Chris Burgess	「オーストラリア研究(1)」(国際) ３年次以上修得のみEnglishⅢの単位となる。 2022年度までの「EnglishⅢ(Lecture)(1)」 (サブタイトル：オーストラリア研究)	
EnglishⅢ (Australian Studies)(3)	Ⅲ	3	1	2	Chris Burgess	「オーストラリア研究(3)」(国際) ３年次以上修得のみEnglishⅢの単位となる。 2022年度までの「EnglishⅢ(Lecture)(3)」 (サブタイトル：オーストラリア研究)	
EnglishⅢ (Australian Studies)(4)	Ⅲ	4	1	2	Chris Burgess	「オーストラリア研究(4)」(国際) ３年次以上修得のみEnglishⅢの単位となる。 2022年度までの「EnglishⅢ(Lecture)(4)」 (サブタイトル：オーストラリア研究)	
EnglishⅢ (Current Global Issues)(1)	Ⅲ	1	1	2	Cao Thi Minh Chau	３年次以上修得のみEnglishⅢの単位となる。 2022年度までの「EnglishⅢ(Lecture)(1)」 (サブタイトル：現代社会とメディア)	
EnglishⅢ (Current Global Issues)(3)	Ⅲ	3	1	2	Cao Thi Minh Chau	３年次以上修得のみEnglishⅢの単位となる。 2022年度までの「EnglishⅢ(Lecture)(3)」 (サブタイトル：現代社会とメディア)	
EnglishⅢ (Current Global Issues)(4)	Ⅲ	4	1	2	Cao Thi Minh Chau	３年次以上修得のみEnglishⅢの単位となる。 2022年度までの「EnglishⅢ(Lecture)(4)」 (サブタイトル：現代社会とメディア)	
EnglishⅢ(Practice)	Ⅲ	1,3,4	3	2	Chris Burgess Sookyeong Hong 樹本　　健 Alan G. Milne Richard B. Wilcox	３年次以上修得のみEnglishⅢの単位となる。 事前抽選科目(予備登録科目)	
第二外国語　程度Ⅲ	外国語科目のページ参照						
［健康余暇科学科目］							
動きの教育	健康余暇科学科目のページ参照						
ウェルネス研究							
健康教育							
余暇教育							
［基本科目］							
国際関係概論(1)	Ⅰ	1	1	2	下谷内奈緒	１年次必修	
国際関係概論(3)	Ⅰ	3	1	2	朴　　正鎮	１年次必修	
国際関係概論(4)	Ⅰ	4	1	2	Sookyeong Hong 井上　則子 北見　秀司 南　　諭子 岡本真希子 澤木　久之 下谷内奈緒 Maja Sori Doval	１年次必修 オムニバス形式	

授業科目	程度	開講ターム	単位	週時	担当者	備考
地域研究序説(1)	Ⅰ	1	1	2	多賀　吉隆	1年次必修
地域研究序説(3)	Ⅰ	3	1	2	Chris Burgess 藤波　伸嘉 市川　裕史 小島　敬裕 光成　　歩 中井　博康 多賀　吉隆 吉岡　　潤	1年次必修 オムニバス形式
文化研究序説	Ⅰ	4	1	2	小島　敬裕	1年次必修
【選択科目】						
［基幹科目］						
国際政治論(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	朴　　正鎮	
国際政治論(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	朴　　正鎮	
国際政治論(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	朴　　正鎮	
国際機構論(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	下谷内奈緒	
国際機構論(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	下谷内奈緒	
国際機構論(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	下谷内奈緒	
国際法(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	南　　諭子	
国際法(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	南　　諭子	
国際法(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	南　　諭子	
国際経済論(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	澤木　久之	
国際経済論(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	澤木　久之	
国際経済論(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	澤木　久之	
開発経済学(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	Peng Mengying	
開発経済学(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	Peng Mengying	
開発経済学(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	Peng Mengying	
比較政治論(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	鳥羽真優子	
比較政治論(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	鳥羽真優子	
比較政治論(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	鳥羽真優子	
比較教育論(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	渡邊　あや	
比較教育論(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	渡邊　あや	
比較教育論(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	渡邊　あや	
国際関係史(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	吉岡　　潤	
国際関係史(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	吉岡　　潤	
国際関係史(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	吉岡　　潤	
社会思想史(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	北見　秀司	
社会思想史(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	北見　秀司	
社会思想史(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	北見　秀司	
現代文化論(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	Sookyeong Hong	
現代文化論(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	Sookyeong Hong	
現代文化論(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	Sookyeong Hong	
言語思想論(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	多賀　吉隆	
言語思想論(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	多賀　吉隆	
言語思想論(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	多賀　吉隆	
文学論(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	田邉　恵子	2022年度までの「翻訳文化論」
文学論(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	田邉　恵子	2022年度までの「越境文学論」
文学論(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	田邉　恵子	2022年度までの「文学論特論」
日本研究 (Japanese Society)(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	Chris Burgess	
日本研究 (Japanese Society)(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	Chris Burgess	
日本研究 (Japanese Society)(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	Chris Burgess	

授業科目	程度	開講ターム	単位	週時	担当者	備考	
［地域・展開科目］							
アメリカ政治(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	西山　隆行		
アメリカ政治(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	西山　隆行		
アメリカ政治(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	西山　隆行		
アメリカ経済 (アメリカ経済史)(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	塙　武郎	隔年開講	
アメリカ経済 (現代アメリカ経済論)(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	塙　武郎	隔年開講	
アメリカ経済 (現代アメリカ経済論)(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	塙　武郎	隔年開講	
アメリカ社会(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	西山　隆行		
アメリカ社会(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	西山　隆行		
アメリカ社会(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	西山　隆行		
アメリカ文化 a	英語英文学科のページ参照						
アメリカ文化 b							
アメリカ文化 c							
EU研究(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	廣瀬　方美		
EU研究(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	廣瀬　方美		
ヨーロッパ政治(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	宮内　悠輔		
ヨーロッパ政治(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	池田　和希		
ヨーロッパ経済 (イギリス)(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	菅本　浩幸	隔年開講「イギリス経済(1)」(英語英文)	
ヨーロッパ経済 (イギリス)(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	菅本　浩幸	隔年開講「イギリス経済(3)」(英語英文)	
ヨーロッパ経済 (イギリス)(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	菅本　浩幸	隔年開講「イギリス経済(4)」(英語英文)	
ヨーロッパ社会 (民族と言語)(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	多賀　吉隆		
ヨーロッパ社会 (民族と言語)(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	野村　佳世		
ヨーロッパ社会 (イギリス)(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2		(本年度休講) 隔年開講 「イギリス史(1)」と交互に開講する。	「English Ⅲ (British Society) (1)」(国際) 「イギリス社会(1)」(英語英文) 事前抽選科目(予備登録科目) 2022年度までの 「English Ⅲ (Lecture) (1)」 (サブタイトル:ヨーロッパ社会(イギリス))
ヨーロッパ社会 (イギリス)(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2		(本年度休講) 隔年開講 「イギリス史(3)」と交互に開講する。	「English Ⅲ (British Society) (3)」(国際) 「イギリス社会(3)」(英語英文) 事前抽選科目(予備登録科目) 2022年度までの 「English Ⅲ (Lecture) (3)」 (サブタイトル:ヨーロッパ社会(イギリス))
ヨーロッパ社会 (イギリス)(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2		(本年度休講) 隔年開講 「イギリス史(4)」と交互に開講する。	「English Ⅲ (British Society) (4)」(国際) 「イギリス社会(4)」(英語英文) 事前抽選科目(予備登録科目) 2022年度までの 「English Ⅲ (Lecture) (4)」 (サブタイトル:ヨーロッパ社会(イギリス))
ヨーロッパ社会 (イギリス史)(1)	英語英文学科のページ参照					「イギリス社会史 a」(英語英文)	
ヨーロッパ社会 (イギリス史)(3)						「イギリス社会史 b」(英語英文)	
ヨーロッパ文化 (イギリス)(1)						「イギリス文化史 a」(英語英文)	
ヨーロッパ文化 (イギリス)(4)						「イギリス文化史 b」(英語英文)	
ヨーロッパ文化 (フランス)(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2		(本年度休講) 隔年開講 「ヨーロッパ文化(ドイツ)(1)」と交互に開講する。	
ヨーロッパ文化 (フランス)(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2		(本年度休講) 隔年開講 「ヨーロッパ文化(ドイツ)(3)」と交互に開講する。	

授　業　科　目	程度	開講ターム	単位	週時	担　当　者	備　考
ヨーロッパ文化（フランス）(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2		（本年度休講）隔年開講 「ヨーロッパ文化（ドイツ）(4)」と交互に開講する。
ヨーロッパ文化（ドイツ）(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	柳原　伸洋	隔年開講 「ヨーロッパ文化（フランス）(1)」と交互に開講する。
ヨーロッパ文化（ドイツ）(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	柳原　伸洋	隔年開講 「ヨーロッパ文化（フランス）(3)」と交互に開講する。
ヨーロッパ文化（ドイツ）(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	柳原　伸洋	隔年開講 「ヨーロッパ文化（フランス）(4)」と交互に開講する。
ヨーロッパ文化（スペイン）(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	中井　博康	
ヨーロッパ文化（スペイン）(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	中井　博康	
ヨーロッパ文化（スペイン）(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	中井　博康	
東欧研究(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	吉岡　　潤	
東欧研究(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	吉岡　　潤	
東欧研究(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	吉岡　　潤	
ユーラシア研究(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	松嵜　英也	
ユーラシア研究(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	松嵜　英也	
ユーラシア研究(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	松嵜　英也	
西アジア研究(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	今井　真士	
西アジア研究(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	今井　真士	
西アジア研究(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	今井　真士	
南アジア研究(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	三瀬　利之	
南アジア研究(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	三瀬　利之	
南アジア研究(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	三瀬　利之	
オーストラリア研究(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	Chris Burgess	「EnglishⅢ（Australian Studies）(1)」（国際） 2022年度までの「EnglishⅢ（Lecture）(1)」（サブタイトル：オーストラリア研究）
オーストラリア研究(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	Chris Burgess	「EnglishⅢ（Australian Studies）(3)」（国際） 2022年度までの「EnglishⅢ（Lecture）(3)」（サブタイトル：オーストラリア研究）
オーストラリア研究(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	Chris Burgess	「EnglishⅢ（Australian Studies）(4)」（国際） 2022年度までの「EnglishⅢ（Lecture）(4)」（サブタイトル：オーストラリア研究）
東アジア研究（韓国現代史）	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	朴　　正鎮	
東アジア研究（北朝鮮特論）	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	朴　　正鎮	
東アジア研究（朝鮮半島の国際政治）	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	朴　　正鎮	
東アジア研究（現代韓国特論）	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	金　　貴粉	
東アジア研究（中国現代史）	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	関　　智英	
東アジア研究（中国・香港・台湾特論）	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	関　　智英	
東アジア研究（中国の国際政治）	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	関　　智英	
東アジア研究（現代中国特論）	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	鈴木　　航	
東アジア研究（現代中国社会論）	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	鈴木　　航	
東アジア研究（現代中国経済論）	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	鈴木　　航	
東南アジア研究（大陸部）(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	宮田　敏之	
東南アジア研究（大陸部）(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	佐治　　史	
東南アジア研究（大陸部）(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	宮田　敏之	
東南アジア研究（島嶼部）(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	光成　　歩	
東南アジア研究（島嶼部）(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	光成　　歩	
東南アジア研究（島嶼部）(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	光成　　歩	

授業科目	程度	開講ターム	単位	週時	担当者	備考	
東南アジア研究 (現代東南アジア特論)(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	光成　歩		
東南アジア研究 (現代東南アジア特論)(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	光成　歩		
東南アジア研究 (現代東南アジア特論)(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	光成　歩		
日本研究(沖縄研究)(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	水谷　明子		
日本研究(沖縄研究)(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	水谷　明子		
日本研究(沖縄研究)(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	水谷　明子		
日本研究（日本と台湾の近現代関係史）	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	岡本真希子		
日本研究（日本と朝鮮半島の近現代関係史）	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	岡本真希子		
日本研究（少数者の日本近現代史）	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	岡本真希子		
イスラーム概論	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	藤波　伸嘉		
イスラーム地域研究入門	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	藤波　伸嘉		
イスラーム地域研究特論	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	藤波　伸嘉		
アジア交流史(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	小島　敬裕	2024年度までの「アジア交流史」	
アジア交流史(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	柏　美紀		
アジア交流史(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	柏　美紀		
日本・アジアの文化研究(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	樹本　健		
日本・アジアの文化研究(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	樹本　健		
日本・アジアの文化研究(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	樹本　健		
イギリス史(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	Alan G. Milne	隔年開講 「ヨーロッパ社会(イギリス)(1)」と交互に開講する。	「EnglishⅢ(British History)(1)」(国際) 事前抽選科目(予備登録科目) 2022年度までの 「EnglishⅢ(Lecture)(1)」 (サブタイトル：イギリス史)
イギリス史(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	Alan G. Milne	隔年開講 「ヨーロッパ社会(イギリス)(3)」と交互に開講する。	「EnglishⅢ(British History)(3)」(国際) 事前抽選科目(予備登録科目) 2022年度までの 「EnglishⅢ(Lecture)(3)」 (サブタイトル：イギリス史)
イギリス史(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	Alan G. Milne	隔年開講 「ヨーロッパ社会(イギリス)(4)」と交互に開講する。	「EnglishⅢ(British History)(4)」(国際) 事前抽選科目(予備登録科目) 2022年度までの 「EnglishⅢ(Lecture)(4)」 (サブタイトル：イギリス史)
イギリス文化概論	英語英文学科のページ参照						
アメリカ文化概論							
イギリス文学概論 (詩・演劇・小説)							
イギリス文学史							
アメリカ文学史							
地域研究特論	Ⅱ～Ⅳ	2	1	4	水谷　明子 山下　靖子	オムニバス形式	
ラテンアメリカ研究	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	横田香穂梨		
アフリカ研究	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	眞城　百華		
教養としての外国語 (イタリア語)	Ⅱ～Ⅳ	2	1	4	中井　博康		
教養としての外国語 (ベトナム語)	Ⅱ～Ⅳ	2	1	4	Doan Thi Tra		
教養としての外国語 (タイ語)	Ⅱ～Ⅳ	2	1	－	宮田　敏之		
教養としての外国語 (オスマン語)	Ⅱ～Ⅳ	2	1	4	林　佳世子		

授　業　科　目	程度	開講ターム	単位	週時	担　当　者	備　考
国際機構特論	Ⅱ～Ⅳ	3,4	2	2	下谷内奈緒	
国際金融論(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2		(本年度休講) 隔年開講 「国際貿易論(1)」と交互に開講する。
国際金融論(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2		(本年度休講) 隔年開講 「国際貿易論(3)」と交互に開講する。
国際金融論(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2		(本年度休講) 隔年開講 「国際貿易論(4)」と交互に開講する。
国際貿易論(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	澤木　久之	隔年開講 「国際金融論(1)」と交互に開講する。
国際貿易論(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	澤木　久之	隔年開講 「国際金融論(3)」と交互に開講する。
国際貿易論(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	澤木　久之	隔年開講 「国際金融論(4)」と交互に開講する。
国際経営論(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	山下　智佳	
国際経営論(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	山下　智佳	
国際経営論(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	山下　智佳	
グローバリゼーション論(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	西口　里紗	
グローバリゼーション論(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	西口　里紗	
グローバリゼーション論(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	西口　里紗	
現代日本政治経済論(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	狩谷　尚志	
現代日本政治経済論(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	狩谷　尚志	
現代日本政治経済論(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	狩谷　尚志	
情報社会論(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	濱松　若葉	
情報社会論(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	貝原千馨枝	
憲法(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	大西　健司	
憲法(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	大西　健司	
憲法(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	大西　健司	
社会調査法入門(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	山内　智瑛	「社会調査法(1)」を修得済の場合は履修できない。 また、「社会調査法(1)」を同時に履修できない。
社会調査法入門(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	山内　智瑛	「社会調査法(3)」を修得済の場合は履修できない。 また、「社会調査法(3)」を同時に履修できない。
社会調査法入門(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	山内　智瑛	「社会調査法(4)」を修得済の場合は履修できない。 また、「社会調査法(4)」を同時に履修できない。
福祉社会学	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	元橋　利恵	
家族社会学	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	元橋　利恵	
ソーシャル・ インクルージョン論	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	元橋　利恵	
国際日本文化論(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	Sookyeong Hong	
国際日本文化論(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	Sookyeong Hong	
国際日本文化論(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	Sookyeong Hong	
人文地理学(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	星川　真樹	
人文地理学(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	星川　真樹	
人文地理学(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	星川　真樹	
自然地理学(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	仁科　淳司	
自然地理学(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	仁科　淳司	
自然地理学(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	仁科　淳司	
地誌(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	星川　真樹	
地誌(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	星川　真樹	
地誌(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	星川　真樹	
政治思想史(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	葛西　弘隆	
政治思想史(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	葛西　弘隆	
政治思想史(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	葛西　弘隆	
Oral EnglishⅢ(1)	Ⅲ	1	1	2	Terry K. Fieldsend	事前抽選科目(予備登録科目)
Oral EnglishⅢ(3)	Ⅲ	3	1	2	Terry K. Fieldsend	事前抽選科目(予備登録科目)
CompositionⅢ(1)	Ⅲ	1	1	2	Charles D. Miceli	事前抽選科目(予備登録科目)
CompositionⅢ(3)	Ⅲ	3	1	2	Charles D. Miceli	事前抽選科目(予備登録科目)

授業科目	程度	開講ターム	単位	週時	担当者	備考
英語学概論	英語英文学科のページ参照					
英語史						
音声学						
第二言語習得概論(英語教育)						
GrammarⅡ	外国語科目のページ参照					
Intercultural Understanding (Japan and the World)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	Cao Thi Minh Chau	
哲学研究(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	穴見　愼一	「哲学(1)」(共通科目)
哲学研究(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	穴見　愼一	「哲学(3)」(共通科目)
哲学研究(4)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	穴見　愼一	「哲学(4)」(共通科目)
宗教学研究(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	丹羽　宣子	「宗教学(1)」(共通科目)
宗教学研究(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	丹羽　宣子	「宗教学(3)」(共通科目)
宗教学研究(4)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	丹羽　宣子	「宗教学(4)」(共通科目)
法学研究	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	南　　諭子	「法学」(共通科目)
政治学研究(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	葛西　弘隆	「政治学(1)」(共通科目)
政治学研究(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	葛西　弘隆	「政治学(3)」(共通科目)
政治学研究(4)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	葛西　弘隆	「政治学(4)」(共通科目)
経済学研究(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	松本　広大	「経済学(1)」(共通科目)
経済学研究(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	松本　広大	「経済学(3)」(共通科目)
経済学研究(4)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	松本　広大	「経済学(4)」(共通科目)
世界史研究(1)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	藤波　伸嘉	「世界史概説(1)」(共通科目)
世界史研究(3)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	藤波　伸嘉	「世界史概説(3)」(共通科目)
世界史研究(4)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	藤波　伸嘉	「世界史概説(4)」(共通科目)
日本史概論(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	岡本真希子	「日本史概説(1)」(共通科目)
日本史概論(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	岡本真希子	「日本史概説(3)」(共通科目)
日本史概論(4)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	岡本真希子	「日本史概説(4)」(共通科目)
社会学研究(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	元橋　利恵	「社会学(1)」(共通科目)
社会学研究(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	元橋　利恵	「社会学(3)」(共通科目)
社会学研究(4)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	元橋　利恵	「社会学(4)」(共通科目)
【自由科目】						
自由科目として履修できる科目は、以下のとおりです。 ・本学で開講され履修可能な科目のすべて、および他大学において開講される科目で本学科が認めた科目 ※ただし、随意科目、教育実習A・Bおよび教職実践演習は除きます。 ・必修科目と選択科目の各分類が指定する修得必要単位数を超えて修得した単位						
Intensive Listening Ⅰ	外国語科目のページ参照					
語学研修(英語)	語学研修プログラムの単位認定のページ参照					
世界芸術としての文学・映画・芸能	Ⅰ～Ⅳ	2	1	4	Ian T. Ash	
福祉ボランティア実習	Ⅰ～Ⅳ	2	1	－	貝原千馨枝	
国際協力キャリア入門	Ⅰ～Ⅳ	2	1	－	宮澤　尚里	

6．多文化・国際協力学科

６-１．多文化・国際協力学科（2023年度以前入学者用）

（１）履修単位数

卒業に必要な最小限単位数は以下の通りです。

必修科目	
セミナーおよび卒業論文	18単位
基本科目	９単位
外国語科目（英語）	27単位
健康余暇科学科目	４単位
選択科目	
外国語科目（第二外国語）	15単位
共通科目	12単位
基幹科目	15単位
発展科目	12単位
自由科目	12単位
合　計	124単位

（２）履修方法

イ．セミナーおよび卒業論文［必修科目］

１年次から４年次まで、学習の中心を少人数指導のセミナーにおき、学年を追って１つだけ履修します。ただし、転部・転科・留学、その他やむをえない理由により、１年間に異なる学年のセミナー２つの同時履修を認めることがあります。

- １年基礎セミナー
  多文化・国際協力学科での学びの基礎となる用語や知識を習得し、研究の手法や学問のあり方を学びます。
- ２年セミナー（ラウンドテーブル）
  セミナーごとに、フィールドワークの基礎となる知識やスキルの習得を目指し、各自の研究テーマの設定を目指します。
- ３年セミナー
  各コースのテーマに関連する文献を題材とし、アカデミック・リーディングとディスカッションとプレゼンテーション・スキルの向上を目指しつつ、コミュニケーションを行う上で必要となる表現力全般を習得すると同時に、研究資料の扱い方などについて学びます。
- ４年セミナー
  ３年セミナーを継続し、独自の着眼と発想に基づいて、セミナー担当教員の指導を受けつつ４年間の総仕上げを行います。その成果をフィールドワーク報告卒業論文として形にします。

ロ．基本科目［必修科目］

多文化・国際協力学科の学びの基礎となる異文化・多文化理解を図るための出発点となる科目です。「多文化・国際協力の学び(1)(3)(4)」、「国際関係概論(1)」、「地域研究入門(3)(4)※」、「社会調査法(1)(3)(4)」の合計９単位を履修しなければなりません。１、２年次に履修してください。

※2024年度以降は、地域研究入門(3)は地域研究概論(4)、地域研究入門(4)は地域研究概論(3)。

ハ．外国語科目（英語）［必修科目］

１年次から３年次にかけ、学科での学びの基礎をなす英語コミュニケーション能力を多面的に、基礎から応用まで段階的に学習します。１年次に６科目12単位、２年次に４科目12単位、３年次に１科目３単位を履修し、合計27単位を以下の要領で修得しなければなりません。

	Reading Skills	Writing Skills	Listening Skills	Speaking Skills
１年次	Extensive Reading I（１単位）	Composition I（３単位）	Pronunciation I（３単位）	Oral English I（３単位）
	Intensive Reading I a（１単位）			
	Intensive Reading I b（１単位）			

２年次	MI Reading Skills Ⅱ （３単位）	MI Composition Ⅱ （３単位）	MI Listening Ⅱ （３単位）	MI Oral English Ⅱ （３単位）
３年次	MI Presentation & Academic Writing （３単位）			

ニ．外国語科目（第二外国語）［選択科目］

フランス語、ドイツ語、中国語、ロシア語、スペイン語、韓国・朝鮮語いずれか１言語の程度Ⅰ（文法・演習）・Ⅱ（講読・演習）について、１、２年次にわたって12単位、程度Ⅲ以上を３年次で３単位を修得しなければなりません。

※講読・演習や、程度の組合せは問いません。

例：「中国語Ⅲ（講読）(1)」、「中国語Ⅲ（演習）(3)」、「中国語Ⅳ(3)」という履修で３単位修得する。

※ただし、フランス語Ⅲ以上については「外国語科目」のページを参照すること。

• 以下の場合、２年次以下でも外国語の程度Ⅲとして履修することができます。

⑴　第二外国語の程度Ⅱを１年次で１科目（講読または演習）３単位修得済みの場合、２年次から履修できます（第二外国語の程度Ⅰの文法と演習、程度Ⅱの講読と演習４科目のうち程度Ⅰの文法を含む３科目を修得済みでなければ第二外国語の程度Ⅲを履修することはできません）。

⑵　第二外国語の程度ⅠとⅡ計12単位の認定試験に合格した場合、１年次から履修できます。

ホ．健康余暇科学科目［必修科目］

「動きの教育」、「ウェルネス研究」、「健康教育」、「余暇教育」について、なるべく１・２年次に合計４単位を修得します。「ウェルネス研究」は、複数ある科目の中から１科目を選択して履修します。「余暇教育」は、複数ある科目の中から異なる２科目を選択して履修します。

ヘ．共通科目［選択科目］

広く専門領域以外からも学識を得ることを目的に、~~全学~~共通科目からなるべく１・２年次に12単位を修得します。ただし、12単位のうち、学科が指定する以下の授業科目を６単位含める必要があります。

• 学科が指定する科目

文化人類学(1)・(3)・(4)、社会学(1)・(3)・(4)、哲学(1)・(3)・(4)、心理学(1)・(3)・(4)、政治学(1)・(3)・(4)、経済学(1)・(3)・(4)、法学、日本国憲法ａ・ｂ、法女性学、世界の文学（アメリカ）、世界の文学（イギリス）、世界の文学（英語圏）、世界の文学（フランス）(1)・(3)・(4)、世界の文学（ドイツ）(1)・(3)・(4)、世界の文学（ロシア）(1)・(3)・(4)、世界の文学（東欧）(1)・(3)・(4)、世界の文学（北欧）(1)・(3)・(4)、世界の文学（中国）(1)・(3)・(4)、世界の文学（朝鮮）(1)・(3)・(4)、ヒューマン・セクソロジー(1)・(3)・(4)

ト．基幹科目［選択科目］

多文化・国際協力学科の専門的な学びの幹となる科目です。文学、言語学、教育学、政治学、法学、経済学、社会学等、幅広く設定された科目より、各自の学習計画に応じて科目選択を行います。修得必要単位15単位のうち、９単位は学科が指定する以下の授業科目から履修しなければなりません。

• 学科が指定する科目

国際協力論(1)・(3)・(4)、多文化共生論(1)・(3)・(4)、グローバルヘルス(1)・(3)・(4)、国際社会学(1)・(3)・(4)、国際人口論(1)・(3)・(4)※、文化とジェンダー (1)・(3)・(4)、環境と文化 (1)・(3)・(4)

※国際人口論(1)・(3)・(4)は2024年度までの開講です。

チ．発展科目［選択科目］

多文化・国際協力学科の学びを深め、また広めていくための科目群です。文学、言語学、教育学、政治学、法学、経済学、社会学等、幅広く設定された科目より、各自の学習計画に応じて科目選択を行います。修得必要単位12単位のうち、学科およびコースが指定する授業科目からそれぞれ３単位ずつ、計６単位を履修しなければなりません。学科が指定する科目は以下の通りです。

• 学科が指定する科目

社会調査法特講、多文化・国際協力の実践(1)・(3)・(4)、
Global Southとフィールドワーク（アジア・アフリカ・ラテンアメリカ）ａ(1)・(3)・(4)、
Global Southとフィールドワーク（アジア・アフリカ・ラテンアメリカ）ｂ(1)・(3)・(4)、

多文化社会とフィールドワーク⑴・⑶・⑷、デベロプメント・スタディーズ、フィールドワークの実践ａ、フィールドワークの実践ｂ、フィールドワークの実践ｃ
- コースが指定する科目は、「⑶コースについて」を参照してください。

リ．自由科目

本学全開講科目のうち、イ～チに示す以外の科目履修により修得した単位は、自由科目として修得したものとみなします。また、イ～チに示す科目について、各要件分類が指定する修得必要単位数を超えて修得した単位は、自由科目として修得したものとみなします。他大学で開講される科目で本学科が認めた科目も自由科目の単位数に含めることができます。ただし、随意科目の修得単位は、自由科目に含めることができません。

（３）コースについて

多文化・国際協力学科のカリキュラムは、社会構造や文化の違いが引き起こしている問題、国際協力・国際援助が抱える問題に向き合い、学生がそれぞれのテーマに応じてフィールドワークを実施することができるように編成されています。本学科には「多文化共生」、「国際協力」、「国際ウェルネス」の３つのコースがあり、それぞれのセミナーが、コースに連動しています。コースの登録は、２年セミナーの選択の際に行われます。

各コースが指定する発展科目は以下の通りです。

- 多文化共生コース指定
  移民研究※、人口研究、国際移動論、マルチリンガリズム、言語政策、言語教育とジェンダー、マイノリティ論、先住民論、グローバリゼーションと文化　※移民研究は2024年度までの開講です。
- 国際協力コース指定
  国際ボランティア論、国際援助論、NPO-NGO論、国際交流論、開発と文化、貧困問題、紛争と平和、災害と復興、環境問題
- 国際ウェルネスコース指定
  世界の健康科学、国際ウェルネス、食と環境、市民社会と健康、民俗学、医療人類学、地域と歴史の中の子ども、ジェンダーと健康

（４）セミナー登録について

各学年のセミナーは必修科目となっています。１年次の秋にセミナー登録を行い所属セミナーを決めます。正式には毎年４月に教務課で行う履修登録期間に履修登録してください。

２年セミナー

- 11月に、２年セミナーについて説明があります。
- TsudaNetで配信する登録方法に従い登録URLから登録してください。
- ２年セミナーの定員は10名前後の予定です。定員数をオーバーした場合、セミナーごとに選考が行われることがあります。

３年セミナー・４年セミナー

- 原則として２年セミナーを継続します。

留学・休学する学生

- 海外留学中にフィールドワークを行う予定がある場合は、海外フィールドワークに必要な保険等の説明がありますので、早めに学芸学部事務室（多文化・国際協力学科）に連絡をしてください。
- ２年次前期から留学・休学を予定している場合も、１年次秋に２年セミナーの登録を行ってください。

登録に関する注意

- セミナー登録に関する問合せは、学芸学部事務室（多文化・国際協力学科）で受け付けています。教務課では扱っていないので注意してください。

フィールドワークについて

３年次から４年次にかけて全員が行う国内外でのフィールドワークは、セミナー担当教員との相談の上、計画の立案から事前調査、関係者との折衝、実施に至るまで、すべての作業を学生自身が行う点に特長があります。

フィールドワークに向けての準備は、以下の授業によって支えられています。多文化・国際協力の学びでは、学科の教員によるものを含む、フィールドワークの具体例に接します。ラウンドテーブルでは、フィールドワークの基礎となる知識（安全対策、危機管理、調査倫理上の課題）を習得し、３回の授業を通して行われるフィールドワーク報告会では、３・４年生の身近な経験を学びます。社会調査法(1)(3)(4)では、フィールドワークに必要な手法を学びます。最後に、各自の研究テーマについては各学年のセミナーにおいて議論します。

フィールドワークの実施前には、研究テーマ、調査の目的と手法を明らかにした上で、フィールドワーク届を提出します。提出後、記載不備のチェック（訪問先／連絡先、調査日程、調査地までの経路、海外渡航の場合は、保険加入と航空券予約を示す書類）と、署名（教員・学生・保護者）の確認を学科会議で行い、不備がなければフィールドワークを許可します。フィールドワークを終えてからは、調査結果に様々な考察を加え、最終的にフィールドワーク報告論文としてまとめます。

最後に注意事項として、以下の点が挙げられます。フィールドワークに関わる経費が自己負担であること、見込みとしての経費額、感染症の拡大等や大学の方針によりフィールドワークが中止・帰国などの対応を行うことがあること。

（５）多文化・国際協力学科　標準カリキュラム表

	1　年　次				2　年　次			
	授　業　科　目	程度	単位	週時	授　業　科　目	程度	単位	週時
必修科目	セミナーおよび卒業論文［18単位］							
	１年基礎セミナー	Ⅰ	3	2	２年セミナー（ラウンドテーブル）	Ⅱ	3	2
	基本科目［９単位］							
	多文化・国際協力の学び(1)	Ⅰ	1	2	社会調査法(1)	Ⅱ	1	2
	多文化・国際協力の学び(3)	Ⅰ	1	2	社会調査法(3)	Ⅱ	1	2
	多文化・国際協力の学び(4)	Ⅰ	1	2	社会調査法(4)	Ⅱ	1	2
	国際関係概論(1)	Ⅰ	1	2				
	地域研究入門(3)※1	Ⅰ	1	2				
	地域研究入門(4)※2	Ⅰ	1	2				
	外国語科目（英語）［27単位］							
	Extensive Reading Ⅰ	Ⅰ	1	2	MI Reading SkillsⅡ	Ⅱ	3	2
	Intensive Reading Ⅰa	Ⅰ	1	2				
	Intensive Reading Ⅰb	Ⅰ	1	2				
	Oral English Ⅰ	Ⅰ	3	2	MI Oral EnglishⅡ	Ⅱ	3	2
	Composition Ⅰ	Ⅰ	3	2	MI CompositionⅡ	Ⅱ	3	2
	Pronunciation Ⅰ	Ⅰ	3	2	MI ListeningⅡ	Ⅱ	3	2
	健康余暇科学科目［４単位］							
	動きの教育	Ⅰ	1	2	健康教育	Ⅱ	1	2
	ウェルネス研究	Ⅰ	1	2	余暇教育	Ⅱ	0.5×2	2
選択科目	外国語科目（第二外国語）［12単位］							
	第二外国語Ⅰ(文法)	Ⅰ	3	2	第二外国語Ⅱ(講読)	Ⅱ	3	2
	第二外国語Ⅰ(演習)	Ⅰ	3	2	第二外国語Ⅱ(演習)	Ⅱ	3	2

共通科目［12単位］ 学科指定の以下の科目から６単位を含む12単位を履修する。

文化人類学(1)・(3)・(4)、社会学(1)・(3)・(4)、哲学(1)・(3)・(4)、心理学(1)・(3)・(4)、政治学(1)・(3)・(4)、経済学(1)・

基幹科目【15単位】 次の科目のうち学科指定から９単位を含

◆学科指定

国際協力論(1)・(3)・(4)
多文化共生論(1)・(3)・(4)
国際保健論(1)・(3)・(4)
グローバルヘルス(1)・(3)・(4)
国際社会学(1)・(3)・(4)
国際人口論(1)・(3)・(4)
文化とジェンダー(1)・(3)・(4)
環境と文化(1)・(3)・(4)

発展科目【12単位】 次の科目のうち学科指定およびコース指

◆学科指定

社会調査法特講
多文化･国際協力の実践(1)・(3)・(4)
Global Southとフィールドワーク(アジア･アフリカ･ラテンアメリカ)a(1)・(3)・(4)
Global Southとフィールドワーク(アジア･アフリカ･ラテンアメリカ)b(1)・(3)・(4)
多文化社会とフィールドワーク(1)・(3)・(4)
デベロプメント･スタディーズ
フィールドワークの実践ａ
フィールドワークの実践ｂ
フィールドワークの実践ｃ

◆多文化共生コース指定

移民研究
人口研究
国際移動論
マルチリンガリズム
言語政策
言語教育とジェンダー
マイノリティ論
先住民論
グローバリゼーションと文化

◆国際協力コース指定

国際ボランティア論
国際援助論
NPO−NGO論
国際交流論
開発と文化
貧困問題

自由科目

Multicultural Studies、日本の伝統芸能：日本舞踊を中心に、オンラインによるLecture on Latin American Society、舞台芸ドワーク言語ａ、フィールドワーク言語ｂ、津田塾の植物フィールドワーク、フィールドワーク言語、ラテンアメリカの文

※1　2024年度以降の「地域研究概論(4)」
※2　2024年度以降の「地域研究概論(3)」

３　年　次				４　年　次				計
授　業　科　目	程度	単位	週時	授　業　科　目	程度	単位	週時	
３年セミナー(1) ３年セミナー(3) ３年セミナー(4)	Ⅲ Ⅲ Ⅲ	1 1 1	2 2 2	４年セミナー フィールドワーク報告卒業論文	Ⅳ Ⅳ	3 6	2	27
MI Presentation & Academic Writing	Ⅲ	3	2					27
								4
［３単位］ 第二外国語Ⅲ	Ⅲ	3	2					15
(3)・(4)、法学、日本国憲法ａ・ｂ、法女性学、世界の文学(1)・(3)・(4)、ヒューマン・セクソロジー(1)・(3)・(4)								12
む合計15単位 **◆その他** 国際政治論(1)・(3)・(4) 国際機構論(1)・(3)・(4) 国際法(1)・(3)・(4) 国際経済論(1)・(3)・(4) 開発経済学(1)・(3)・(4) 比較政治論(1)・(3)・(4) 社会思想史(1)・(3)・(4) 現代文化論(1)・(3)・(4) 言語思想論(1)・(3)・(4) GrammarⅡ **◆その他** イギリス文学史 アメリカ文学史 英語学概論 英語史 社会言語学 コミュニケーション概論 第二言語習得概論（英語教育） Japan Studies in English(Introduction) 言語とコミュニケーション 異文化コミュニケーション理論 Journeys in English								15
定からそれぞれ３単位を含む合計12単位 **◆国際協力コース指定** 紛争と平和 災害と復興 環境問題 **◆国際ウェルネスコース指定** 世界の健康科学 国際ウェルネス 食と環境 市民社会と健康 民俗学 医療人類学 国際関係の中の子ども 地域と歴史の中の子ども ジェンダーと健康 **◆その他** グローバル文学（英語）特殊講義 Contemporary British Society and Culture a Contemporary British Society and Culture b グローバルヒストリーのなかのイギリス Diaspora Studies アメリカ政治(1)・(3)・(4) アメリカ社会(1)・(3)・(4) ヨーロッパ社会(イギリス)(1)・(3)・(4) ヨーロッパ社会(イギリス史)(1)・(3) ヨーロッパ文化(イギリス)(1)・(4) ヨーロッパ文化(フランス)(1)・(3)・(4) ヨーロッパ文化(ドイツ)(1)・(3)・(4) **◆その他** ヨーロッパ文化(スペイン)(1)・(3)・(4) 東欧研究(1)・(3)・(4) オーストラリア研究(1)・(3)・(4) 東アジア研究(韓国現代史) 東アジア研究(北朝鮮特論) 東アジア研究(朝鮮半島の国際政治) 東アジア研究(中国現代史) 東アジア研究(中国・香港・台湾特論) 東アジア研究(中国の国際政治) 日本研究(日本と台湾の近現代関係史) 日本研究(日本と朝鮮半島の近現代関係史) 日本研究(少数者の日本近現代史) 日本研究(Japanese Society)(1)・(3)・(4) イスラーム概論 イスラーム地域研究入門 イスラーム地域研究特論 イギリス史(1)・(3)・(4) 文法論 対照言語学1 認知科学と言語教育 Debate 音声学(※注) 情報社会論(1)・(3) 人文地理学(1)・(3)・(4) Oral EnglishⅢ(1)・(3) CompositionⅢ(1)・(3)								12
術/伝統芸能の国際化―新型コロナの時代を例として―、ジャーナリズムと文学―水俣と石牟礼道子から考える、フィール化と社会（マヤ世界を中心に）、その他、本学全開講科目・他大学において開講される科目で本学科が認めた科目								12
（※注）2022年度以前履修者は発展科目。2023年度以降履修不可。				最低修得必要単位数				124

（６）授業科目名・単位

授業科目	程度	開講ターム	単位	週時	担当者	備考
【必修科目】						
［セミナーおよび卒業論文］						
１年基礎セミナー	Ⅰ	1,3,4	3	2	木村真希子 木村　朗子 近藤　　宏 丸山　淳子 松山　章子 大倉由布子 八塚　春名	１年次必修
２年セミナー （ラウンドテーブル）	Ⅱ	1,3,4	3	2	一條　洋子 川端　浩平 木村真希子 木村　朗子 近藤　　宏 丸山　淳子 松山　章子 八塚　春名	２年次必修
３年セミナー(1)	Ⅲ	1	1	2	川端　浩平 木村真希子 木村　朗子 近藤　　宏 丸山　淳子 松山　章子 渡辺　　長 八塚　春名	３年次必修
３年セミナー(3)	Ⅲ	3	1	2	川端　浩平 木村真希子 木村　朗子 近藤　　宏 丸山　淳子 松山　章子 渡辺　　長 八塚　春名	３年次必修
３年セミナー(4)	Ⅲ	4	1	2	川端　浩平 木村真希子 木村　朗子 近藤　　宏 丸山　淳子 松山　章子 渡辺　　長 八塚　春名	３年次必修
４年セミナー	Ⅳ	1,3,4	3	2	川端　浩平 木村真希子 木村　朗子 近藤　　宏 丸山　淳子 松山　章子 水谷　明子 八塚　春名	４年次必修
フィールドワーク報告 卒業論文	Ⅳ		6		川端　浩平 木村真希子 木村　朗子 近藤　　宏 丸山　淳子 松山　章子 水谷　明子 八塚　春名	４年次必修

授業科目	程度	開講ターム	単位	週時	担当者	備考
［基本科目］						
多文化・国際協力の学び(1)	Ⅰ	1	1	2	木村真希子	1年次必修
多文化・国際協力の学び(3)	Ⅰ	3	1	2	木村真希子 川端　浩平 木村　朗子 近藤　　宏 丸山　淳子 松山　章子 八塚　春名	1年次必修 オムニバス
多文化・国際協力の学び(4)	Ⅰ	4	1	2	丸山　淳子	1年次必修
国際関係概論(1)	Ⅰ	1	1	2	下谷内奈緒	1年次必修
地域研究概論(3)	Ⅰ	3	1	2	近藤　　宏 川端　浩平 木村真希子 木村　朗子 丸山　淳子 松山　章子 八塚　春名	1年次必修 オムニバス 2023年度までの「地域研究入門(4)」
地域研究概論(4)	Ⅰ	4	1	2	近藤　　宏	1年次必修。2023年度までの「地域研究入門(3)」
社会調査法(1)	Ⅱ	1	1	2	大野　富美	2年次必修。「社会調査法入門(1)」を修得済の場合は履修できない。また、「社会調査法入門(1)」を同時に履修できない。
社会調査法(3)	Ⅱ	3	1	2	松山　章子	2年次必修。「社会調査法入門(3)」を修得済の場合は履修できない。また、「社会調査法入門(3)」を同時に履修できない。
社会調査法(4)	Ⅱ	4	1	2	松山　章子	2年次必修。「社会調査法入門(4)」を修得済の場合は履修できない。また、「社会調査法入門(4)」を同時に履修できない。
［外国語科目（英語）］						
Extensive Reading Ⅰ	外国語科目のページ参照					1年次必修
Intensive Reading Ⅰa						
Intensive Reading Ⅰb						
Oral English Ⅰ						
Composition Ⅰ						
Pronunciation Ⅰ						
MI Reading Skills Ⅱ	Ⅱ	1,3,4	3	2	伊藤孝一郎 楠　　香織 坂口美知子	2年次必修
MI Oral English Ⅱ	Ⅱ	1,3,4	3	2	Richard L. Burton Steven P. Engler Helen T. Nagasawa Bernard F. Wilson	2年次必修
MI Composition Ⅱ	Ⅱ	1,3,4	3	2	石川めぐみ 中尾　真子 落合　美雪 田丸由美子	
MI Listening Ⅱ	Ⅱ	1,3,4	3	2	Joshua B. Antle Christopher Elvin Paul Kallender	
MI Presentation & Academic Writing	Ⅲ	1,3,4	3	2	Richard R. Caraker Christopher Elvin Richard B. Wilcox Bernard F. Wilson	3年次必修
［健康余暇科学科目］						
動きの教育	健康余暇科学科目のページ参照					
ウェルネス研究						
健康教育						
余暇教育						

授業科目	程度	開講ターム	単位	週時	担当者	備考
【選択科目】						
［外国語科目（第二外国語）］						
第二外国語　程度Ⅰ（文法・演習）	外国語科目のページ参照					
第二外国語　程度Ⅱ（講読・演習）						
第二外国語　程度Ⅲ						
［共通科目］						
共通科目のページ参照						
【基幹科目】						
国際協力論(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	八塚　春名	
国際協力論(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	八塚　春名	
国際協力論(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	八塚　春名	
多文化共生論(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	川端　浩平	
多文化共生論(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	川端　浩平	
多文化共生論(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	川端　浩平	
グローバルヘルス(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	渡辺　長	「国際保健論(1)」を修得済みの人は履修不可
グローバルヘルス(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	渡辺　長	「国際保健論(3)」を修得済みの人は履修不可
グローバルヘルス(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	渡辺　長	「国際保健論(4)」を修得済みの人は履修不可
国際社会学(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	木村真希子	
国際社会学(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	木村真希子	
国際社会学(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	木村真希子	
環境と文化(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	近藤　宏	
環境と文化(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	近藤　宏	
環境と文化(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	近藤　宏	
文化とジェンダー(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	木村　朗子	
文化とジェンダー(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	木村　朗子	
文化とジェンダー(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	木村　朗子	
国際政治論(1)	国際関係学科のページ参照					
国際政治論(3)						
国際政治論(4)						
国際機構論(1)						
国際機構論(3)						
国際機構論(4)						
国際法(1)						
国際法(3)						
国際法(4)						
国際経済論(1)						
国際経済論(3)						
国際経済論(4)						
開発経済学(1)						
開発経済学(3)						
開発経済学(4)						
比較政治論(1)						
比較政治論(3)						
比較政治論(4)						
社会思想史(1)						
社会思想史(3)						
社会思想史(4)						
現代文化論(1)						
現代文化論(3)						
現代文化論(4)						
言語思想論(1)						
言語思想論(3)						
言語思想論(4)						

授業科目	程度	開講ターム	単位	週時	担当者	備考
GrammarⅡ	外国語科目のページ参照					
イギリス文学史	英語英文学科のページ参照					
アメリカ文学史						
英語学概論						
英語史						
社会言語学						
コミュニケーション概論						
第二言語習得概論（英語教育）						
Japan Studies in English (Introduction)						
言語とコミュニケーション						
異文化コミュニケーション理論						
Journeys in English	外国語科目のページ参照					
【発展科目】						
社会調査法特講	Ⅱ～Ⅳ	2	1	－	大野　富美	２年次に「社会調査法(1)(3)(4)」と同時履修を推奨する
多文化・国際協力の実践(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	松山　章子	
多文化・国際協力の実践(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	川端　浩平	
多文化・国際協力の実践(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	松山　章子	
Global Southとフィールドワーク（アジア・アフリカ・ラテンアメリカ）a (1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	近藤　宏	
Global Southとフィールドワーク（アジア・アフリカ・ラテンアメリカ）a (3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	近藤　宏	
Global Southとフィールドワーク（アジア・アフリカ・ラテンアメリカ）a (4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	菊地　真理	
Global Southとフィールドワーク（アジア・アフリカ・ラテンアメリカ）b (1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	荒木美奈子	
Global Southとフィールドワーク（アジア・アフリカ・ラテンアメリカ）b (3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	神代ちひろ	
Global Southとフィールドワーク（アジア・アフリカ・ラテンアメリカ）b (4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	小西　公大	
多文化社会とフィールドワーク(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	山下　靖子	
多文化社会とフィールドワーク(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	山下　靖子	
多文化社会とフィールドワーク(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	山下　靖子	
デベロプメント・スタディーズ	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	山下　靖子	
フィールドワークの実践 a	Ⅱ～Ⅳ	2	1	－	八塚　春名	
フィールドワークの実践 b	Ⅱ～Ⅳ	2	1	－	清藤　春香	
フィールドワークの実践 c	Ⅱ～Ⅳ	2	1	－	吉朝　加奈	
人口研究	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	澤田　佳世	
国際移動論	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	木村真希子	
マルチリンガリズム	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	斎藤　敬太	
言語政策	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	斎藤　敬太	
言語教育とジェンダー	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	佐藤　響子	
マイノリティ論	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	川端　浩平	
先住民論	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	木村真希子	
グローバリゼーションと文化	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	川端　浩平	
国際ボランティア論	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	木山　啓子	
国際援助論	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	崎坂香屋子	
NPO-NGO論	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	平山　雄大	

授　業　科　目	程度	開講ターム	単位	週時	担　当　者	備　考
国際交流論	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	稲田　充弘	
開発と文化	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	丸山　淳子	
貧困問題	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	丸山　淳子	
紛争と平和	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	田村　幸恵	
災害と復興	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	瀬尾　夏美	
環境問題	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	八塚　春名	
世界の健康科学	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	松山　章子	
国際ウェルネス	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	西原　三佳	
食と環境	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	八塚　春名	
市民社会と健康	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	西原　三佳	
民俗学	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	松本　亜紀	
医療人類学	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	松山　章子	
地域と歴史の中の子ども	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	水谷　明子	
ジェンダーと健康	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	吉朝　加奈	
グローバル文学（英語）特殊講義	英語英文学科のページ参照					
Contemporary British Society and Culture a						
Contemporary British Society and Culture b						
グローバルヒストリーのなかのイギリス						
文法論						
対照言語学１						
認知科学と言語教育						
Debate						
Diaspora Studies						
ヨーロッパ社会（イギリス史）(1)						
ヨーロッパ社会（イギリス史）(3)						
ヨーロッパ文化（イギリス）(1)						
ヨーロッパ文化（イギリス）(4)						
アメリカ政治(1)	国際関係学科のページ参照					
アメリカ政治(3)						
アメリカ政治(4)						
アメリカ社会(1)						
アメリカ社会(3)						
アメリカ社会(4)						
ヨーロッパ社会（イギリス）(1)						
ヨーロッパ社会（イギリス）(3)						
ヨーロッパ社会（イギリス）(4)						
ヨーロッパ文化（フランス）(1)						
ヨーロッパ文化（フランス）(3)						
ヨーロッパ文化（フランス）(4)						
ヨーロッパ文化（ドイツ）(1)						
ヨーロッパ文化（ドイツ）(3)						
ヨーロッパ文化（ドイツ）(4)						
ヨーロッパ文化（スペイン）(1)						
ヨーロッパ文化（スペイン）(3)						
ヨーロッパ文化（スペイン）(4)						
東欧研究(1)						
東欧研究(3)						
東欧研究(4)						
オーストラリア研究(1)						
オーストラリア研究(3)						
オーストラリア研究(4)						
東アジア研究（韓国現代史）						

授業科目	程度	開講ターム	単位	週時	担当者	備考
東アジア研究(北朝鮮特論)	国際関係学科のページ参照					
東アジア研究 (朝鮮半島の国際政治)						
東アジア研究(中国現代史)						
東アジア研究 (中国・香港・台湾特論)						
東アジア研究 (中国の国際政治)						
日本研究 (日本と台湾の近現代関係史)						
日本研究 (日本と朝鮮半島の近現代関係史)						
日本研究 (少数者の日本近現代史)						
日本研究 (Japanese Society)(1)						
日本研究 (Japanese Society)(3)						
日本研究 (Japanese Society)(4)						
イスラーム概論						
イスラーム地域研究入門						
イスラーム地域研究特論						
イギリス史(1)						
イギリス史(3)						
イギリス史(4)						
情報社会論(1)						
情報社会論(3)						
人文地理学(1)						
人文地理学(3)						
人文地理学(4)						
Oral EnglishⅢ(1)						
Oral EnglishⅢ(3)						
CompositionⅢ(1)						
CompositionⅢ(3)						
【自由科目】						
フィールドワーク言語 (ヒンディー語)	Ⅰ～Ⅳ	2	1	4	Shreya Vijay Wagh	(　　)内の言語が異なれば再度履修可 「フィールドワーク言語ａ」を修得済の人は履修不可
フィールドワーク言語 (スワヒリ語)	Ⅰ～Ⅳ	2	1	4	井上真悠子	(　　)内の言語が異なれば再度履修可 「フィールドワーク言語ｂ」を修得済の人は履修不可
フィールドワーク言語 (琉球諸語)	Ⅰ～Ⅳ	2	1	4	Kenan Thibault Celik	(　　)内の言語が異なれば再度履修可
津田塾の植物 フィールドワーク	Ⅰ	2	1	－	山科　千里	実験的講座

６-２．多文化・国際協力学科（2024年度以降入学者用）

（１）履修単位数

卒業に必要な最小限単位数は以下の通りです。

必修科目	
セミナーおよび卒業論文	18単位
基本科目	９単位
外国語科目（英語）	27単位
健康余暇科学科目	４単位
選択科目	
外国語科目（第二外国語）	15単位
共通科目	12単位
基幹科目	15単位
発展科目	12単位
自由科目	12単位
合　計	124単位

（２）履修方法

イ．セミナーおよび卒業論文［必修科目］

１年次から４年次まで、学習の中心を少人数指導のセミナーにおき、学年を追って１つだけ履修します。ただし、転部・転科・留学、その他やむをえない理由により、１年間に異なる学年のセミナー２つの同時履修を認めることがあります。

- １年基礎セミナー
  多文化・国際協力学科での学びの基礎となる用語や知識を習得し、研究の手法や学問のあり方を学びます。
- ２年セミナー（ラウンドテーブル）
  セミナーごとに、フィールドワークの基礎となる知識やスキルの習得を目指し、各自の研究テーマの設定を目指します。
- ３年セミナー
  各コースのテーマに関連する文献を題材とし、アカデミック・リーディングとディスカッションとプレゼンテーション・スキルの向上を目指しつつ、コミュニケーションを行う上で必要となる表現力全般を習得すると同時に、研究資料の扱い方などについて学びます。
- ４年セミナー
  ３年セミナーを継続し、独自の着眼と発想に基づいて、セミナー担当教員の指導を受けつつ４年間の総仕上げを行います。その成果をフィールドワーク報告卒業論文として形にします。

ロ．基本科目［必修科目］

多文化・国際協力学科の学びの基礎となる異文化・多文化理解を図るための出発点となる科目です。「多文化・国際協力の学び(1)(3)(4)」、「国際関係概論(1)」、「地域研究概論(3)(4)」、「社会調査法(1)(3)(4)」の合計９単位を履修しなければなりません。１、２年次に履修してください。

ハ．外国語科目（英語）［必修科目］

１年次から３年次にかけ、学科での学びの基礎をなす英語コミュニケーション能力を多面的に、基礎から応用まで段階的に学習します。１年次に６科目12単位、２年次に４科目12単位、３年次に１科目３単位を履修し、合計27単位を以下の要領で修得しなければなりません。

	Reading Skills	Writing Skills	Listening Skills	Speaking Skills
１年次	Extensive Reading I（１単位）	Composition I（３単位）	Pronunciation I（３単位）	Oral English I（３単位）
	Intensive Reading I a（１単位）			
	Intensive Reading I b（１単位）			

２年次	MI Reading Skills Ⅱ （３単位）	MI Composition Ⅱ （３単位）	MI Listening Ⅱ （３単位）	MI Oral English Ⅱ （３単位）
３年次	MI Presentation & Academic Writing （３単位）			

ニ．外国語科目（第二外国語）［選択科目］

フランス語、ドイツ語、中国語、ロシア語、スペイン語、韓国・朝鮮語いずれか１言語の程度Ⅰ（文法・演習）・Ⅱ（講読・演習）について、１、２年次にわたって12単位、程度Ⅲ以上を３年次で３単位を修得しなければなりません。

※講読・演習や、程度の組合せは問いません。

例：「中国語Ⅲ（講読）(1)」、「中国語Ⅲ（演習）(3)」、「中国語Ⅳ(3)」という履修で３単位修得する。

※ただし、フランス語Ⅲ以上については「外国語科目」のページを参照すること。

• 以下の場合、２年次以下でも外国語の程度Ⅲとして履修することができます。

⑴　第二外国語の程度Ⅱを１年次で１科目（講読または演習）３単位修得済みの場合、２年次から履修できます（第二外国語の程度Ⅰの文法と演習、程度Ⅱの講読と演習４科目のうち程度Ⅰの文法を含む３科目を修得済みでなければ第二外国語の程度Ⅲを履修することはできません）。

⑵　第二外国語の程度ⅠとⅡ計12単位の認定試験に合格した場合、１年次から履修できます。

ホ．健康余暇科学科目［必修科目］

「動きの教育」、「ウェルネス研究」、「健康教育」、「余暇教育」について、なるべく１・２年次に合計４単位を修得します。「ウェルネス研究」は、複数ある科目の中から１科目を選択して履修します。「余暇教育」は、複数ある科目の中から異なる２科目を選択して履修します。

ヘ．共通科目［選択科目］

広く専門領域以外からも学識を得ることを目的に、~~全学~~共通科目からなるべく１・２年次に12単位を修得します。ただし、12単位のうち、学科が指定する以下の授業科目を６単位含める必要があります。

• 学科が指定する科目

文化人類学(1)・(3)・(4)、社会学(1)・(3)・(4)、哲学(1)・(3)・(4)、心理学(1)・(3)・(4)、政治学(1)・(3)・(4)、経済学(1)・(3)・(4)、法学、日本国憲法ａ・ｂ、法女性学、世界の文学（アメリカ）、世界の文学（イギリス）、世界の文学（英語圏）、世界の文学（フランス）(1)・(3)・(4)、世界の文学（ドイツ）(1)・(3)・(4)、世界の文学（ロシア）(1)・(3)・(4)、世界の文学（東欧）(1)・(3)・(4)、世界の文学（北欧）(1)・(3)・(4)、世界の文学（中国）(1)・(3)・(4)、世界の文学（朝鮮）(1)・(3)・(4)、ヒューマン・セクソロジー(1)・(3)・(4)

ト．基幹科目［選択科目］

多文化・国際協力学科の専門的な学びの幹となる科目です。文学、言語学、教育学、政治学、法学、経済学、社会学等、幅広く設定された科目より、各自の学習計画に応じて科目選択を行います。修得必要単位15単位のうち、９単位は学科が指定する以下の授業科目から履修しなければなりません。

• 学科が指定する科目

国際協力論(1)・(3)・(4)、多文化共生論(1)・(3)・(4)、グローバルヘルス(1)・(3)・(4)、国際社会学(1)・(3)・(4)、国際人口論(1)・(3)・(4)※、文化とジェンダー (1)・(3)・(4)、環境と文化 (1)・(3)・(4)

※国際人口論(1)・(3)・(4)は2024年度までの開講です。

チ．発展科目［選択科目］

多文化・国際協力学科の学びを深め、また広めていくための科目群です。文学、言語学、教育学、政治学、法学、経済学、社会学等、幅広く設定された科目より、各自の学習計画に応じて科目選択を行います。修得必要単位12単位のうち、学科およびコースが指定する授業科目からそれぞれ３単位ずつ、計６単位を履修しなければなりません。学科が指定する科目は以下の通りです。

• 学科が指定する科目

社会調査法特講、多文化・国際協力の実践(1)・(3)・(4)、
Global Southとフィールドワーク（アジア・アフリカ・ラテンアメリカ）ａ(1)・(3)・(4)、
Global Southとフィールドワーク（アジア・アフリカ・ラテンアメリカ）ｂ(1)・(3)・(4)、

多文化社会とフィールドワーク(1)・(3)・(4)、デベロプメント・スタディーズ、フィールドワークの実践ａ、フィールドワークの実践ｂ、フィールドワークの実践ｃ
- コースが指定する科目は、「(3)コースについて」を参照してください。

リ．自由科目

本学全開講科目のうち、イ～チに示す以外の科目履修により修得した単位は、自由科目として修得したものとみなします。また、イ～チに示す科目について、各要件分類が指定する修得必要単位数を超えて修得した単位は、自由科目として修得したものとみなします。他大学で開講される科目で本学科が認めた科目も自由科目の単位数に含めることができます。ただし、随意科目の修得単位は、自由科目に含めることができません。

（３）コースについて

多文化・国際協力学科のカリキュラムは、社会構造や文化の違いが引き起こしている問題、国際協力・国際援助が抱える問題に向き合い、学生がそれぞれのテーマに応じてフィールドワークを実施することができるように編成されています。本学科には「多文化共生」、「国際協力」、「国際ウェルネス」の３つのコースがあり、それぞれのセミナーが、コースに連動しています。コースの登録は、２年セミナーの選択の際に行われます。

各コースが指定する発展科目は以下の通りです。

- 多文化共生コース指定
  移民研究※、人口研究、国際移動論、マルチリンガリズム、言語政策、言語教育とジェンダー、マイノリティ論、先住民論、グローバリゼーションと文化　※移民研究は2024年度までの開講です。
- 国際協力コース指定
  国際ボランティア論、国際援助論、NPO-NGO論、国際交流論、開発と文化、貧困問題、紛争と平和、災害と復興、環境問題
- 国際ウェルネスコース指定
  世界の健康科学、国際ウェルネス、食と環境、市民社会と健康、民俗学、医療人類学、地域と歴史の中の子ども、ジェンダーと健康

（４）セミナー登録について

各学年のセミナーは必修科目となっています。１年次の秋にセミナー登録を行い所属セミナーを決めます。正式には毎年４月に教務課で行う履修登録期間に履修登録してください。

２年セミナー

- 11月に、２年セミナーについて説明があります。
- TsudaNetで配信する登録方法に従い登録URLから登録してください。
- ２年セミナーの定員は10名前後の予定です。定員数をオーバーした場合、セミナーごとに選考が行われることがあります。

３年セミナー・４年セミナー

- 原則として２年セミナーを継続します。

留学・休学する学生

- 海外留学中にフィールドワークを行う予定がある場合は、海外フィールドワークに必要な保険等の説明がありますので、早めに学芸学部事務室（多文化・国際協力学科）に連絡をしてください。
- ２年次前期から留学・休学を予定している場合も、１年次秋に２年セミナーの登録を行ってください。

登録に関する注意

- セミナー登録に関する問合せは、学芸学部事務室（多文化・国際協力学科）で受け付けています。教務課では扱っていないので注意してください。

フィールドワークについて

３年次から４年次にかけて全員が行う国内外でのフィールドワークは、セミナー担当教員との相談の上、計画の立案から事前調査、関係者との折衝、実施に至るまで、すべての作業を学生自身が行う点に特長があります。

フィールドワークに向けての準備は、以下の授業によって支えられています。多文化・国際協力の学びでは、学科の教員によるものを含む、フィールドワークの具体例に接します。ラウンドテーブルでは、フィールドワークの基礎となる知識（安全対策、危機管理、調査倫理上の課題）を習得し、３回の授業を通して行われるフィールドワーク報告会では、３・４年生の身近な経験を学びます。社会調査法(1)(3)(4)では、フィールドワークに必要な手法を学びます。最後に、各自の研究テーマについては各学年のセミナーにおいて議論します。

フィールドワークの実施前には、研究テーマ、調査の目的と手法を明らかにした上で、フィールドワーク届を提出します。提出後、記載不備のチェック（訪問先／連絡先、調査日程、調査地までの経路、海外渡航の場合は、保険加入と航空券予約を示す書類）と、署名（教員・学生・保護者）の確認を学科会議で行い、不備がなければフィールドワークを許可します。フィールドワークを終えてからは、調査結果に様々な考察を加え、最終的にフィールドワーク報告論文としてまとめます。

最後に注意事項として、以下の点が挙げられます。フィールドワークに関わる経費が自己負担であること、見込みとしての経費額、感染症の拡大等や大学の方針によりフィールドワークが中止・帰国などの対応を行うことがあること。

（５）多文化・国際協力学科　標準カリキュラム表

	1　年　次				2　年　次			
	授　業　科　目	程度	単位	週時	授　業　科　目	程度	単位	週時
必修科目	セミナーおよび卒業論文［18単位］							
	１年基礎セミナー	Ⅰ	3	2	２年セミナー（ラウンドテーブル）	Ⅱ	3	2
	基本科目［９単位］							
	多文化・国際協力の学び(1)	Ⅰ	1	2	社会調査法(1)	Ⅱ	1	2
	多文化・国際協力の学び(3)	Ⅰ	1	2	社会調査法(3)	Ⅱ	1	2
	多文化・国際協力の学び(4)	Ⅰ	1	2	社会調査法(4)	Ⅱ	1	2
	国際関係概論(1)	Ⅰ	1	2				
	地域研究概論(3)	Ⅰ	1	2				
	地域研究概論(4)	Ⅰ	1	2				
	外国語科目（英語）［27単位］							
	Extensive Reading Ⅰ	Ⅰ	1	2	MI Reading Skills Ⅱ	Ⅱ	3	2
	Intensive Reading Ⅰ a	Ⅰ	1	2				
	Intensive Reading Ⅰ b	Ⅰ	1	2				
	Oral English Ⅰ	Ⅰ	3	2	MI Oral English Ⅱ	Ⅱ	3	2
	Composition Ⅰ	Ⅰ	3	2	MI Composition Ⅱ	Ⅱ	3	2
	Pronunciation Ⅰ	Ⅰ	3	2	MI Listening Ⅱ	Ⅱ	3	2
	健康余暇科学科目［４単位］							
	動きの教育	Ⅰ	1	2	健康教育	Ⅱ	1	2
	ウェルネス研究	Ⅰ	1	2	余暇教育	Ⅱ	0.5×2	2
選択科目	外国語科目（第二外国語）［12単位］							
	第二外国語Ⅰ(文法)	Ⅰ	3	2	第二外国語Ⅱ(講読)	Ⅱ	3	2
	第二外国語Ⅰ(演習)	Ⅰ	3	2	第二外国語Ⅱ(演習)	Ⅱ	3	2

共通科目［12単位］ **学科指定の以下の科目から６単位を含む12単位を履修する。**

文化人類学(1)・(3)・(4)、社会学(1)・(3)・(4)、哲学(1)・(3)・(4)、心理学(1)・(3)・(4)、政治学(1)・(3)・(4)、経済学(1)・

基幹科目【15単位】 **次の科目のうち学科指定から９単位を含**

◆学科指定

国際協力論(1)・(3)・(4)
多文化共生論(1)・(3)・(4)
グローバルヘルス(1)・(3)・(4)
国際社会学(1)・(3)・(4)
国際人口論(1)・(3)・(4)
文化とジェンダー(1)・(3)・(4)
環境と文化(1)・(3)・(4)

発展科目【12単位】 **次の科目のうち学科指定およびコース指**

◆学科指定

社会調査法特講
多文化･国際協力の実践(1)・(3)・(4)
Global Southとフィールドワーク(アジア･アフリカ･ラテンアメリカ)a(1)・(3)・(4)
Global Southとフィールドワーク(アジア･アフリカ･ラテンアメリカ)b(1)・(3)・(4)
多文化社会とフィールドワーク(1)・(3)・(4)
デベロプメント･スタディーズ
フィールドワークの実践 a
フィールドワークの実践 b
フィールドワークの実践 c

◆多文化共生コース指定

移民研究
人口研究
国際移動論
マルチリンガリズム
言語政策
言語教育とジェンダー
マイノリティ論
先住民論
グローバリゼーションと文化

◆国際協力コース指定

国際ボランティア論
国際援助論
NPO-NGO論
国際交流論
開発と文化
貧困問題

自由科目	オンラインによるLecture on Latin American Society、フィールドワーク言語、津田塾の植物フィールドワーク、ラテンアメ

３　年　次				４　年　次				計
授　業　科　目	程度	単位	週時	授　業　科　目	程度	単位	週時	
３年セミナー	Ⅲ	3	2	４年セミナー フィールドワーク報告卒業論文	Ⅳ Ⅳ	3 6	2	27
MI Presentation & Academic Writing	Ⅲ	3	2					27
								4
［３単位］ 第二外国語Ⅲ	Ⅲ	3	2					15
(3)・(4)、法学、日本国憲法ａ・ｂ、法女性学、世界の文学(1)・(3)・(4)、ヒューマン・セクソロジー(1)・(3)・(4)								12
む合計15単位 **◆その他** 国際政治論(1)・(3)・(4) 国際機構論(1)・(3)・(4) 国際法(1)・(3)・(4) 国際経済論(1)・(3)・(4) 開発経済学(1)・(3)・(4) 比較政治論(1)・(3)・(4) 社会思想史(1)・(3)・(4) 現代文化論(1)・(3)・(4) 言語思想論(1)・(3)・(4) **◆その他** 日本語教材・教具論 日本語学概論 日本語文法概論 第二言語習得論（日本語教育）								15
定からそれぞれ３単位を含む合計12単位 **◆国際協力コース指定** 紛争と平和 災害と復興 環境問題 **◆国際ウェルネスコース指定** 世界の健康科学 国際ウェルネス 食と環境 市民社会と健康 民俗学 医療人類学 地域と歴史の中の子ども ジェンダーと健康 **◆その他** グローバル文学（英語）特殊講義 Contemporary British Society and Culture a Contemporary British Society and Culture b グローバルヒストリーのなかのイギリス Diaspora Studies アメリカ政治(1)・(3)・(4) アメリカ社会(1)・(3)・(4) ヨーロッパ社会(イギリス)(1)・(3)・(4) ヨーロッパ社会(イギリス史)(1)・(3) ヨーロッパ文化(イギリス)(1)・(4) ヨーロッパ文化(フランス)(1)・(3)・(4) ヨーロッパ文化(ドイツ)(1)・(3)・(4) **◆その他** ヨーロッパ文化(スペイン)(1)・(3)・(4) 東欧研究(1)・(3)・(4) オーストラリア研究(1)・(3)・(4) 東アジア研究(韓国現代史) 東アジア研究(北朝鮮特論) 東アジア研究(朝鮮半島の国際政治) 東アジア研究(中国現代史) 東アジア研究(中国・香港・台湾特論) 東アジア研究(中国の国際政治) 日本研究(日本と台湾の近現代関係史) 日本研究(日本と朝鮮半島の近現代関係史) 日本研究(少数者の日本近現代史) 日本研究(Japanese Society)(1)・(3)・(4) イスラーム概論 イスラーム地域研究入門 イスラーム地域研究特論 イギリス史(1)・(3)・(4) 日本語学特殊講義１ 日本語学特殊講義２ 日本語教育の学び 対照言語学１ 対照言語学２ 情報社会論(1)・(3) 人文地理学(1)・(3)・(4) Oral EnglishⅢ(1)・(3) CompositionⅢ(1)・(3)								12
リカの文化と社会（マヤ世界を中心に）、その他、本学全開講科目・他大学において開講される科目で本学科が認めた科目								12
							最低修得必要単位数	124

（６）授業科目名・単位

授業科目	程度	開講ターム	単位	週時	担当者	備考
【必修科目】						
［セミナーおよび卒業論文］						
１年基礎セミナー	Ⅰ	1,3,4	3	2	木村真希子 木村　朗子 近藤　　宏 丸山　淳子 松山　章子 大倉由布子 八塚　春名	１年次必修
２年セミナー （ラウンドテーブル）	Ⅱ	1,3,4	3	2	一條　洋子 川端　浩平 木村真希子 木村　朗子 近藤　　宏 丸山　淳子 松山　章子 八塚　春名	２年次必修
３年セミナー	Ⅲ	1,3,4	3	2	川端　浩平 木村真希子 木村　朗子 近藤　　宏 丸山　淳子 松山　章子 渡辺　　長 八塚　春名	３年次必修
４年セミナー	Ⅳ	1,3,4	3	2	川端　浩平 木村真希子 木村　朗子 近藤　　宏 丸山　淳子 松山　章子 水谷　明子 八塚　春名	４年次必修
フィールドワーク報告 卒業論文	Ⅳ		6		川端　浩平 木村真希子 木村　朗子 近藤　　宏 丸山　淳子 松山　章子 水谷　明子 八塚　春名	４年次必修
［基本科目］						
多文化・国際協力の学び(1)	Ⅰ	1	1	2	木村真希子	１年次必修
多文化・国際協力の学び(3)	Ⅰ	3	1	2	木村真希子 川端　浩平 木村　朗子 近藤　　宏 丸山　淳子 松山　章子 八塚　春名	１年次必修 オムニバス
多文化・国際協力の学び(4)	Ⅰ	4	1	2	丸山　淳子	１年次必修
国際関係概論(1)	Ⅰ	1	1	2	下谷内奈緒	１年次必修
地域研究概論(3)	Ⅰ	3	1	2	近藤　　宏 川端　浩平 木村真希子 木村　朗子 丸山　淳子 松山　章子 八塚　春名	１年次必修 オムニバス
地域研究概論(4)	Ⅰ	4	1	2	近藤　　宏	１年次必修

授業科目	程度	開講ターム	単位	週時	担当者	備考
社会調査法(1)	Ⅱ	1	1	2	大野　富美	２年次必修。「社会調査法入門(1)」を修得済の場合は履修できない。また、「社会調査法入門(1)」を同時に履修できない。
社会調査法(3)	Ⅱ	3	1	2	松山　章子	２年次必修。「社会調査法入門(3)」を修得済の場合は履修できない。また、「社会調査法入門(3)」を同時に履修できない。
社会調査法(4)	Ⅱ	4	1	2	松山　章子	２年次必修。「社会調査法入門(4)」を修得済の場合は履修できない。また、「社会調査法入門(4)」を同時に履修できない。
［外国語科目(英語)］						
Extensive Reading Ⅰ	外国語科目のページ参照					１年次必修
Intensive Reading Ⅰ a						
Intensive Reading Ⅰ b						
Oral English Ⅰ						
Composition Ⅰ						
Pronunciation Ⅰ						
MI Reading Skills Ⅱ	Ⅱ	1,3,4	3	2	伊藤孝一郎 楠　　香織 坂口美知子	２年次必修
MI Oral English Ⅱ	Ⅱ	1,3,4	3	2	Richard L. Burton Steven P. Engler Helen T. Nagasawa Bernard F. Wilson	２年次必修
MI Composition Ⅱ	Ⅱ	1,3,4	3	2	石川めぐみ 中尾　真子 落合　美雪 田丸由美子	
MI Listening Ⅱ	Ⅱ	1,3,4	3	2	Joshua B. Antle Christopher Elvin Paul Kallender	
MI Presentation & Academic Writing	Ⅲ	1,3,4	3	2	Richard R. Caraker Christopher Elvin Richard B. Wilcox Bernard F. Wilson	３年次必修
［健康余暇科学科目］						
動きの教育	健康余暇科学科目のページ参照					
ウェルネス研究						
健康教育						
余暇教育						
【選択科目】						
［外国語科目(第二外国語)］						
第二外国語　程度Ⅰ（文法・演習）	外国語科目のページ参照					
第二外国語　程度Ⅱ（講読・演習）						
第二外国語　程度Ⅲ						
［共通科目］						
共通科目のページ参照						
【基幹科目】						
国際協力論(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	八塚　春名	
国際協力論(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	八塚　春名	
国際協力論(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	八塚　春名	

6．多文化・国際協力学科（2024年度以降入学者用）

授業科目	程度	開講ターム	単位	週時	担当者	備考
多文化共生論(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	川端　浩平	
多文化共生論(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	川端　浩平	
多文化共生論(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	川端　浩平	
グローバルヘルス(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	渡辺　長	「国際保健論(1)」を修得済みの人は履修不可
グローバルヘルス(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	渡辺　長	「国際保健論(3)」を修得済みの人は履修不可
グローバルヘルス(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	渡辺　長	「国際保健論(4)」を修得済みの人は履修不可
国際社会学(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	木村真希子	
国際社会学(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	木村真希子	
国際社会学(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	木村真希子	
環境と文化(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	近藤　宏	
環境と文化(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	近藤　宏	
環境と文化(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	近藤　宏	
文化とジェンダー(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	木村　朗子	
文化とジェンダー(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	木村　朗子	
文化とジェンダー(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	木村　朗子	
国際政治論(1)	国際関係学科のページ参照					
国際政治論(3)						
国際政治論(4)						
国際機構論(1)						
国際機構論(3)						
国際機構論(4)						
国際法(1)						
国際法(3)						
国際法(4)						
国際経済論(1)						
国際経済論(3)						
国際経済論(4)						
開発経済学(1)						
開発経済学(3)						
開発経済学(4)						
比較政治論(1)						
比較政治論(3)						
比較政治論(4)						
社会思想史(1)						
社会思想史(3)						
社会思想史(4)						
現代文化論(1)						
現代文化論(3)						
現代文化論(4)						
言語思想論(1)						
言語思想論(3)						
言語思想論(4)						
日本語教材・教具論	英語英文学科のページ参照					
日本語学概論						
日本語文法概論						
第二言語習得論（日本語教育）						

授業科目	程度	開講ターム	単位	週時	担当者	備考
【発展科目】						
社会調査法特講	Ⅱ～Ⅳ	2	1	－	大野　富美	２年次に「社会調査法(1)(3)(4)」と同時履修を推奨する
多文化・国際協力の実践(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	松山　章子	
多文化・国際協力の実践(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	川端　浩平	
多文化・国際協力の実践(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	松山　章子	
Global Southとフィールドワーク（アジア・アフリカ・ラテンアメリカ）a (1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	近藤　宏	
Global Southとフィールドワーク（アジア・アフリカ・ラテンアメリカ）a (3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	近藤　宏	
Global Southとフィールドワーク（アジア・アフリカ・ラテンアメリカ）a (4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	菊地　真理	
Global Southとフィールドワーク（アジア・アフリカ・ラテンアメリカ）b (1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	荒木美奈子	
Global Southとフィールドワーク（アジア・アフリカ・ラテンアメリカ）b (3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	神代ちひろ	
Global Southとフィールドワーク（アジア・アフリカ・ラテンアメリカ）b (4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	小西　公大	
多文化社会とフィールドワーク(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	山下　靖子	
多文化社会とフィールドワーク(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	山下　靖子	
多文化社会とフィールドワーク(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	山下　靖子	
デベロプメント･スタディーズ	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	山下　靖子	
フィールドワークの実践 a	Ⅱ～Ⅳ	2	1	－	八塚　春名	
フィールドワークの実践 b	Ⅱ～Ⅳ	2	1	－	清藤　春香	
フィールドワークの実践 c	Ⅱ～Ⅳ	2	1	－	吉朝　加奈	
人口研究	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	澤田　佳世	
国際移動論	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	木村真希子	
マルチリンガリズム	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	斎藤　敬太	
言語政策	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	斎藤　敬太	
言語教育とジェンダー	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	佐藤　響子	
マイノリティ論	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	川端　浩平	
先住民論	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	木村真希子	
グローバリゼーションと文化	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	川端　浩平	
国際ボランティア論	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	木山　啓子	
国際援助論	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	崎坂香屋子	
NPO-NGO論	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	平山　雄大	
国際交流論	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	稲田　充弘	
開発と文化	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	丸山　淳子	
貧困問題	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	丸山　淳子	
紛争と平和	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	田村　幸恵	
災害と復興	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	瀬尾　夏美	
環境問題	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	八塚　春名	
世界の健康科学	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	松山　章子	
国際ウェルネス	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	西原　三佳	
食と環境	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	八塚　春名	
市民社会と健康	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	西原　三佳	
民俗学	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	松本　亜紀	
医療人類学	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	松山　章子	
地域と歴史の中の子ども	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	水谷　明子	
ジェンダーと健康	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	吉朝　加奈	

授業科目	程度	開講ターム	単位	週時	担当者	備考
グローバル文学(英語)特殊講義	英語英文学科のページ参照					
Contemporary British Society and Culture a						
Contemporary British Society and Culture b						
グローバルヒストリーのなかのイギリス						
対照言語学１						
対照言語学２						
Diaspora Studies						
日本語学特殊講義１						
日本語教育の学び						
ヨーロッパ社会(イギリス史)(1)						
ヨーロッパ社会(イギリス史)(3)						
ヨーロッパ文化(イギリス)(1)						
ヨーロッパ文化(イギリス)(4)						
アメリカ政治(1)	国際関係学科のページ参照					
アメリカ政治(3)						
アメリカ政治(4)						
アメリカ社会(1)						
アメリカ社会(3)						
アメリカ社会(4)						
ヨーロッパ社会(イギリス)(1)						
ヨーロッパ社会(イギリス)(3)						
ヨーロッパ社会(イギリス)(4)						
ヨーロッパ文化(フランス)(1)						
ヨーロッパ文化(フランス)(3)						
ヨーロッパ文化(フランス)(4)						
ヨーロッパ文化(ドイツ)(1)						
ヨーロッパ文化(ドイツ)(3)						
ヨーロッパ文化(ドイツ)(4)						
ヨーロッパ文化(スペイン)(1)						
ヨーロッパ文化(スペイン)(3)						
ヨーロッパ文化(スペイン)(4)						
東欧研究(1)						
東欧研究(3)						
東欧研究(4)						
オーストラリア研究(1)						
オーストラリア研究(3)						
オーストラリア研究(4)						
東アジア研究(韓国現代史)						
東アジア研究(北朝鮮特論)						
東アジア研究(朝鮮半島の国際政治)						
東アジア研究(中国現代史)						
東アジア研究(中国・香港・台湾特論)						
東アジア研究(中国の国際政治)						
日本研究(日本と台湾の近現代関係史)						
日本研究(日本と朝鮮半島の近現代関係史)						
日本研究(少数者の日本近現代史)						

授業科目	程度	開講ターム	単位	週時	担当者	備考
日本研究 (Japanese Society)(1)	国際関係学科のページ参照					
日本研究 (Japanese Society)(3)						
日本研究 (Japanese Society)(4)						
イスラーム概論						
イスラーム地域研究入門						
イスラーム地域研究特論						
イギリス史(1)						
イギリス史(3)						
イギリス史(4)						
情報社会論(1)						
情報社会論(3)						
人文地理学(1)						
人文地理学(3)						
人文地理学(4)						
Oral EnglishⅢ(1)						
Oral EnglishⅢ(3)						
CompositionⅢ(1)						
CompositionⅢ(3)						
【自由科目】						
フィールドワーク言語 (ヒンディー語)	Ⅰ～Ⅳ	2	1	4	Shreya Vijay Wagh	(　　)内の言語が異なれば再度履修可 「フィールドワーク言語ａ」を修得済の人は履修不可
フィールドワーク言語 (スワヒリ語)	Ⅰ～Ⅳ	2	1	4	井上真悠子	(　　)内の言語が異なれば再度履修可 「フィールドワーク言語ｂ」を修得済の人は履修不可
フィールドワーク言語 (琉球諸語)	Ⅰ～Ⅳ	2	1	4	Kenan Thibault Celik	(　　)内の言語が異なれば再度履修可
津田塾の植物 フィールドワーク	Ⅰ	2	1	－	山科　千里	実験的講座

7. 数　　学　　科

７-１．数学科（2018年度～2024年度入学者用）

（１）履修単位数

卒業に必要な最小限単位数は以下の通りです。

必修科目	60単位
数学科科目	41単位
外国語科目	15単位
健康余暇科学科目	４単位
選択科目	36単位
自由科目	28単位
合　計	124単位

（２）履修方法

イ．規定の必修科目は以下の要領で履修してください。

(イ)　３年セミナーを履修するためには、１年次必修の数学科科目（１年セミナー、数学序論(演習付)、解析学基礎Ⅰ(演習付)、線形代数学Ⅰ(演習付)、計算機数学(演習付)、プログラミング入門(演習付)）の単位をすべて修得していなければなりません。

(ロ)　４年セミナーを履修するためには、原則として、履修前年度に行われる進級試験（２科目）に合格し、１、２年次必修の数学科科目の単位をすべて修得していなければなりません。１、２年次必修の数学科科目とは、１年：１年セミナー、数学序論(演習付)、解析学基礎Ⅰ(演習付)、線形代数学Ⅰ(演習付)、計算機数学(演習付)、プログラミング入門(演習付)、２年：２年セミナー、解析学基礎Ⅱ(演習付)、線形代数学Ⅱ(演習付)です。

(ハ)　英語科目は次の５科目合計15単位を履修してください。
Reading SkillsⅠ、Oral EnglishⅠ、CompositionⅠ、PronunciationⅠ（１年次）
Listening and SpeakingⅡ（２年次）
その他に、Intensive ListeningⅠ（１年次)、Oral EnglishⅢ（３年次）を受講できます。
特に、Oral EnglishⅢは履修することを勧めます。

(ニ)　健康余暇科学科目はなるべく１、２年次に合計４単位履修して下さい。履修方法の詳細は健康余暇科学科目の項を参照して下さい。

ロ．選択科目は以下の要領で修得してください。

(イ)　次の科目から12単位以上修得してください。

程度Ⅱ	代数学基礎(演習付)、代数入門(演習付)、幾何学入門(演習付)、位相入門(演習付)、数値解析入門(演習付)、メディア処理とモデリング入門、アルゴリズム入門、数値計算法、確率統計入門(3)、確率統計入門(4)、集合・写像実践

(ロ)　次の科目から18単位以上修得してください。

程度Ⅲ	代数学(演習付)、幾何学Ａ(演習付)、幾何学Ｂ、関数解析(演習付)、ルベーグ積分(演習付)、測度論的確率論(演習付)、複素解析学(演習付)、論理と計算機科学、計算論、最適化入門、暗号と情報、情報通信ネットワーク入門、数式図形画像処理入門、情報システム入門、コンピュータシミュレーション、数学特別講義Ａ(1)・(3)・(4)、数学特別講義Ｂ(1)・(3)・(4)、数学特別講義Ｃ(1)・(3)・(4)、数学特別講義Ｄ(1)・(3)・(4)、数学特別講義Ｅ
程度Ⅳ	代数学特論、幾何学特論、解析学特論、応用数学特論、数学特論XA、数学特論XB、数学特論XC、数学特論XD、数学特論XE、数学特論XF、数学特論XG、数学特論XH、数学特論XI、数学特論XJ、数学特論XK、数学特論XL、数学特論XM、数学特論XN、数学特論XO

(ハ)　(イ)・(ロ)で指定した科目および次の科目から合計36単位以上修得してください。

程度Ⅰ	情報処理、数学基礎ａ(演習付)、数学基礎ｂ(演習付)、ベクトルと行列、大学数学への窓
程度Ⅰ～Ⅳ	情報と社会(1)・(3)・(4)、社会とデータ活用、データサイエンス入門、データリテラシー入門
程度Ⅱ～Ⅳ	情報と職業、情報社会と情報倫理
程度Ⅲ	データベース入門

ハ．数学科科目は以下の要領で履修してください。

(イ)　１年次に１年セミナー、数学序論(演習付)、解析学基礎Ⅰ(演習付)、線形代数学Ⅰ(演習付)、計算機数学(演習付)、プログラミング入門(演習付)を履修してください。

(ロ)　２年次に２年セミナー、解析学基礎Ⅱ(演習付)、線形代数学Ⅱ(演習付)を履修してください。さらに、選択科目群の中から程度Ⅱの科目（情報と社会(1)･(3)･(4)、社会とデータ活用、データサイエンス入門、データリテラシー入門、情報と職業、情報社会と情報倫理は除く）を12単位以上履修してください。

(ハ)　３年次に３年セミナーを履修してください。また、４年次に４年セミナーを履修してください。

(ニ)　３､４年次に、選択科目群の中から程度Ⅲ以上の科目（情報と社会(1)･(3)･(4)、社会とデータ活用、データサイエンス入門、データリテラシー入門、情報と職業、情報社会と情報倫理、データベース入門は除く）を18単位以上履修してください。

ニ．４年次進級試験は４年セミナーの履修前年度第３，４タームに実施されます。試験科目は微分積分学と線形代数学の２科目です。４年次進級試験の不合格者は４年セミナーを履修することはできません。ただし、ある年度の進級試験に２科目とも合格した者については、次年度およびその次の年度は進級試験の受験は免除されます。また、４年セミナー再履修者は、４年次進級試験を再度受験する必要はありません。４年次進級試験の詳細については、４月中旬に配信および掲示される進級試験実施要項を参照してください。

ホ．自由科目は本学の全開講科目および他大学において開講される科目で本学科が認めた科目のうちから下記の(1)または(2)のいずれか一つを満たして、合計28単位以上履修してください。選択科目のうち、要件単位数を超えた単位については、自動的にイに算入されます。

人数制限その他で受講できない科目があるので注意すること。

(1) 以下の科目群イ、ロ、ハから合計して９単位以上修得する。

イ．数学科の選択科目（選択科目として登録するものを除く）

ロ．情報科学科が履修を認める科目

ハ．科学と人間(1)･(3)･(4)、生物と人間、物質と生命現象、くらしと地球環境

(2) 外国語科目のうち、英語以外から１言語６単位以上修得する。

自由科目(1)ロ．情報科学科が履修を認める科目

注意：①科目番号がDMで始まるデジタルメディア副専攻の科目は(1)ロ．に含まれません。

②過去に履修した科目は、現在は閉講になっていたり、履修制限が変更されたりしたためにこのリストに載っていない場合があります。過去に履修した科目が(1)ロ．に含まれるかどうか分からない場合は、教務課に問い合わせてください。

科　目　名	備　考
情報表現(3)	
情報表現(4)	
Reading and Listening for Proficiency Tests a	
Webテクノロジー a	
映像コンテンツ制作	
コンピュータ概論Ⅰ	
コンピュータ概論Ⅱ	
インターラクティブシステム	
センサー入門	
情報セキュリティ入門	
数理ファイナンス	
プログラミング言語論	
知的財産概論	
社会情報システム	
自然言語処理	
コンピュータアーキテクチャ	
オペレーティングシステム	
情報科学 a	
情報科学 b	
情報科学 c	

情報科学 d	
情報科学 e	
情報科学 f	
情報科学特論 a	
情報科学特論 b	
情報科学特論 c	
情報科学特論 d	
情報科学特論 e	
情報科学特論 f	
離散数学 a	
離散数学 b	
離散数学 c	
情報数学特論 a	
情報数学特論 b	
情報数学特論 c	
情報数学特論 d	
情報数学特論 e	
情報数学特論 f	
情報数学特論 g	
情報数学特論 h	
Introduction to Data Literacy in English	
コンピュータアーキテクチャ	原則は情報科学科生のみの履修科目。
コンピュータグラフィックス a	
コンピュータグラフィックス b	
プログラミングⅠ(演習付)(1)	条件つきで履修可能です。事前に教務課に相談のこと。
プログラミングⅠ(演習付)(3)	
プログラミングⅠ(演習付)(4)	
アルゴリズム a(演習付)	
アルゴリズム b(演習付)	
アルゴリズム c(演習付)	
マルチメディア(演習付)	
データサイエンス(演習付)	
ネットワークシステム(演習付)	
人工知能・機械学習(演習付)	
数理モデル(演習付)	
情報セキュリティ(演習付)	
アプリケーションデザイン	
情報科学英語 a	TOEIC600点以上のみ履修可。
情報科学英語 b	
情報科学英語 c	

ヘ．教職課程を履修する学生は、定められた単位を必ず修得してください。詳細については、教職課程のページを参照してください。

（３）その他

金曜日５限には数学科の授業の補講が行われることがあります。注意してください。また、３年次生は第３，４ターム金曜日５限に４年次進級試験が行われますので注意してください。

（４）数学科　2018年度～2024年度入学者用　標準カリキュラム表

	1　年　次				2　年　次			
	授　業　科　目	程度	単位	週時	授　業　科　目	程度	単位	週時
必修科目	１年セミナー	Ⅰ	1	2	２年セミナー	Ⅱ	3	2
	解析学基礎Ⅰ(演習付)	Ⅰ	6	4	解析学基礎Ⅱ(演習付)	Ⅱ	6	4
	数学序論(演習付)	Ⅰ	2	4	線形代数学Ⅱ(演習付)	Ⅱ	6	4
	線形代数学Ⅰ(演習付)	Ⅰ	4	4				
	計算機数学(演習付)	Ⅰ	2	4				
	プログラミング入門(演習付)	Ⅰ	2	4				
	外国語科目（英語）							
	Reading Skills Ⅰ	Ⅰ	3	2	Listening and Speaking Ⅱ	Ⅱ	3	2
	Oral English Ⅰ	Ⅰ	3	2				
	Composition Ⅰ	Ⅰ	3	2				
	Pronunciation Ⅰ	Ⅰ	3	2				
	健康余暇科学科目							
	動きの教育	Ⅰ	1	2	健康教育	Ⅱ	1	2
	ウェルネス研究	Ⅰ	1	2	余暇教育	Ⅱ	0.5×2	2
選択科目	情報処理(※注１)	Ⅰ	2	2	次の科目から12単位以上を単位修得する			
	数学基礎ａ(演習付)(※注１)	Ⅰ	1		代数入門(演習付)	Ⅱ	4	4
	数学基礎ｂ(演習付)(※注１)	Ⅰ	1		位相入門(演習付)	Ⅱ	4	4
	ベクトルと行列(※注１)	Ⅰ	1		確率統計入門(3)	Ⅱ	1	2
	大学数学への窓	Ⅰ	1		確率統計入門(4)	Ⅱ	1	2
					メディア処理とモデリング入門	Ⅱ	1	2
					アルゴリズム入門	Ⅱ	2	2
					数値計算法	Ⅱ	2	2
					代数学基礎(演習付)	Ⅱ	2	4
					幾何学入門(演習付)(※注５)	Ⅱ	2	4
					数値解析入門(演習付)	Ⅱ	6	4
					集合・写像実践(※注６)	Ⅱ	1	4
	情報と社会(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	2	情報と職業(※注１)	Ⅱ～Ⅳ	1	2
	情報と社会(3)	Ⅰ～Ⅳ	1	2	情報社会と情報倫理(※注２)	Ⅱ～Ⅳ	1	2
	情報と社会(4)(※注１)	Ⅰ～Ⅳ	1	2				
	データサイエンス入門(※注３)	Ⅰ～Ⅳ	1	2				
	データリテラシー入門	Ⅰ～Ⅳ	1	2				
	社会とデータ活用(※注４)	Ⅰ～Ⅳ	1	2				
自由科目	本学全開講科目および他大学において開講される科目で本学科が認めた科目のうちから下記の(1)または(2)を満たして，合計 (1)　次の科目群の中から９単位以上修得する。 イ．数学科の選択科目のうち，選択科目として登録する以外の科目 ロ．情報科学科が履修を認める科目（p.207～208を参照） ハ．科学と人間(1)、科学と人間(3)、科学と人間(4)、生物と人間、物質と生命現象、くらしと地球環境 (2)　第２外国語（英語以外）から１言語６単位以上修得する。							

（注）**卒業に必要な自由科目に算入できる教職に関する科目について**

＜2018年度入学者＞

教職に関する科目のうち、自由科目に算入できるのは以下の科目のみです。履修する際、注意してください。

教職概論、教育基礎論、教育組織論、教育心理学、教育課程論、教育メディアの研究、教育相談の研究、教科指導法

＜2019年度以降入学者＞

教育実習Ａ・Ｂと教職実践演習を除くすべての教職課程科目（p.275およびp.270）

（※注）１．2025年度から閉講
２．2025年度から開講(2024年度までの情報と職業)
３．2025年度から開講(2024年度までの情報処理)
４．2025年度から開講(2024年度までの情報と社会(4))
５．2026年度から閉講
６．2026年度から開講(2024年度までの数学基礎ａ(演習付))

3　年　次				4　年　次				計
授　業　科　目	程度	単位	週時	授　業　科　目	程度	単位	週時	
３年セミナー	Ⅲ	3	2	４年セミナー	Ⅳ	6	4	41
								15
								4
次の科目から18単位以上を単位修得する 【程度Ⅲ】 代数学(演習付)，幾何学Ａ(演習付)，幾何学Ｂ，複素解析学(演習付)， 関数解析(演習付)，ルベーグ積分(演習付)，測度論的確率論(演習付)，論理と計算機科学，最適化入門， コンピュータシミュレーション，計算論，暗号と情報，情報システム入門，情報通信ネットワーク入門， 数式図形画像処理入門 数学特別講義Ａ(1)，数学特別講義Ａ(3)，数学特別講義Ａ(4)，数学特別講義Ｂ(1)， 数学特別講義Ｂ(3)，数学特別講義Ｂ(4)，数学特別講義Ｃ(1)，数学特別講義Ｃ(3)， 数学特別講義Ｃ(4)，数学特別講義Ｄ(1)，数学特別講義Ｄ(3)，数学特別講義Ｄ(4)，数学特別講義Ｅ 【程度Ⅳ】 代数学特論，幾何学特論，解析学特論，応用数学特論，数学特論XA，数学特論XB， 数学特論XC，数学特論XD，数学特論XE，数学特論XF，数学特論XG，数学特論XH，数学特論XI，数学特論XJ， 数学特論XK，数学特論XL，数学特論XM，数学特論XN，数学特論XO								36
データベース入門	Ⅲ	1	2					
28 単位修得すること。								28
						最低修得必要単位数		124

（５）授業科目名・単位

授業科目名・単位については７－２．(5)(p.218～ 219)を見てください。

７-２．数学科（2025年度以降入学者用）

（１）履修単位数

卒業に必要な最小限単位数は以下の通りです。

必修科目	60単位
数学科科目	41単位
外国語科目	15単位
健康余暇科学科目	４単位
選択科目	36単位
自由科目	28単位
合　計	124単位

（２）履修方法

イ．規定の必修科目は以下の要領で履修してください。

(イ)　３年セミナーを履修するためには、１年次必修の数学科科目（１年セミナー、ベクトル・行列と幾何学(演習付)、解析学基礎Ⅰ(演習付)、線形代数学Ⅰ(演習付)、計算機数学(演習付)、プログラミング入門(演習付)）の単位をすべて修得していなければなりません。

(ロ)　４年セミナーを履修するためには、原則として、履修前年度に行われる進級試験（２科目）に合格し、１、２年次必修の数学科科目の単位をすべて修得していなければなりません。１、２年次必修の数学科科目とは、１年：１年セミナー、ベクトル・行列と幾何学(演習付)、解析学基礎Ⅰ(演習付)、線形代数学Ⅰ(演習付)、計算機数学(演習付)、プログラミング入門(演習付)、２年：２年セミナー、解析学基礎Ⅱ(演習付)、線形代数学Ⅱ(演習付)です。

(ハ)　英語科目は次の５科目合計15単位を履修してください。
Reading Skills Ⅰ、Oral English Ⅰ、Composition Ⅰ、Pronunciation Ⅰ（１年次）
Listening and Speaking Ⅱ（２年次）
その他に、Intensive Listening Ⅰ（１年次)、Oral English Ⅲ（３年次）を受講できます。
特に、Oral English Ⅲは履修することを勧めます。

(ニ)　健康余暇科学科目はなるべく１、２年次に合計４単位履修して下さい。履修方法の詳細は健康余暇科学科目の項を参照して下さい。

ロ．選択科目は以下の要領で修得してください。

(イ)　次の科目から12単位以上修得してください。
程度Ⅱ　代数学基礎(演習付)、代数入門(演習付)、位相入門(演習付)、数値解析入門(演習付)、メディア処理とモデリング入門、アルゴリズム入門、数値計算法、確率統計入門(3)、確率統計入門(4)、集合・写像入門(演習付)、集合・写像実践

(ロ)　次の科目から18単位以上修得してください。
程度Ⅲ　代数学(演習付)、幾何学Ａ(演習付)、幾何学Ｂ、関数解析(演習付)、ルベーグ積分(演習付)、測度論的確率論(演習付)、複素解析学(演習付)、論理と計算機科学、計算論、最適化入門、暗号と情報、情報通信ネットワーク入門、数式図形画像処理入門、情報システム入門、コンピュータシミュレーション、数学特別講義Ａ(1)・(3)・(4)、数学特別講義Ｂ(1)・(3)・(4)、数学特別講義Ｃ(1)・(3)・(4)、数学特別講義Ｄ(1)・(3)・(4)、数学特別講義Ｅ
程度Ⅳ　数学特論XA、数学特論XB、数学特論XC、数学特論XD、数学特論XE、数学特論XF、数学特論XG、数学特論XH、数学特論XI、数学特論XJ、数学特論XK、数学特論XL、数学特論XM、数学特論XN、数学特論XO

(ハ)　(イ)・(ロ)で指定した科目および次の科目から合計36単位以上修得してください。
程度Ⅰ　大学数学への窓
程度Ⅰ～Ⅳ　データサイエンス入門、データリテラシー入門、情報と社会(1)・(3)、社会とデータ活用
程度Ⅱ～Ⅳ　情報社会と情報倫理
程度Ⅲ　データベース入門

ハ．数学科科目は以下の要領で履修してください。

(イ)　１年次に１年セミナー、ベクトル・行列と幾何学(演習付)、解析学基礎Ⅰ(演習付)、線形代数学Ⅰ(演習付)、計算機数学(演習付)、プログラミング入門(演習付)を履修してください。

(ロ)　２年次に２年セミナー、解析学基礎Ⅱ(演習付)、線形代数学Ⅱ(演習付)を履修してください。さらに、選択科目群の中から程度Ⅱの科目（(2)履修方法 ロ．(イ)の科目）を12単位以上履修してください。

(ハ)　３年次に３年セミナーを履修してください。また、４年次に４年セミナーを履修してください。

(ニ)　３、４年次に、選択科目群の中から程度Ⅲ以上の科目（(2)履修方法 ロ．(ロ)の科目）を18単位以上履修してください。

ニ．４年次進級試験は４年セミナーの履修前年度第３，４タームに実施されます。試験科目は微分積分学と線形代数学の２科目です。４年次進級試験の不合格者は４年セミナーを履修することはできません。ただし、ある年度の進級試験に２科目とも合格した者については、次年度およびその次の年度は進級試験の受験は免除されます。また、４年セミナー再履修者は、４年次進級試験を再度受験する必要はありません。４年次進級試験の詳細については、４月中旬に配信および掲示される進級試験実施要項を参照してください。

ホ．自由科目は本学の全開講科目および他大学において開講される科目で本学科が認めた科目のうちから、合計28単位以上修得してください。選択科目として修得必要単位数を超えて修得した単位は、自動的に自由科目に算入されます。

ヘ．教職課程を履修する学生は、定められた単位を必ず修得してください。詳細については、教職課程のページを参照してください。

（３）その他

金曜日５限には数学科の授業の補講が行われることがあります。注意してください。また、３年次生は第３，４ターム金曜日５限に４年次進級試験が行われますので注意してください。

（４）数学科　2025年度以降入学者用　標準カリキュラム表

	1　年　次				2　年　次			
	授　業　科　目	程度	単位	週時	授　業　科　目	程度	単位	週時
必修科目	１年セミナー	Ⅰ	1	2	２年セミナー	Ⅱ	3	2
	解析学基礎Ⅰ(演習付)	Ⅰ	6	4	解析学基礎Ⅱ(演習付)	Ⅱ	6	4
	線形代数学Ⅰ(演習付)	Ⅰ	4	4	線形代数学Ⅱ(演習付)	Ⅱ	6	4
	ベクトル・行列と幾何学(演習付)	Ⅰ	2	4				
	計算機数学(演習付)	Ⅰ	2	4				
	プログラミング入門(演習付)	Ⅰ	2	4				
	外国語科目（英語）							
	Reading Skills Ⅰ	Ⅰ	3	2	Listening and Speaking Ⅱ	Ⅱ	3	2
	Oral English Ⅰ	Ⅰ	3	2				
	Composition Ⅰ	Ⅰ	3	2				
	Pronunciation Ⅰ	Ⅰ	3	2				
	健康余暇科学科目							
	動きの教育	Ⅰ	1	2	健康教育	Ⅱ	1	2
	ウェルネス研究	Ⅰ	1	2	余暇教育	Ⅱ	0.5×2	2
選択科目	大学数学への窓	Ⅰ	1		次の科目から12単位以上を単位修得する			
					代数入門（演習付）	Ⅱ	4	4
					位相入門（演習付）	Ⅱ	4	4
					確率統計入門(3)	Ⅱ	1	2
					確率統計入門(4)	Ⅱ	1	2
					メディア処理とモデリング入門	Ⅱ	1	2
					アルゴリズム入門	Ⅱ	2	2
					数値計算法	Ⅱ	2	2
					代数学基礎(演習付)	Ⅱ	2	4
					数値解析入門(演習付)	Ⅱ	6	4
					集合・写像入門(演習付)	Ⅱ	2	4
					集合・写像実践	Ⅱ	1	4
	データサイエンス入門	Ⅰ～Ⅳ	1	2	情報社会と情報倫理	Ⅱ～Ⅳ	1	2
	データリテラシー入門	Ⅰ～Ⅳ	1	2				
	情報と社会(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	2				
	情報と社会(3)	Ⅰ～Ⅳ	1	2				
	社会とデータ活用	Ⅰ～Ⅳ	1	2				
自由科目	本学全開講科目および他大学において開講される科目で本学科が認めた科目のうちから合計28単位修得すること。							

（注）**卒業に必要な自由科目に算入できる教職に関する科目について**
教育実習Ａ・Ｂと教職実践演習を除くすべての教職課程科目（p.275およびp.270）

3　年　次				4　年　次				計
授　業　科　目	程度	単位	週時	授　業　科　目	程度	単位	週時	
３年セミナー	Ⅲ	3	2	４年セミナー	Ⅳ	6	4	41
								15
								4
次の科目から18単位以上を単位修得する 【程度Ⅲ】 代数学(演習付)，幾何学Ａ(演習付)，幾何学Ｂ，複素解析学(演習付)， 関数解析(演習付)，ルベーグ積分(演習付)，測度論的確率論(演習付)，論理と計算機科学，最適化入門， コンピュータシミュレーション，計算論，暗号と情報，情報システム入門，情報通信ネットワーク入門， 数式図形画像処理入門 数学特別講義Ａ(1)，数学特別講義Ａ(3)，数学特別講義Ａ(4)，数学特別講義Ｂ(1)， 数学特別講義Ｂ(3)，数学特別講義Ｂ(4)，数学特別講義Ｃ(1)，数学特別講義Ｃ(3)， 数学特別講義Ｃ(4)，数学特別講義Ｄ(1)，数学特別講義Ｄ(3)，数学特別講義Ｄ(4)，数学特別講義Ｅ 【程度Ⅳ】 数学特論XA，数学特論XB，数学特論XC，数学特論XD，数学特論XE，数学特論XF，数学特論XG，数学特論XH， 数学特論XI，数学特論XJ，数学特論XK，数学特論XL，数学特論XM，数学特論XN，数学特論XO								36
データベース入門	Ⅲ	1	2					
								28
						最低修得必要単位数		124

（5）授業科目名・単位（各入学年度共通）

授　業　科　目	程度	開講ターム	単位	週時	担　当　者	備　考
１年セミナー	Ⅰ	1	1	2	原　隆 小西由紀子 川平　陽子 菊池　弘明 三上　敏夫 中屋敷　厚	
解析学基礎Ⅰ（演習付）	Ⅰ	1,3,4	6	4	菊池　弘明・礒田恵以子	
数学序論（演習付）	Ⅰ	－	2	－		（2025年度から閉講）
線形代数学Ⅰ（演習付）	Ⅰ	3,4	4	4	原　隆・宮澤　治子	
計算機数学（演習付）	Ⅰ	3	2	4	植田　美佳	
プログラミング入門（演習付）	Ⅰ	4	2	4	植田　美佳	
ベクトル・行列と幾何学（演習付）	Ⅰ	1	2	4	原　隆・宮澤　治子	（2025年度から開講）
情報処理	Ⅰ	－	2	－		（2025年度から閉講）
数学基礎ａ（演習付）	Ⅰ	－	1	－		（2025年度から閉講）
数学基礎ｂ（演習付）	Ⅰ	－	1	－		（2025年度から閉講）
ベクトルと行列	Ⅰ	－	1	－		（2025年度から閉講）
大学数学への窓	Ⅰ	2	1	－	久野　雄介 他	
数学基礎講座Ⅰ	Ⅰ	2	1	4	宮澤　治子	（2025年度から開講） 数学科の１年生のみ履修可
２年セミナー	Ⅱ	1,3,4	3	2	原　隆 礒田恵以子 菊池　弘明 木村　直記 宮澤　治子	
解析学基礎Ⅱ（演習付）	Ⅱ	1,3,4	6	4	中屋敷　厚・前田　多恵	
線形代数学Ⅱ（演習付）	Ⅱ	1,3,4	6	4	小西由紀子・植田　美佳	
代数学基礎（演習付）	Ⅱ	1	2	4	松野　一夫・礒田恵以子	
代数入門（演習付）	Ⅱ	3,4	4	4	松野　一夫・礒田恵以子	
幾何学入門（演習付）	Ⅱ	－	2	－		（2026 年度から閉講）
位相入門（演習付）	Ⅱ	3,4	4	4	小西由紀子	
数値解析入門（演習付）	Ⅱ	1,3,4	6	4	小西由紀子	
確率統計入門(3)	Ⅱ	3	1	2	三上　敏夫	
確率統計入門(4)	Ⅱ	4	1	2	三上　敏夫	
メディア処理とモデリング入門	Ⅱ	1	1	2	橋本　悠香	
アルゴリズム入門	Ⅱ	3,4	2	2	山口　純平	
数値計算法	Ⅱ	3,4	2	2	菊池　弘明	
集合・写像入門（演習付）	Ⅱ	1	2	4	久野　雄介・宮澤　治子	（2026年度から開講）
集合・写像実践	Ⅱ	2	1	4	菊池　弘明	（2026年度から開講）
数学基礎講座Ⅱ	Ⅱ	2	1	4	中屋敷　厚	（2026年度から開講） 学科からの推薦を受けた学生のみ履修可
３年セミナー	Ⅲ	1,3,4	3	2	小島　瑞輝 松野　一夫 三上　敏夫 直江　央寛 坂井　健人 執行　洋子	
代数学（演習付）	Ⅲ	1,3,4	6	4	原　隆・礒田恵以子	
幾何学Ａ（演習付）	Ⅲ	1,3,4	6	4	久野　雄介・宮澤　治子	
幾何学Ｂ	Ⅲ	1,3,4	3	2	井上　歩	
複素解析学（演習付）	Ⅲ	1,3,4	6	4	中屋敷　厚・前田　多恵	
関数解析（演習付）	Ⅲ	3,4	4	4	内藤　由香	
ルベーグ積分（演習付）	Ⅲ	1,2	3	4	三上　敏夫	27回、第２タームは集中講義
測度論的確率論（演習付）	Ⅲ	3,4	3	4	三上　敏夫	27回

授業科目	程度	開講ターム	単位	週時	担当者	備考
最適化入門	Ⅲ	1	1	2		（本年度休講）隔年開講
論理と計算機科学	Ⅲ	1,3,4	3	2		（本年度休講）隔年開講
計算論	Ⅲ	1,3,4	3	2	礒田恵以子	隔年開講
コンピュータシミュレーション	Ⅲ	1,3,4	3	2	平田　大介	
暗号と情報	Ⅲ	1,3,4	3	2	吉田　真紀	隔年開講
情報システム入門	Ⅲ	3,4	2	2	佐藤　　峻	
情報通信ネットワーク入門	Ⅲ	1	1	2	水谷　正大	
数式図形画像処理入門	Ⅲ	3	1	2	井上　　歩	
数学特別講義A(1)	Ⅲ	1	1	2	加藤　晃史	
数学特別講義A(3)	Ⅲ	3	1	2	加藤　晃史	
数学特別講義A(4)	Ⅲ	4	1	2	加藤　晃史	
数学特別講義B(1)	Ⅲ	1	1	2	原　　隆	
数学特別講義B(3)	Ⅲ	3	1	2	原　　隆	
数学特別講義B(4)	Ⅲ	4	1	2	原　　隆	
数学特別講義C(1)	Ⅲ	1	1	2	竹内　敦司	
数学特別講義C(3)	Ⅲ	3	1	2	竹内　敦司	
数学特別講義C(4)	Ⅲ	4	1	2	竹内　敦司	
数学特別講義D(1)	Ⅲ	1	1	2	中山　　健	
数学特別講義D(3)	Ⅲ	3	1	2	中山　　健	
数学特別講義D(4)	Ⅲ	4	1	2	中山　　健	
数学特別講義E	Ⅲ		1	2		（本年度休講）
４年セミナー	Ⅳ	1,3,4	6	4	原　　隆 井上　　歩 菊池　弘明 小西由紀子 久野　雄介 松野　一夫 三上　敏夫 中屋敷　厚	
代数学特論	Ⅳ		4	2		（2025年度から閉講）
幾何学特論	Ⅳ		4	2		（2025年度から閉講）
解析学特論	Ⅳ		4	2		（2025年度から閉講）
応用数学特論	Ⅳ		4	2		（2025年度から閉講）
数学特論ＸＡ	Ⅳ		2	2		（本年度休講）
数学特論ＸＢ	Ⅳ		2	2		（本年度休講）
数学特論ＸＣ	Ⅳ	1,2	2	2	新國　　亮	※１
数学特論ＸＤ	Ⅳ	3,4	2	−	佐藤　正寿	集中講義
数学特論ＸＥ	Ⅳ	1,2	2	2	沖　　泰裕	※１
数学特論ＸＦ	Ⅳ	3,4	2	2	奥村　喜晶	※２
数学特論ＸＧ	Ⅳ		2	2		（本年度休講）
数学特論ＸＨ	Ⅳ		2	2		（2025年度から開講）（本年度休講）
数学特論ＸＩ	Ⅳ		2	2		（2025年度から開講）（本年度休講）
数学特論ＸＪ	Ⅳ		2	2		（2025年度から開講）（本年度休講）
数学特論ＸＫ	Ⅳ		2	2		（2025年度から開講）（本年度休講）
数学特論ＸＬ	Ⅳ		2	2		（2025年度から開講）（本年度休講）
数学特論ＸＭ	Ⅳ		2	2		（2025年度から開講）（本年度休講）
数学特論ＸＮ	Ⅳ		2	2		（2025年度から開講）（本年度休講）
数学特論ＸＯ	Ⅳ		2	2		（2025年度から開講）（本年度休講）

※１　大学院の学年暦にあわせて開講されるため授業期間は４/13～８/３
※２　大学院の学年暦にあわせて開講されるため授業期間は９/25～２/１

8. 情 報 科 学 科

８-１．情報科学科（2020年度～2022年度入学者用）

（１）履修単位数

卒業に必要な最小限単位数は以下の通りです。

必修科目	72単位
情報科学科科目	47単位
外国語科目	21単位
健康余暇科学科目	４単位
選択必修科目	13単位
選択科目	24単位
自由科目	21単位
合　計	130単位

（２）履修方法

イ．規定の必修科目は以下の要領で合計72単位修得してください。

ａ．３年セミナー・３年プロジェクトを履修するためには、１年次の必修専門科目をすべて修得していなければなりません。

ｂ．４年セミナー／プロジェクトおよび卒業論文を履修するためには、１、２年次の必修専門科目をすべて修得していなければなりません。

ｃ．外国語科目（英語）は、次の７科目21単位を履修して下さい。
Reading Skills Ⅰ、Oral English Ⅰ、Composition Ⅰ、Pronunciation Ⅰ、
CS Reading Skills Ⅱ、CS Composition Ⅱ、CS Speaking and Listening Ⅱ
その他にIntensive Listening Ⅰを受講できます。

ｄ．１年次の必修専門科目は、以下の通りです。
１年セミナー、プログラミングⅠ（演習付）、情報表現、情報数学基礎（演習付）、微分積分（演習付）、
コンピュータリテラシーａ、ｂ

ｅ．２年次の必修専門科目は、以下の通りです。
２年セミナー、２年プロジェクト、プログラミングⅡ（演習付）、
アルゴリズムａ（演習付）、アルゴリズムｂ（演習付）、
線形代数（演習付）、確率統計（演習付）

ロ．選択必修科目13単位以上および選択科目24単位以上は、以下の要領で修得してください。選択必修科目で13単位を越えた分については、選択科目の単位数として加算することができます。

ａ．以下の科目から６科目12単位以上修得してください。
アルゴリズムｃ（演習付）、マルチメディア（演習付）、
データサイエンス（演習付）、ネットワークシステム（演習付）、
システム運用（演習付）、人工知能・機械学習（演習付）、
数理モデル（演習付）、情報セキュリティ（演習付）、
ソフトウェア開発法（演習付）

ｂ．以下の科目から１単位以上修得してください。
情報科学英語ａ、情報科学英語ｂ、情報科学英語ｃ、情報科学英語ｄ、情報科学英語ｅ、情報科学英語ｆ

ｃ．情報科学英語ａ、ｂ、ｃを履修するためには、１年次の英語科目Reading Skills Ⅰ、Oral English Ⅰ、Composition Ⅰ、 Pronunciation Ⅰのすべてを修得し、さらに、次のいずれかの条件を満たす必要があります。

１．指定科目のいずれかを修得する。
2026年度は、下記の科目を指定科目とします。
Reading and Listening for Proficiency Tests a、
Reading and Listening for Proficiency Tests b(1)、
Reading and Listening for Proficiency Tests b(3)、
Reading and Listening for Proficiency Tests b(4)、

２．情報科学英語履修認定試験に合格する。

ハ．2022年度以前の入学者は、2023年度以降入学者用の必修科目を履修し、卒業に必要な必修科目の単位数として含めることができます。

ただし、次の表において各行の左右に記載されている２科目の両方の単位を取得することはできません。

2022年度以前入学者用科目	2023年度以降入学者用科目
微分積分(演習付)(3)	微分積分Ⅰ(演習付)
微分積分(演習付)(4)	微分積分Ⅱ(演習付)
線形代数(演習付)(1)	線形代数Ⅰ(演習付)
線形代数(演習付)(3)	線形代数Ⅱ(演習付)

（３）情報科学科　2020年度～2022年度入学者用　標準カリキュラム表

	1　年　次				2　年　次			
	授　業　科　目	程度	単位	週時	授　業　科　目	程度	単位	週時
必修科目	セミナー・プロジェクト・卒業論文							
	１年セミナー	Ⅰ	2	2	２年セミナー	Ⅱ	1	2
					２年プロジェクト	Ⅱ	2	2
	プログラミング							
	プログラミングⅠ（演習付）(1)	Ⅰ	2	4	プログラミングⅡ（演習付）(1)	Ⅱ	2	4
	プログラミングⅠ（演習付）(3)	Ⅰ	2	4	プログラミングⅡ（演習付）(3)	Ⅱ	2	4
	プログラミングⅠ（演習付）(4)	Ⅰ	2	4				
	情報科学							
	コンピュータリテラシーａ	Ⅰ	1	2	アルゴリズムａ（演習付）	Ⅱ	2	4
	コンピュータリテラシーｂ	Ⅰ	1	2	アルゴリズムｂ（演習付）	Ⅱ	2	4
	情報表現(3)	Ⅰ	1	2				
	情報表現(4)	Ⅰ	1	2				
	数学							
	情報数学基礎（演習付）	Ⅰ	2	4	線形代数（演習付）(1)	Ⅱ	2	4
	微分積分（演習付）(3)	Ⅰ	2	4	線形代数（演習付）(3)	Ⅱ	2	4
	微分積分（演習付）(4)	Ⅰ	2	4	確率統計（演習付）	Ⅱ	2	4
	外国語科目（英語）							
	Reading Skills Ⅰ	Ⅰ	3	2	CS Reading SkillsⅡ	Ⅱ	3	2
	Oral English Ⅰ	Ⅰ	3	2	CS Speaking and ListeningⅡ	Ⅱ	3	2
	Composition Ⅰ	Ⅰ	3	2	CS CompositionⅡ	Ⅱ	3	2
	Pronunciation Ⅰ	Ⅰ	3	2				
	健康余暇科学科目							
	動きの教育	Ⅰ	1	2	健康教育	Ⅱ	1	2
	ウェルネス研究	Ⅰ	1	2	余暇教育	Ⅱ	0.5×2	2
選択必修科目								
選択科目	情報系科目							
	Reading and Listening for Proficiency Tests a	Ⅰ	1	4	Webテクノロジーａ	Ⅱ	1	2
					Webテクノロジーｂ	Ⅱ	1	2
					コンテンツデザイン	Ⅱ	1	2
					映像コンテンツ制作	Ⅱ	1	2
					コンピュータ概論Ⅰ	Ⅱ	1	2
					コンピュータ概論Ⅱ	Ⅱ	1	2
					インターラクティブシステム	Ⅱ	1	2
					コンピュータグラフィックスａ	Ⅱ	1	2
					コンピュータグラフィックスｂ	Ⅱ	1	2
					アプリケーションデザイン	Ⅱ	1	2
					センサー入門	Ⅱ	1	2
					テクニカルライティング	Ⅱ	1	2
					ビジネスコミュニケーション	Ⅱ	1	2
					デジタルメディア概論	Ⅱ	1	2
					Reading and Listening for Proficiency Tests ｂ(1)	Ⅱ	1	2
					Reading and Listening for Proficiency Tests ｂ(3)	Ⅱ	1	2
					Reading and Listening for Proficiency Tests ｂ(4)	Ⅱ	1	2
					Pythonで学ぶ情報科学入門	Ⅱ	1	2
					データサイエンスのためのソフトウェア工学入門	Ⅱ	1	2
					Introduction to Data Literacy in Engrish	Ⅱ	1	2
	数学系科目							
	大学数学入門ａ	Ⅰ	1	2	離散数学ａ	Ⅱ	1	2
	大学数学入門ｂ	Ⅰ	1	2	離散数学ｂ	Ⅱ	1	2
					離散数学ｃ	Ⅱ	1	2
	教職							
	情報と社会(1)	Ⅰ	1	2	情報と職業	Ⅱ	1	2
	情報と社会(3)	Ⅰ	1	2	情報社会と情報倫理	Ⅱ	1	2
	情報と社会(4)	Ⅰ	1	2				
	社会とデータ活用	Ⅰ	1	2				
自由科目	本学全開講科目 他大学において開講される科目で本学科が認めた科目							

（注）卒業に必要な自由科目に算入できる教職に関する科目について
＜2019年度以降入学者＞
教育実習Ａ・Ｂと教職実践演習を除くすべての教職課程科目（p.275およびp.270）

３　年　次				４　年　次				計
授　業　科　目	程度	単位	週時	授　業　科　目	程度	単位	週時	
３年セミナー ３年プロジェクト	Ⅲ Ⅲ	1 2	2 2	４年セミナー／プロジェクト 卒業論文	Ⅳ Ⅳ	5 4	2(4) －	35
								12
								21
								4
以下の科目から１単位以上修得してください。 情報科学英語 a 情報科学英語 b 情報科学英語 c 情報科学英語 d 情報科学英語 e 情報科学英語 f	 Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ	 1 1 1 1 1 1	 2 2 2 2 2 2					13
演習付科目 以下の科目から６科目12単位以上修得してください。 アルゴリズム c（演習付） マルチメディア（演習付） データサイエンス（演習付） ネットワークシステム（演習付） システム運用（演習付） 人工知能・機械学習（演習付） 数理モデル（演習付） 情報セキュリティ（演習付） ソフトウェア開発法（演習付）	 Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ	 2 2 2 2 2 2 2 2 2	 4 4 4 4 4 4 4 4 4					
情報セキュリティ入門 プログラミング言語論 知的財産概論 社会情報システム 自然言語処理 データベース入門 コンピュータアーキテクチャ オペレーティングシステム センサーネットワーク 情報科学 a 情報科学 b 情報科学 c 情報科学 d 情報科学 e 情報科学 f	Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	情報科学特論 a 情報科学特論 b 情報科学特論 c 情報科学特論 d 情報科学特論 e 情報科学特論 f 情報科学特論 g 情報科学特論 h	Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ	2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2 2	24
数理ファイナンス 暗号理論 情報数学 a 情報数学 b 情報数学 c 情報数学 d 情報数学 e 情報数学 f	Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ	1 1 1 1 1 1 1 1	2 2 2 2 2 2 2 2	情報数学特論 a 情報数学特論 b 情報数学特論 c 情報数学特論 d 情報数学特論 e 情報数学特論 f 情報数学特論 g 情報数学特論 h	Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ	2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2 2	
								21
						最低修得必要単位数		130

８-２．情報科学科（2023年度入学者用）

（１）履修単位数

卒業に必要な最小限単位数は以下の通りです。

必修科目	72単位
情報科学科科目	47単位
外国語科目	21単位
健康余暇科学科目	４単位
選択必修科目	13単位
選択科目	24単位
自由科目	21単位
合　計	130単位

（２）履修方法

イ．規定の必修科目は以下の要領で合計72単位修得してください。

ａ．３年セミナー・３年プロジェクトを履修するためには、１年次の必修専門科目をすべて修得していなければなりません。

ｂ．４年セミナー／プロジェクトおよび卒業論文を履修するためには、１、２年次の必修専門科目をすべて修得していなければなりません。

ｃ．外国語科目（英語）は、次の７科目21単位を履修して下さい。
Reading Skills Ⅰ、Oral English Ⅰ、Composition Ⅰ、Pronunciation Ⅰ、
CS Reading Skills Ⅱ、CS Composition Ⅱ、CS Speaking and Listening Ⅱ
その他にIntensive Listening Ⅰを受講できます。

ｄ．１年次の必修専門科目は、以下の通りです。
１年セミナー、プログラミングⅠ（演習付）、情報表現、情報数学基礎（演習付）、微分積分Ⅰ（演習付）、線形代数Ⅰ（演習付）、コンピュータリテラシーａ、ｂ

ｅ．２年次の必修専門科目は、以下の通りです。
２年セミナー、２年プロジェクト、プログラミングⅡ（演習付）、
アルゴリズムａ（演習付）、アルゴリズムｂ（演習付）、
微分積分Ⅱ（演習付）、線形代数Ⅱ（演習付）、確率統計（演習付）

ロ．選択必修科目13単位以上および選択科目24単位以上は、以下の要領で修得してください。選択必修科目で13単位を越えた分については、選択科目の単位数として加算することができます。

ａ．以下の科目から６科目12単位以上修得してください。
アルゴリズムｃ（演習付）、マルチメディア（演習付）、
データサイエンス（演習付）、ネットワークシステム（演習付）、
システム運用（演習付）、人工知能・機械学習（演習付）、
数理モデル（演習付）、情報セキュリティ（演習付）、
ソフトウェア開発法（演習付）

ｂ．以下の科目から１単位以上修得してください。
情報科学英語ａ、情報科学英語ｂ、情報科学英語ｃ、情報科学英語ｄ、情報科学英語ｅ、情報科学英語ｆ

ｃ．情報科学英語ａ、ｂ、ｃを履修するためには、１年次の英語科目Reading Skills Ⅰ、Oral English Ⅰ、Composition Ⅰ、 Pronunciation Ⅰのすべてを修得し、さらに、次のいずれかの条件を満たす必要があります。

１．指定科目のいずれかを修得する。
2026年度は、下記の科目を指定科目とします。
Reading and Listening for Proficiency Tests a、
Reading and Listening for Proficiency Tests b(1)、
Reading and Listening for Proficiency Tests b(3)、
Reading and Listening for Proficiency Tests b(4)、

２．情報科学英語履修認定試験に合格する。

（３）情報科学科　2023年度入学者用　標準カリキュラム表

	1　年　次				2　年　次			
	授　業　科　目	程度	単位	週時	授　業　科　目	程度	単位	週時
必修科目	セミナー・プロジェクト・卒業論文							
	１年セミナー	Ⅰ	2	2	２年セミナー	Ⅱ	1	2
					２年プロジェクト	Ⅱ	2	2
	プログラミング							
	プログラミングⅠ（演習付）(1)	Ⅰ	2	4	プログラミングⅡ（演習付）(1)	Ⅱ	2	4
	プログラミングⅠ（演習付）(3)	Ⅰ	2	4	プログラミングⅡ（演習付）(3)	Ⅱ	2	4
	プログラミングⅠ（演習付）(4)	Ⅰ	2	4				
	情報科学							
	コンピュータリテラシーａ	Ⅰ	1	2	アルゴリズムａ（演習付）	Ⅱ	2	4
	コンピュータリテラシーｂ	Ⅰ	1	2	アルゴリズムｂ（演習付）	Ⅱ	2	4
	情報表現(3)	Ⅰ	1	2				
	情報表現(4)	Ⅰ	1	2				
	数学							
	情報数学基礎（演習付）	Ⅰ	2	4	微分積分Ⅱ（演習付）	Ⅱ	2	4
	線形代数Ⅰ（演習付）	Ⅰ	2	4	線形代数Ⅱ（演習付）	Ⅱ	2	4
	微分積分Ⅰ（演習付）	Ⅰ	2	4	確率統計（演習付）	Ⅱ	2	4
	外国語科目（英語）							
	Reading Skills Ⅰ	Ⅰ	3	2	CS Reading Skills Ⅱ	Ⅱ	3	2
	Oral English Ⅰ	Ⅰ	3	2	CS Speaking and Listening Ⅱ	Ⅱ	3	2
	Composition Ⅰ	Ⅰ	3	2	CS Composition Ⅱ	Ⅱ	3	2
	Pronunciation Ⅰ	Ⅰ	3	2				
	健康余暇科学科目							
	動きの教育	Ⅰ	1	2	健康教育	Ⅱ	1	2
	ウェルネス研究	Ⅰ	1	2	余暇教育	Ⅱ	0.5×2	2
選択科目 選択必修科目								
選択科目 選択科目	情報と社会(1)	Ⅰ	1	2	Webテクノロジーａ	Ⅱ	1	2
	情報と社会(3)	Ⅰ	1	2	映像コンテンツ制作	Ⅱ	1	2
	情報と社会(4)	Ⅰ	1	2	コンピュータ概論Ⅰ	Ⅱ	1	2
	社会とデータ活用	Ⅰ	1	2	コンピュータ概論Ⅱ	Ⅱ	1	2
	大学数学入門ａ	Ⅰ	1	2	インターラクティブシステム	Ⅱ	1	2
	大学数学入門ｂ	Ⅰ	1	2	コンピュータグラフィックスａ	Ⅱ	1	2
					コンピュータグラフィックスｂ	Ⅱ	1	2
					アプリケーションデザイン	Ⅱ	1	2
					センサー入門	Ⅱ	1	2
					デジタルメディア概論	Ⅱ	1	2
					情報と職業	Ⅱ	1	2
					情報社会と情報倫理	Ⅱ	1	2
					離散数学ａ	Ⅱ	1	2
					離散数学ｂ	Ⅱ	1	2
					離散数学ｃ	Ⅱ	1	2
					Pythonで学ぶ情報科学入門	Ⅱ	1	2
					データサイエンスのためのソフトウェア工学入門	Ⅱ	1	2
					Introduction to Data Literacy in Engrish	Ⅱ	1	2
	Reading and Listening for Proficiency Tests ａ	Ⅰ	1	4	Reading and Listening for Proficiency Tests ｂ(1)	Ⅱ	1	2
					Reading and Listening for Proficiency Tests ｂ(3)	Ⅱ	1	2
					Reading and Listening for Proficiency Tests ｂ(4)	Ⅱ	1	2
自由科目	本学全開講科目 他大学において開講される科目で本学科が認めた科目							

（注）卒業に必要な自由科目に算入できる教職に関する科目について
＜2019年度以降入学者＞
教育実習Ａ・Ｂと教職実践演習を除くすべての教職課程科目（p.275およびp.270）

3　年　次				4　年　次				計
授　業　科　目	程度	単位	週時	授　業　科　目	程度	単位	週時	
３年セミナー ３年プロジェクト	Ⅲ Ⅲ	1 2	2 2	４年セミナー／プロジェクト 卒業論文	Ⅳ Ⅳ	5 4	2(4) －	35
								12
								21
								4
以下の科目から１単位以上修得してください。 情報科学英語 a 情報科学英語 b 情報科学英語 c 情報科学英語 d 情報科学英語 e 情報科学英語 f	 Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ	 1 1 1 1 1 1	 2 2 2 2 2 2					13
演習付科目 以下の科目から６科目12単位以上修得してください。 アルゴリズム c（演習付） マルチメディア（演習付） データサイエンス（演習付） ネットワークシステム（演習付） システム運用（演習付） 人工知能・機械学習（演習付） 数理モデル（演習付） 情報セキュリティ（演習付） ソフトウェア開発法（演習付）	 Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ	 2 2 2 2 2 2 2 2 2	 4 4 4 4 4 4 4 4 4					
情報セキュリティ入門 プログラミング言語論 知的財産概論 社会情報システム 自然言語処理 データベース入門 コンピュータアーキテクチャ オペレーティングシステム センサーネットワーク 情報科学 a 情報科学 b 情報科学 c 情報科学 d 情報科学 e 情報科学 f 数理ファイナンス 暗号理論 情報数学 a 情報数学 b 情報数学 c 情報数学 d 情報数学 e 情報数学 f	Ⅲ Ⅲ	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	情報科学特論 a 情報科学特論 b 情報科学特論 c 情報科学特論 d 情報科学特論 e 情報科学特論 f 情報科学特論 g 情報科学特論 h 情報数学特論 a 情報数学特論 b 情報数学特論 c 情報数学特論 d 情報数学特論 e 情報数学特論 f 情報数学特論 g 情報数学特論 h	Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	24
								21
						最低修得必要単位数		130

８-３．情報科学科（2024年度入学者用）

（１）履修単位数

卒業に必要な最小限単位数は以下の通りです。

必修科目	72単位
情報科学科科目	47単位
外国語科目	21単位
健康余暇科学科目	４単位
選択必修科目	13単位
選択科目	24単位
自由科目	21単位
合　計	130単位

（２）履修方法

イ．規定の必修科目は以下の要領で合計72単位修得してください。

ａ．３年セミナー・３年プロジェクトを履修するためには、１年次の必修専門科目をすべて修得していなければなりません。

ｂ．４年セミナー／プロジェクトおよび卒業論文を履修するためには、１、２年次の必修専門科目をすべて修得していなければなりません。

ｃ．外国語科目（英語）は、次の７科目21単位を履修して下さい。
Reading Skills Ⅰ、Oral English Ⅰ、Composition Ⅰ、Pronunciation Ⅰ、
CS Reading Skills Ⅱ、CS Composition Ⅱ、CS Speaking and Listening Ⅱ
その他にIntensive Listening Ⅰを受講できます。

ｄ．１年次の必修専門科目は、以下の通りです。
１年セミナー、プログラミングⅠ（演習付）、情報表現、情報数学基礎（演習付）、微分積分Ⅰ（演習付）、線形代数Ⅰ（演習付）、コンピュータリテラシーａ、ｂ

ｅ．２年次の必修専門科目は、以下の通りです。
２年セミナー、２年プロジェクト、プログラミングⅡ（演習付）、
アルゴリズムａ（演習付）、アルゴリズムｂ（演習付）、
微分積分Ⅱ（演習付）、線形代数Ⅱ（演習付）、確率統計（演習付）

ロ．選択必修科目13単位以上および選択科目24単位以上は、以下の要領で修得してください。選択必修科目で13単位を越えた分については、選択科目の単位数として加算することができます。

ａ．以下の科目から６科目12単位以上修得してください。
アルゴリズムｃ（演習付）、マルチメディア（演習付）、
データサイエンス（演習付）、ネットワークシステム（演習付）、
システム運用（演習付）、人工知能・機械学習（演習付）、
数理モデル（演習付）、情報セキュリティ（演習付）、
ソフトウェア開発法（演習付）

ｂ．以下の科目から１単位以上修得してください。
情報科学英語ａ、情報科学英語ｂ、情報科学英語ｃ、情報科学英語ｄ、情報科学英語ｅ、情報科学英語ｆ

ｃ．情報科学英語ａ、ｂ、ｃを履修するためには、１年次の英語科目Reading Skills Ⅰ、Oral English Ⅰ、Composition Ⅰ、 Pronunciation Ⅰのすべてを修得し、さらに、次のいずれかの条件を満たす必要があります。

１．指定科目のいずれかを修得する。
2026年度は、下記の科目を指定科目とします。
Reading and Listening for Proficiency Tests a、
Reading and Listening for Proficiency Tests b(1)、
Reading and Listening for Proficiency Tests b(3)、
Reading and Listening for Proficiency Tests b(4)、

２．情報科学英語履修認定試験に合格する。

（３）情報科学科　2024年度入学者用　標準カリキュラム表

	1　年　次				2　年　次			
	授　業　科　目	程度	単位	週時	授　業　科　目	程度	単位	週時
必修科目	セミナー・プロジェクト・卒業論文							
	１年セミナー	Ⅰ	2	2	２年セミナー	Ⅱ	1	2
					２年プロジェクト	Ⅱ	2	2
	プログラミング							
	プログラミングⅠ（演習付）(1)	Ⅰ	2	4	プログラミングⅡ（演習付）(1)	Ⅱ	2	4
	プログラミングⅠ（演習付）(3)	Ⅰ	2	4	プログラミングⅡ（演習付）(3)	Ⅱ	2	4
	プログラミングⅠ（演習付）(4)	Ⅰ	2	4				
	情報科学							
	コンピュータリテラシーａ	Ⅰ	1	2	アルゴリズムａ（演習付）	Ⅱ	2	4
	コンピュータリテラシーｂ	Ⅰ	1	2	アルゴリズムｂ（演習付）	Ⅱ	2	4
	情報表現(3)	Ⅰ	1	2				
	情報表現(4)	Ⅰ	1	2				
	数学							
	情報数学基礎（演習付）	Ⅰ	2	4	微分積分Ⅱ（演習付）	Ⅱ	2	4
	線形代数Ⅰ（演習付）	Ⅰ	2	4	線形代数Ⅱ（演習付）	Ⅱ	2	4
	微分積分Ⅰ（演習付）	Ⅰ	2	4	確率統計（演習付）	Ⅱ	2	4
	外国語科目（英語）							
	Reading Skills Ⅰ	Ⅰ	3	2	CS Reading SkillsⅡ	Ⅱ	3	2
	Oral English Ⅰ	Ⅰ	3	2	CS Speaking and ListeningⅡ	Ⅱ	3	2
	Composition Ⅰ	Ⅰ	3	2	CS CompositionⅡ	Ⅱ	3	2
	Pronunciation Ⅰ	Ⅰ	3	2				
	健康余暇科学科目							
	動きの教育	Ⅰ	1	2	健康教育	Ⅱ	1	2
	ウェルネス研究	Ⅰ	1	2	余暇教育	Ⅱ	0.5×2	2
選択科目 選択必修科目								
選択科目 選択科目	情報と社会(1)	Ⅰ	1	2	Webテクノロジーａ	Ⅱ	1	2
	情報と社会(3)	Ⅰ	1	2	映像コンテンツ制作	Ⅱ	1	2
	情報と社会(4)	Ⅰ	1	2	コンピュータ概論Ⅰ	Ⅱ	1	2
	社会とデータ活用	Ⅰ	1	2	コンピュータ概論Ⅱ	Ⅱ	1	2
	大学数学入門ａ	Ⅰ	1	2	インターラクティブシステム	Ⅱ	1	2
	大学数学入門ｂ	Ⅰ	1	2	コンピュータグラフィックスａ	Ⅱ	1	2
					コンピュータグラフィックスｂ	Ⅱ	1	2
					アプリケーションデザイン	Ⅱ	1	2
					センサー入門	Ⅱ	1	2
					デジタルメディア概論	Ⅱ	1	2
					情報社会と情報倫理	Ⅱ	1	2
					離散数学ａ	Ⅱ	1	2
					離散数学ｂ	Ⅱ	1	2
					離散数学ｃ	Ⅱ	1	2
					Pythonで学ぶ情報科学入門	Ⅱ	1	2
					データサイエンスのためのソフトウェア工学入門	Ⅱ	1	2
					Introduction to Data Literacy in Engrish	Ⅱ	1	2
	Reading and Listening for Proficiency Tests ａ	Ⅰ	1	4	Reading and Listening for Proficiency Tests ｂ(1)	Ⅱ	1	2
					Reading and Listening for Proficiency Tests ｂ(3)	Ⅱ	1	2
					Reading and Listening for Proficiency Tests ｂ(4)	Ⅱ	1	2
自由科目	本学全開講科目 他大学において開講される科目で本学科が認めた科目							

（注）卒業に必要な自由科目に算入できる教職に関する科目について
＜2019年度以降入学者＞
教育実習Ａ・Ｂと教職実践演習を除くすべての教職課程科目（p.275およびp.270）

3　年　次				4　年　次				計
授　業　科　目	程度	単位	週時	授　業　科　目	程度	単位	週時	
３年セミナー ３年プロジェクト	Ⅲ Ⅲ	1 2	2 2	４年セミナー／プロジェクト 卒業論文	Ⅳ Ⅳ	5 4	2(4) －	35
								12
								21
								4
以下の科目から１単位以上修得してください。 情報科学英語 a 情報科学英語 b 情報科学英語 c 情報科学英語 d 情報科学英語 e 情報科学英語 f	 Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ	 1 1 1 1 1 1	 2 2 2 2 2 2					13
演習付科目 以下の科目から６科目12単位以上修得してください。 アルゴリズム c（演習付） マルチメディア（演習付） データサイエンス（演習付） ネットワークシステム（演習付） システム運用（演習付） 人工知能・機械学習（演習付） 数理モデル（演習付） 情報セキュリティ（演習付） ソフトウェア開発法（演習付）	 Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ	 2 2 2 2 2 2 2 2 2	 4 4 4 4 4 4 4 4 4					
情報セキュリティ入門 プログラミング言語論 知的財産概論 社会情報システム 自然言語処理 データベース入門 コンピュータアーキテクチャ オペレーティングシステム センサーネットワーク 情報科学 a 情報科学 b 情報科学 c 情報科学 d 情報科学 e 情報科学 f 数理ファイナンス 暗号理論 情報数学 a 情報数学 b 情報数学 c 情報数学 d 情報数学 e 情報数学 f	Ⅲ Ⅲ	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	情報科学特論 a 情報科学特論 b 情報科学特論 c 情報科学特論 d 情報科学特論 e 情報科学特論 f 情報科学特論 g 情報科学特論 h 情報数学特論 a 情報数学特論 b 情報数学特論 c 情報数学特論 d 情報数学特論 e 情報数学特論 f 情報数学特論 g 情報数学特論 h	Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	24
								21
						最低修得必要単位数		130

８-４．情報科学科（2025年度以降入学者用）

（１）履修単位数

卒業に必要な最小限単位数は以下の通りです。

必修科目	72単位
情報科学科科目	47単位
外国語科目	21単位
健康余暇科学科目	４単位
選択必修科目	13単位
選択科目	24単位
自由科目	21単位
合　計	130単位

（２）履修方法

イ．規定の必修科目は以下の要領で合計72単位修得してください。

ａ．３年セミナー・３年プロジェクトを履修するためには、１年次の必修専門科目をすべて修得していなければなりません。

ｂ．４年セミナー／プロジェクトおよび卒業論文を履修するためには、１、２年次の必修専門科目をすべて修得していなければなりません。

ｃ．外国語科目（英語）は、次の７科目21単位を履修して下さい。
Reading Skills Ⅰ、Oral English Ⅰ、Composition Ⅰ、Pronunciation Ⅰ、
CS Reading Skills Ⅱ、CS Composition Ⅱ、CS Speaking and Listening Ⅱ
その他にIntensive Listening Ⅰを受講できます。

ｄ．１年次の必修専門科目は、以下の通りです。
１年セミナー、プログラミングⅠ（演習付）、情報表現、情報数学基礎（演習付）、微分積分Ⅰ（演習付）、線形代数Ⅰ（演習付）、データサイエンス入門、データリテラシー入門

ｅ．２年次の必修専門科目は、以下の通りです。
２年セミナー、２年プロジェクト、プログラミングⅡ（演習付）、
アルゴリズムａ（演習付）、アルゴリズムｂ（演習付）、
微分積分Ⅱ（演習付）、線形代数Ⅱ（演習付）、確率統計（演習付）

ロ．選択必修科目13単位以上および選択科目24単位以上は、以下の要領で修得してください。選択必修科目で13単位を越えた分については、選択科目の単位数として加算することができます。

ａ．以下の科目から６科目12単位以上修得してください。
アルゴリズムｃ（演習付）、マルチメディア（演習付）、
データサイエンス（演習付）、ネットワークシステム（演習付）、
システム運用（演習付）、人工知能・機械学習（演習付）、
数理モデル（演習付）、情報セキュリティ（演習付）、
ソフトウェア開発法（演習付）

ｂ．以下の科目から１単位以上修得してください。
情報科学英語ａ、情報科学英語ｂ、情報科学英語ｃ、情報科学英語ｄ、情報科学英語ｅ、情報科学英語ｆ

ｃ．情報科学英語ａ、ｂ、ｃを履修するためには、１年次の英語科目Reading Skills Ⅰ、Oral English Ⅰ、Composition Ⅰ、 Pronunciation Ⅰのすべてを修得し、さらに、次のいずれかの条件を満たす必要があります。

１．指定科目のいずれかを修得する。
2026年度は、下記の科目を指定科目とします。
Reading and Listening for Proficiency Tests a、
Reading and Listening for Proficiency Tests b(1)、
Reading and Listening for Proficiency Tests b(3)、
Reading and Listening for Proficiency Tests b(4)、

２．情報科学英語履修認定試験に合格する。

（３）情報科学科　2025年度以降入学者用　標準カリキュラム表

	1　年　次				2　年　次			
	授　業　科　目	程度	単位	週時	授　業　科　目	程度	単位	週時
必修科目	セミナー・プロジェクト・卒業論文							
	１年セミナー	Ⅰ	2	2	２年セミナー	Ⅱ	1	2
					２年プロジェクト	Ⅱ	2	2
	プログラミング							
	プログラミングⅠ（演習付）(1)	Ⅰ	2	4	プログラミングⅡ（演習付）(1)	Ⅱ	2	4
	プログラミングⅠ（演習付）(3)	Ⅰ	2	4	プログラミングⅡ（演習付）(3)	Ⅱ	2	4
	プログラミングⅠ（演習付）(4)	Ⅰ	2	4				
	情報科学							
	データサイエンス入門	Ⅰ	1	2	アルゴリズムａ（演習付）	Ⅱ	2	4
	データリテラシー入門	Ⅰ	1	2	アルゴリズムｂ（演習付）	Ⅱ	2	4
	情報表現(3)	Ⅰ	1	2				
	情報表現(4)	Ⅰ	1	2				
	数学							
	情報数学基礎（演習付）	Ⅰ	2	4	微分積分Ⅱ（演習付）	Ⅱ	2	4
	線形代数Ⅰ（演習付）	Ⅰ	2	4	線形代数Ⅱ（演習付）	Ⅱ	2	4
	微分積分Ⅰ（演習付）	Ⅰ	2	4	確率統計（演習付）	Ⅱ	2	4
	外国語科目（英語）							
	Reading Skills Ⅰ	Ⅰ	3	2	CS Reading SkillsⅡ	Ⅱ	3	2
	Oral English Ⅰ	Ⅰ	3	2	CS Speaking and ListeningⅡ	Ⅱ	3	2
	Composition Ⅰ	Ⅰ	3	2	CS CompositionⅡ	Ⅱ	3	2
	Pronunciation Ⅰ	Ⅰ	3	2				
	健康余暇科学科目							
	動きの教育	Ⅰ	1	2	健康教育	Ⅱ	1	2
	ウェルネス研究	Ⅰ	1	2	余暇教育	Ⅱ	0.5×2	2
選択科目 選択必修科目								
選択科目 選択科目	情報と社会(1)	Ⅰ	1	2	Webテクノロジーａ	Ⅱ	1	2
	情報と社会(3)	Ⅰ	1	2	映像コンテンツ制作	Ⅱ	1	2
	社会とデータ活用	Ⅰ	1	2	コンピュータ概論Ⅰ	Ⅱ	1	2
	大学数学入門ａ	Ⅰ	1	2	コンピュータ概論Ⅱ	Ⅱ	1	2
	大学数学入門ｂ	Ⅰ	1	2	インターラクティブシステム	Ⅱ	1	2
					コンピュータグラフィックスａ	Ⅱ	1	2
					コンピュータグラフィックスｂ	Ⅱ	1	2
					アプリケーションデザイン	Ⅱ	1	2
					センサー入門	Ⅱ	1	2
					デジタルメディア概論	Ⅱ	1	2
					情報社会と情報倫理	Ⅱ	1	2
					離散数学ａ	Ⅱ	1	2
					離散数学ｂ	Ⅱ	1	2
					離散数学ｃ	Ⅱ	1	2
					Introduction to Data Literacy in Engrish	Ⅱ	1	2
	Reading and Listening for Proficiency Tests ａ	Ⅰ	1	4	Reading and Listening for Proficiency Tests ｂ(1)	Ⅱ	1	2
					Reading and Listening for Proficiency Tests ｂ(3)	Ⅱ	1	2
					Reading and Listening for Proficiency Tests ｂ(4)	Ⅱ	1	2
自由科目	本学全開講科目 他大学において開講される科目で本学科が認めた科目							

（注）卒業に必要な自由科目に算入できる教職に関する科目について
＜2019年度以降入学者＞
教育実習Ａ・Ｂと教職実践演習を除くすべての教職課程科目（p.275およびp.270）

3　年　次				4　年　次				計
授　業　科　目	程度	単位	週時	授　業　科　目	程度	単位	週時	
３年セミナー ３年プロジェクト	Ⅲ Ⅲ	1 2	2 2	４年セミナー／プロジェクト 卒業論文	Ⅳ Ⅳ	5 4	2(4) －	35
								12
								21
								4
以下の科目から１単位以上修得してください。 情報科学英語 a 情報科学英語 b 情報科学英語 c 情報科学英語 d 情報科学英語 e 情報科学英語 f	 Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ	 1 1 1 1 1 1	 2 2 2 2 2 2					13
演習付科目 以下の科目から６科目12単位以上修得してください。 アルゴリズム c（演習付） マルチメディア（演習付） データサイエンス（演習付） ネットワークシステム（演習付） システム運用（演習付） 人工知能・機械学習（演習付） 数理モデル（演習付） 情報セキュリティ（演習付） ソフトウェア開発法（演習付）	 Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ	 2 2 2 2 2 2 2 2 2	 4 4 4 4 4 4 4 4 4					
情報セキュリティ入門 プログラミング言語論 知的財産概論 社会情報システム 自然言語処理 データベース入門 コンピュータアーキテクチャ オペレーティングシステム センサーネットワーク 情報科学 a 情報科学 b 情報科学 c 情報科学 d 情報科学 e 情報科学 f 数理ファイナンス 暗号理論 情報数学 a 情報数学 b 情報数学 c 情報数学 d 情報数学 e 情報数学 f	Ⅲ Ⅲ	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	情報科学特論 a 情報科学特論 b 情報科学特論 c 情報科学特論 d 情報科学特論 e 情報科学特論 f 情報科学特論 g 情報科学特論 h 情報数学特論 a 情報数学特論 b 情報数学特論 c 情報数学特論 d 情報数学特論 e 情報数学特論 f 情報数学特論 g 情報数学特論 h	Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	24
								21
						最低修得必要単位数		130

（４）授業科目名・単位（各入学年度共通）

授　業　科　目	程度	開講ターム	単位	週時	担　当　者	備　考
１年セミナー	Ⅰ	1,3	2	2	来住　伸子 栗原　一貴 新田　善久 貞廣　泰造 上田　祥代 植村あい子	
プログラミングⅠ(演習付)(1)	Ⅰ	1	2	4	来住　伸子・吉田　葵	
プログラミングⅠ(演習付)(3)	Ⅰ	3	2	4	来住　伸子・未　定	
プログラミングⅠ(演習付)(4)	Ⅰ	4	2	4	来住　伸子・未　定	
コンピュータリテラシーa	Ⅰ	−	1	2		(2025年度から閉講)
コンピュータリテラシーb	Ⅰ	−	1	2		(2025年度から閉講)
データサイエンス入門	Ⅰ	1	1	2	白倉　悟子	(2025年度から開講)
データリテラシー入門	Ⅰ	3	1	2	白倉　悟子	(2025年度から開講)
情報表現(3)	Ⅰ	3	1	2	植村あい子	
情報表現(4)	Ⅰ	4	1	2	上田　祥代	
情報数学基礎（演習付）	Ⅰ	1	2	4	貞廣　泰造	
微分積分(演習付)(3)	Ⅰ	−	2	4		(2023年度から閉講)
微分積分(演習付)(4)	Ⅰ	−	2	4		(2024年度から閉講)
線形代数Ⅰ(演習付)	Ⅰ	3	2	4	永井　敦	
微分積分Ⅰ(演習付)	Ⅰ	4	2	4	永井　敦	
大学数学入門a	Ⅰ	1	1	2	立井　博子	
大学数学入門b	Ⅰ	2	1	4	立井　博子	
Reading and Listening for Proficiency Tests a	Ⅰ	2	1	4	楠　香織	
情報と社会(1)	Ⅰ	1	1	2	藤吉　隆雄	
情報と社会(3)	Ⅰ	3	1	2	藤吉　隆雄	
情報と社会(4)	Ⅰ	−	1	2		(2025年度から閉講)
社会とデータ活用	Ⅰ	3	1	2	栗原　一貴 他	(2025年度から開講)
コンテンツ制作総合講座	Ⅰ	−	1	4		(実験的講座)（2025年度から閉講)
２年セミナー	Ⅱ	4	1	2	来住　伸子 貞廣　泰造 上田　祥代 植村あい子	
２年プロジェクト	Ⅱ	1,3	2	2	新田　善久 上田　祥代 植村あい子	
プログラミングⅡ(演習付)(1)	Ⅱ	1	2	4	上田　祥代・冨田　寿子	
プログラミングⅡ(演習付)(3)	Ⅱ	3	2	4	上田　祥代・未　定	
アルゴリズムa(演習付)	Ⅱ	3	2	4	新田　善久・原山智重子	
アルゴリズムb(演習付)	Ⅱ	4	2	4	新田　善久・原山智重子	
線形代数(演習付)(1)	Ⅱ	−	2	4		(2024年度から閉講)
線形代数(演習付)(3)	Ⅱ	−	2	4		(2024年度から閉講)
微分積分Ⅱ(演習付)	Ⅱ	1	2	4	永井　敦・立井　博子	(2024年度から開講)
線形代数Ⅱ(演習付)	Ⅱ	3	2	4	貞廣　泰造・立井　博子	(2024年度から開講)
確率統計(演習付)	Ⅱ	4	2	4	貞廣　泰造・立井　博子	
Webテクノロジーa	Ⅱ	4	1	2	大塚　亜未	
Webテクノロジーb	Ⅱ	−	1	2		(2024年度から閉講)
離散数学a	Ⅱ	1	1	2	植田　美佳	
離散数学b	Ⅱ	3	1	2	植田　美佳	
離散数学c	Ⅱ	4	1	2	時弘　哲治	
インターラクティブシステム	Ⅱ	1	1	2	栗原　一貴	
情報と職業	Ⅱ	−	1	2		(2025年度から閉講)
情報社会と情報倫理	Ⅱ	1	1	2	藤本　一男	(2025年度から開講)2024年度までの「情報と職業」
コンテンツデザイン	Ⅱ	−	1	2		(2024年度から閉講)
コンピュータグラフィックスa	Ⅱ	4	1	2	新田　善久	
コンピュータグラフィックスb	Ⅱ	1	1	2	新田　善久	

授　業　科　目	程度	開講ターム	単位	週時	担　当　者	備　考
Reading and Listening for Proficiency Tests b (1)	Ⅱ	1	1	2	増田　直子	
Reading and Listening for Proficiency Tests b (3)	Ⅱ	3	1	2	増田　直子	
Reading and Listening for Proficiency Tests b (4)	Ⅱ	4	1	2	増田　直子	
映像コンテンツ制作	Ⅱ	1	1	2	渡辺真太郎	
センサー入門	Ⅱ	1	1	2	金箱　淳一	
テクニカルライティング	Ⅱ	－	1	2		(2024年度から閉講)
ビジネスコミュニケーション	Ⅱ	－	1	2		(2024年度から閉講)
アプリケーションデザイン	Ⅱ	4	1	2	原山智重子	
コンピュータ概論Ⅰ	Ⅱ	3	1	2		(本年度休講)
コンピュータ概論Ⅱ	Ⅱ	4	1	2		(本年度休講)
プログラミング基礎講座	Ⅱ	－	1	4		(実験的講座) (2025年度から閉講)
Pythonで学ぶ情報科学入門	Ⅱ	－	1	2		(実験的講座) (2026年度から閉講)
データサイエンスのためのソフトウェア工学入門	Ⅱ	－	1	2		(実験的講座) (2026年度から閉講)
Introduction to Data Literacy in Engrish	Ⅱ	2	1	4	来住　伸子	(2026年度から開講)
３年セミナー	Ⅲ	4	1	2	東　康平 新田　善久 貞廣　泰造 上田　祥代 植村あい子	
３年プロジェクト	Ⅲ	1,3	2	2	東　康平 来住　伸子 近藤　亮太 栗原　一貴 新田　善久 上田　祥代 植村あい子	
マルチメディア(演習付)	Ⅲ	3	2	4	植村あい子	
数理モデル(演習付)	Ⅲ	1	2	4	立井　博子	
ソフトウェア開発法(演習付)	Ⅲ	1	2	4	吉田　葵	
システム運用(演習付)	Ⅲ	3	2	4	加藤　朗	
人工知能・機械学習(演習付)	Ⅲ	2	2	4	小町　守・風間　正弘	
コンピュータアーキテクチャ	Ⅲ	1	1	2	新田　善久	
ネットワークシステム(演習付)	Ⅲ	1	2	4	新田　善久・原山智重子	
データサイエンス(演習付)	Ⅲ	3	2	4	植村あい子	
アルゴリズム c (演習付)	Ⅲ	1	2	4	新田　善久・原山智重子	
センサーネットワーク	Ⅲ	2	1	4	砂原　秀樹	
データベース入門	Ⅲ	4	1	2	北島　信哉	
知的財産概論	Ⅲ	3	1	2	近藤　祥文	
情報セキュリティ入門	Ⅲ	3	1	2	砂原　秀樹	
情報セキュリティ(演習付)	Ⅲ	4	2	2	砂原　秀樹・加藤　大弥	
プログラミング言語論	Ⅲ	3	1	2	金子　敬一	
社会情報システム	Ⅲ	3	1	2		(2025年度から隔年開講) (本年度休講)
自然言語処理	Ⅲ	3	1	2	欅　惇志	
オペレーティングシステム	Ⅲ	1	1	2	砂原　秀樹	
暗号理論	Ⅲ	1	1	2	岸本　渡	
数理ファイナンス	Ⅲ	3	1	2	永井　敦	(2025年度から隔年開講)
情報数学 a	Ⅲ	1	1	2		(本年度休講)
情報数学 b	Ⅲ	3	1	2		(本年度休講)
情報数学 c	Ⅲ	4	1	2		(本年度休講)
情報数学 d	Ⅲ	3	1	2	植田　美佳	
情報数学 e	Ⅲ	1	1	4	植田　美佳	
情報数学 f	Ⅲ	4	1	2	植田　美佳	

授　業　科　目	程度	開　講ターム	単位	週時	担　　当　　者	備　　考
情報科学 a	Ⅲ	3	1	2	大橋　恭子	
情報科学 b	Ⅲ	3	1	2		（本年度休講）
情報科学 c	Ⅲ	1	1	2		（本年度休講）
情報科学 d	Ⅲ	－	1	2		（本年度休講）
情報科学 e	Ⅲ	1	1	2	横山　昌平	
情報科学 f	Ⅲ	4	1	2		（本年度休講）
情報科学英語 a	Ⅲ	1	1	2	Simon Stevens	
情報科学英語 b	Ⅲ	3	1	2	Simon Stevens	
情報科学英語 c	Ⅲ	4	1	2	Simon Stevens	
情報科学英語 d	Ⅲ	1	1	2	小西　正恵	
情報科学英語 e	Ⅲ	3	1	2	小西　正恵	
情報科学英語 f	Ⅲ	4	1	2	小西　正恵	
４年セミナー／プロジェクト	Ⅳ	1,3,4	5		堀江　郁美 来住　伸子 栗原　一貴 永井　　敦 新田　善久 貞廣　泰造 砂原　秀樹 上田　祥代 植村あい子	第１タームは１コマ開講 第３・４タームは２コマ開講
卒業論文	Ⅳ		4	－	堀江　郁美 来住　伸子 栗原　一貴 永井　　敦 新田　善久 貞廣　泰造 砂原　秀樹 上田　祥代 植村あい子	
情報科学特論 a	Ⅳ	－	2	2		（本年度休講）
情報科学特論 b	Ⅳ	－	2	2		（本年度休講）
情報科学特論 c	Ⅳ	－	2	2		（本年度休講）
情報科学特論 d	Ⅳ	－	2	2		（本年度休講）
情報科学特論 e	Ⅳ	3,4	2	2	湯浦　克彦	
情報科学特論 f	Ⅳ	3,4	2	2	上田　祥代	
情報科学特論 g	Ⅳ	1,2	2	2	栗原　一貴	
情報科学特論 h	Ⅳ	3,4	2	2	小林　メイ	集中講義
情報数学特論 a	Ⅳ	1,2	2	2		（本年度休講）
情報数学特論 b	Ⅳ	1,2	2	2	渡邉宏太郎	集中講義
情報数学特論 c	Ⅳ	－	2	2		（本年度休講）
情報数学特論 d	Ⅳ	3,4	2	2	時弘　哲治	
情報数学特論 e	Ⅳ	－	2	2		（本年度休講）
情報数学特論 f	Ⅳ	1,2	2	2	寺田　　至	
情報数学特論 g	Ⅳ	－	2	2		（本年度休講）
情報数学特論 h	Ⅳ	3,4	2	2	安道健一郎	

9. 教　職　課　程

9-1．教職課程（2018年度以前入学者用）

教育職員免許状（以下「教員免許状」という）取得希望者は教職課程で定められた科目を履修しなければなりません。

教職課程を履修する学生は、自分の専門とする分野について深く学ぶと共に、教育方法やその他教職にかかわる授業科目を修得することになります。また、教職課程履修者のための説明会・オリエンテーション等に必ず出席し、所定の手続きを期間内に行うことが必要です。

教職課程からのお知らせ　　よくある質問　　教務課問い合わせフォーム

■教員免許状の種類と教科

教職課程を履修し、規定の単位を修得した場合は、１教科・２種類の免許状まで授与されます。原則として、同時に２教科の免許状の取得はできません。免許状の取得は、高等学校免許状と中学校免許状を同時に取得することが望ましいですが、高等学校免許状のみも取得できます。中学校免許状のみの取得はできません。

免許状種類／学　科	中学校教諭 一種免許状	高等学校教諭 一種免許状
英語英文学科	外国語（英語）	外国語（英語）
国際関係学科	外国語（英語）	外国語（英語）
	社　　会	地理歴史
		公　　民
数　学　科 情報科学科	数　　学	数　　学
	―	情　　報

●「情報」の免許は高等学校免許状のみの取得となります。

●中学「社会」・高校「地歴」「公民」は同時取得が可能。また、これらの免許状は同時に取得することが望ましい。

■本学における教員免許状取得要件（最低修得単位数）

教員免許状の種類		英語		数学		情報	社会	地理歴史	公民
		中一種	高一種	中一種	高一種	高一種	中一種	高一種	高一種
教職に関する科目		35	31	35	31	27	33	27	27
教科に関する科目		24	28	24	28	32	36	32	32
教科または教職に関する科目									
免許法施行規則第66条の６に定める科目	日本国憲法	2							
	体育（実技）	2							
	外国語コミュニケーション	2							
	情報機器の操作	2							
最低修得単位数の合計		67	67	67	67	67	77	67	67

●「教科に関する科目」は20単位以上修得しなければなりません。

■教育職員免許法に定められた最低修得単位数

教員免許状の種類		中一種	高一種
教職に関する科目		31	23
教科に関する科目		20	20
教科または教職に関する科目		8	16
免許法施行規則第66条の６に定める科目	日本国憲法	2	2
	体育（実技）	2	2
	外国語コミュニケーション	2	2
	情報機器の操作	2	2
最低修得単位数の合計		67	67

（1）履修方法

取得を希望する免許状に応じて**「教職に関する科目」「教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目」「教科に関する科目」「教科又は教職に関する科目」**の単位を修得しなければなりません。教職課程全体のオリエンテーションとして１年次に「教職概論」を履修してください。

①全学科・全免許種共通

■教職に関する科目

本学の授業科目					免許法に規定する科目		
教職に関する科目	中学免許単位数	高校免許単位数	程度	備考	教職に関する科目	中学免許単位数	高校免許単位数
教職概論	2	2	Ⅰ	必修	教職の意義等に関する科目	2	2
○教育基礎論	2	2	Ⅰ～Ⅲ	必修	教育の基礎理論に関する科目	6	6
○教育組織論	2	2	Ⅰ～Ⅲ	必修			
○教育心理学	2	2	Ⅰ～Ⅲ	必修			
教育課程論	2	2	Ⅱ～Ⅲ	必修	教育課程および指導法に関する科目	12	6
○教科指導法★ （社会科）※(1) （社会・地歴） （社会・公民） （英　語）※(2) （数　学）※(3) （情　報）	2 4 4 8 8 —	— 4 4 8 8 4	Ⅲ	必修			
道徳教育の研究 （道徳教育の理論と方法*）	2	—	Ⅱ～Ⅲ	必修			
特別活動の研究	2	2	Ⅱ～Ⅲ	必修			
教育メディアの研究※(4) （教育方法論*）	2	2	Ⅱ～Ⅲ	必修			
生徒指導の研究（進路指導を含む） （「生徒指導の理論と方法（１単位）*」 及び「進路指導の理論と方法（１単位）*」）	2	2	Ⅱ～Ⅲ	必修	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	4	4
教育相談の研究（カウンセリングを含む） （教育相談の理論と方法*）	2	2	Ⅱ～Ⅲ	必修			
教育実習（教育実習指導を含む）	5	3	Ⅲ～Ⅳ	必修	教育実習	5	3
教職実践演習　（中・高）	2	2	Ⅳ	必修	教職実践演習	2	2
最低取得単位数　計	35（英免） 33（社免） 35（数免）	31（英免） 27（地歴・公民） 31（数免） 27（情報）			計	31	23

○印……教育実習までに履修済であること。

※(1).『中学社会科と高校地歴科免許状』の取得希望者は、「社会科指導法＋社会科・地理歴史科指導法（計６単位）」を、『中学社会科と高校公民科免許状』の取得希望者は「社会科指導法＋社会科・公民科指導法（計６単位）」を、『中学社会科と高校地歴科免許状と高校公民科免許状』の取得希望者は「社会科指導法＋社会科・地理歴史科指導法＋社会科・公民科指導法（計10単位）」を修得しなければなりません。

※(2).『中学英語科と高校英語科免許状』の取得希望者は、「英語科指導法Ⅰ」「英語科指導法Ⅱ」両方の合計８単位を修得しなければなりません（2013年度入学者より適用）。読み替え科目「言語教育方法論Ａ」では教員免許状取得に必要な修得単位となりません。

※(3).『中学数学科と高校数学科免許状』の取得希望者は、「数学科指導法Ⅰ」「数学科指導法Ⅱ」両方の合計８単位を修得しなければなりません。

※(4).「教育メディアの研究」２単位は必修科目です。読み替え科目「言語教材開発論Ａ」「情報処理Ａ／Ｂ」では教員免許状取得に必要な修得単位となりません。

＊2020年度以降の開講科目名

★教科指導法は移行措置科目です。2019年度以降履修する場合は、p.251を参照し、英語科、数学科、情報科指導法についてはそれぞれ「英語科指導とICT活用」「数学科指導とICT活用」「情報科指導とICT活用」を併せて修得してください。

■教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目

教員免許状を取得するには「教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目」として「日本国憲法」（２単位）、「体育」（２単位）、「外国語コミュニケーション」（２単位）、「情報機器の操作」（２単位）の単位を修得しなければなりません。

本学の開講科目は以下のとおりです。

本学の授業科目	単位数	備　　考	免許法に規定する科目	単位数
日本国憲法ａ 日本国憲法ｂ	1 1		日本国憲法	2
動きの教育 余暇教育（レク活動とグループワーク） 余暇教育（スポーツと身体スキル） 余暇教育（フィットネスと健康）	1 0.5 0.5 0.5	各学科このうちから２単位	体　　育	2
Oral English Ⅰ	3	英語英文学科 国際関係学科 数学科 情報科学科	外国語コミュニケーション	2
情報処理Ⅰａまたはデータサイエンス入門 情報処理Ⅰｂ データリテラシー入門 社会とデータ活用	各１ 1 1 1	英語英文学科　国際関係学科 このうちから２単位	情報機器の操作※	2
情報処理 　またはデータサイエンス入門 データリテラシー入門 社会とデータ活用	2 1 1 1	数学科 このうちから２単位		
コンピュータリテラシーａ コンピュータリテラシーｂ 社会とデータ活用	1 1 1	情報科学科 このうちから２単位		

※2022年度より「数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作」

②学科・免許種別

■英語英文学科【英語】

「教科に関する科目」は、免許法に定められた４つの分野「英語学」「英米文学」「英語コミュニケーション」「異文化理解」に分類され、それぞれ１単位以上計20単位以上、「教科または教職に関する科目」と合わせ中学一種24単位以上、高校一種28単位以上修得しなければなりません。

＜英語　中学一種・高校一種＞

教職科目			開講科目名	本学の所要最低単位数	免許法の単位数
＜教職に関する科目＞			p.243参照	中一種 35単位 高一種 31単位	中一種 31単位 高一種 23単位
＜教科に関する科目＞	英語学	1単位以上	◎**音声学**　英語学概論　社会言語学　英語史　中・古英語　文法論　◎**Grammar Ⅱ**[*1] 第二言語習得概論(英語教育)[*4]　意味・語用論　音韻論 英語学特殊講義Ａまたは英語学特殊講義ａ 英語学特殊講義Ｂまたは英語学特殊講義ｂ　日英語の比較　形態論 対照言語学または対照言語学１　対照言語学２	教科に関する科目20単位以上を含み 中一種 24単位 高一種 28単位	20単位以上
	英米文学	1単位以上	Literary Reading Ⅰ　Literary Reading Ⅱ[*3]　Intensive Reading ⅡまたはAcademic Reading Ⅱ MI Reading Skills Ⅱ[*3]　イギリス文学史Ａ・ＢまたはイギリスＸ学史 アメリカ文学史　英詩概論　シェイクスピア概論　小説概論 イギリス文学概論(詩・演劇・小説)　聖書文学またはBible Studies イギリス詩またはイギリス詩特殊講義　イギリス文学特殊講義(詩) イギリス演劇・アメリカ演劇またはイギリス・アメリカ演劇特殊講義 イギリス文学特殊講義(演劇)　アメリカ演劇特殊講義 イギリス小説またはイギリス小説特殊講義・グローバル文学(英語)特殊講義 イギリス文学特殊講義(小説)　アメリカ詩またはアメリカ文学特殊講義 アメリカ小説またはアメリカ小説ａ・ｂ・ｃ　文学批評または文学批評Ａ・Ｂ イギリス文学・文化特殊講義ａ・ｂまたは文学特殊講義Ａ イギリス研究特殊講義ａ・ｂ　文学特殊講義Ｂ　文学特殊講義Ｄ　文学特殊講義Ｅ 翻訳入門　翻訳入門１・２または翻訳入門ａ・ｂ・ｃ　翻訳の理論と実践　翻訳の世界または翻訳の世界ａ・ｂ・ｃ		
	英語コミュニケーション	1単位以上	Literary Reading Ⅱ[*4]　Academic Writing Ⅱ　Oral English Ⅱ　Academic Listening Ⅱ Academic English Ⅲ・Presentation Skills ⅢまたはAcademic Writing & Presentation Ⅲ Journalistic English　Film Reviewing　Public Speaking　J-E Translation コミュニケーション特殊講義Ａ　コミュニケーション特殊講義Ｂ コミュニケーション概論　言語とコミュニケーション　オーラル・コミュニケーション Oral Communication　異文化コミュニケーション理論[*3] 演劇と教育または演劇と教育(3)・(4)　MI Reading Skills Ⅱ[*4]　MI Oral English Ⅱ MI Composition Ⅱ　MI Listening Ⅱ　MI Presentation and Discussion MI Academic Writing　MI Presentation and Academic Writing　通訳入門 通訳入門１・２または通訳入門ａ・ｂ・ｃまたは通訳概論ａ・ｂ・ｃ　通訳の理論と実践 通訳の世界または通訳の世界ａ・ｂ・ｃ　第二言語習得概論Ｂまたは第二言語習得概論(英語教育)[*3]初等英語教育研究		
	異文化理解	1単位以上	異文化コミュニケーション理論[*4]　△**イギリス文化概論**または**イギリス概論** △**アメリカ文化概論**　△**イギリス文化Ａ**　△**イギリス文化Ｃ**　△**イギリス文化Ｄ** △**現代イギリス社会**または△**Contemporary British Society and Culture ａ・ｂ** △**アメリカ文化Ａ**または**アメリカ文化ａ**　△**アメリカ文化Ｂ**または**アメリカ文化ｂ** △**アメリカ文化Ｃ**または**アメリカ文化ｃ**　アメリカ文化Ｅ　アメリカ文化Ｆ 文化特殊講義Ａ　文化特殊講義Ｂ　イギリス社会またはイギリス社会(1)・(3)・(4) イギリス史またはイギリス史(1)・(3)・(4) ヨーロッパ社会(イギリス)またはヨーロッパ社会(イギリス)(1)・(3)・(4) イギリス社会史ａ・ｂ　イギリス文化史ａ・ｂ		
＜教科又は教職に関する科目＞[*2]			教育学特講または教育学特講(1)・(3)・(4)　教育行財政　特殊講義Ａ　特殊講義Ｂ 認知科学と言語教育　教育メディアａ・ｂ 「教科に関する科目」の最低修得単位数を越えて修得した単位は「教科または教職に関する科目」の単位に算入することができます。		教科の20単位以上と合わせ中学28、高校36単位

◎印　必修科目

△印　選択科目（教科に関する科目の中に、各分野少なくとも１科目は含まなければなりません）

＊１　英語英文学科の多文化・国際協力コース所属学生は、「Grammar Ⅱ」または国際関係学科の「English Grammar」の単位を必ず修得してください。

＊２　＜教科又は教職に関する科目＞

中一種　４単位	中学免許においては免許法では８単位となっていますが、本学の「教職に関する科目」の必修科目が免許法が定める最低単位数より４単位多いためこの４単位は「教科または教職に関する科目」に含めることができます。このため、４単位で履修条件を満たすことができます。
高一種　８単位	高校免許においては免許法では16単位となっていますが、本学の「教職に関する科目」の必修科目が免許法が定める最低単位数より８単位多いためこの８単位は「教科または教職に関する科目」に含めることができます。このため、８単位で履修条件を満たすことができます。

＊３　2017年度以前履修者の分類領域　　＊４　2018年度以降履修者の分類領域

注意：科目名が変更されているものがありますので、過年度に修得した単位の科目は、その年度の履修要覧を参照してください。

■教科または教職に関する科目

教育職員免許法により「教科または教職に関する科目」として中学校免許は８単位以上、高校免許は16単位以上修得しなければなりません。開講科目は下表の通りですが、「教科に関する科目」のうち20単位（中学社会は28単位）を越えて修得した単位は、この分野に算入することができます。

教科または教職に関する科目		
英語英文学科	教育学特講	2
	教育学特講(1)	1
	教育学特講(3)	1
	教育学特講(4)	1
	教育行財政	2
	特殊講義Ａ	4
	特殊講義Ｂ	4
	認知科学と言語教育	3
	教育メディアａ	2
	教育メディアｂ	2

（2）教職課程履修カルテについて

■「教職実践演習」と「教職課程履修カルテ」

「教職実践演習」は、教職課程での学習を総括するために、４年次に必修科目として履修する科目です。これは、教員養成課程で修得すべき、教員としての必要な知識技能・資質能力が獲得できているかを確認し、補完することを目的としています。

「教職課程履修カルテ」は、「教職実践演習」の教材として使います。教員免許状取得希望者は、「教職実践演習」を履修するまでの間、このカルテに教職課程の履修状況等を随時記入するようにしてください。注意事項をよく読み、各自の責任のもとで、漏れ等のないよう記入してください。

■「教職課程履修カルテ」の活用方法

「教職課程履修カルテ」は、４年次の「教職実践演習」で主に活用されますが、２～４年次の間も、教職関係の授業やオリエンテーション等で提出や確認を求められることがあります。

■「教職課程履修カルテ」の保管

「教職課程履修カルテ」は、**２年次の教育実習内諾オリエンテーション**で配布され、本学在学中に教職課程を履修する上で使用されます。在学中は、各自の責任のもとで保管しなければなりません。本学卒業後に他大学等で、あるいは科目等履修生として本学で教職課程を履修する場合、「教職課程履修カルテ」の提出を求められることがあります。

そのため、教員免許状を取得するまで、各自が大切に保管してください。

（3）介護等体験について

中学校の教員免許状を取得するためには免許状申請時までに、７日間以上、特別支援学校及び社会福祉施設で、介護等の体験を行い、実施機関の長から証明書を受け取らなければなりません。

介護等体験については、次の３つのオリエンテーション・ガイダンスがあり全て出席しなければなりません。

①「介護等体験登録オリエンテーション」（１年次に履修する「教職概論」の授業の中で行います。）

②「介護等体験事前ガイダンス」（１年次に履修する「教職概論」の授業の中で行います。）
　特別支援学校・社会福祉施設での実習についての事前学習と学生報告を行います。

③「介護等体験直前オリエンテーション」（２年次）（４月）
　介護等体験に参加するために必要な書類を配布し、注意事項などについて説明します。

なお、介護等体験終了後に発行される証明書は、コピーを教務課へ提出し、原本は３年次の教育実習登録期間に提出します。実習終了後、原本を各自保管する必要がありますので証明書を紛失しないよう注意してください。

（4）教育実習

中学および高校の教員免許状取得を希望する場合は15日以上の教育実習で５単位、高校の教員免許状のみの取得を希望する場合は10日以上で３単位、の実習を行わなければなりません。

教育実習は全国の高等学校及び中学校の協力を得て行われます。教育実習生であっても、実習校の生徒に対する教育的・社会的責任は極めて大きいことをよくわきまえて、教育実習に臨まなければなりません。

■教育実習の履修条件

次の①～⑤の条件をすべて満たしていなければ教育実習に行くことはできません。

① 実習履修年度に４年生、大学院生、又は科目等履修生（本学の卒業生に限る）で、教員免許状取得見込みであること。

② 原則として、３年次までに次の科目を修得済みであること。

教育基礎論	**２単位**	**教科指導法**	**４単位※(1)または６単位※(2)・８単位※(3)**
教育組織論	**２単位**	**音声学**	**３単位または４単位※(4)**
教育心理学	**２単位**	**教育実習指導**	

※(1) 情報科免許取得希望者は４単位

※(2) 中学社会科とあわせて地理歴史科または公民科免許取得希望者は６単位

※(3) 英語科・数学科免許取得希望者は８単位

※(4) 英語科免許取得希望者のみ。2016年度以前修得者は４単位

３年次で上記科目が不合格になった場合は、原則、年度内に再履修しなければなりません。年度内に開講のない科目は、４年次で再履修することによって実習は認められますが、**３年次で放棄・失格した場合は、実習をすることはできません。**

英語科免許取得希望者……Extensive Reading Ⅰ、Intensive Reading Ⅰ（2016年度入学者まで）またはIntensive Reading Ⅰa･b、Oral English Ⅰ、Composition Ⅰ、Pronunciation Ⅰを２年次までに単位修得済でなければなりません。

社会、地理歴史、公民科免許取得希望者……１年セミナーと基本科目を２年次までに単位修得済でなければなりません。

数学科及び情報科免許取得希望者は、１、２年次までの必修科目をすべて３年次までに単位修得済みでなければなりません。

③ 教育実習履修年度始めに実施する健康診断（胸部Ｘ線を含む）を受け、実習可能と判断されていること。

④ 実習校の正常な教育活動を妨げるおそれがなく、定められた期間内に登録手続きを完了し教育実習費を納入していること。

⑤ **事前指導のすべて（オリエンテーションを含む）**に参加していること。

■教育実習登録

教育実習登録に向けて２年次からオリエンテーションを開始します。前項の履修条件と、次頁の実習までのスケジュール及び説明をよく読み実習資格を失わないよう注意することが必要です。

正式登録は３年次ですが、具体的な登録のしかたや日程等については、２年次及び３年次の教育実習オリエンテーションで説明します。特に３・４年次は伝達事項が多いので Webサイト「教職課程からのお知らせ」やTsudaNetをよく確認してください。

教職課程からのお知らせ

「Tsuda University information」⇒「教務課」⇒「教職課程」

■教育実習の取消について

教育実習登録後、教育実習を放棄し登録を取り消すことは認められません。病気、休学などやむを得ない理由がある場合には、直ちに教務課に連絡し指示を受けてください。

■教育実習及び介護等体験までのスケジュール

		〔教育実習〕	〔介護等体験〕
1年	9月下旬 〜 10月		① 介護等体験登録オリエンテーション（教職課程オリエンテーション）（「教職概論」）・介護等体験登録 ② 介護等体験事前ガイダンス（「教職概論」）
2年	4月 1月 （春休み以降）	④ 教育実習内諾オリエンテーション ⑤ 実習校へ内諾依頼	③ 介護等体験直前オリエンテーション 介護等体験実施　体験報告書提出 介護等体験証明書（コピー）提出
3年	6月〜9月初中旬 9月〜11月	⑥ 教育実習登録オリエンテーション・教育実習登録 ⑦ 教育実習事前指導	介護等体験証明書（原本）提出
4年	4月 5月〜7月（9月〜11月の場合あり） 原則として実習終了後2週間以内	⑧ 教育実習直前オリエンテーション ⑨ 実習校との打ち合わせ ⑩ 教育実習 ⑪ 教育実習事後指導・教育実習記録等の提出	

① 1年次第3タームに教職課程の履修及び介護等体験について「教職概論」の授業内でオリエンテーションを行いますので、履修を計画的に進めることが必要です。このオリエンテーションで介護等体験登録手続きについて説明します。介護等体験の登録にあたっては、体験費用の納付（11,000円の予定）が必要です。

② 介護等体験事前ガイダンス（3回）も「教職概論」の授業内で行います。2年次に介護等体験を希望する場合は、必ず1年次で「教職概論」を履修して単位を修得してください。

③ 2年次に介護等体験を希望する場合は、必ず「介護等体験直前オリエンテーション」に出席してください。

④ 2年次の教育実習内諾オリエンテーションで、教育実習までの諸手続きなどについて詳しい説明を行い、**「教育実習受入内諾書」**等の必要書式を配布します。

⑤ 実習校へ出向き、4年次の教育実習受け入れの依頼をして、**「教育実習受入内諾書」**に許可をもらいます。実習校所定の内諾書用紙がある場合は実習校の指示に従います。実習生の多い学校では、実習内諾依頼の早い順から受け入れを許可する実習校もあるので、2年次の春休みに受け入れの依頼をしておきます。

⑥ 教育実習登録に先立ちオリエンテーションを開催し、登録手続きについて説明します。教育実習の登録にあたっては同時に教育実習費の納付（11,000円の予定）が必要です。

教育実習登録には次の2種類のタイプがあります。

1．出身中学・高等学校、または知人の紹介による学校などで実習する場合

自分で教育実習の受け入れの内諾をもらいますが、実習登録後の正式依頼などは大学が行います。

2．都内の公立中学・高等学校で実習する場合

大学から東京都教育委員会を通して正式依頼します。実習時期、実習校の指定ができない場合もあります。

⑦ **「教育実習事前指導」、「事後指導」を合わせて教育実習AまたはBの単位となります。**

⑧ 4年次の教育実習直前オリエンテーションで、**「教育実習記録」**等の配布と、教育実習に臨んでの心構え・注意事項について説明を行います。

⑨　実習校との打ち合わせの日時場所は、実習校からの指示に従ってください。**実習関係書類（依頼状・教育実習成績報告書・出勤簿・返信用封筒）**は、大学から実習校に直接送付します。

都内校（公立・国私立とも）で実習する場合は、実習校との打ち合わせの前に**実習見回り担当教員の面接**を受けなければなりません。見回り担当教員は、５月初旬にTsudaNet等で知らせます。各自、担当教員に連絡して実習校最寄り駅から実習校までの略図を持参してください。

⑩　教育実習は、多くの学校が６月中の３～４週間で行いますが、実習校の都合によりそれ以外の期間に実施される場合があります。また、詳細な日程は実習校からの指定に従います。

⑪　実習校より「教育実習記録」を返却されてから２週間以内に**「教育実習記録」、「教育実習申し送り表」、「指導案」**を教務課に提出してください。これらの内容と教育実習成績報告書をもとに、教育実習の成績が評価されます。

（５）教員免許状の授与申請

●一括申請

免許状は、免許法に定める単位を修得し卒業要件を満たした者が、授与権者である東京都教育委員会に申請することによって授与されます。**一括申請**は学生に代わって大学がこの申請手続きを行います。一括申請を希望する場合は、**一括申請説明会**に出席し以下の手続きをしなければなりません。説明会は４年次の10月に実施予定です。

１．一括申請説明会に参加し、教育職員免許状授与申請書（一括申請）宣誓書の内容確認の上、所定事項の記入および署名をします。（代理による署名不可。）

２．免許申請手数料を定められた期間内に納入しなければなりません。申請手数料は１件につき3,400円です。

例：学　部（中学一種・高校一種）の２件……6,800円
　　大学院（中学専修・高校専修）の２件……6,800円

注）①東京都の申請手数料改訂の場合は、それに伴って変更されます。
②説明会に出席しない者、期日までに費用を納入しない者、または書類不備、卒業延期等の事由で受理されない者は、一括申請の取り扱いはできません。
③納入した費用は原則として返金できません。

介護等体験を行った際に発行される証明書の原本が一括申請時に必要になりますので、教育実習登録期間まで各自保管してください。

●個人申請

個人申請は、本人の居住する（住民票のある）都道府県教育委員会へ自分で申請手続きを行います。教育委員会によって申請方法、申請書類の様式が異なるので事前に各都道府県教育委員会へ問い合わせてください。

東京都の場合は、東京都教育庁人事部選考課免許係（tel 03-5320-6788）が窓口になっています。ただし、例年２月から４月中旬まで、業務繁忙のため受付が制限され、免許状交付は６月以降となります。

授与された免許状は大切に保管してください。紛失した場合は、再交付されません。代わりに授与証明書が教育委員会から発行されます。
ただし、自然災害・火災等の場合は罹災証明書を提出することで再発行されます。

（6）授業科目名・単位（2018年度以前入学者用）

授業科目	程度	開講ターム	単位	週時	担当者	備考
教職概論	Ⅰ	1,3	2	2	牧野　英一	
		3,4	2	2	牧野　英一	
教育基礎論	Ⅰ～Ⅲ	2	2	－	2026年度休講	原則、３年次までに修得すること。
教育組織論	Ⅰ～Ⅲ	2	2	－	2026年度休講	原則、３年次までに修得すること。
教育心理学	Ⅰ～Ⅲ	3,4	2	2	高垣マユミ	原則、３年次までに修得すること。
教育課程論	Ⅱ～Ⅲ	1	2	4	渡邊　あや	
		3,4	2	2	渡邊　あや	
英語科指導法Ⅰ 英語科指導法Ⅱ			4			移行措置科目
			4			
英語科指導法Ⅰ	Ⅲ	1,3,4	3	2	星野　徳子・小西　正恵 船林　麻里・高橋奈緒子 豊嶋　朗子	原則、３年次までに修得すること。
英語科指導法Ⅱ	Ⅲ	1,3,4	3	2	舩田まなみ・関根　泰子 五十嵐佐知子・植野　伸子 落合　美雪	
英語科指導とICT活用	Ⅲ	3,4	2	2	小西　正恵・久島智津子	英語科指導法Ⅰ・Ⅱを修得済であるか履修中であることが必要。
道徳教育の研究 （道徳教育の理論と方法*）	Ⅱ～Ⅲ	1	2	4	小澤理恵子	
		3,4	2	2	伊東　　毅	
		3,4	2	2	小澤理恵子	
特別活動の研究	Ⅱ～Ⅲ	2	2	4	2026年度休講	
教育メディアの研究 （教育方法論*）	Ⅱ～Ⅲ	2	2	4	高垣マユミ	
生徒指導の研究（進路指導を含む）			2			
生徒指導の理論と方法	Ⅱ～Ⅲ	1	1	2	前田　基成	
		3	1	2	前田　基成	
進路指導の理論と方法	Ⅱ～Ⅲ	1	1	2	前田　基成	
		4	1	2	前田　基成	
教育相談の研究 （カウンセリングを含む） （教育相談の理論と方法*）	Ⅱ～Ⅲ	1	2	4	高垣マユミ	
		1	2	4	前田　基成	
		3,4	2	2	前田　基成	
教育実習指導	Ⅲ	3	0	2	高垣マユミ・渡邊　あや	原則、３年次までに修得すること。
教育実習Ａ	Ⅳ		5		高垣マユミ・渡邊　あや 牧野　英一・星野　徳子 植村あい子	中学・高校両方の免許取得希望者 （実習期間15日以上）
教育実習Ｂ	Ⅳ		3		高垣マユミ・渡邊　あや 牧野　英一・星野　徳子 植村あい子	高校免許のみ取得希望者（実習期間10日以上）
教職実践演習（中・高）	Ⅳ	3,4	2	2	牧野　英一	
		3	2	4	牧野　英一	
		4	2	4	牧野　英一	
		3	2	4	髙岡　麻美	
		4	2	4	髙岡　麻美	

＊2020年度からの開講科目名

9．教職課程（2018年度以前入学者用）

授　業　科　目	程度	開講ターム	単位	週時	担　当　者	備　考
教育学特講(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	吉谷　武志	2025年度までの「異文化理解教育論(1)」
教育学特講(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	吉谷　武志	2025年度までの「異文化理解教育論(3)」
教育学特講(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	吉谷　武志	2025年度までの「異文化理解教育論(4)」

※特別支援教育論、教育学概論、総合的な学習の時間の指導法、特別活動の指導法の４科目は、2019年度以降入学者（2019年度以降編入生を含む）の科目のため2018年度以前入学者は履修不可。

9-2．教職課程（2019年度以降入学者用）

教育職員免許状（以下「教員免許状」という）取得希望者は教職課程で定められた科目を履修しなければなりません。

教職課程を履修する学生は、自分の専門とする分野について深く学ぶと共に、教育方法やその他教職にかかわる授業科目を修得することになります。また、教職課程履修者のための説明会・オリエンテーション等に必ず出席し、所定の手続きを期間内に行うことが必要です。

教職課程からのお知らせ　　よくある質問　　教務課問い合わせフォーム

■教員免許状の種類と教科

教職課程を履修し、規定の単位を修得した場合は、１教科・２種類の免許状まで授与されます。原則として、同時に２教科の免許状の取得はできません。免許状の取得は、高等学校免許状と中学校免許状を同時に取得することが望ましいですが、高等学校免許状のみも取得できます。中学校免許状のみの取得はできません。

免許状種類 ／ 学　科	中学校教諭 一種免許状	高等学校教諭 一種免許状
英語英文学科	外国語（英語）	外国語（英語）
国際関係学科	外国語（英語）	外国語（英語）
	社　　会	地理歴史
		公　　民
数　学　科 情報科学科	数　　学	数　　学
	―	情　　報

●「情報」の免許は高等学校免許状のみの取得となります。

●中学「社会」・高校「地歴」「公民」は同時取得が可能。また、これらの免許状は同時に取得することが望ましい。

■本学における教員免許状取得要件（最低修得単位数）

教員免許状の種類		英語		数学		情報	社会	地理歴史	公民
		中一種	高一種	中一種	高一種	高一種	中一種	高一種	高一種
教育の基礎的理解に関する科目等		27	23	27	23	23	27	23	23
教科及び教科の指導法に関する科目		32	36	32	36	36	32	36	36
大学が独自に設定する科目									
免許法施行規則第66条の６に定める科目	日本国憲法	2							
	体育（実技）	2							
	外国語コミュニケーション	3							
	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2							
最低修得単位数の合計		68							

●「教科及び教科の指導法に関する科目」は中学28単位以上、高校24単位以上修得しなければなりません。

■教育職員免許法に定められた最低修得単位数

教員免許状の種類		中一種	高一種
教科及び教科の指導法に関する科目		28	24
教育の基礎的理解に関する科目		10	10
道徳、総合的な学習の時間の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		10	8
教育実践に関する科目		7	5
大学が独自に設定する科目※		4	12
免許法施行規則第66条の６に定める科目	日本国憲法	2	2
	体育（実技）	2	2
	外国語コミュニケーション	2	2
	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	2
最低修得単位数の合計		67	67

※「大学が独自に設定する科目」の単位数には、「教科及び教科の指導法に関する科目」で定められた上記最低修得単位数を超えて修得した単位数を含めることができます。

（1）履修方法

取得を希望する免許状に応じて**「教育の基礎的理解に関する科目等（『教育の基礎的理解に関する科目』『道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目』『教育実践に関する科目』）」「教科及び教科の指導法に関する科目」「大学が独自に設定する科目」「教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目」**の単位を修得しなければなりません。教職課程全体のオリエンテーションとして１年次に「教職概論」を履修してください。

①全教科・全免許種共通（2019～2021年度入学者）

■教育の基礎的理解に関する科目等（教職に関する科目）

本学の授業科目	中学免許単位数	高校免許単位数	程度	履修推奨年次	備考		各科目に含めることが必要な事項	中学免許単位数	高校免許単位数
教職概論	2	2	Ⅰ	1	必修	教育の基礎的理解に関する科目	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	10	10
特別支援教育論	1	1	Ⅰ～Ⅲ	1	必修		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
○教育学概論	3	3	Ⅰ～Ⅲ	1	必修		教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
							教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
○教育心理学	2	2	Ⅰ～Ⅲ	1	必修		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
○教育課程論	2	2	Ⅱ～Ⅲ	2	必修		教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
○教育方法論	2	2	Ⅱ～Ⅲ	2	必修	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	10	8
道徳教育の理論と方法	2	—	Ⅱ～Ⅲ	3	中免のみ必修		道徳の理論及び指導法		
総合的な学習の時間の指導法	1	1	Ⅱ～Ⅲ	3	必修		総合的な学習の時間の指導法※		
特別活動の指導法	1	1	Ⅱ～Ⅲ	3	必修		特別活動の指導法		
生徒指導の理論と方法	1	1	Ⅱ～Ⅲ	2	必修		生徒指導の理論及び方法		
教育相談の理論と方法	2	2	Ⅱ～Ⅲ	3	必修		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
進路指導の理論と方法	1	1	Ⅱ～Ⅲ	2	必修		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
教育実習（教育実習指導を含む）	5	3	Ⅲ～Ⅳ	3～4	必修	教育実践に関する科目	教育実習	5	3
教職実践演習（中・高）	2	2	Ⅳ	4	必修		教職実践演習	2	2
最低修得単位数計	27	23	—	—	—	計		27	23

○印……教育実習までに履修済みであること。
※……高免は総合的な探究の時間の指導法。

①全教科・全免許種共通（2022年度以降入学者）

■教育の基礎的理解に関する科目等（教職に関する科目）

本学の授業科目	中学免許単位数	高校免許単位数	程度	履修推奨年次	備考		各科目に含めることが必要な事項	中学免許単位数	高校免許単位数
教職概論	2	2	Ⅰ	1	必修	教育の基礎的理解に関する科目	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	10	10
特別支援教育論	1	1	Ⅰ～Ⅲ	1	必修		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
○教育学概論	3	3	Ⅰ～Ⅲ	1	必修		教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
							教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
○教育心理学	2	2	Ⅰ～Ⅲ	1	必修		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
○教育課程論	2	2	Ⅱ～Ⅲ	2	必修		教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
○教育方法の理論と実践	1	1	Ⅱ～Ⅲ	2	必修	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法及び技術	10	8
○ICT活用の理論と方法	1	1	Ⅱ～Ⅲ	2	必修		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
道徳教育の理論と方法	2	—	Ⅱ～Ⅲ	3	中免のみ必修		道徳の理論及び指導法		
総合的な学習の時間の指導法	1	1	Ⅱ～Ⅲ	3	必修		総合的な学習の時間の指導法※		
特別活動の指導法	1	1	Ⅱ～Ⅲ	3	必修		特別活動の指導法		
生徒指導の理論と方法	1	1	Ⅱ～Ⅲ	2	必修		生徒指導の理論及び方法		
教育相談の理論と方法	2	2	Ⅱ～Ⅲ	3	必修		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
進路指導の理論と方法	1	1	Ⅱ～Ⅲ	2	必修		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
教育実習（教育実習指導を含む）	5	3	Ⅲ～Ⅳ	3～4	必修	教育実践に関する科目	教育実習	5	3
教職実践演習（中・高）	2	2	Ⅳ	4	必修		教職実践演習	2	2
最低修得単位数計	27	23	—	—	—	計		27	23

○印……教育実習までに履修済みであること。
※……高免は総合的な探究の時間の指導法。

■教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目

＜2019～2024年度入学者＞

本学の授業科目	単位数	備　　考	免許法に規定する科目	単位数
日本国憲法ａ 日本国憲法ｂ	1 1		日本国憲法	2
動きの教育 余暇教育（レク活動とグループワーク） 余暇教育（スポーツと身体スキル） 余暇教育（フィットネスと健康）	1 0.5 0.5 0.5	各学科このうちから２単位	体　　育	2
Oral English Ⅰ	3	英語英文学科 国際関係学科 数学科 情報科学科	外国語コミュニケーション	2
情報処理Ⅰａまたはデータサイエンス入門 情報処理Ⅰｂ データリテラシー入門 社会とデータ活用	各１ 1 1 1	英語英文学科　国際関係学科 このうちから２単位	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作※	2
情報処理 　またはデータサイエンス入門 データリテラシー入門 社会とデータ活用	2 1 1 1	数学科 このうちから２単位		
コンピュータリテラシーａ コンピュータリテラシーｂ 社会とデータ活用	1 1 1	情報科学科 このうちから２単位		

※「情報機器の操作」に分類する。

＜2025年度以降入学者＞

本学の授業科目	単位数	備　　考	免許法に規定する科目	単位数
日本国憲法ａ 日本国憲法ｂ	1 1		日本国憲法	2
動きの教育 余暇教育（レク活動とグループワーク） 余暇教育（スポーツと身体スキル） 余暇教育（フィットネスと健康）	1 0.5 0.5 0.5	各学科このうちから２単位	体　　育	2
Oral English Ⅰ	3	英語英文学科 国際関係学科 数学科 情報科学科	外国語コミュニケーション	2
データサイエンス入門 データリテラシー入門 社会とデータ活用	1 1 1	各学科このうちから２単位	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作※	2

※「数理、データ活用及び人工知能に関する科目」として分類する。

②学科・免許種別

■英語英文学科【英語】

「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち「教科に関する専門的事項」は、免許法に定められた４つの分野「英語学」「英語文学」「英語コミュニケーション」「異文化理解」に分類され、それぞれ１単位以上、「各教科の指導法」「大学が独自に設定する科目」と合わせ中学一種32単位以上、高校一種36単位以上修得しなければなりません。

＜英語　中学一種・高校一種＞

施行規則に定める科目区分等			開講科目名	本学の所要単位数	免許法の単位数
教育の基礎的理解に関する科目			教職概論、特別支援教育論、教育学概論、教育心理学、教育課程論	中一種 27単位 高一種 23単位	中一種 27単位 高一種 23単位
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目			教育方法の理論と実践※1、ICT活用の理論と方法※1 道徳教育の理論と方法（中免のみ）、総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法、生徒指導の理論と方法 教育相談の理論と方法、進路指導の理論と方法		
教育実践に関する科目			教育実習（教育実習指導を含む）、教職実践演習（中・高）		
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	英語学（１単位以上）	◎音声学　英語学概論　社会言語学　英語史　◎Grammar Ⅱ ◎第二言語習得概論（英語教育）　意味・語用論　日英語の比較　形態論	「教科及び教科の指導法に関する科目」中学28単位高校24単位以上を含み 中一種 32単位 高一種 36単位	中　学 28単位 高　校 24単位
		英語文学（１単位以上）	△イギリス文学史　△アメリカ文学史 イギリス文学概論（詩・演劇・小説） アメリカ小説ａ・ｂ・ｃ　翻訳の理論と実践		
		英語コミュニケーション（１単位以上）	◎Academic Writing Ⅱ　◎Oral English Ⅱ　◎Academic Listening Ⅱ ◎Literary Reading Ⅱ　◎Academic Writing & Presentation Ⅲ コミュニケーション概論　言語とコミュニケーション　演劇と教育 Oral Communication		
		異文化理解（１単位以上）	◎異文化コミュニケーション理論 △イギリス文化概論　△アメリカ文化概論　アメリカ文化ａ・ｂ・ｃ イギリス社会史ａ・ｂ　イギリス文化史ａ・ｂ		
	各教科の指導法※2（情報通信技術の活用を含む。）		◎英語科指導法Ⅰ※3 ◎英語科指導法Ⅱ ◎英語科指導とICT活用		
大学が独自に設定する科目			教育学特講(1)・(3)・(4)　教育メディアａ・ｂ　初等英語教育研究		中　学 4単位 高　校 12単位

◎印　必修科目
△印　選択必修科目（各分野少なくとも１科目は含まなければなりません）
※１　2021年度入学者までは「教育方法論」
※２　2021年度入学者までは「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」
※３　読み替え科目「言語教育方法論Ａ」では教員免許状取得に必要な修得単位となりません。
下線：一般的包括的内容を含む科目（各科目区分の学問領域をおおまかに網羅する科目）

■国際関係学科【英語】

「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち「教科に関する専門的事項」は、免許法に定められた４つの分野「英語学」「英語文学」「英語コミュニケーション」「異文化理解」に分類され、それぞれ１単位以上、「各教科の指導法」「大学が独自に設定する科目」と合わせ中学一種32単位以上、高校一種36単位以上修得しなければなりません。

＜英語　中学一種・高校一種＞

施行規則に定める科目区分等			開講科目名	本学の所要単位数	免許法の単位数
教育の基礎的理解に関する科目			教職概論、特別支援教育論、教育学概論、教育心理学、教育課程論	中一種 27単位 高一種 23単位	中一種 27単位 高一種 23単位
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目			教育方法の理論と実践※1、ICT活用の理論と方法※1 道徳教育の理論と方法（中免のみ）、総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法、生徒指導の理論と方法 教育相談の理論と方法、進路指導の理論と方法		
教育実践に関する科目			教育実習（教育実習指導を含む）、教職実践演習（中・高）		
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	英語学（１単位以上）	言語思想論(1)・(3)・(4)　英語学概論　英語史 ◎第二言語習得概論（英語教育）　◎音声学　◎Grammar Ⅱ※2	「教科及び教科の指導法に関する科目」中学28単位高校24単位以上を含み 中一種 32単位 高一種 36単位	中　学 28単位 高　校 24単位
		英語文学（１単位以上）	△イギリス文学史　△アメリカ文学史 イギリス文学概論（詩・演劇・小説）		
		英語コミュニケーション（１単位以上）	◎Reading Skills Ⅱ　◎Oral English Ⅱ　◎Composition Ⅱ　◎Listening Ⅱ English Ⅲ (Practice)　Oral English Ⅲ (1)・(3)　Composition Ⅲ (1)・(3)		
		異文化理解（１単位以上）	△イギリス文化概論　△アメリカ文化概論 アメリカ文化ａ・ｂ・ｃ　ヨーロッパ文化（イギリス）(1)・(4) ヨーロッパ社会（イギリス）(1)・(3)・(4)　イギリス史(1)・(3)・(4) ◎Intercultural Understanding（Japan and the World） オーストラリア研究(1)・(3)・(4)　アメリカ社会(1)・(3)・(4) ヨーロッパ社会（イギリス史）(1)・(3)		
	各教科の指導法※3（情報通信技術の活用を含む。）		◎英語科指導法Ⅰ※4 ◎英語科指導法Ⅱ ◎英語科指導とICT活用		
大学が独自に設定する科目			教育学特講(1)・(3)・(4)　教育メディアａ・ｂ　初等英語教育研究		中　学 ４単位 高　校 12単位

◎印　必修科目
△印　選択必修科目（各分野少なくとも１科目は含まなければなりません）
※１　2021年度入学者までは「教育方法論」
※２　「Grammer Ⅱ（国・多）」を履修すること。
※３　2021年度入学者までは「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」
※４　読み替え科目「言語教育方法論Ａ」では教員免許状取得に必要な修得単位となりません。
下線：一般的包括的内容を含む科目（各科目区分の学問領域をおおまかに網羅する科目）

■国際関係学科【中学／社会、高校／地理歴史、高校／公民】

中学社会科免許状のみ単独で取得することはできません。高校地理歴史科免許状、高校公民科免許状のいずれかを選択して同時に取得してください。高校については、地理歴史科と公民科双方の免許状を同時に取得することも可能です。自治体によっては教員採用選考試験において、双方を取得していることを条件としている場合もあります。「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち「教科に関する専門的事項」は、免許法に定められた分野に分類され、それぞれ1単位以上、「各教科の指導法」「大学が独自に設定する科目」と合わせて中学一種32単位以上、高校一種36単位以上修得しなければなりません。

＜社会　中学一種＞

施行規則に定める科目区分等	開講科目名（2019～2024年度入学者）	開講科目名（2025年度以降入学者）	本学の所要単位数	免許法の単位数
教育の基礎的理解に関する科目等	2019～2021年度入学者はp.255参照、2022年度以降入学者はp.256参照		中一種 27単位	中一種 27単位
教科及び教科の指導法に関する科目 教科に関する専門的事項 日本史・外国史（1単位以上）	◎日本史概論(1)・(3)・(4) 日本研究(日本と台湾の近現代関係史) 日本研究(日本と朝鮮半島の近現代関係史) 日本研究(少数者の日本近現代史) ◎世界史研究(1)・(3)・(4) 東欧研究(1)・(3)・(4) 東アジア研究(韓国現代史) 東アジア研究(北朝鮮特論) 東アジア研究(朝鮮半島の国際政治) 東アジア研究(中国現代史) 東アジア研究(中国・香港・台湾特論) 東アジア研究(中国の国際政治) イスラーム概論 イスラーム地域研究入門 イスラーム地域研究特論 ヨーロッパ文化(フランス)(1)・(3)・(4) ヨーロッパ文化(ドイツ)(1)・(3)・(4) ヨーロッパ文化(スペイン)(1)・(3)・(4)	◎日本史概論(1)・(3)・(4) 日本研究(日本と台湾の近現代関係史) 日本研究(日本と朝鮮半島の近現代関係史) 日本研究(少数者の日本近現代史) 日本研究（沖縄研究）(1)・(3)・(4) ◎世界史研究(1)・(3)・(4)、東欧研究(1)・(3)・(4) 東アジア研究(韓国現代史)、東アジア研究(北朝鮮特論) 東アジア研究(朝鮮半島の国際政治) 東アジア研究(中国現代史) 東アジア研究(中国・香港・台湾特論) 東アジア研究(中国の国際政治)、イスラーム概論 イスラーム地域研究入門、イスラーム地域研究特論 ヨーロッパ文化(フランス)(1)・(3)・(4) ヨーロッパ文化(ドイツ)(1)・(3)・(4) ヨーロッパ文化(スペイン)(1)・(3)・(4) アジア交流史(1)・(3)・(4)、国際関係史(1)・(3)・(4) 東南アジア研究(現代東南アジア特論)(1)・(3)・(4) 東南アジア研究(島嶼部)(1)・(3)・(4) 東南アジア研究(大陸部)(1)・(3)・(4) ユーラシア研究(1)・(3)・(4)、アフリカ研究 西アジア研究(1)・(3)・(4)、南アジア研究(1)・(3)・(4) ラテンアメリカ研究	「教科及び教科の指導法に関する科目」中学28単位以上を含み 中一種 32単位	中　学 28単位
地理学（地誌を含む。）（1単位以上）	◎人文地理学(1)・(3)・(4) ◎自然地理学(1)・(3)・(4) ◎地誌(1)・(3)・(4)	◎人文地理学(1)・(3)・(4) ◎自然地理学(1)・(3)・(4) ◎地誌(1)・(3)・(4)		
「法律学、政治学」（1単位以上）	◎法学研究 △国際法(1)・(3)・(4)※または △政治学研究(1)・(3)・(4)※に加え、 △国際機構論(1)・(3)・(4)※または △比較政治論(1)・(3)・(4)※で 合計6単位以上 国際関係概論(1)・(3)	◎法学研究 △国際法(1)・(3)・(4)※または △政治学研究(1)・(3)・(4)※に加え、 △国際機構論(1)・(3)・(4)※または △比較政治論(1)・(3)・(4)※で 合計6単位以上 国際関係概論(1)・(3)、EU研究(1)・(4) 憲法(1)・(3)・(4)、政治思想史(1)・(3)・(4) 国際政治論(1)・(3)・(4)、現代日本政治経済論(1)・(3)・(4) ヨーロッパ政治(1)・(4)		
「社会学、経済学」（1単位以上）	△社会学研究(1)・(3)・(4)※または △経済学研究(1)・(3)・(4)※に加え、 △国際経済論(1)・(3)・(4)※・ △開発経済学(1)・(3)・(4)※・ △情報社会論(1)・(3)の中から 3単位で合計6単位以上**	△社会学研究(1)・(3)・(4)※または △経済学研究(1)・(3)・(4)※に加え、 △国際経済論(1)・(3)・(4)※・△開発経済学(1)・(3)・(4)※・ △情報社会論(1)・(3)の中から3単位で合計6単位以上** 家族社会学、国際金融論(1)・(3)・(4)、国際貿易論(1)・(3)・(4) ソーシャル・インクルージョン論、福祉社会学 国際経営論(1)・(3)・(4)、グローバリゼーション論(1)・(3)・(4) アメリカ経済(アメリカ経済史)(1) アメリカ経済(現代アメリカ経済論)(3) アメリカ経済(現代アメリカ経済論)(4) ヨーロッパ経済(イギリス)(1)・(3)・(4) 日本・アジアの文化研究(1)・(3)・(4)		
「哲学、倫理学、宗教学」（1単位以上）	△哲学研究(1)・(3)・(4)※・ △宗教学研究(1)・(3)・(4)※・ △社会思想史(1)・(3)・(4)※から 6単位以上	△哲学研究(1)・(3)・(4)※・△宗教学研究(1)・(3)・(4)※・ △社会思想史(1)・(3)・(4)※から 6単位以上		
各教科の指導法※※（情報通信技術の活用を含む。）	◎社会科・地理歴史科指導法Ⅰ・Ⅱ ◎社会科・公民科指導法Ⅰ・Ⅱ	◎社会科・地理歴史科指導法Ⅰ・Ⅱ ◎社会科・公民科指導法Ⅰ・Ⅱ		
大学が独自に設定する科目	教育学特講(1)・(3)・(4) 教育メディアa・b	教育学特講(1)・(3)・(4)、教育メディアa・b 比較教育論(1)・(3)・(4)		中　学 4単位

◎印　必修科目
△印　選択必修科目
＊＊　「経済学研究(1)・(3)・(4)」を選択した場合は、原則として「国際経済論(1)・(3)・(4)」を選択して6単位とすること。
※印　原則として(1)・(3)・(4)全てを修得すること。
※※　2021年度入学者までは「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」
下線：一般的包括的内容を含む科目（各科目区分の学問領域をおおまかに網羅する科目）

＜地理歴史　高校一種＞

施行規則に定める科目区分等	開講科目名（2019～2024年度入学者）	開講科目名（2025年度以降入学者）	本学の所要単位数	免許法の単位数
教育の基礎的理解に関する科目	教職概論、特別支援教育論、教育学概論、教育心理学、教育課程論	教職概論、特別支援教育論、教育学概論、教育心理学、教育課程論	高一種 23単位	高一種 23単位
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育方法の理論と実践※1 ICT活用の理論と方法※1 道徳教育の理論と方法（中免のみ） 総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法 生徒指導の理論と方法 教育相談の理論と方法 進路指導の理論と方法	教育方法の理論と実践 ICT活用の理論と方法 道徳教育の理論と方法（中免のみ） 総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法 生徒指導の理論と方法 教育相談の理論と方法 進路指導の理論と方法		
教育実践に関する科目	教育実習（教育実習指導を含む） 教職実践演習（中・高）	教育実習（教育実習指導を含む） 教職実践演習（中・高）		
教科及び教科の指導法に関する科目　教科に関する専門的事項　日本史（1単位以上）	◎日本史概論(1)・(3)・(4) △日本研究（日本と台湾の近現代関係史） △日本研究（日本と朝鮮半島の近現代関係史） △日本研究（少数者の日本近現代史）	◎日本史概論(1)・(3)・(4) △日本研究（日本と台湾の近現代関係史） △日本研究（日本と朝鮮半島の近現代関係史） △日本研究（少数者の日本近現代史） △日本研究（沖縄研究）(1)・(3)・(4)	「教科及び教科の指導法に関する科目」高校24単位以上を含み 高一種 36単位	高　校 24単位
教科及び教科の指導法に関する科目　教科に関する専門的事項　外国史（1単位以上）	◎世界史研究(1)・(3)・(4) △東欧研究(1)・(3)・(4) △東アジア研究（韓国現代史） △東アジア研究（北朝鮮特論） △東アジア研究（朝鮮半島の国際政治） △東アジア研究（中国現代史） △東アジア研究（中国・香港・台湾特論） △東アジア研究（中国の国際政治） △イスラーム概論 △イスラーム地域研究入門 △イスラーム地域研究特論 △ヨーロッパ文化（フランス）(1)・(3)・(4) △ヨーロッパ文化（ドイツ）(1)・(3)・(4) △ヨーロッパ文化（スペイン）(1)・(3)・(4)	◎世界史研究(1)・(3)・(4) △東欧研究(1)・(3)・(4) △東アジア研究（韓国現代史） △東アジア研究（北朝鮮特論） △東アジア研究（朝鮮半島の国際政治） △東アジア研究（中国現代史） △東アジア研究（中国・香港・台湾特論） △東アジア研究（中国の国際政治） △イスラーム概論 △イスラーム地域研究入門 △イスラーム地域研究特論 △ヨーロッパ文化（フランス）(1)・(3)・(4) △ヨーロッパ文化（ドイツ）(1)・(3)・(4) △ヨーロッパ文化（スペイン）(1)・(3)・(4) △アジア交流史(1)・(3)・(4) △国際関係史(1)・(3)・(4) △東南アジア研究（現代東南アジア特論）(1)・(3)・(4) △東南アジア研究（島嶼部）(1)・(3)・(4) △東南アジア研究（大陸部）(1)・(3)・(4) △ユーラシア研究(1)・(3)・(4) △アフリカ研究 △西アジア研究(1)・(3)・(4) △南アジア研究(1)・(3)・(4) △ラテンアメリカ研究		
教科及び教科の指導法に関する科目　教科に関する専門的事項　人文地理学・自然地理学（1単位以上）	◎人文地理学(1)・(3)・(4) ◎自然地理学(1)・(3)・(4)	◎人文地理学(1)・(3)・(4) ◎自然地理学(1)・(3)・(4)		
教科及び教科の指導法に関する科目　教科に関する専門的事項　地誌（1単位以上）	◎地誌(1)・(3)・(4)	◎地誌(1)・(3)・(4)		
教科及び教科の指導法に関する科目　各教科の指導法※2（情報通信技術の活用を含む。）	◎社会科・地理歴史科指導法Ⅰ・Ⅱ	◎社会科・地理歴史科指導法Ⅰ・Ⅱ		
大学が独自に設定する科目	教育学特講(1)・(3)・(4) 教育メディアa・b	教育学特講(1)・(3)・(4) 教育メディアa・b 比較教育論(1)・(3)・(4)		高　校 12単位

◎印　必修科目
△印　選択必修科目　表の全ての△の中から5単位以上修得してください。
※1　2021年度入学者までは「教育方法論」
※2　2021年度入学者までは「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」
下線：一般的包括的内容を含む科目（各科目区分の学問領域をおおまかに網羅する科目）

9. 教職課程（2019年度以降入学者用）

＜公民　高校一種＞

施行規則に定める科目区分等	開講科目名（2019～2024年度入学者）	開講科目名（2025年度以降入学者）	本学の所要単位数	免許法の単位数
教育の基礎的理解に関する科目	教職概論、特別支援教育論、教育学概論、教育心理学、教育課程論	教職概論、特別支援教育論、教育学概論、教育心理学、教育課程論	高一種 23単位	高一種 23単位
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育方法の理論と実践* ICT活用の理論と方法* 道徳教育の理論と方法(中免のみ) 総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法 生徒指導の理論と方法 教育相談の理論と方法 進路指導の理論と方法	教育方法の理論と実践 ICT活用の理論と方法 道徳教育の理論と方法(中免のみ) 総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法 生徒指導の理論と方法 教育相談の理論と方法 進路指導の理論と方法		
教育実践に関する科目	教育実習(教育実習指導を含む) 教職実践演習(中・高)	教育実習(教育実習指導を含む) 教職実践演習(中・高)		
教科及び教科の指導法に関する科目 教科に関する専門的事項 「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」（１単位以上）	**◎法学研究** △**国際法(1)・(3)・(4)**※または △**政治学研究(1)・(3)・(4)**※に**加え**、 △**国際機構論(1)・(3)・(4)**※または △**比較政治論(1)・(3)・(4)**※で 合計６単位以上 国際関係概論(1)・(3)	**◎法学研究** △**国際法(1)・(3)・(4)**※または △**政治学研究(1)・(3)・(4)**※に**加え**、 △**国際機構論(1)・(3)・(4)**※または △**比較政治論(1)・(3)・(4)**※で 合計６単位以上 国際関係概論(1)・(3) EU研究(1)・(4) 憲法(1)・(3)・(4) 政治思想史(1)・(3)・(4) 国際政治論(1)・(3)・(4) 現代日本政治経済論(1)・(3)・(4) ヨーロッパ政治(1)・(4)	「教科及び教科の指導法に関する科目」高校24単位以上を含み 高一種 36単位	高　校 24単位
「社会学、経済学(国際経済を含む。)」（１単位以上）	△**社会学研究(1)・(3)・(4)**※または △**経済学研究(1)・(3)・(4)**※に**加え**、 △**国際経済論(1)・(3)・(4)**※・ △**開発経済学(1)・(3)・(4)**※・ △**情報社会論(1)・(3)**の中から**3単位**で 合計**6単位以上****	△**社会学研究(1)・(3)・(4)**※または △**経済学研究(1)・(3)・(4)**※に**加え**、 △**国際経済論(1)・(3)・(4)**※・ △**開発経済学(1)・(3)・(4)**※・ △**情報社会論(1)・(3)**の中から**3単位**で 合計**6単位以上**** 家族社会学 国際金融論(1)・(3)・(4) 国際貿易論(1)・(3)・(4) ソーシャル・インクルージョン論 福祉社会学 国際経営論(1)・(3)・(4) グローバリゼーション論(1)・(3)・(4) アメリカ経済(アメリカ経済史)(1) アメリカ経済(現代アメリカ経済論)(3)・(4) ヨーロッパ経済(イギリス)(1)・(3)・(4) 日本・アジアの文化研究(1)・(3)・(4)		
「哲学、倫理学、宗教学、心理学」（１単位以上）	△**哲学研究(1)・(3)・(4)**※・ △**宗教学研究(1)・(3)・(4)**※・ △**社会思想史(1)・(3)・(4)**※から **7単位**以上	△**哲学研究(1)・(3)・(4)**※・ △**宗教学研究(1)・(3)・(4)**※・ △**社会思想史(1)・(3)・(4)**※から **7単位**以上		
各教科の指導法※※（情報通信技術の活用を含む。）	**◎社会科・公民科指導法Ⅰ・Ⅱ**	**◎社会科・公民科指導法Ⅰ・Ⅱ**		
大学が独自に設定する科目	教育学特講(1)・(3)・(4) 教育メディアa･b	教育学特講(1)・(3)・(4) 教育メディアa･b 比較教育論(1)・(3)・(4)		高　校 12単位

◎印　必修科目
△印　選択必修科目
＊　2021年度入学者までは「教育方法論」
※印　原則として(1)・(3)・(4)全てを修得すること。
＊＊　「経済学研究(1)・(3)・(4)」を選択した場合は、原則として「国際経済論(1)・(3)・(4)」を選択して６単位とすること。
※※　2021年度入学者までは「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」
下線：一般的包括的内容を含む科目（各科目区分の学問領域をおおまかに網羅する科目）

■数学科【数学】

「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち「教科に関する専門的事項」は、免許法に定められた５つの分野「代数学」「幾何学」「解析学」「確率論、統計学」「コンピュータ」に分類され、それぞれ１単位以上、「各教科の指導法」「大学が独自に設定する科目」と合わせ中学一種32単位以上、高校一種36単位以上修得しなければなりません。

＜数学　中学一種・高校一種＞

施行規則に定める科目区分等			開講科目名	本学の所要単位数	免許法の単位数
教育の基礎的理解に関する科目			教職概論、特別支援教育論、教育学概論、教育心理学、教育課程論	中一種 27単位 高一種 23単位	中一種 27単位 高一種 23単位
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目			教育方法の理論と実践※1、ICT活用の理論と方法※1 道徳教育の理論と方法（中免のみ）、総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法、生徒指導の理論と方法 教育相談の理論と方法、進路指導の理論と方法		
教育実践に関する科目			教育実習（教育実習指導を含む）、教職実践演習（中・高）		
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	代数学（１単位以上）	**◎数学序論（演習付）または◎集合・写像入門（演習付）** **◎線形代数学Ⅰ（演習付）　◎線形代数学Ⅱ（演習付）** **◎代数学基礎（演習付）**　代数入門（演習付）　代数学（演習付）	「教科及び教科の指導法に関する科目」中学28単位高校24単位以上を含み 中一種 32単位 高一種 36単位	中　学 28単位 高　校 24単位
		幾何学（１単位以上）	**◎幾何学入門（演習付）※3または◎ベクトル・行列と幾何学（演習付）** 位相入門（演習付）　幾何学Ａ（演習付）　幾何学Ｂ		
		解析学（１単位以上）	**◎解析学基礎Ⅰ（演習付）　◎解析学基礎Ⅱ（演習付）**　複素解析学（演習付） 関数解析（演習付）　ルベーグ積分（演習付）		
		「確率論、統計学」（１単位以上）	**◎確率統計入門（3）**　確率統計入門（4）　測度論的確率論（演習付）		
		コンピュータ（１単位以上）	**◎計算機数学（演習付）**		
	各教科の指導法※2（情報通信技術の活用を含む。）		**◎数学科指導法Ⅰ・Ⅱ　◎数学科指導とICT活用**		
大学が独自に設定する科目			教育学特講（1）・（3）・（4）　教育メディアａ・ｂ		中　学 ４単位 高　校 12単位

◎印　必修科目
※１　2021年度入学者までは「教育方法論」
※２　2021年度入学者までは「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」
※３　2026年度から閉講。詳細は「教職課程からのお知らせ」サイトを参照すること。
下線：一般的包括的内容を含む科目（各科目区分の学問領域をおおまかに網羅する科目）

■情報科学科【数学】

「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち「教科に関する専門的事項」は、免許法に定められた５つの分野「代数学」「幾何学」「解析学」「確率論、統計学」「コンピュータ」に分類され、それぞれ１単位以上、「各教科の指導法」「大学が独自に設定する科目」と合わせ中学一種32単位以上、高校一種36単位以上修得しなければなりません。

＜数学　中学一種・高校一種＞

施行規則に定める科目区分等			開講科目名	本学の所要単位数	免許法の単位数
教育の基礎的理解に関する科目			教職概論、特別支援教育論、教育学概論、教育心理学、教育課程論	中一種 27単位 高一種 23単位	中一種 27単位 高一種 23単位
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目			教育方法の理論と実践※1、ICT活用の理論と方法※1 道徳教育の理論と方法（中免のみ）、総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法、生徒指導の理論と方法 教育相談の理論と方法、進路指導の理論と方法		
教育実践に関する科目			教育実習（教育実習指導を含む）、教職実践演習（中・高）		
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	代数学（１単位以上）	◎情報数学基礎（演習付）　◎離散数学ｂ 暗号理論　情報数学特論ｅ・ｆ	「教科及び教科の指導法に関する科目」中学28単位高校24単位以上を含み 中一種 32単位 高一種 36単位	中　学 28単位 高　校 24単位
		幾何学（１単位以上）	◎線形代数（演習付）(1)・(3)または◎線形代数Ⅰ・Ⅱ（演習付） ◎離散数学ａ		
		解析学（１単位以上）	◎微分積分（演習付）(3)・(4)または◎微分積分Ⅰ・Ⅱ（演習付） ◎離散数学ｃ 情報数学ａ・ｂ・ｄ・ｅ　情報数学特論ａ		
		「確率論、統計学」（１単位以上）	◎確率統計（演習付）　◎数理モデル（演習付） 数理ファイナンス　情報数学ｃ・ｆ　情報数学特論ｂ		
		コンピュータ（１単位以上）	◎プログラミングⅠ（演習付）(1)　◎情報表現(3)・(4) Webテクノロジーａ・ｂ*　社会情報システム ソフトウェア開発法（演習付）　映像コンテンツ制作		
	各教科の指導法※2（情報通信技術の活用を含む。）		◎数学科指導法Ⅰ・Ⅱ　◎数学科指導とICT活用		
大学が独自に設定する科目			教育学特講(1)・(3)・(4)　教育メディアａ・ｂ		中　学 4単位 高　校 12単位

◎印　必修科目
※１　2021年度入学者までは「教育方法論」
※２　2021年度入学者までは「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」
下線：一般的包括的内容を含む科目（各科目区分の学問領域をおおまかに網羅する科目）
＊　Webテクノロジーｂは2022年度までで閉講

■数学科【高校／情報】

「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち「教科に関する専門的事項」は、免許法に定められた６つの分野「情報社会・情報倫理」「コンピュータ・情報処理（実習を含む。）」「情報システム（実習を含む。）」「情報通信ネットワーク（実習を含む。）」「マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）」「情報と職業」に分類され、それぞれ１単位以上、「各教科の指導法」「大学が独自に設定する科目」と合わせ、高校一種36単位以上修得しなければなりません。

＜情報　高校一種＞（2019～2022年度入学者／2023年度入学者）

施行規則に定める科目区分等	開講科目名（2019～2022年度入学者）	開講科目名（2023年度入学者）	本学の所要単位数	免許法の単位数
教育の基礎的理解に関する科目	教職概論、特別支援教育論、教育学概論、教育心理学、教育課程論	教職概論、特別支援教育論、教育学概論、教育心理学、教育課程論	高一種23単位	高一種23単位
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育方法の理論と実践※1 ICT活用の理論と方法※1 道徳教育の理論と方法（中免のみ） 総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法 生徒指導の理論と方法 教育相談の理論と方法 進路指導の理論と方法	教育方法の理論と実践 ICT活用の理論と方法 道徳教育の理論と方法（中免のみ） 総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法 生徒指導の理論と方法 教育相談の理論と方法 進路指導の理論と方法		
教育実践に関する科目	教育実習（教育実習指導を含む） 教職実践演習（中・高）	教育実習（教育実習指導を含む） 教職実践演習（中・高）		
教科及び教科の指導法に関する科目 ／ 教科に関する専門的事項 ／ 情報社会・情報倫理（１単位以上）	◎情報と社会(1)・(3)・(4)※3	情報と社会(1) ◎情報と社会(3)	「教科及び教科の指導法に関する科目」高校24単位以上を含み 高一種36単位	高　校24単位
教科及び教科の指導法に関する科目 ／ 教科に関する専門的事項 ／ コンピュータ・情報処理（実習を含む。）（１単位以上）	◎プログラミング入門（演習付） ◎アルゴリズム入門 △数値解析入門（演習付） △数値計算法　△論理と計算機科学 △計算論 △コンピュータシミュレーション	◎プログラミング入門（演習付） ◎アルゴリズム入門 △数値解析入門（演習付） △数値計算法　△論理と計算機科学 △計算論 △コンピュータシミュレーション		
教科及び教科の指導法に関する科目 ／ 教科に関する専門的事項 ／ 情報システム（実習を含む。）（１単位以上）	◎情報システム入門 暗号と情報　データベース入門	◎情報システム入門 暗号と情報　データベース入門		
教科及び教科の指導法に関する科目 ／ 教科に関する専門的事項 ／ 情報通信ネットワーク（実習を含む。）（１単位以上）	◎情報通信ネットワーク入門 最適化入門	◎情報通信ネットワーク入門 最適化入門		
教科及び教科の指導法に関する科目 ／ 教科に関する専門的事項 ／ マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）（１単位以上）	◎メディア処理とモデリング入門 ◎数式図形画像処理入門	◎メディア処理とモデリング入門 ◎数式図形画像処理入門		
教科及び教科の指導法に関する科目 ／ 教科に関する専門的事項 ／ 情報と職業（１単位以上）	◎情報と職業または ◎情報社会と情報倫理	◎情報と職業または ◎情報社会と情報倫理		
教科及び教科の指導法に関する科目 ／ 各教科の指導法※2（情報通信技術の活用を含む。）	◎情報科指導法 ◎情報科指導とICT活用	◎情報科指導法 ◎情報科指導とICT活用		
大学が独自に設定する科目	教育学特講(1)・(3)・(4) 教育メディアａ・ｂ	教育学特講(1)・(3)・(4) 教育メディアａ・ｂ		高　校12単位

◎印　必修科目
△印　選択必修科目　　△の５科目のうちから11単位を選択必修
※１　2021年度入学者までは「教育方法論」
※２　2021年度入学者までは「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」
※３　2025年度から閉講（「情報と社会(4)」のみ）。
下線：一般的包括的内容を含む科目（各科目区分の学問領域をおおまかに網羅する科目）

■数学科【高校／情報】

「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち「教科に関する専門的事項」は、免許法に定められた５つの分野「情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理」「コンピュータ・情報処理」「情報システム」「情報通信ネットワーク」「マルチメディア表現・マルチメディア技術」に分類され、それぞれ１単位以上、「各教科の指導法」「大学が独自に設定する科目」と合わせ、高校一種36単位以上修得しなければなりません。

＜情報　高校一種＞（2024年度以降入学者）

施行規則に定める科目区分等			開講科目名（2024年度以降入学者）	本学の所要単位数	免許法の単位数
教育の基礎的理解に関する科目			教職概論、特別支援教育論、教育学概論、教育心理学、教育課程論	高一種 23単位	高一種 23単位
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目			教育方法の理論と実践 ICT活用の理論と方法 道徳教育の理論と方法（中免のみ） 総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法 生徒指導の理論と方法 教育相談の理論と方法 進路指導の理論と方法		
教育実践に関する科目			教育実習（教育実習指導を含む） 教職実践演習（中・高）		
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理（１単位以上）	◎情報社会と情報倫理 情報と社会(1) 情報と社会(3)	「教科及び教科の指導法に関する科目」高校24単位以上を含み 高一種 36単位	高　校 24単位
		コンピュータ・情報処理（１単位以上）	◎プログラミング入門（演習付） ◎アルゴリズム入門 △数値解析入門（演習付） △数値計算法　△論理と計算機科学 △計算論 △コンピュータシミュレーション		
		情報システム（１単位以上）	◎情報システム入門 暗号と情報　データベース入門		
		情報通信ネットワーク（１単位以上）	◎情報通信ネットワーク入門 最適化入門		
		マルチメディア表現・マルチメディア技術（１単位以上）	◎メディア処理とモデリング入門 ◎数式図形画像処理入門		
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		◎情報科指導法 ◎情報科指導とICT活用		
大学が独自に設定する科目			教育学特講(1)・(3)・(4) 教育メディアａ・ｂ		高　校 12単位

◎印　必修科目
△印　選択必修科目　　△の５科目のうちから11単位を選択必修
下線：一般的包括的内容を含む科目（各科目区分の学問領域をおおまかに網羅する科目）

■情報科学科【高校／情報】

「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち「教科に関する専門的事項」は、免許法に定められた６つの分野「情報社会・情報倫理」「コンピュータ・情報処理（実習を含む。）」「情報システム（実習を含む。）」「情報通信ネットワーク（実習を含む。）」「マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）」「情報と職業」に分類され、それぞれ１単位以上、「各教科の指導法」「大学が独自に設定する科目」と合わせ、高校一種36単位以上修得しなければなりません。

＜情報　高校一種＞（2019～2022年度入学者／2023年度入学者）

施行規則に定める科目区分等	開講科目名（2019～2022年度入学者）	開講科目名（2023年度入学者）	本学の所要単位数	免許法の単位数
教育の基礎的理解に関する科目	教職概論、特別支援教育論、教育学概論、教育心理学、教育課程論	教職概論、特別支援教育論、教育学概論、教育心理学、教育課程論	高一種 23単位	高一種 23単位
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育方法の理論と実践※1 ICT活用の理論と方法※1 道徳教育の理論と方法（中免のみ） 総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法 生徒指導の理論と方法 教育相談の理論と方法 進路指導の理論と方法	教育方法の理論と実践※1 ICT活用の理論と方法※1 道徳教育の理論と方法（中免のみ） 総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法 生徒指導の理論と方法 教育相談の理論と方法 進路指導の理論と方法		
教育実践に関する科目	教育実習（教育実習指導を含む） 教職実践演習（中・高）	教育実習（教育実習指導を含む） 教職実践演習（中・高）		
教科及び教科の指導法に関する科目 ／ 教科に関する専門的事項 ／ 情報社会・情報倫理（１単位以上）	◎情報と社会(1)・(3)・(4)※3	情報と社会(1) ◎情報と社会(3)	「教科及び教科の指導法に関する科目」高校24単位以上を含み 高一種 36単位	高　校 24単位
コンピュータ・情報処理（実習を含む。）（１単位以上）	◎アルゴリズムａ(演習付) ◎アルゴリズムｂ(演習付) アルゴリズムｃ(演習付) コンピュータアーキテクチャ 人工知能・機械学習(演習付) プログラミング言語論	◎アルゴリズムａ(演習付) ◎アルゴリズムｂ(演習付) アルゴリズムｃ(演習付) コンピュータアーキテクチャ 人工知能・機械学習(演習付) プログラミング言語論		
情報システム（実習を含む。）（１単位以上）	アプリケーションデザイン ◎プログラミングⅠ(演習付)(3)・(4) ◎プログラミングⅡ(演習付)(1)・(3) システム運用(演習付) データベース入門 ◎コンピュータ概論Ⅰ・Ⅱ オペレーティングシステム	アプリケーションデザイン ◎プログラミングⅠ(演習付)(3)・(4) ◎プログラミングⅡ(演習付)(1)・(3) システム運用(演習付) ◎コンピュータ概論Ⅰ・Ⅱ オペレーティングシステム ◎データベース入門		
情報通信ネットワーク（実習を含む。）（１単位以上）	◎ネットワークシステム(演習付) センサー入門 情報セキュリティ(演習付)	◎ネットワークシステム(演習付) センサー入門 情報セキュリティ(演習付)		
マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）（１単位以上）	◎マルチメディア(演習付) インターラクティブシステム コンテンツデザイン コンピュータグラフィックスａ・ｂ	◎マルチメディア(演習付) インターラクティブシステム コンピュータグラフィックスａ・ｂ		
情報と職業（１単位以上）	◎情報と職業または ◎情報社会と情報倫理	◎情報と職業または ◎情報社会と情報倫理		
各教科の指導法※2（情報通信技術の活用を含む。）	◎情報科指導法 ◎情報科指導とICT活用	◎情報科指導法 ◎情報科指導とICT活用		
大学が独自に設定する科目	教育学特講(1)・(3)・(4) 教育メディアａ・ｂ	教育学特講(1)・(3)・(4) 教育メディアａ・ｂ		高　校 12単位

◎印　必修科目
※１　2021年度入学者までは「教育方法論」
※２　2021年度入学者までは「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」
※３　2025年度から閉講（「情報と社会(4)」のみ）。
下線：一般的包括的内容を含む科目（各科目区分の学問領域をおおまかに網羅する科目）

■情報科学科【高校／情報】

「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち「教科に関する専門的事項」は、免許法に定められた５つの分野「情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理」「コンピュータ・情報処理」「情報システム」「情報通信ネットワーク」「マルチメディア表現・マルチメディア技術」に分類され、それぞれ１単位以上、「各教科の指導法」「大学が独自に設定する科目」と合わせ、高校一種36単位以上修得しなければなりません。

＜情報　高校一種＞（2024年度以降入学者）

施行規則に定める科目区分等			開講科目名（2024年度以降入学者）	本学の所要単位数	免許法の単位数
教育の基礎的理解に関する科目			教職概論、特別支援教育論、教育学概論、教育心理学、教育課程論	高一種23単位	高一種23単位
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目			教育方法の理論と実践 ICT活用の理論と方法 道徳教育の理論と方法（中免のみ） 総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法 生徒指導の理論と方法 教育相談の理論と方法 進路指導の理論と方法		
教育実践に関する科目			教育実習（教育実習指導を含む） 教職実践演習（中・高）		
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理（１単位以上）	◎情報社会と情報倫理	「教科及び教科の指導法に関する科目」高校24単位以上を含み 高一種36単位	高　校24単位
		コンピュータ・情報処理（１単位以上）	◎アルゴリズムａ（演習付） ◎アルゴリズムｂ（演習付） アルゴリズムｃ（演習付） コンピュータアーキテクチャ 人工知能・機械学習（演習付） プログラミング言語論		
		情報システム（１単位以上）	アプリケーションデザイン ◎プログラミングⅠ（演習付）(3)・(4) ◎プログラミングⅡ（演習付）(1)・(3) システム運用（演習付） ◎コンピュータ概論Ⅰ・Ⅱ オペレーティングシステム ◎データベース入門		
		情報通信ネットワーク（１単位以上）	◎ネットワークシステム（演習付） センサー入門 情報セキュリティ（演習付）		
		マルチメディア表現・マルチメディア技術（１単位以上）	◎マルチメディア（演習付） インターラクティブシステム コンピュータグラフィックスａ・ｂ		
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		◎情報科指導法 ◎情報科指導とICT活用		
大学が独自に設定する科目			教育学特講(1)・(3)・(4) 教育メディアａ・ｂ		高　校12単位

◎印　必修科目

下線：一般的包括的内容を含む科目（各科目区分の学問領域をおおまかに網羅する科目）

■大学が独自に設定する科目

教育職員免許法により「大学が独自に設定する科目」として中学校免許は４単位以上、高校免許は12単位以上修得しなければなりません。開講科目は下表の通りですが、「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち中学28単位、高校24単位を越えて修得した単位は、この分野に算入することができます。

英語英文学科	教育学特講(1) ※	1
	教育学特講(3) ※	1
	教育学特講(4) ※	1
	教育メディアａ	2
	教育メディアｂ	2
	初等英語教育研究	3
国際関係学科	教育学特講(1) ※	1
	教育学特講(3) ※	1
	教育学特講(4) ※	1
	教育メディアａ	2
	教育メディアｂ	2
	初等英語教育研究 ※※	3
	比較教育論(1) ※※※	1
	比較教育論(3) ※※※	1
	比較教育論(4) ※※※	1
数学科・情報科学科	教育学特講(1) ※	1
	教育学特講(3) ※	1
	教育学特講(4) ※	1
	教育メディアａ	2
	教育メディアｂ	2

※　読み替え科目「異文化理解教育論(1)(3)(4)」(2025 年度まで) では、教育免許状取得に必要な修得単位となりません。
※※　英免取得希望者のみ適用
※※※　社会・地歴・公民免許（2025年度以降入学者）のみ適用

（2）教職課程履修カルテについて

■「教職実践演習」と「教職課程履修カルテ」

「教職実践演習」は、教職課程での学習を総括するために、４年次に必修科目として履修する科目です。これは、教員養成課程で修得すべき、教員としての必要な知識技能・資質能力が獲得できているかを確認し、補完することを目的としています。

「教職課程履修カルテ」は、「教職実践演習」の教材として使います。教員免許状取得希望者は、「教職実践演習」を履修するまでの間、このカルテに教職課程の履修状況等を随時入力するようにしてください。注意事項をよく読み、各自の責任のもとで、漏れ等のないよう入力してください。

■「教職課程履修カルテ」の活用方法

「教職課程履修カルテ」は、４年次の「教職実践演習」で主に活用されますが、２～４年次の間も、教職関係の授業やオリエンテーション等で提出や確認を求められることがあります。

■「教職課程履修カルテ」の保管

「教職課程履修カルテ(データファイル)」は、**１年次の教職課程オリエンテーション**（「教職概論」授業内で実施）で配布され、本学在学中に教職課程を履修する上で使用されます。在学中は、各自の責任のもとで保管しなければなりません。本学卒業後に他大学等で、あるいは科目等履修生として本学で教職課程を履修する場合、「教職課程履修カルテ」の提出を求められることがあります。

そのため、教員免許状を取得するまで、各自が大切に保管してください。

（3）介護等体験について

中学校の教員免許状を取得するためには免許状申請時までに、７日間以上、特別支援学校及び社会福祉施設で、介護等の体験を行い、実施機関の長から証明書を受け取らなければなりません。

介護等体験については、次の３つのオリエンテーション・ガイダンスがあり全て出席しなければなりません。

①「介護等体験登録オリエンテーション」（１年次に履修する「教職概論」の授業の中で行います。）

②「介護等体験事前ガイダンス」（１年次に履修する「教職概論」の授業の中で行います。）
　特別支援学校・社会福祉施設での実習についての事前学習と学生報告を行います。

③「介護等体験直前オリエンテーション」（２年次）（４月）
　介護等体験に参加するために必要な書類を配布し、注意事項などについて説明します。

なお、介護等体験終了後に発行される証明書は、コピーを教務課へ提出し、原本は３年次の教育実習登録期間に提出します。実習終了後、原本を各自保管する必要がありますので証明書を紛失しないよう注意してください。

（4）教育実習

中学および高校の教員免許状取得を希望する場合は15日以上の教育実習で５単位、高校の教員免許状のみの取得を希望する場合は10日以上で３単位、の実習を行わなければなりません。

教育実習は全国の高等学校及び中学校の協力を得て行われます。教育実習生であっても、実習校の生徒に対する教育的・社会的責任は極めて大きいことをよくわきまえて、教育実習に臨まなければなりません。

■教育実習の履修条件

次の①～⑤の条件をすべて満たしていなければ教育実習に行くことはできません。

① 実習履修年度に４年生、大学院生、又は科目等履修生（本学の卒業生に限る）で、教員免許状取得見込みであること。

② 原則として、３年次までに次の科目を修得済みであること。

2019～2021年度入学者	
教育学概論　３単位 教育心理学　２単位 教育課程論　２単位 教育方法論　２単位	教科指導法　３単位※(1)または６単位※(2)・８単位※(3) 音声学　３単位※(4) 教育実習指導
2022年度以降入学者	
教育学概論　３単位 教育心理学　２単位 教育課程論　２単位 教育方法の理論と実践　１単位 ICT活用の理論と方法　１単位	教科指導法　３単位※(1)または６単位※(2)・８単位※(3) 音声学　３単位※(4) 教育実習指導

※(1) 情報科免許取得希望者は３単位

※(2) 英語科・数学科免許取得希望者は６単位

※(3) 中学社会科とあわせて地理歴史科または公民科免許取得希望者は８単位

※(4) 英語科免許取得希望者のみ。

３年次で上記科目が不合格になった場合は、原則、年度内に再履修しなければなりません。年度内に開講のない科目は、４年次で再履修することによって実習は認められますが、**３年次で放棄・失格した場合は、実習をすることはできません。**

英語科免許取得希望者……Extensive Reading Ⅰ、Intensive Reading Ⅰ a・b、Oral English Ⅰ、Composition Ⅰ、Pronunciation Ⅰを２年次までに単位修得済でなければなりません。

社会、地理歴史、公民科免許取得希望者……１年セミナーと基本科目を２年次までに単位修得済でなければなりません。

数学科及び情報科免許取得希望者は、１、２年次までの必修科目をすべて３年次までに単位修得済みでなければなりません。

③ 教育実習履修年度始めに実施する健康診断（胸部Ｘ線を含む）を受け、実習可能と判断されていること。

④ 実習校の正常な教育活動を妨げるおそれがなく、定められた期間内に登録手続きを完了し教育実習費を納入していること。

⑤ **事前指導のすべて（オリエンテーションを含む）**に参加していること。

■教育実習登録

教育実習登録に向けて２年次からオリエンテーションを開始します。前項の履修条件と、次頁の実習までのスケジュール及び説明をよく読み実習資格を失わないよう注意することが必要です。

正式登録は３年次ですが、具体的な登録のしかたや日程等については、２年次及び３年次の教育実習オリエンテーションで説明します。特に３・４次生は伝達事項が多いのでWebサイト「教職課程からのお知らせ」やTsudaNetをよく確認してください。

教職課程からのお知らせ

「Tsuda University information」⇒「教務課」⇒「教職課程」

■教育実習の取消について

教育実習登録後、教育実習を放棄し登録を取り消すことは認められません。病気、休学などやむを得ない理由がある場合には、直ちに教務課に連絡し指示を受けてください。

■教育実習及び介護等体験までのスケジュール

		〔教育実習〕	〔介護等体験〕
1年	9月下旬 〜 10月		① 介護等体験登録オリエンテーション（教職課程オリエンテーション）（「教職概論」）・介護等体験登録 ② 介護等体験事前ガイダンス（「教職概論」）
2年	4月 1月 （春休み以降）	④ 教育実習内諾オリエンテーション ⑤ 実習校へ内諾依頼	③ 介護等体験直前オリエンテーション 介護等体験実施　体験報告書提出 介護等体験証明書（コピー）提出
3年	6月〜9月初中旬 9月〜11月	⑥ 教育実習登録オリエンテーション・教育実習登録 ⑦ 教育実習事前指導	介護等体験証明書（原本）提出
4年	4月 5月〜7月（9月〜11月の場合あり） 原則として実習終了後2週間以内	⑧ 教育実習直前オリエンテーション ⑨ 実習校との打ち合わせ ⑩ 教育実習 ⑪ 教育実習事後指導・教育実習記録等の提出	

① 1年次第3タームに教職課程の履修及び介護等体験について「教職概論」の授業内でオリエンテーションを行いますので、履修を計画的に進めることが必要です。このオリエンテーションで介護等体験登録手続きについて説明します。介護等体験の登録にあたっては、体験費用の納付（11,000円の予定）が必要です。

② 介護等体験事前ガイダンス（3回）も「教職概論」の授業内で行います。2年次に介護等体験を希望する場合は、必ず1年次で「教職概論」を履修して単位を修得してください。

③ 2年次に介護等体験を希望する場合は、必ず「介護等体験直前オリエンテーション」に出席してください。

④ 2年次の教育実習内諾オリエンテーションで、教育実習までの諸手続きなどについて詳しい説明を行い、**「教育実習受入内諾書」**等の必要書式を配布します。

⑤ 実習校へ出向き、4年次の教育実習受け入れの依頼をして、**「教育実習受入内諾書」**に許可をもらいます。実習校所定の内諾書用紙がある場合は実習校の指示に従います。実習生の多い学校では、実習内諾依頼の早い順から受け入れを許可する実習校もあるので、2年次の春休みに受け入れの依頼をしておきます。

⑥ 教育実習登録に先立ちオリエンテーションを開催し、登録手続きについて説明します。教育実習の登録にあたっては同時に教育実習費の納付（11,000円の予定）が必要です。

教育実習登録には次の2種類のタイプがあります。

1．出身中学・高等学校、または知人の紹介による学校などで実習する場合

自分で教育実習の受け入れの内諾をもらいますが、実習登録後の正式依頼などは大学が行います。

2．都内の公立中学・高等学校で実習する場合

大学から東京都教育委員会を通して正式依頼します。実習時期、実習校の指定ができない場合もあります。

⑦ **「教育実習事前指導」、「事後指導」を合わせて教育実習AまたはBの単位となります。**

⑧ 4年次の教育実習直前オリエンテーションで、**「教育実習記録」**等の配布と、教育実習に臨んでの心構え・注意事項について説明を行います。

⑨　実習校との打ち合わせの日時場所は、実習校からの指示に従ってください。**実習関係書類（依頼状・教育実習成績報告書・出勤簿・返信用封筒）**は、大学から実習校に直接送付します。

都内校（公立・国私立とも）で実習する場合は、実習校との打ち合わせの前に**実習見回り担当教員の面接**を受けなければなりません。見回り担当教員は、５月初旬にTsudaNet等で知らせます。各自、担当教員に連絡して実習校最寄り駅から実習校までの略図を持参してください。

⑩　教育実習は、多くの学校が６月中の３～４週間で行いますが、実習校の都合によりそれ以外の期間に実施される場合があります。また、詳細な日程は実習校からの指定に従います。

⑪　実習校より「教育実習記録」を返却されてから２週間以内に**「教育実習記録」、「教育実習申し送り表」、「指導案」**を教務課に提出してください。これらの内容と教育実習成績報告書をもとに、教育実習の成績が評価されます。

（５）教員免許状の授与申請

●一括申請

免許状は、免許法に定める単位を修得し卒業要件を満たした者が、授与権者である東京都教育委員会に申請することによって授与されます。**一括申請**は学生に代わって大学がこの申請手続きを行います。一括申請を希望する場合は、**一括申請説明会**に出席し以下の手続きをしなければなりません。説明会は４年次の10月に実施予定です。

１．一括申請説明会に参加し、教育職員免許状授与申請書（一括申請）宣誓書の内容確認の上、所定事項の記入および署名をします。（代理による署名不可。）

２．免許申請手数料を定められた期間内に納入しなければなりません。申請手数料は１件につき3,400円です。

例：学　部（中学一種・高校一種）の２件……6,800円
　　大学院（中学専修・高校専修）の２件……6,800円

注）①東京都の申請手数料改訂の場合は、それに伴って変更されます。
②説明会に出席しない者、期日までに費用を納入しない者、または書類不備、卒業延期等の事由で受理されない者は、一括申請の取り扱いはできません。
③納入した費用は原則として返金できません。

介護等体験を行った際に発行される証明書の原本が一括申請時に必要になりますので、教育実習登録期間まで各自保管してください。

●個人申請

個人申請は、本人の居住する（住民票のある）都道府県教育委員会へ自分で申請手続きを行います。教育委員会によって申請方法、申請書類の様式が異なるので事前に各都道府県教育委員会へ問い合わせてください。

東京都の場合は、東京都教育庁人事部選考課免許係（tel 03-5320-6788）が窓口になっています。ただし、例年２月から４月中旬まで、業務繁忙のため受付が制限され、免許状交付は６月以降となります。

授与された免許状は大切に保管してください。紛失した場合は、再交付されません。代わりに授与証明書が教育委員会から発行されます。
ただし、自然災害・火災等の場合は罹災証明書を提出することで再発行されます。

（6）授業科目名・単位（2019年度以降入学者用）

授業科目	程度	開講ターム	単位	週時	担当者	備考
教職概論	Ⅰ	1,3	2	2	牧野　英一	
		3,4	2	2	牧野　英一	
特別支援教育論	Ⅰ～Ⅲ	1	1	2	柴田　邦臣	※
教育学概論	Ⅰ～Ⅲ	1,3,4	3	2	渡邊　あや	原則、３年次までに修得すること。※
教育心理学	Ⅰ～Ⅲ	3,4	2	2	高垣マユミ	原則、３年次までに修得すること。
教育課程論	Ⅱ～Ⅲ	1	2	4	渡邊　あや	原則、３年次までに修得すること。
		3,4	2	2	渡邊　あや	
教育方法論 （2019～2021年度入学者）	Ⅱ～Ⅲ	2	2	4	高垣マユミ	原則、３年次までに修得すること。 2022年度以降入学者は履修不可。
教育方法の理論と実践 （2022年度以降入学者）	Ⅱ～Ⅲ	1,3	1	2	高垣マユミ	原則、３年次までに修得すること。 2021年度以前入学者は履修不可。
ICT活用の理論と方法 （2022年度以降入学者）	Ⅱ～Ⅲ	1,4	1	2	佐藤　玲子	原則、３年次までに修得すること。 2021年度以前入学者は履修不可。
道徳教育の理論と方法	Ⅱ～Ⅲ	1	2	4	小澤理恵子	３年次推奨科目
		3,4	2	2	伊東　　毅	
		3,4	2	2	小澤理恵子	
総合的な学習の時間の指導法	Ⅱ～Ⅲ	1,4	1	2	松尾　廣文	３年次推奨科目　※
特別活動の指導法	Ⅱ～Ⅲ	1,3	1	2	松尾　廣文	３年次推奨科目　※
生徒指導の理論と方法	Ⅱ～Ⅲ	1	1	2	前田　基成	
		3	1	2	前田　基成	
教育相談の理論と方法	Ⅱ～Ⅲ	1	2	4	高垣マユミ	３年次推奨科目
		1	2	4	前田　基成	
		3,4	2	2	前田　基成	
進路指導の理論と方法	Ⅱ～Ⅲ	1	1	2	前田　基成	
		4	1	2	前田　基成	
英語科指導法Ⅰ	Ⅱ	1,3,4	3	2	星野　徳子・小西　正恵 船林　麻里・高橋奈緒子 豊嶋　朗子	原則、３年次までに修得すること。
英語科指導法Ⅱ	Ⅲ	1,3,4	3	2	舩田まなみ・関根　泰子 五十嵐佐知子・植野　伸子 落合　美雪	
英語科指導とICT活用	Ⅲ	3,4	2	2	小西　正恵・久島智津子	英語科指導法Ⅰ・Ⅱを修得済であるか履修中であることが必要。３年次に履修すること。
社会科･地理歴史科指導法Ⅰ	Ⅱ	3,4	2	2	小原　　淳	原則、３年次までに修得すること。
社会科･地理歴史科指導法Ⅱ	Ⅲ	3,4	2	2	小原　　淳	
社会科・公民科指導法Ⅰ	Ⅱ	1	2	4	齋藤　博志	原則、３年次までに修得すること。
社会科・公民科指導法Ⅱ	Ⅲ	3,4	2	2	齋藤　博志	
数学科指導法Ⅰ	Ⅱ	1,3,4	3	2	武沢　　護	原則、３年次までに修得すること。
数学科指導法Ⅱ	Ⅲ	1,3,4	3	2	曽根　弘幸	
数学科指導とICT活用	Ⅲ	3,4	2	2	松嵜　昭雄	数学科指導法Ⅰ・Ⅱを修得済であるか履修中であることが必要。３年次に履修すること。
情報科指導法	Ⅲ	1,3,4	3	2	佐藤　義弘／来住　伸子	原則、３年次に修得すること。
情報科指導とICT活用	Ⅲ	3	1	2	森本　康彦	情報科指導法を修得済であるか履修中であることが必要。３年次に履修すること。
教育実習指導	Ⅲ	3	0	2	高垣マユミ・渡邊　あや	原則、３年次に修得すること。
教育実習Ａ	Ⅳ		5		高垣マユミ・渡邊　あや 牧野　英一・星野　徳子 植村あい子	中学・高校両方の免許取得希望者 （実習期間15日以上）
教育実習Ｂ	Ⅳ		3		高垣マユミ・渡邊　あや 牧野　英一・星野　徳子 植村あい子	高校免許のみ取得希望者 （実習期間10日以上）
教職実践演習（中・高）	Ⅳ	3,4	2	2	牧野　英一	
		3	2	4	牧野　英一	
		4	2	4	牧野　英一	
		3	2	4	髙岡　麻美	
		4	2	4	髙岡　麻美	
教育学特講(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	吉谷　武志	2025年度までの「異文化理解教育論(1)」
教育学特講(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	吉谷　武志	2025年度までの「異文化理解教育論(3)」
教育学特講(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	吉谷　武志	2025年度までの「異文化理解教育論(4)」

※2018年度以前入学者は履修不可（2019年度以降入学の編入生は履修可）。

10. 日本語教員養成課程

10. 日本語教員養成課程カリキュラム

日本語教員養成課程は、外国人等（日本語を母語としない人）に対する日本語教育の教員養成を目的とする課程で、学芸学部全学科の学生が履修可能です。

この日本語教員養成課程を修了するためには、必修科目として６科目17単位（下表の◎印）、選択必修科目として、下表の○印の中から１科目以上３単位、自由選択科目として20単位、合計40単位を履修しなければなりません。なお、自由選択科目については、できるだけ広い領域（５区分）から履修してください。

本課程の説明資料は、４月に「津田塾大学 教務課からのお知らせ」ページに掲載されますので、履修希望者は必ず確認してください。

（2017年度改訂カリキュラム）

区分	科　　目	単位	必修	備　　考
言語と教育	日本語教授法	3	◎	
	日本語教材・教具論	3	◎	
	日本語教育実習	3	◎	2022年度までの「日本語教授法演習」
	多文化社会と言語教育	2		
	教育学特講(1)	1		2025年度までの「異文化理解教育論(1)」
	教育学特講(3)	1		2025年度までの「異文化理解教育論(3)」
	教育学特講(4)	1		2025年度までの「異文化理解教育論(4)」
	言語教育とジェンダー	1		
	データサイエンス入門	1		2024年度までの情報処理Ｉa
	データリテラシー入門	1		2024年度までの情報処理Ｉb
	教育課程論	2		
	日本語教育の学び	1	○	
言語	日本語学概論	3	◎	
	日本語文法概論	3	◎	
	日本語学特殊講義１	2	○	
	日本語学特殊講義２	1	○	（2025年度から閉講）
	対照言語学１	2	○	日英語の比較
	対照言語学２	1	○	
	国語学(1)	1		
	国語学(3)	1		
	国語学(4)	1		
	ことばの世界	3	○	
	音声学	3	○	
	音韻論	2		
	形態論	2		
	文法論	3		
	意味・語用論	2		
	言語とコミュニケーション	3		
	Oral Communication	3		
	国語表現(1)	1		
	国語表現(3)	1		
	国語表現(4)	1		
言語と心理	第二言語習得論(日本語教育)	2	◎	
	第二言語習得概論(英語教育)	3		
	認知科学と言語教育	3		
	コミュニケーション概論	3		
	異文化コミュニケーション理論	3		
	マルチリンガリズム	1		
	心理学(1)	1		
	心理学(3)	1		
	心理学(4)	1		
	教育心理学	2		
言語と社会	社会言語学	3		
	異文化理解とコミュニケーション	3		
	言語思想論(1)	1		
	言語思想論(3)	1		
	言語思想論(4)	1		

言語と社会	社会心理学(1)	1		
	社会心理学(3)	1		
	社会心理学(4)	1		
	多文化共生論(1)	1		
	多文化共生論(3)	1		
	多文化共生論(4)	1		
	国際交流論	1		
	言語政策	1		
社会・文化・地域	日本文学(古典文学)(1)	1		2024年度までの日本研究(古典文学)(1)
	日本文学(古典文学)(3)	1		2024年度までの日本研究(古典文学)(3)
	日本文学(古典文学)(4)	1		2024年度までの日本研究(古典文学)(4)
	日本文学(近現代文学)(1)	1		2024年度までの日本研究(近現代文学)(1)
	日本文学(近現代文学)(3)	1		2024年度までの日本研究(近現代文学)(3)
	日本文学(近現代文学)(4)	1		2024年度までの日本研究(近現代文学)(4)
	日本研究演習(英語)(1)	1		
	日本研究演習(英語)(3)	1		
	日本研究演習(英語)(4)	1		
	日本史概説(1)	1		日本史概論(1)
	日本史概説(3)	1		日本史概論(3)
	日本史概説(4)	1		日本史概論(4)
	世界史概説(1)	1		世界史研究(1)
	世界史概説(3)	1		世界史研究(3)
	世界史概説(4)	1		世界史研究(4)
	国際関係概論(1)	1		
	国際関係概論(3)	1		
	国際関係概論(4)	1		
	文化研究序説	1		
	地域研究序説(1)	1		
	地域研究序説(3)	1		
	比較教育論(1)	1		
	比較教育論(3)	1		
	比較教育論(4)	1		
	文化人類学(1)	1		
	文化人類学(3)	1		
	文化人類学(4)	1		
	第三世界の思想と文化(1)	1		
	第三世界の思想と文化(3)	1		
	第三世界の思想と文化(4)	1		
	国際移動論	1		
	国際ボランティア論	1		
	情報と社会(1)	1		
	情報と社会(3)	1		
	社会とデータ活用	1		2024年度までの情報と社会(4)
	情報社会と情報倫理	1		2024年度までの情報と職業
	国際社会学（4）	1		

備考に記載の科目名で修得した場合も、修了に必要な単位に含まれます。

■履修上の注意

1．2022年度以前入学者：「日本語教授法」は、「日本語文法概論」、「日本語教材・教具論」の単位を修得した後に履修することが望ましい。

　2023年度以降入学者：「日本語教授法」は、「日本語文法概論」、「日本語教材・教具論」、「第二言語習得論（日本語教育）」のいずれか１科目の単位修得者のみ履修可。

2．2024年度以前入学者：「日本語教育実習」は、「日本語教授法」の単位修得者のみ履修可。また他の必修科目の単位も修得した後に履修することが望ましい。

　2025年度以降入学者：「日本語教育実習」は、「日本語教材・教具論」、「第二言語習得論(日本語教育)」、「日本語文法概論」、「日本語学概論」、「日本語教授法」の必修科目５科目の単位修得者のみ履修可。

3．選択必修科目として、「日本語学特殊講義１」、「日本語学特殊講義２」(2025年度から閉講)、「対照言語学１」、「対照言語学２」、「ことばの世界」、「音声学」、「日本語教育の学び」から、１科目以上３単位を修得すること。

4．日本語教員養成課程の資格申請は、2年次以降より可能です。登録料3,000円の納入が必要です。手続き等は「津田塾大学 教務課からのお知らせ」ページにて告知します。
5．「日本語教育実習」の履修登録にあたっては同時に日本語教育実習費の納入が必要です。
6．選択必修科目を3単位を超えて修得した場合、余剰分は自由選択科目として算入されます。

■登録上の注意

1．人数制限科目について
「日本語教授法」と「日本語教育実習」は人数制限科目です（p.79 事前抽選科目（予備登録科目）Cタイプ）。
2．修了証明書
本学で定められた単位を修得し、課程を修了した人には、本課程の修了証明書が与えられます。

■「登録日本語教員」に関わる対応について

・登録日本語教員の資格取得にかかる経過措置の期間は令和15年3月31日までです（参照: https://www.tsuda.ac.jp/learning/registered-ja-teacher.html）。
・最新情報は「津田塾大学 教務課からのお知らせ」ページをご確認ください。

（1）授業科目名・単位

授業科目	程度	ターム	単位	週時	担当者	備考
日本語教授法	Ⅲ	1,3,4	3	2	古川　敦子	必修 ※2023年度以降入学者は、「日本語教材・教具論」、「日本語文法概論」、「第二言語習得論（日本語教育）」のいずれか１科目の単位修得後に履修可。
日本語教材・教具論	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	古川　敦子	必修
日本語教育実習	Ⅳ	1,3,4	3	2	古川　敦子・渋谷　実希 武　　一美	必修 ※2024年度以前入学者は「日本語教授法」の単位修得者のみ履修可。また他の日本語教員養成課程の必修科目単位修得後に履修することが望ましい。2025年度以降入学者は「日本語教材・教具論」、「第二言語習得論(日本語教育)」、「日本語文法概論」、「日本語学概論」、「日本語教授法」の単位修得者のみ履修可。 2022年度までの「日本語教授法演習」
多文化社会と言語教育	Ⅰ～Ⅳ	3,4	2	2	古川　敦子	
教育学特講(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	吉谷　武志	2025年度までの「異文化理解教育論(1)」
教育学特講(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	吉谷　武志	2025年度までの「異文化理解教育論(3)」
教育学特講(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	吉谷　武志	2025年度までの「異文化理解教育論(4)」
言語教育とジェンダー	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	佐藤　響子	
データサイエンス入門	Ⅰ～Ⅳ	1 または 3	1	2	原山智重子・小田　正美 松岡　淳子・白倉　悟子 眞中　裕子	2024年度までの情報処理Ⅰa
データリテラシー入門	Ⅰ～Ⅳ	3 または 4	1	2	原山智重子・小田　正美 松岡　淳子・白倉　悟子 眞中　裕子	2024年度までの情報処理Ⅰb
教育課程論	Ⅱ～Ⅲ	1	2	4	渡邊　あや	
	Ⅱ～Ⅲ	3,4	2	2	渡邊　あや	
日本語教育の学び	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	古川　敦子	選択必修
日本語学概論	Ⅰ～Ⅳ	1,3,4	3	2	内田　宗一	必修
日本語文法概論	Ⅰ～Ⅳ	1,3,4	3	2	庵　　功雄	必修
日本語学特殊講義１	Ⅱ～Ⅳ	3,4	2	2	宇佐美　洋	選択必修
対照言語学１	Ⅱ～Ⅳ	1,3	2	2	都田　青子	選択必修「日英語の比較」参照
対照言語学２	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	佐藤　陽介	選択必修
国語学(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	ヤロシュ島田むつみ	
国語学(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	ヤロシュ島田むつみ	
国語学(4)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	ヤロシュ島田むつみ	
ことばの世界	Ⅰ～Ⅳ	1,3,4	3	2	郷路　拓也	選択必修
音声学	Ⅲ	1,3,4	3	2	広実　義人・小川　直樹 山内智恵子・都田　青子	選択必修
音韻論	Ⅱ～Ⅳ	1,3	2	2	都田　青子	
形態論	Ⅱ～Ⅳ	1,3	2	2	佐藤　陽介	
文法論	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	佐藤　陽介	
意味・語用論	Ⅱ～Ⅳ	1,3	2	2	井原　　駿	
言語とコミュニケーション	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	Soo-Hye Han	
Oral Comminucation	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	Soo-Hye Han	
国語表現(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	吉田　夏美・亀有　　碧	
国語表現(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	吉田　夏美・亀有　　碧	
国語表現(4)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	吉田　夏美・亀有　　碧	
第二言語習得論(日本語教育)	Ⅱ～Ⅳ	1,3	2	2	渋谷　実希	必修
第二言語習得概論(英語教育)	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	稲垣　善律	
認知科学と言語教育	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	久野　雅樹	
コミュニケーション概論	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	川野　優希	
異文化コミュニケーション理論	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	Elizabeth I. Dow	
マルチリンガリズム	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	斎藤　敬太	
心理学(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	Wang Jue	
心理学(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	Wang Jue	
心理学(4)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	Wang Jue	
教育心理学	Ⅰ～Ⅲ	3,4	2	2	高垣マユミ	

授　業　科　目	程度	学期	単位	週時	担　　当　　者	備　　考
社会言語学	Ⅱ～Ⅳ	1,3,4	3	2	朝日　祥之	
異文化理解とコミュニケーション	Ⅰ～Ⅳ	1,3,4	3	2	川野　優希	
言語思想論(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	多賀　吉隆	
言語思想論(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	多賀　吉隆	
言語思想論(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	多賀　吉隆	
社会心理学(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	南谷　則子	
社会心理学(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	南谷　則子	
社会心理学(4)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	南谷　則子	
多文化共生論(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	川端　浩平	
多文化共生論(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	川端　浩平	
多文化共生論(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	川端　浩平	
国際交流論	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	稲田　充弘	
言語政策	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	斎藤　敬太	
日本文学(古典文学)(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	木村　朗子	2024年度までの「日本研究(古典文学)(1)」
日本文学(古典文学)(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	木村　朗子	2024年度までの「日本研究(古典文学)(3)」
日本文学(古典文学)(4)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	木村　朗子	2024年度までの「日本研究(古典文学)(4)」
日本文学(近現代文学)(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	亀有　　碧	2024年度までの「日本研究(近現代文学)(1)」
日本文学(近現代文学)(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	亀有　　碧	2024年度までの「日本研究(近現代文学)(3)」
日本文学(近現代文学)(4)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	亀有　　碧	2024年度までの「日本研究(近現代文学)(4)」
日本研究演習（英語）(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	Dylan James Hallingstad O'Brien	
日本研究演習（英語）(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	Dylan James Hallingstad O'Brien	
日本研究演習（英語）(4)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	Dylan James Hallingstad O'Brien	
日本史概説(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	岡本真希子	日本史概論(1)(国際)
日本史概説(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	岡本真希子	日本史概論(3)(国際)
日本史概説(4)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	岡本真希子	日本史概論(4)(国際)
世界史概説(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	藤波　伸嘉	世界史研究(1)(国際)
世界史概説(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	藤波　伸嘉	世界史研究(3)(国際)
世界史概説(4)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	藤波　伸嘉	世界史研究(4)(国際)
国際関係概論(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	下谷内奈緒	
国際関係概論(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	朴　　正鎮	
国際関係概論(4)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	下谷内奈緒　他	
文化研究序説	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	小島　敬裕	
地域研究序説(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	多賀　吉隆	
地域研究序説(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	多賀　吉隆　他	
比較教育論(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	渡邊　あや	
比較教育論(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	渡邊　あや	
比較教育論(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	渡邊　あや	
文化人類学(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	未　　定	
文化人類学(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	未　　定	
文化人類学(4)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	未　　定	
第三世界の思想と文化(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	杉山圭以子	
第三世界の思想と文化(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	杉山圭以子	
第三世界の思想と文化(4)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	杉山圭以子	
国際移動論	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	木村真希子	~~2019年度までの「国際社会学(4)」~~
国際ボランティア論	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	木山　啓子	
情報と社会(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	藤吉　隆雄	
情報と社会(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	藤吉　隆雄	
社会とデータ活用	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	栗原　一貴　他	2024年度までの「情報と社会(4)」
情報社会と情報倫理	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	藤本　一男	2024年度までの「情報と職業」
国際社会学(4)	程度： Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	木村真希子	

11. デジタルメディア副専攻

デジタルメディア副専攻は、学芸学部全学科の学生を対象とした副専攻です。

副専攻として履修できるのは2018年度入学者からですが、2017年度以前入学者もカリキュラムに準じて体系的に履修することができます。

11-1．デジタルメディア副専攻カリキュラム

デジタルメディア（以下DM）副専攻は、情報科学の知識の有無にかかわらず、画像や音声等の多様な形式のデジタル情報技術の基礎から応用までの幅広い知識取得を目的とする副専攻で、学芸学部全学科の学生が履修可能です。

このDM副専攻を修了するためには、必修科目としてDM必修科目３単位（所属学科の１年次情報処理系科目２単位と「デジタルメディア概論」１単位で３単位）、DMコア科目３単位、DM関連科目３単位、DMワークショップ科目１単位、合計10単位を修得しなければなりません。

履修希望者はデジタルメディア副専攻のホームページ（https://sites.google.com/tsuda.ac.jp/digitalmedia/）の履修説明会動画を確認の上、各年度初めに履修登録を行ってください。

区分	要件単位数	授業科目名	ナンバリング	程度	単位数	備　　考
DM必修科目	2	情報処理Ⅰａ		Ⅰ	1	2024年度までの英語英文、国際、多文化の学生の共通科目
		情報処理Ⅰｂ		Ⅰ	1	2024年度までの英語英文、国際、多文化の学生の共通科目
		コンピュータリテラシーａ		Ⅰ	1	2024年度までの情報科学科の必修科目
		コンピュータリテラシーｂ		Ⅰ	1	2024年度までの情報科学科の必修科目
		情報処理		Ⅰ	2	2024年度までの数学科の選択科目
		データサイエンス入門		Ⅰ	1	2025年度から開講
		データリテラシー入門またはデータリテラシーｂ		Ⅰ	1	※１
	1	デジタルメディア概論	DMM201	Ⅱ	1	2019年度から開講
DMコア科目	3	データリテラシーｂ	DMI202	Ⅰ	1	2019年度から2024年度まで開講※2（2025年度から閉講）
		教育メディアａ	DME201	Ⅱ	2	2019年度から開講
		教育メディアｂ	DME202	Ⅱ	2	2019年度から開講
		教育コンテンツ制作	DME203	Ⅱ	1	2019年度から開講
		メディア概論ａ	DMS201	Ⅱ	1	2019年度から開講
		メディア概論ｂ	DMS202	Ⅱ	1	2019年度から開講
		ソーシャルコンテンツ制作	DMS203	Ⅱ	1	2019年度から開講
		地理情報システム入門	DMS204	Ⅱ	1	2019年度から開講
		ネット時代の広告とマーケティング論	DMS205	Ⅱ	1	2019年度から開講
		災害情報学入門	DMS206	Ⅱ	1	2019年度から開講
		データリテラシーａ	DMI201	Ⅱ	1	2019年度から開講
		ITコンテンツ制作	DMI203	Ⅱ	1	2019年度から開講
		ネットワーク概論	DMI204	Ⅱ	1	2019年度から開講
		コンテンツビジネス論	DMI205	Ⅱ	1	2019年度から開講
		コンテンツ保護とセキュリティ	DMI206	Ⅱ	1	2019年度から開講
DMワークショップ科目	1	教育メディアワークショップ	DME301	Ⅲ	1	2021年度から開講
		メディアコミュニケーションワークショップ	DMS301	Ⅲ	1	2020年度から開講
		デジタルエンターテインメントワークショップ	DMI301	Ⅲ	1	2020年度から開講
DM関連科目	3	情報処理Ⅱａ		Ⅱ	1	2025年度から閉講
		情報処理Ⅱｂ		Ⅱ	1	2025年度から閉講
		情報処理Ⅱｃ		Ⅱ	1	2025年度から閉講
		情報と社会(1)		Ⅰ	1	
		情報と社会(3)		Ⅰ	1	
		情報と社会(4)		Ⅰ	1	2025年度から閉講
		社会とデータ活用		Ⅰ	1	2025年度から開講（2024年度までの情報と社会(4)）
		情報と職業		Ⅱ	1	2025年度から閉講
		情報社会と情報倫理		Ⅱ	1	2025年度から開講（2024年度までの情報と職業）
		グラフィックデザインリテラシー		Ⅰ	1	
		社会調査法(1)		Ⅱ	1	
		社会調査法(3)		Ⅱ	1	
		社会調査法(4)		Ⅱ	1	
		社会調査法特講		Ⅱ	1	
合計	10					

※１　データリテラシー入門：2025年度から開講
　　データリテラシーb：2025年度から閉講
　　ただし、「データリテラシーb」をDM必修科目とした場合は、DMコア科目としては算入しない。
※２　「データリテラシーb」をDM必修科目とした場合は、DMコア科目としては算入しない。

■履修上の注意

1．DMコア科目は、なるべく同一記号（DME，DMS，DMI）ではじまるナンバリングの科目を履修することが望ましい。

■登録上の注意

1．DMコア科目については、人数制限のある科目とない科目があります。人数制限のある科目はＢタイプの抽選を行います。DMワークショップ科目は人数制限があります。DM必修科目３単位の修得を予定する学生を対象に、各年度半ばに次年度のDMワークショップ科目と希望調査の説明会を行います。DM副専攻希望者は、この説明会になるべく参加し、希望調査に回答してください。

2．DM副専攻の修了条件を満たし、修了手続きを行った学生には、副専攻の修了証明書が与えられます（2018年度入学者から）。DM副専攻のために履修した科目が、各学科の専門科目、自由科目または教職科目として含めることが可能かどうかは、科目ごとに異なります。各学科や教職課程の説明にしたがってください。

■修了手続きについて

1．修了認定を希望する学生は、卒業年次に修了手続き説明会へ出席し、修了認定申請を行う必要があります。2027年３月または９月卒業予定者は、2026年10月に行う説明会へ出席してください。説明会の詳細は、TsudaNetでお知らせします。

11-2. 授業科目名・単位

授業科目	程度	開講ターム	単位	週時	担当者	備考
情報処理Ⅰa	Ⅰ～Ⅳ	－	1	2	共通科目のページを参照	2025年度から閉講
情報処理Ⅰb	Ⅰ～Ⅳ	－	1	2		
コンピュータリテラシーa	Ⅰ	－	1	2	情報科学科のページを参照	2025年度から閉講
コンピュータリテラシーb	Ⅰ	－	1	2		
情報処理	Ⅰ	－	2	2	数学科のページを参照	2025年度から閉講
データサイエンス入門	Ⅰ～Ⅳ	－	1	2	共通科目のページを参照	2025年度から開講
データリテラシー入門	Ⅰ～Ⅳ	－	1	2	共通科目のページを参照	2025年度から開講
データリテラシーb	Ⅰ	－	1	2		2025年度から閉講
	Ⅰ	－	1	2		
デジタルメディア概論	Ⅱ	3	1	2	上田　祥代	
教育メディアa	Ⅱ	3,4	2	2	森本　康彦	
教育メディアb	Ⅱ	－	2	2		（本年度休講）
教育コンテンツ制作	Ⅱ	1	1	2	久島　智津子	
メディア概論a	Ⅱ	－	1	2		（本年度休講）
メディア概論b	Ⅱ	－	1	2		（本年度休講）
ソーシャルコンテンツ制作	Ⅱ	3	1	2	工藤　紀篤	
地理情報システム入門	Ⅱ	3	1	2	サク　倩楠	
ネット時代の広告とマーケティング論	Ⅱ	1	1	2	小野　晃典	
災害情報学入門	Ⅱ	－	1	2		（本年度休講）
データリテラシーa	Ⅱ	3	1	2	立井　博子	
ITコンテンツ制作	Ⅱ	3	1	2	松岡　淳子	
ネットワーク概論	Ⅱ	4	1	2	加藤　大弥	
コンテンツビジネス論	Ⅱ	2	1	4	小野　晃典	
コンテンツ保護とセキュリティ	Ⅱ	1	1	2	板倉　美貴	
教育メディアワークショップ	Ⅲ	3	1	2	来住　伸子	
メディアコミュニケーションワークショップ	Ⅲ	1,3	1	2	小林　由夏	
デジタルエンターテインメントワークショップ	Ⅲ	4	1	2	植村　あい子	
情報処理Ⅱa	Ⅱ～Ⅳ	－	1	2	共通科目のページを参照	2025年度から閉講
情報処理Ⅱb	Ⅱ～Ⅳ	－	1	2		
情報処理Ⅱc	Ⅱ～Ⅳ	－	1	2		
情報と社会(1)	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2		
情報と社会(3)	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2		
情報と社会(4)	Ⅰ～Ⅳ	－	1	2		2025年度から閉講
社会とデータ活用	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2		2025年度から開講
情報と職業	Ⅱ	－	1	2	情報科学科のページを参照	2025年度から閉講
情報社会と情報倫理	Ⅱ	1	1	2		2025年度から開講 （2024年度までの情報と職業）
グラフィックデザインリテラシー	Ⅰ～Ⅳ	2	1	4	共通科目のページを参照	
社会調査法(1)	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	多文化・国際協力学科のページを参照	
社会調査法(3)	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2		
社会調査法(4)	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2		
社会調査法特講	Ⅱ～Ⅳ	2	1	2		

12. 交　換　学　生（外国人学生）

12. 交換学生（外国人学生）に開講の科目

A．交換留学生のための日本語および日本研究科目

交換留学生のために以下の日本語および日本研究（入門、上級）の科目を開講します。第１・第３・第４タームは６科目（１週間あたり90分授業を６コマ）以上、第２タームは３科目（１週間あたり90分授業を６コマ）以上を履修登録してください。

学生の日本語力に合わせて、日本語指導（Aa，Ab，Ba，Bb，C）を開講します。交換留学生のための日本語Ⅰ、Ⅱは十分な日本語力がある留学生のための授業です。これらの科目の評価は出席状況、平常点、レポート、筆記試験に基づき行われます。日本語科目の単位は１科目１単位です。

*週時２→週に 90分
週時４→週に180分

科目名	レベル	開講ターム	単位	週時*	担当教員
①日本語					
日本語指導 Aa (1)		T1	1	2	関
日本語指導 Aa (2)		T2	1	4	関
日本語指導 Aa (3)		T3	1	2	関
日本語指導 Aa (4)		T4	1	2	関
日本語指導 Ab (1)		T1	1	2	西部
日本語指導 Ab (2)		T2	1	4	西部
日本語指導 Ab (3)		T3	1	2	西部
日本語指導 Ab (4)		T4	1	2	西部
日本語指導 Ba (1)		T1	1	2	作田
日本語指導 Ba (2)		T2	1	4	作田
日本語指導 Ba (3)		T3	1	2	作田
日本語指導 Ba (4)		T4	1	2	作田
日本語指導 Bb (1)		T1	1	2	作田
日本語指導 Bb (2)		T2	1	4	作田
日本語指導 Bb (3)		T3	1	2	作田
日本語指導 Bb (4)		T4	1	2	作田
日本語指導C (1)		T1	1	2	塩谷
日本語指導C (2)		T2	1	4	塩谷
日本語指導C (3)		T3	1	2	塩谷
日本語指導C (4)		T4	1	2	塩谷
交換留学生のための日本語Ⅰ(読解･作文)(1)	Ⅰ	T1	1	2	塩谷
交換留学生のための日本語Ⅰ(読解･作文)(2)	Ⅰ	T2	1	4	塩谷
交換留学生のための日本語Ⅰ(読解･作文)(3)	Ⅰ	T3	1	2	塩谷
交換留学生のための日本語Ⅰ(読解･作文)(4)	Ⅰ	T4	1	2	塩谷
交換留学生のための日本語Ⅰ(聴解･会話)(1)	Ⅰ	T1	1	2	志村
交換留学生のための日本語Ⅰ(聴解･会話)(2)	Ⅰ	T2	1	4	志村
交換留学生のための日本語Ⅰ(聴解･会話)(3)	Ⅰ	T3	1	2	志村
交換留学生のための日本語Ⅰ(聴解･会話)(4)	Ⅰ	T4	1	2	志村
交換留学生のための日本語Ⅱ(上級読解)(1)	Ⅱ	T1	1	2	志村
交換留学生のための日本語Ⅱ(上級読解)(2)	Ⅱ	T2	1	4	志村
交換留学生のための日本語Ⅱ(上級読解)(3)	Ⅱ	T3	1	2	志村
交換留学生のための日本語Ⅱ(上級読解)(4)	Ⅱ	T4	1	2	志村
交換留学生のための日本語Ⅱ(上級作文)(1)	Ⅱ	T1	1	2	関
交換留学生のための日本語Ⅱ(上級作文)(2)	Ⅱ	T2	1	4	関
交換留学生のための日本語Ⅱ(上級作文)(3)	Ⅱ	T3	1	2	関
交換留学生のための日本語Ⅱ(上級作文)(4)	Ⅱ	T4	1	2	関
②日本研究					
日本研究入門(1)		T1	1	2	斎藤
日本研究入門(2)		T2	1	4	遠藤
日本研究入門(3)		T3	1	2	斎藤
日本研究入門(4)		T4	1	2	斎藤
日本研究演習(1)		T1	1	2	吉田
日本研究演習(2)		T2	1	4	吉田
日本研究演習(3)		T3	1	2	吉田
日本研究演習(4)		T4	1	2	吉田
日本研究演習(英語)(1)		T1	1	2	O'Brien
日本研究演習(英語)(2)		T2	1	4	竹山
日本研究演習(英語)(3)		T3	1	2	O'Brien
日本研究演習(英語)(4)		T4	1	2	O'Brien

12. Course Offerings for International Exchange Students

A. Japanese Language and Japanese Studies for International Exchange Students

The following courses are designed to help international exchange students study the Japanese language and to provide them with introductory as well as advanced studies on Japan. Please register for at least 6 courses (six 90-minute classes a week) in Terms 1, 3 and 4, and at least 3 courses (six 90-minute classes a week) in Term 2.

Japanese language courses (Aa, Ab, Ba, Bb, C) are offered based on the students' level of language proficiency. Japanese I and II for exchange students are offered for students with a more advanced level of Japanese proficiency. In all of these Japanese language courses, evaluation is based on class attendance, class performance, papers and/or written exams. One credit is given to students for each of these one-term language courses.

*Hours a week：2＝one 90-minute period a week
Hours a week：4＝one 180-minute period a week

Subject name	Level	Term	Credit	Hours a week*	Instructor
①Japanese Language					
Intensive Japanese Aa(1)		T1	1	2	Seki
Intensive Japanese Aa(2)		T2	1	4	Seki
Intensive Japanese Aa(3)		T3	1	2	Seki
Intensive Japanese Aa(4)		T4	1	2	Seki
Intensive Japanese Ab(1)		T1	1	2	Nishibe
Intensive Japanese Ab(2)		T2	1	4	Nishibe
Intensive Japanese Ab(3)		T3	1	2	Nishibe
Intensive Japanese Ab(4)		T4	1	2	Nishibe
Intensive Japanese Ba(1)		T1	1	2	Sakuta
Intensive Japanese Ba(2)		T2	1	4	Sakuta
Intensive Japanese Ba(3)		T3	1	2	Sakuta
Intensive Japanese Ba(4)		T4	1	2	Sakuta
Intensive Japanese Bb(1)		T1	1	2	Sakuta
Intensive Japanese Bb(2)		T2	1	4	Sakuta
Intensive Japanese Bb(3)		T3	1	2	Sakuta
Intensive Japanese Bb(4)		T4	1	2	Sakuta
Intensive Japanese C(1)		T1	1	2	Shiotani
Intensive Japanese C(2)		T2	1	4	Shiotani
Intensive Japanese C(3)		T3	1	2	Shiotani
Intensive Japanese C(4)		T4	1	2	Shiotani
Japanese I for International Exchange Students(Reading & Writing)(1)	I	T1	1	2	Shiotani
Japanese I for International Exchange Students(Reading & Writing)(2)	I	T2	1	4	Shiotani
Japanese I for International Exchange Students(Reading & Writing)(3)	I	T3	1	2	Shiotani
Japanese I for International Exchange Students(Reading & Writing)(4)	I	T4	1	2	Shiotani
Japanese I for International Exchange Students(Listening & Speaking)(1)	I	T1	1	2	Shimura
Japanese I for International Exchange Students(Listening & Speaking)(2)	I	T2	1	4	Shimura
Japanese I for International Exchange Students(Listening & Speaking)(3)	I	T3	1	2	Shimura
Japanese I for International Exchange Students(Listening & Speaking)(4)	I	T4	1	2	Shimura
Japanese II for International Exchange Students(Academic Reading)(1)	II	T1	1	2	Shimura
Japanese II for International Exchange Students(Academic Reading)(2)	II	T2	1	4	Shimura
Japanese II for International Exchange Students(Academic Reading)(3)	II	T3	1	2	Shimura
Japanese II for International Exchange Students(Academic Reading)(4)	II	T4	1	2	Shimura
Japanese II for International Exchange Students(Academic Writing)(1)	II	T1	1	2	Seki
Japanese II for International Exchange Students(Academic Writing)(2)	II	T2	1	4	Seki
Japanese II for International Exchange Students(Academic Writing)(3)	II	T3	1	2	Seki
Japanese II for International Exchange Students(Academic Writing)(4)	II	T4	1	2	Seki
②Japanese Studies					
Introduction to Japanese Studies(1)		T1	1	2	Saito
Introduction to Japanese Studies(2)		T2	1	4	Endo
Introduction to Japanese Studies(3)		T3	1	2	Saito
Introduction to Japanese Studies(4)		T4	1	2	Saito
Seminar on Japanese Studies(1)		T1	1	2	Yoshida
Seminar on Japanese Studies(2)		T2	1	4	Yoshida
Seminar on Japanese Studies(3)		T3	1	2	Yoshida
Seminar on Japanese Studies(4)		T4	1	2	Yoshida
Seminar on Japanese Studies(English)(1)		T1	1	2	O'Brien
Seminar on Japanese Studies(English)(2)		T2	1	4	Takeyama
Seminar on Japanese Studies(English)(3)		T3	1	2	O'Brien
Seminar on Japanese Studies(English)(4)		T4	1	2	O'Brien

B．学部学生用の共通科目と専門科目

津田塾大学学芸学部には５学科（英語英文、国際関係、多文化・国際協力、数学、情報科学）が提供する専門科目、共通科目、外国語科目、健康余暇科学科目があります。

原則として、履修するために十分な日本語力がある交換留学生は、すべての講義形式の科目を履修することができます。セミナーは、担当教員の許可があれば履修することができます。英語で行われる科目もあり、交換留学生は自分の学習計画に応じて科目を履修できます。外国語、コンピューターサイエンス、体育の科目もあります。ただし人数制限のある科目や事前登録が必要な科目は履修できない場合があります。不明な点は教務課に問い合わせてください。

日本についてさらに学習したい交換留学生は、以下の科目を履修するとよいでしょう。

日本研究に関する科目

科目名	開講ターム
日本文学（古典文学）(1)	T1
日本文学（古典文学）(3)	T3
日本文学（古典文学）(4)	T4
日本文学（近現代文学）(1)	T1
日本文学（近現代文学）(3)	T3
日本文学（近現代文学）(4)	T4
日本国憲法 a	T1 / T3
日本国憲法 b	T3 / T4
日本史概説(1)	T1
日本史概説(3)	T3
日本史概説(4)	T4
日本史概論(1)	T1
日本史概論(3)	T3
日本史概論(4)	T4
日本研究（沖縄研究）(1)	T1
日本研究（沖縄研究）(3)	T3
日本研究（沖縄研究）(4)	T4
日本研究（日本と台湾の近現代関係史）	T1
日本研究（日本と朝鮮半島の近現代関係史）	T3
日本研究（少数者の日本近現代史）	T4
日本研究（Japanese Society）(1)*	T1
日本研究（Japanese Society）(3)*	T3
日本研究（Japanese Society）(4)*	T4
Japan Studies in English（Introduction）	T1

*この科目では日本社会について日本人学生と英語と日本語の両方で議論します。

共通科目や専門科目を履修したい交換留学生は、履修登録の前に必ず津田塾大学のアカデミック・アドバイザーや担当教員に相談してください。

B. General and Specialized Studies for All Students

Tsuda University's College of Liberal Arts has five departments (English, International and Cultural Studies, International Cooperation and Multicultual Studies, Mathematics, and Computer Science), and each department offers a large number of specialized courses. In addition, there are a variety of courses in General Education, Foreign Languages, and Wellness Studies.

In principle, all lecture courses are open to international exchange students whose Japanese is advanced enough to follow the coursework; some seminars are also open to international exchange students if they obtain the course instructor's permission. Some courses are offered in English, and in general international exchange students may enroll in those that fit their study plan. There are also foreign language, computer science, and physical education courses. However, some of these courses may not be available because they have limited enrollments or require registration in advance. Please contact the Academic Affairs Division if you have questions.

For international exchange students wishing to learn more about Japan, the following subjects might be of particular interest:

[Subjects that focus on Japan] (All single-term courses)
Japanese Literature (Classical Literature) (1) (Term 1)
Japanese Literature (Classical Literature) (3) (Term 3)
Japanese Literature (Classical Literature) (4) (Term 4)
Japanese Literature (Modern Literature) (1) (Term 1)
Japanese Literature (Modern Literature) (3) (Term 3)
Japanese Literature (Modern Literature) (4) (Term 4)
The Japanese Constitution (Term 1/Term 3)
The Japanese Constitution (Term 3/Term 4)
Japanese History (1) (Term 1)
Japanese History (3) (Term 3)
Japanese History (4) (Term 4)
Introduction to Japanese History (1)
Introduction to Japanese History (3)
Introduction to Japanese History (4)
Japanese Studies (Okinawa Studies) (1) (Term 1)
Japanese Studies (Okinawa Studies) (3) (Term 3)
Japanese Studies (Okinawa Studies) (4) (Term 4)
Japanese Studies (Modern History of Japan/Taiwan Relations) (Term 1)
Japanese Studies (Modern History of Japan/Korean Peninsula Relations) (Term 3)
Japanese Studies (Modern History of Minorities in Japan) (Term 4)
Japanese Studies (Japanese Society) (1)*(Term 1)
Japanese Studies (Japanese Society) (3)*(Term 3)
Japanese Studies (Japanese Society) (4)*(Term 4)

*These courses provide international exchange students with opportunities to engage in discussions about Japanese society with Japanese students in both English and Japanese.

In all cases, international exchange students wishing to take courses from General and/or Specialized Studies should consult with their academic advisor at Tsuda or the course instructor before registration.

13. 随　意　科　目

13. 随意科目

随意科目とは、卒業要件をはじめ教職課程や日本語教員養成課程において必要な単位として算入されない科目です。以下の科目があります。履修登録制限（p.75）の対象外です。

授業科目	程度	開講ターム	単位	週時	担当者	備考
発音クリニック	Ⅰ	1,3	0		Sadie Michele Morelock Nitta、~~Richard Russel Caraker~~	昼休みに実施　各ターム６回
		1,4			~~Sadie Michele Morelock Nitta~~、Richard Russel Caraker	
インターンシップ	Ⅰ～Ⅳ	2	1		下谷内奈緒	詳細は学外学修・キャリアセンター 2021年度入学者まで履修可能
インデペンデントスタディ	Ⅰ～Ⅳ	2	1		下谷内奈穂	詳細は学外学修・キャリアセンター
サービスラーニング	Ⅰ～Ⅳ	2	1		下谷内奈緒	詳細は学外学修・キャリアセンター
１、２年生のための 就職基礎講座	Ⅰ～Ⅳ	2	1		下谷内奈緒	キャリア教育科目 詳細は学外学修・キャリアセンター
キャリア教育支援Ａ 就業力基礎講座	Ⅰ～Ⅳ	2	1			（本年度休講） キャリア教育科目 詳細は学外学修・キャリアセンター
キャリア教育支援Ｂ 就業応用力養成 アクティブラーニング	Ⅰ～Ⅳ	2	1			（本年度休講） キャリア教育科目 詳細は学外学修・キャリアセンター
インターンシップ対応 自己分析深掘とES対策講座	Ⅰ～Ⅳ	2	1			（本年度休講） キャリア教育科目 詳細は学外学修・キャリアセンター
ITマネジメント論 （資格取得対策科目）	Ⅰ～Ⅳ	2	1			（本年度休講） キャリア教育科目 詳細は学外学修・キャリアセンター 有料講座

■履修上の注意（インターンシップ、インデペンデントスタディ、サービスラーニング）

・インターンシップ・インデペンデントスタディ・サービスラーニングは、年間を通して履修することができます。
・在学中、何度でも履修できます。同じ年度中にも複数回履修できます。

■登録上の注意（インターンシップ、インデペンデントスタディ、サービスラーニング）

・教務課への履修登録ではなく、学外学修・キャリアセンターに対して履修申請を行います。詳細はシラバス及び学外学修・キャリアセンターの情報を確認してください。

■学外学修・キャリアセンターポータルサイト

14. 実践学修科目

（2022年度１年次入学者より履修可能）

14. 実践学修科目

実践学修科目とは、学内の学びの予習、補完、応用等を目的として、学外での体験を通じて学修する科目です。
以下の科目があります。履修登録制限（p.75）の対象外です。

授　業　科　目	程度	開講ターム	単位	週時	担　当　者	備　　考
実践インターンシップ	Ⅰ～Ⅳ	2	1～2		下谷内奈緒	2022年度１年次入学者より履修可能。詳細は学外学修・キャリアセンター

■履修上の注意

・第２タームと夏期休暇期間あるいは春期休暇を利用した活動に対して、単位認定することができます。
・実働時間数に応じて１単位または２単位を認定し、上限２単位まで履修できます。
・２単位取得済みの場合は、以後履修はできません。

■登録上の注意

・教務課への履修登録ではなく、学外学修・キャリアセンターに対して履修申請を行います。詳細はシラバス及び学外学修・キャリアセンターの情報を確認してください。

■学外学修・キャリアセンターポータルサイト

15. データサイエンス・リテラシープログラム

15-1. データサイエンス・リテラシープログラム

Society5.0が提唱されている現代社会の中で、数理・データサイエンス・AIは、社会のさまざまな分野で活用されています。そこで、それらに対応し、適切に数理・データサイエンス・AIを理解し活用する基礎的な能力を修得することを目的として、全学生を対象にデータサイエンス・リテラシープログラムを提供しています。

＜このプログラムで身につけることができる知識、能力＞

データサイエンスを含む情報科学に関する基礎的な知識を修得することで、文系・理系問わず幅広い専門領域において、データを用いた客観的な知見を抽出する力を身につけます。さらに、Society5.0などの動向やデータ活用事例および、活用にあたるさまざまな留意事項等を学修することにより、卒業後、身につけた力を社会の中でどう活用していくのかについての方法論に関しても修得します。

＜修了要件＞

このプログラムを修了するには、学科ごとに定められた要件を満たす必要があります。

(1) 2025年度以降入学者

学　　科	科　目　名	単位数	修了要件(単位数)
英語英文学科 国際関係学科 多文化・国際協力学科 数学科 情報科学科	データサイエンス入門	1	3
	データリテラシー入門	1	
	社会とデータ活用	1	

(2) 2024年度以前入学者

学　　科		科　目　名	単位数	修了要件(単位数)
英語英文学科 国際関係学科 多文化・国際協力学科		情報処理Ⅰa または データサイエンス入門	1	3
		データリテラシーb または データリテラシー入門	1	
		情報と社会(4) または 社会とデータ活用	1	
数学科 右の(A)または(B)の いずれかの方法による	(A)	情報処理	2	4
		データリテラシーb または データリテラシー入門	1	
		情報と社会(4) または 社会とデータ活用	1	
	(B)	データサイエンス入門	1	3
		データリテラシーb または データリテラシー入門	1	
		情報と社会(4) または 社会とデータ活用	1	
情報科学科 右の(A)または(B)の いずれかの方法による	(A)	コンピュータリテラシーa	1	3
		データリテラシーb	1	
		情報と社会(4) または 社会とデータ活用	1	
	(B)	コンピュータリテラシーa	1	4
		データサイエンス(演習付)	2	
		情報と社会(4) または 社会とデータ活用	1	

※情報科学科の場合、コンピュータリテラシーaは必修科目になっているため、2024年度以前入学者が2024年度までに修得できなかった場合には、2025年度以降に「データサイエンス入門」を修得し、「コンピュータリテラシーa」を修得したと読み替える。そのため、「コンピュータリテラシーa」のみとなっている。その他の科目については、必修ではないため、2024年度以前入学者も2025年度以降履修した場合には、その科目名での修得となる。

15-2. 授業科目名・単位

授業科目	程度	開講ターム	単位	週時	担当者	備考
データサイエンス入門	Ⅰ～Ⅳ	1または3	1	2	共通科目のページを参照	
データリテラシー入門	Ⅰ～Ⅳ	3または4	1	2	共通科目のページを参照	
社会とデータ活用	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	共通科目のページを参照	
情報処理Ⅰa	Ⅰ～Ⅳ	1または3	1	2	共通科目のページを参照	
情報処理	Ⅰ	3,4	2	2	数学科のページを参照	
コンピュータリテラシーa	Ⅰ	1	1	2	情報科学科のページを参照	
データリテラシーb	Ⅰ	3	1	2	デジタルメディア副専攻のページを参照	
情報と社会(4)	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	共通科目のページを参照	